

令和4年度版  
(通巻第14号)

# 千葉県立保健医療大学

## 教育研究年報



Annual Report of Education and Research  
Chiba prefectural University  
Of Health Sciences  
2022



## 令和4年度版教育研究年報の発行にあたって

2020年の初頭から始まり、3年以上にわたった新型コロナウイルス感染症との戦いも、県民の皆様の感染対策へのご理解・ご協力の甲斐あって、徐々に収束し、2023年5月にその分類が5類移行し、一つの区切りを迎えました。この3年の間、大学においては学生諸君には学びの制限、経済的・社会的負荷、教職員には教育・研究・社会貢献活動の制限に加えて、保健所へ応援などの大きな負担をかけてきました。社会に置かれましても、不幸にして新型コロナウイルス感染症に伴って、健康、そして日々の生活に影響を受けられた皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

これから我々は新型コロナ感染症と共存するニューノーマル時代を迎えますが、我々にはこの新型コロナ感染症に加えて、「気候変動に伴う自然の脅威」、「人口減少（少子高齢化）」、「経済格差の広がり」と「貧困」、さらに「第4次産業革命である人工知能、ロボット革命などの技術革新社会の到来」といった乗り越えなければならない多くの保健医療への課題が存在し、特に、千葉県は2025年までの後期高齢者人口の増加率が全国でトップになると見込まれ、少子高齢化社会への対応は重要な課題です。これらの課題を克服するために大学は「学問の自由」の下に、教育・研究・社会貢献の3分野において知の拠点として活動することが求められ、その成果を広く社会に公知する義務があります。

この教育研究年報とは大学が実施した教育・研究・社会貢献活動の成果をまとめたもので、コロナ禍の下で大変苦勞して実施された大学の活動が集められています。千葉県立保健医療大学は皆様の健康を守り、保健医療の人材育成並びに研究の拠点として、皆様とともに新しい社会の創造に資するべく、日夜活動を続けています。

令和5年10月

学長 龍野 一郎



# 目 次

## 第1部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念・目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学運営組織図	5
II	年間記録（1年の歩み）	6
1.	令和4年度学事歴及び行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	8
3.	教授会の活動報告	10
4.	各種委員会等の活動報告	13
5.	各学科・専攻の管理・運営活動報告	53
6.	事務局の活動	58
7.	FDの実施状況	58
IV	教育活動	60
1.	共通教育	60
2.	看護学科	60
3.	栄養学科	61
4.	歯科衛生学科	62
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	62
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	63
7.	学生による授業評価	63
8.	大学全体	64
V	学生の受け入れ状況	66
1.	学生の受け入れ方針	66
2.	年度当初の重点課題	67
3.	入学者選抜状況	67
4.	学生募集のための取り組み	69
5.	学生の在籍状況	69
6.	評価（成果および改善すべき事項）	70
7.	次年度の方策	70
VI	学生支援	71
1.	年度当初の重点課題等	71
2.	活動内容	71
3.	キャンパスハラスメント	72
4.	各学科・専攻の取り組み	72
5.	令和4年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	75

6. 評価（成果および改善すべき事項）	76
7. 次年度の方策	76
<b>VII 社会連携・社会貢献</b>	<b>77</b>
1. 社会との連携・協力に関する方針	77
2. 年度当初の重点課題	77
3. 活動内容	77
4. 評価（成果および改善すべき事項）	83
5. 次年度の方策	83
<b>VIII 教育研究等環境</b>	<b>84</b>
1. 年度当初の重点課題	84
2. 施設・設備の整備状況	84
3. 図書館の状況	84
4. 研究倫理を遵守するための措置	85
5. 評価（成果および改善事項）	85
6. 次年度の方策	85
<b>IX 研究活動報告</b>	<b>86</b>
1. 看護学科	86
2. 栄養学科	86
3. 歯科衛生学科	86
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	86
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	86
<b>X 内部質保証のための取り組み</b>	<b>87</b>
1. 年度当初の課題	87
2. 評価（成果および改善すべき事項）	87
3. 次年度の方策	87

## 第2部 教員の教育研究活動記録

• 学長	91
学 長 龍野 一郎	93
• 看護学科	99
教 授 石井 邦子	101
教 授 佐藤 紀子	104
教 授 西野 郁子	108
教 授 河部 房子	110
教 授 浅井 美千代	113
教 授 春日 広美	116
教 授 神田 みなみ	119
教 授 木内 千晶	121
教 授 小宮 浩美	123
教 授 太和田 暁之	126
准教授 雨宮 有子	129
准教授 細谷 紀子	133
准教授 川城 由紀子	137

准教授	三枝	香代子	140
准教授	北川	良子	142
准教授	今井	宏美	144
准教授	西村	宣子	147
准教授	田口	智恵美	150
講師	成	玉恵	153
講師	富樫	恵美子	155
講師	川村	紀子	157
講師	加藤	隆子	159
講師	佐伯	恭子	161
講師	大内	美穂子	163
講師	杉本	健太郎	165
講師	栗田	和紀	167
講師	大塚	知子	169
助教	中山	静和	171
助教	増田	恵美	173
助教	相馬	由紀子	175
助教	内海	恵美	177
助教	山本	千代	179
助教	坂本	明子	181
助教	山崎	麻子	183
助教	櫻井	理恵	185
助教	小林	雅美	187
助教	松浦	めぐみ	189
助教	松村	彩	191
助教	渡辺	健太郎	193
• 栄養学科			195
教授	細山田	康恵	197
教授	井上	裕光	200
教授	菊池	裕	203
教授	加瀬	政彦	206
教授	平岡	真美	207
教授	谷内	洋子	209
准教授	荒井	裕介	213
准教授	金澤	匠	216
准教授	工藤	美奈子	218
准教授	広川	由子	220
講師	鈴木	亜夕帆	222
講師	渡辺	優奈	224
助教	生魚	薫	226
助教	岡田	亜紀子	228
助教	田村	友峰子	230
助教	峰村	貴央	231
助教	田中	佑季	234
• 歯科衛生学科			237
教授	石川	裕子	239
教授	酒巻	裕之	242
教授	大川	由一	246

教授	島田 美恵子	249
准教授	荒川 真	252
准教授	河野 舞	254
准教授	鈴鹿 祐子	256
准教授	佐々木 みづほ	259
講師	佐久間 貴士	261
講師	山中 紗都	263
助教	栞原 涼子	265
・リハビリテーション学科理学療法学専攻		267
教授	三和 真人	269
准教授	堀本 佳誉	271
准教授	大谷 拓哉	274
講師	江戸 優裕	276
助教	室井 大佑	279
助教	酒井 克也	282
・リハビリテーション学科作業療法学専攻		285
教授	岡村 太郎	287
教授	山本 達也	289
准教授	藤田 佳男	292
准教授	有川 真弓	295
准教授	佐藤 大介	298
講師	松尾 真輔	300
講師	須藤 崇行	303
助教	成田 悠哉	305

## 資料

資料 1	履修規程別表	309
資料 2	令和 4 年度非常勤講師一覧	383



# 第 1 部

## 大学組織の活動記録

# 第1部 大学組織の活動記録

## I 千葉県立保健医療大学の概要

### 1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみでの運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもとに平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

### 2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

#### (1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

#### (2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

#### (3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

#### (4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

### 3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 思いやりの心や高い倫理観を基本とした保健医療サービスを提供できる力
- (2) 生きいきとしたコミュニケーション能力
- (3) 確かな実践力と新たな実践をつくりだす力
- (4) 自己理解と責任感を基盤としたしなやかな個別対応力
- (5) 他の専門職と自在に連携・協働する力
- (6) 地域社会や地域の健康づくりに貢献する力
- (7) 生涯にわたる自己研鑽力

## (8) 国際的な視野を持ち保健医療の発展に寄与する力

なお、学部を卒業するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

### 〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

#### I 倫理観とプロフェッソナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

#### II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

#### III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は指導者のもと、以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

#### IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

#### V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

## VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の専門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

## VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

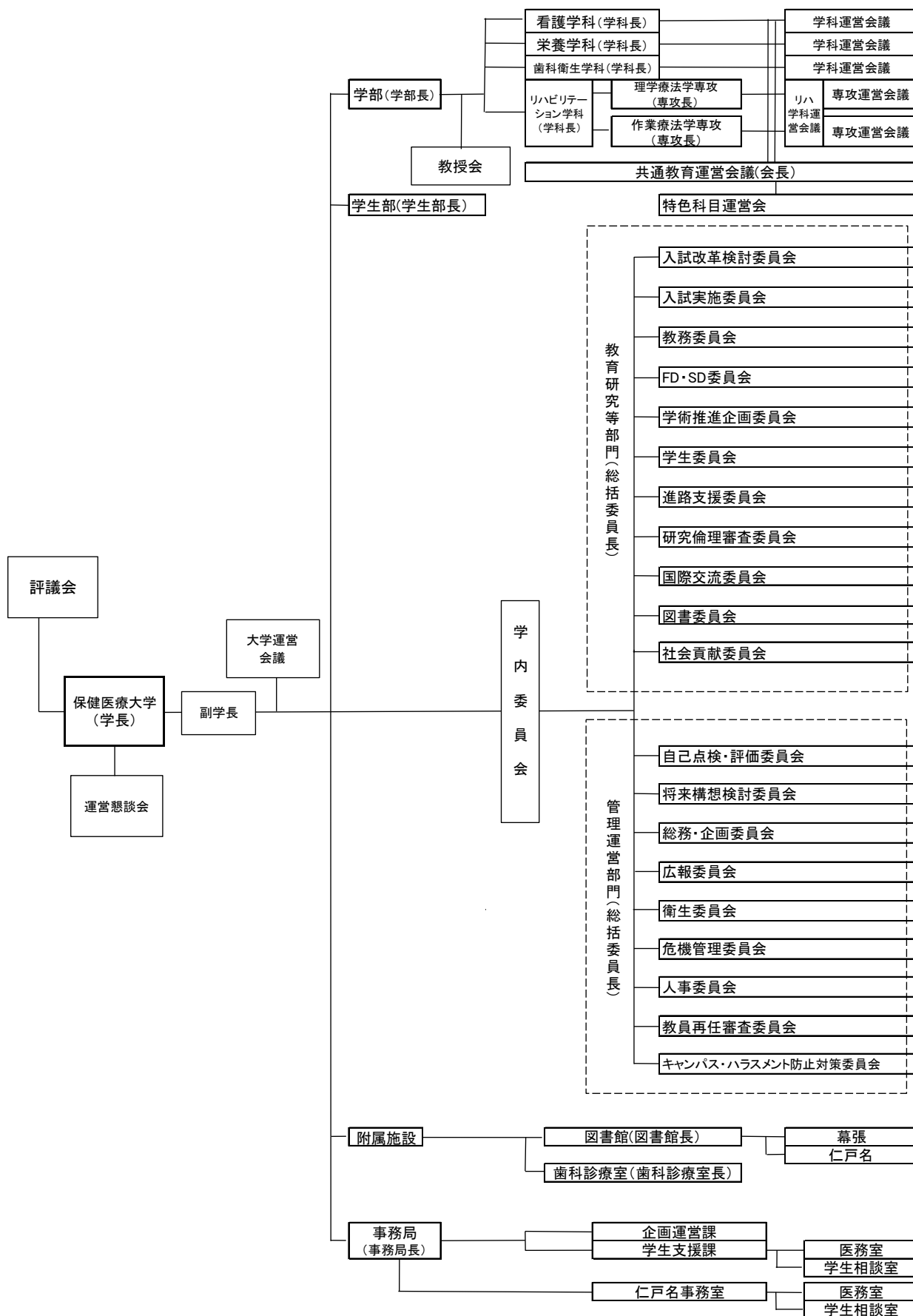
千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は指導者のもと、以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成30年1月15日改変, 同4月1日施行)

(令和3年2月18日改変, 同4月1日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図 (令和2年4月1日～)



## II 年間記録（一年の歩み）

### 1. 令和4年度学事歴及び行事

行 事	日 程
在校生，編入生ガイダンス	4月5日(火)
入学式，新入生ガイダンス	4月6日(水)
前期授業期間	4月11日(月)～8月2日(火)
前期履修登録期間	4月11日(月)～4月19日(火)
前期末試験	8月3日(水)～8月12日(金)
夏季休業	8月15日(月)～9月30日(金)
オープンキャンパス	7月9日(土)，7月10日(日)
前期試験結果発表	8月25日(木)
後期授業期間	10月3日(月)～2月7日(火)
後期履修登録期間	10月3日(月)～10月7日(金)
公開講座	10月22日(土)，11月5日(土)
大学祭（いずみ祭）	10月9日(日)，10月10日(月)
開学記念日	10月28日(金)
特別選抜(推薦・社会人・編入学) 入学試験	11月19日(土)
冬季休業	12月24日(土)～1月4日(水)
大学入学共通テスト	1月14日(土)，15日(日)
後期末試験	2月8日(水)～2月16日(木)
後期試験結果発表	2月22日(水)
一般選抜試験	2月25日(土)
卒業式	3月9日(木)
春季休業	3月22日(水)～3月31日(金)

### 2. 各学科定員等

#### 1) 入学定員，収容定員，在籍者数（令和5年3月1日現在）

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	326人
	栄養学科	25人	100人	99人
	歯科衛生学科	25人	100人	103人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	203人 (101人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(102人)
合 計		180人	740人	731人

#### 2) 履修規程別表 資料1参照，非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

### Ⅲ 管理運営の状況

#### 1. 評議会の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
B	評議員名	水野 創・株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長 小栗 一徳・公認会計士・税理士小栗事務所所長 宮内 孝久・神田外語大学学長 高梨 みちえ・県健康福祉部長 石井 邦子・保健医療大学副学長 大川 由一・保健医療大学健康科学部長 米本 肇子・保健医療大学事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
		・所掌事項の遂行.
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 11月14日	1 教員の復職に係る休職期間の変更について
2	令和5年 3月23日	1 学長の人事評価について 2 「千葉県立保健医療大学における学生等の個人情報保護方針」の制定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二期重点施策（Ⅰ 県民の健康づくりをリードする人材の育成，Ⅱ 健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献，Ⅲ 社会のニーズに迅速かつ柔軟に対応できる大学運営体制の構築）の主な取組については、ほぼ目標通りの成果を達成することができた。</li> <li>・全学的に取り組んできた大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価を受審し、千葉県立保健医療大学が大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たしていることが認証された。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度に向かって、引き続き、PDCA サイクル稼働させ、学長の統括の下でポストコロナに向かって、大学機能の深化を見据えて、関連する各学科・専攻、委員会が責任をもって達成に向けて取り組む。</li> </ul>	

## 2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
B	構成員名	石井 邦子・副学長(兼)管理運営部門群総括委員長 大川 由一・学部長(兼)教育研究社会貢献等委員会部門群総括委員長(兼) 歯科診療室長 島田 美恵子・学生部長(兼)共通教育運営会議会長 三和 真人・図書館長(兼) リハビリテーション学科理学療法学専攻長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 石川 裕子・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 山本 達也・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 米本 肇子・事務局長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学長からの諮問事項に関すること 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関すること 3 学科間の調整に関すること 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月25日	1 2022年度来場型オープンキャンパス実施方法について 2 理学療法学専攻における令和6年度大学入学共通テストの科目追加に伴う配点の変更 3 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの改訂について
2	令和4年 5月30日	1 看護学教育評価(分野別認証評価)の受審に向けた体制整備について 2 今後の編入学制度のあり方について
3	令和4年 6月27日	1 令和5年度一般選抜試験追試験の実施について 2 千葉県立千葉女子高等学校との高大連携について 3 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報I」の扱いについて
4	令和4年 7月25日	1 令和5年度当初予算申請について 2 令和4年度後期授業科目の開講方針について 3 前期試験の追試の再試験について
5	令和4年 8月1日	1 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの改訂について 2 令和5年度当初予算申請について
6	令和4年 9月26日	1 学生のAED研修について 2 倫理審査結果通知書の申請者への伝達を書面から電子ファイルによるものへの変更について 3 危機管理の手引きについて
7	令和4年 10月3日	1 大学認証評価実地調査に係る書面による確認事項について 2 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの改訂について
8	令和4年 10月31日	1 「危機管理の手引き」について 2 千葉県立保健医療大学教養教育のあり方について 3 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報I」の扱いについて(再審議のお願い)
9	令和4年 11月28日	1 千葉県立保健医療大学教養教育のあり方について 2 令和5年度自己健康管理ファイルの改訂(予算措置申請)
10	令和4年 12月19日	1 学生による成績評価の異議申し立てについて 2 千葉県立保健医療大学教養教育のあり方について



11	令和5年 1月30日	1 学生による成績評価の異議申し立てについて 2 令和5年度大学運営会議日程について
12	令和5年 2月27日	1 学生の個人情報の取扱いに係る規程について 2 危機管理の方針について 3 学内委員会規程の改正について 4 令和5年度前期授業科目の開講方針について 5 令和7年度一般選抜入試における大学入学共通テストの利用科目と配点について
13	令和5年 3月27日	1 令和4年度重点施策の評価結果について 2 編入学試験合格基準の見直しについて 3 学内規程の改正について 4 新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの改訂について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・コロナ禍の中，学生に寄り添った感染対策及び大学改革を進め，大学活動の正常化を進めることができた．	
I	次年度の方策	
	・令和5年度に向かって，引き続き，PDCA サイクル稼働させ，学長の統括の下でポストコロナに向かって，大学機能の深化を進めて行く．	

### 3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月1回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。令和4年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A 年度当初の重点課題			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の任用，教育研究等にかかわる必要な審議について，引き続きペーパーレス化とリモート会議等の活用により円滑かつ効率的な会議運営を諮り，教授会構成員の負担軽減を目指す。</li> </ul>			
B 会議記録			
	月日	主な議題	主な報告事項
1	令和4年 4月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーション学科理学療法学専攻:教授の資格審査結果について</li> <li>2 看護学科・基礎看護学領域:講師の公募について</li> <li>3 看護学科・小児看護学:准教授の資格審査委員会の設置について</li> <li>4 歯科衛生学科:講師の教員資格審査委員会の設置について</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対応マニュアルの改訂について</li> <li>・県との意見交換会について</li> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・国家試験合格状況について</li> <li>・令和3年度卒業生分野別就職状況について</li> </ul>
2	令和4年 5月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーション学科理学療法学専攻:教授の選考について</li> <li>2 栄養学科:講師の資格審査結果について</li> <li>3 看護学科・小児看護学:准教授の公募について</li> <li>4 歯科衛生学科:講師の公募について</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・令和5年度 入学者選抜要項について</li> <li>・令和4年度入試実施後アンケート結果と対応について</li> </ul>
3	令和4年 6月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養学科:講師の選考について</li> <li>2 看護学科・基礎看護学:講師の資格審査結果について</li> <li>3 看護学科・小児看護学:准教授の資格審査結果について</li> <li>4 歯科衛生学科:教授の資格審査結果について</li> <li>5 理学療法学専攻:教授の資格審査委員会の設置について</li> <li>6 理学療法学専攻:講師の資格審査委員会の設置について</li> <li>7 教員再任審査について</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育検討ワーキングについて</li> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・大学機関別認証評価 点検評価ポートフォリオの提出について</li> <li>・2021年度千葉県立保健医療大学卒業時調査の集計結果について</li> </ul>
4	令和4年 7月4日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護学科・基礎看護学:講師の選考について</li> <li>2 歯科衛生学科:教授の選考について</li> <li>3 歯科衛生学科:講師の資格審査結果について</li> <li>4 学科理学療法学専攻:教授の公募について</li> <li>5 リハビリテーション学科理学療法学専攻:講師の公募について</li> <li>6 看護学科・小児看護学:教授の資格審査委員会の設置について</li> <li>7 看護学科・小児看護学:准教授の資格審査委員会の設置について</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度学長裁量研究審査結果について</li> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・志願者動向の分析について</li> <li>・重点施策の令和4年度目標および評価指標について</li> </ul>
5	令和4年 9月5日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯科衛生学科:講師の選考について</li> <li>2 リハビリテーション学科理学療法学専攻:教授の資格審査結果について</li> <li>3 リハビリテーション学科理学療法学専攻:講師の資格審査結果について</li> <li>4 看護学科・小児看護学:教授の公募について</li> <li>5 看護学科・小児看護学:准教授の公募について</li> <li>6 歯科衛生学科:教授の資格審査委員会の設置について</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・千葉女子高等学校との高大連携について</li> </ul>

		<p>7 看護学科：基礎看護学：講師の資格審査委員会の設置について</p> <p>8 看護学科：基礎看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p>	
6	令和4年 10月3日	<p>1 リハビリテーション学科理学療法学専攻：教授の選考について</p> <p>2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の選考について</p> <p>3 看護学科・小児看護学：教授の資格審査結果について</p> <p>4 歯科衛生学科：教授の公募について</p> <p>5 看護学科・基礎看護学：講師の公募について</p> <p>6 看護学科・基礎看護学：助教の公募について</p> <p>7 歯科衛生学科：講師の資格審査委員会の設置について</p> <p>8 看護学科：高齢者看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>9 看護学科：母性看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>10 看護学科：基礎看護学：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p> <p>11 令和5年度学年暦（案）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・令和5年度学校推薦型選抜・社会人特別選抜・編入学試験実施要領について</li> <li>・放送大学単位互換協定に基づく令和4年度前期修得単位の認定について</li> <li>・いずみ祭について</li> <li>・大学機関別認証評価 実地調査について</li> <li>・情報共有会アンケート結果について</li> <li>・研究インテグリティについて</li> </ul>
7	令和4年 11月7日	<p>1 看護学科・小児看護学：教授の選考について</p> <p>2 看護学科・小児看護学：准教授の資格審査結果について</p> <p>3 歯科衛生学科：教授の資格審査結果について</p> <p>4 歯科衛生学科：講師の公募について</p> <p>5 看護学科・高齢者看護学：助教の公募について</p> <p>6 看護学科・母性看護学：助教の公募について</p> <p>7 次期学部長候補者選考に係る予備選挙管理委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・2023年度学内共同研究費募集要項について</li> <li>・紀要のJ-stage アップロードについて</li> <li>・県取組報告会について</li> </ul>
8	令和4年 11月28日	<p>1 特別選抜・3年次編入学合否判定</p>	
9	令和4年 12月5日	<p>1 看護学科・小児看護学：准教授の選考について</p> <p>2 歯科衛生学科：教授の選考について</p> <p>3 看護学科・基礎看護学：助教の資格審査結果について</p> <p>4 歯科衛生学科：講師の資格審査結果について</p> <p>5 看護学科・高齢者看護学：助教の資格審査結果について</p> <p>6 看護学科・母性看護学：助教の資格審査結果について</p> <p>7 歯科衛生学科：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p> <p>8 教員再任審査について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・令和5年度前期 科目等履修生等の募集について</li> <li>・FD・SD 実施後のアンケートについて</li> <li>・研究費の適正使用について</li> </ul>
10	令和5年 1月4日	<p>1 看護学科・基礎看護学：助教の選考について</p> <p>2 看護学科・高齢者看護学：助教の選考について</p> <p>3 看護学科・母性看護学：助教の選考について</p> <p>4 歯科衛生学科：助教の選考について</p> <p>5 次期学部長候補者の選考について</p> <p>6 看護学科：基礎看護学：講師の資格審査委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・放送大学単位互換科目について</li> <li>・委員会活動達成状況点検・評価表（2022年度）作成について</li> <li>・本学のSNSの運用について</li> <li>・本学HPの研究活動の紹介ページへの原稿作成依頼</li> </ul>

		<p>7 看護学科：高齢者看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>8 看護学科：基礎看護学：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p> <p>9 看護学科：高齢者看護学：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期学科長候補者選考に係る適任者の推薦について</li> <li>・教養教育のあり方に関する検討ワーキング報告</li> </ul>
11	令和5年 2月6日	<p>1 各学科・専攻長の選考に係る投票について</p> <p>2 看護学科・基礎看護学：講師の公募について</p> <p>3 看護学科・高齢者看護学：助教の公募について</p> <p>4 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の資格審査委員会の設置について</p> <p>5 歯科衛生学科：准教授（歯科医師）の資格審査委員会の設置について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学運営会議報告</li> <li>・令和4年度後期期末試験日程について</li> <li>・令和5年度授業時間割（案）について</li> <li>・研究費の返還事案に係る外部委員からの再発防止策案について</li> <li>・大学機関別認証評価 評価報告書（案）について</li> <li>・卒業生調査について，卒業時調査について</li> </ul>
12	令和5年 2月9日	1 一般選抜試験第一段階選抜について	
13	令和5年 2月28日	1 卒業判定について	
14	令和5年 3月6日	<p>1 歯科衛生学科：准教授（歯科衛生士）の公募について</p> <p>2 歯科衛生学科：准教授（歯科医師）の公募について</p> <p>3 看護学科・高齢者看護学：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>4 栄養学科：助教の資格審査委員会の設置について</p> <p>5 栄養学科：助手（臨時的任用職員）の資格審査委員会の設置について</p> <p>6 令和5年度一般選抜合否判定について</p> <p>7 令和5年度教授会日程について</p> <p>8 千葉県立保健医療大学における授業の公欠に関する取扱いについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度授業時間割について</li> <li>・成績評価の異議申立てについて</li> <li>・令和5年度前期 科目等履修生等の応募結果について</li> <li>・教務委員会主催FDについて</li> <li>・ガイダンスのスケジュール</li> </ul>
15	令和5年 3月15日	1 進級判定について	1 令和5年度科学研究費応募者概要について
C	評価（成果および改善事項）		
	・教授会資料の電子化と事前通知およびリモート会議の活用により，円滑かつ効率的な会議運営と教授会構成員（教員，事務職員）の負担軽減が達成された。		
D	次年度の方策		
	・教員の任用，教育研究等にかかわる審議について，ペーパーレス化とリモート会議を継続して推進し，対面会議との調和を図りながら円滑かつ効率的な会議運営を諮る。		

#### 4. 各種委員会等の活動報告

##### 1) 特色科目運営会

A	委員長名	井上 裕光・教授（共通教育運営会議，体験ゼミナール科目責任者）
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科，千葉県健康づくり科目責任者） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 細谷 紀子・准教授（看護学科，専門職間の連携活動論科目責任者） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻，社会実習科目責任者）
C	部会名と部会員名	<p>【体験ゼミナール】</p> <p>部会長：井上 裕光・教授（共通教育運営会議）</p> <p>部会員：大内 美穂子・講師（看護学科） 栗田 和紀・講師（看護学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【千葉県の健康づくり】</p> <p>部会長：荒井 裕介・准教授（栄養学科）</p> <p>部会員：富樫 恵美子・講師（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 室井 大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【専門職間の連携活動論】</p> <p>部会長：細谷 紀子・准教授（看護学科）</p> <p>部会員：工藤 美奈子・准教授（栄養学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p>
D	所掌事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 特色科目の運営に関すること</li> <li>2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること</li> <li>3 特色科目の評価と改善に関すること</li> <li>4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること</li> <li>5 科目責任者の推薦に関すること</li> </ol>
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における教育方法を構築し，原則対面として教育目標を達成する。</li> <li>・令和2年度開設の「社会実習（ボランティア活動）」を実施できる体制とする。</li> <li>・学生がサービスマーケティング活動（ほい大プログラム）に参加できる体制とする</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 3月中旬・下旬	メールで打ち合わせ 体験ゼミの開始のための新入生把握（ワクチン接種状況把握）ができず，特色科目委員会会議が開けずメールのみになった
2	令和4年 3月下旬・4月上旬	メール審議 委員会経費について・今年度重点施策について，社会実習を開講しないことについて，学長より，対面実施を原則とする方針を伝えられた。
3	令和4年 4月中旬	メールで打ち合わせ 授業開始までにマニュアル等の整備・配布を依頼，授業順の計画立案，各回担当決定，事務局担当決定 体験ゼミの訪問団体への依頼状出し直しの公印処理，各団体への最終依頼確認（5月末になった）
4	随時	状況確認報告（学内研究用 PC の学内セキュリティシステム Update 不調・学内システム Update 不調のため，個別対応が必要で，ほぼ6月から9月は時間を使い切った）

5	令和5年2月	最終メール打ち合わせ. 会議開催できなかった説明・状況説明・新体制の人事依頼・新年度の課題等について連絡. 特色科目委員会活動達成状況点検・評価表(2022年度)の検討依頼
開催日		体験ゼミナール
1	令和4年 3月中旬・下旬	メールで打ち合わせ コロナ対応のため, 学生支援課に新入生ワクチン接種状況の把握を依頼していたが, 健康診断まで放置されたこと, また予算執行が遅れて報奨金の支払いが遅れていたことが分かったため, 現状把握しどうやって実施するかを検討.
2	令和4年 3月下旬・4月上旬	メール審議 委員会経費について・今年度重点施策について. 社会実習を開講しないことについて. 学長より, 対面実施を原則とする方針を伝えられた.
3	令和4年 4月中旬	メールで打ち合わせ 授業開始までにマニュアル等の整備・配布を依頼. 授業順の計画立案. 各回担当決定. 事務局担当決定 体験ゼミの訪問団体への依頼状出し直しの公印処理. 各団体への最終依頼確認(5月末になった)
4	随時	状況確認報告 Teams 利用で告知.
5	令和4年8月	最終レポート評価. 評価結果を確定. システム修正に追われたため, ほぼ日程調整しての対面会議はできず. 授業後の対応を行った.
6	令和5年2月	報償費支払いができておらず最終的に3月末作成. 報告書PDF作成が遅れて, 年度明けに.
開催日		千葉県健康づくり
1	令和4年 6月2日(木)	授業実施方法の検討
2	令和4年 9月15日(木)	授業運営, 役割分担の確認
開催日		専門職間の連携活動論
1	令和4年6月	<p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) シラバスの確認</p> <p>(2) 昨年度の授業内容・アンケート結果の確認</p> <p>(3) 今年度の授業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画案</li> <li>・特別講義の講師について</li> </ul> <p>(4) 今年度の予算執行計画および次年度予算案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書のPDF およびオンデマンド印刷について</li> </ul> <p>(5) 今後の日程案と担当教員について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の作業部会の日程案</li> <li>・教員説明会の日程案</li> <li>・チーム編成および担当教員の学科・専攻の配分</li> </ul>
2	令和4年7月	<p>&lt;議題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業形態について</li> <li>2. 実施要項および教員用資料について <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 出欠確認について</li> <li>2) Teams チャンネルの作成について</li> <li>3) 教員の指導の仕方について</li> </ol> </li> <li>3. 成績評価について</li> <li>4. アンケートについて</li> </ol> <p>&lt;報告&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予算について</li> </ol> <p>&lt;今後の予定・依頼事項&gt;</p>
3	令和4年9月	実施要項等に関するメール審議
4	令和4年11月	<p>&lt;議題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経過報告</li> <li>2. 教員用資料・第2回説明会の開催について</li> </ol>

		3. 12月6日午前の役割分担について 4. PCの確保・準備について 5. 学生への事前インフォメーション：受講のご案内 6. 科目概要説明について 7. アンケート内容について 8. 今後のスケジュール 9. 確認のお願い
開催日		社会実習（ボランティア活動）
1	令和5年1月	シラバスは部会長に作成依頼するが、今年度開講せず
2		（履修登録について問い合わせあり。告知方法要検討）
G	行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における教育方法を構築し、原則対面として授業を構成できた。ただし、体験ゼミがワクチン接種未確認のまま学生を派遣したことについては、授業中にワクチン接種状況を個別に聞き、ワクチン未接種者（一部忌避疑い）を遠隔希望の団体が生じたことに割り付けて対応しただけで、運が良かったとしか言えない。</li> <li>・令和2年度開設の「社会実習（ボランティア活動）」については、開催ができなかった。今後の開講はコロナの状況を見て判断することになる。</li> <li>・学生がサービスマーケティング活動（ほい大プログラム）に参加できる体制はまだ用意できなかった。準備を進めている。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の対応から、通常授業体制へ移行するための方策を取る。</li> <li>・特色科目間の位置づけをよりはっきりしたものにする必要がある。</li> <li>・学生の取り組みや意識向上を図る必要がある（体調不良で自主的に休むと申告があった場合、非常に扱いが難しい。またすぐに休む傾向の学生が見られた）。</li> </ul>		

## 2) 教育研究社会貢献委員会群

### (1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	浅井 美千代・看護学科教授 河部 房子・看護学科教授（入試実施委員長兼任）
B	委員名	酒巻 裕之・歯科衛生学科教授 神田 みなみ・看護学科教授（共通教育運営会議） 井上 裕光・栄養学科教授（共通教育運営会議兼任） 三和 真人・リハビリテーション学科長兼理学療法専攻長 藤田 佳男・リハビリテーション学科作業療法専攻准教授
C	所掌事項	1 入試結果の分析・評価に関する事項 2 入試改革の検討に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
① 志願者確保の評価：学科専攻別に、昨年度の志願者の動向・課題を分析し、アドミッションポリシーに基づく学生確保のための志願者確保対策を検討する。 ② 入試方法の評価：入学後の学生評価等を通して、入試方法の適切性について検討する。さらに令和2年度から実施の「調査書等を活用した新たな面接試験方法」の妥当性・適切性について評価する。 ③ 大学入学共通テストにおける利用科目の検討：令和7年度から導入される「情報Ⅰ」の利用及び従来の利用科目からの変更について6月に公表できるよう検討する。 ④ 編入学制度の検討：看護学科の編入学制度についての今後の方向性を検討する。		

E			会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題		
1	令和4年 4月13日	1 今年度の目標について 2 令和7年度一般入試の入試科目について 3 入試科目の配点について 4 今年度のFDについて 5 委員会経費について		
2	令和4年 5月23日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 志願者推移の分析について 3 入試区分別学修状況等について 4 編入学制度について 5 重点施策の目標・評価指標について		
3	令和4年 6月16日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 志願者推移の分析について		
4	令和4年 9月20日	1 令和7年度一般入試の入試科目について		
5	令和4年 10月21日	1 令和7年度一般入試の入試科目について		
6	令和4年 12月13日	1 令和7年度一般入試の入試科目について		
7	令和5年 1月11日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 委員会規程について		
8	令和5年 2月17日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 今年度の委員会活動達成状況及び重点施策の目標の評価について 3 推薦枠拡大の結果評価について		
9	令和5年 3月14日	1 「新しい面接方法」の評価について		
F			行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容		
1				
G			評価（成果および改善事項）	
<p>① 昨年度の志願者数・志願倍率の推移について、入試区分別・学科専攻別に分析し、その結果を資料にまとめ教授会に報告し、学校説明会等の広報活動での活用を促した。</p> <p>② 次年度評価予定の推薦枠拡大後の評価方法について討論を重ねた結果、例年、入試方法の評価に用いている項目と同様の入学後4年間の学修状況、国家試験合格状況、就職状況を基に評価する方針を決めた。</p> <p>③ 編入学制度については、当面の間、現在の方法で募集を継続し、本学が求める編入生の確保に努める方針を決定したが、大学機関別認証評価の指摘事項に挙げられたため、再度、制度の見直しについて検討する必要がある。</p> <p>④ 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」については、討議を重ね、本学が求める学生像、他大学の動向などから全学科専攻で選択科目として利用することを決定し、11月に大学ホームページで公表した。選択方法・配点についての委員会案を決定した。令和5年6月の公表に向け、「情報Ⅰ」についてのFDを企画・実施した上で最終決定することとなった。</p>				
H			次年度の方策	
<p>志願者確保の評価として、引き続き、学科専攻別に志願者の動向を分析し、アドミッションポリシーに基づく学生確保のための対策を検討していく。</p> <p>推薦枠拡大の評価、「調査書等を活用した新たな面接試験方法」についての評価を行い、入試方法の適切性について検討する。また、編入学制度について再検討する。</p> <p>令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の選択方法・配点について決定するため、4～5月に「情報Ⅰ」についてのFDを実施し、次年度6月までに決定・公表する。</p>				



## (2) 入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科） 菊地 裕・教授（栄養学科）
B	委員名	河部 房子・教授，北川 良子・准教授（看護学科） 菊地 裕・教授，鈴木 亜夕帆・講師（栄養学科） 石川 裕子・教授，佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授，室井 大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 藤田 佳男・准教授，成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法専攻） 井上 裕光・教授，栗田 和紀・講師（共通教育運営会議） 内山 良太・学生支援主事（事務局）
C	所掌事項	(1) 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 (2) 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む．） (3) 入試問題等の作成・公表に関すること (4) その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
1 公正かつ適切な入試の実施 2 アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成と試験問題開示		
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月11日	1 令和4年度の入試実施委員会の活動目標と活動計画について 2 令和4年度委員会年間スケジュールについて 3 令和5年度入学者選抜要項について 4 令和5年度特別選抜・編入学試験追試験の実施について 5 令和4年度入試 実施後アンケート結果と対応について 6 令和4年度入試問題の外部業者による評価について
2	令和4年 5月10日 Teamsにて実施	1 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 3 FDの実施について 4 入学者選抜要項について
3	令和4年 6月13日 Teamsにて実施	1 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 3 特別選抜追試験について
4	令和4年 7月11日 Teamsにて実施	1 令和5年度学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 3 令和5年度一般選抜試験における第一段階選抜の日程について
5	令和4年 9月12日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学），監督要領及び任務分担について 2 一般選抜の学生募集要項案について 3 令和5年度入試スケジュールについて
6	令和4年 10月17日	1 令和6年度入学者選抜の入試日程について 2 特別選抜・編入学試験後のスケジュールについて 3 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 4 特別な配慮を要する志願者との事前相談について
7	令和4年 11月14日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）および監督要領について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）アンケート集計について 3 一般選抜試験実施要領について
8	令和4年 12月12日	1 一般選抜試験実施要領について 2 令和5年度大学入学共通テストの監督方法について 3 特別選抜・編入学試験アンケート結果について

9	令和5年 1月10日	1 一般選抜試験実施要領について 2 令和5年度大学入学共通テストの実施について
10	令和5年 2月13日	1 一般選抜実施要領・監督要領について 2 次年度の入試日程について 3 一般選抜追試験終了後アンケートについて 4 入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表について 5 令和5年度大学入学共通テストアンケート結果について
11	令和5年 3月13日 Teamsにて実施	1 令和6年度入学者選抜要項について 2 編入学試験合格基準内規の見直しについて 3 一般選抜試験アンケート結果について 4 令和6年度入試スケジュールについて
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 11月11日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科3年次編入学試験監督班説明会
2	令和4年 11月19日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科3年次編入学試験
3	令和4年 12月15日	大学入学共通テスト学内全体説明会
4	令和5年 1月12日	大学入学共通テスト業務班別説明会
5	令和5年 1月14日・15日	大学入学共通テスト
6	令和5年 2月21日	一般選抜試験監督班説明会
7	令和5年 2月25日	一般選抜試験（前期日程）
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別選抜および一般選抜試験に関しては、実施要領を整備し、それに沿って実施した。特に特別選抜では、令和3年度のアンケート結果をふまえてスケジュールを検討し、編入学試験の専門科目と小論文の監督者を別に置いて、余裕をもって実施できるようにした。</li> <li>大学入学共通テストは、これまで同様に東都大学との共同で本試験を実施し、無事に終了した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染対策については、これまでの実施状況および文部科学省から発出された「令和5年度大学入学者選抜実施要項」「令和5年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に基づいて実施した。</li> <li>新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため、一般選抜試験の追試験を設定した。追試験受験志願者はいなかった。</li> <li>面接試験では、入試改革検討委員会で決定された評価基準を用いて実施した。</li> <li>採点に関しては、前年度に作成した採点結果入力仕組みを、使いやすいように一部修正した。</li> </ul> <p>2 アドミッション・ポリシーに則った受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度に実施した入学者選抜について、志願者数は学校推薦型178名（前年度比91.3%）、社会人6名（前年度比75.0%）、編入学10名（前年度比66.7%）、一般選抜266名（前年度比103.1%）であった。</li> </ul> <p>3 質の高い試験問題の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作問ガイドを基に問題作成者に説明の上、問題作成を依頼し、3回の校正を行った。校正会議では、作問者と校正者でディスカッションを行いながら、適切な試験問題の作成に向け洗練させた。なお一般選抜追試験実施のため、同等の難易度となる2つの問題を作成した。</li> <li>令和3年度実施の学校推薦型選抜と一般選抜の小論文試験問題について、外部業者に問題評価を依頼し、その評</li> </ul>		

<p>価結果を問題作成者に提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採点者に対して採点后アンケートを実施し、アドミッション・ポリシーに沿った試験問題となっているか、問題や採点基準の適切性について意見集約し、作問者にフィードバックした。さらに、採点結果についても作問者にフィードバックし、次年度の作問に向けての意見交換を行った。</li> </ul>	
H	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の実施状況をふまえ、各選抜試験の実施要領、監督要領を見直し、修正する。</li> <li>試験問題作成にあたっては、今年度の作問者の意見や採点者アンケート結果等をふまえ、作問ガイドを修正する。また問題校正についても、これまでの経験をふまえて校正のポイントを明文化し、次期委員長に引き継ぐ。</li> <li>令和5年度より導入となるWEB出願について具体的な方法を検討し、募集要項や実施要領などに反映させる。</li> </ul>	

(3) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	谷内 洋子・教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	小宮 浩美・教授，雨宮 有子・准教授，三枝 香代子・准教授，川村 紀子・講師（看護学科） 谷内 洋子・教授，荒井 裕介・准教授（栄養学科） 酒巻 裕之・教授，山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・教授，酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授，有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田 みなみ・教授，島田 美恵子・教授（共通教育運営会議） 沢根 佳江・学生支援課（事務局）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項 7 学籍の異動（入学，進級，休学，復学，転学，留学，退学，除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生，特別聴講学生，聴講生，研修生，研究生及び外国人留学生に関する事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<ol style="list-style-type: none"> <li>with/after コロナの状況下での自己主導型学習（アクティブラーニング）の推進</li> <li>授業評価アンケートの実施方法および質問項目の検討・回答率向上</li> <li>ICT教育の実践と検証</li> <li>f-GPAを活用した学生の自主的な学修管理体制の構築</li> <li>現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正の検討</li> </ol>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月18日	1 休学について 2 令和4年度教務委員会FDのテーマについて 3 令和4年度前期授業評価アンケート実施について 4 令和4年度教務委員会の目標設定について 5 令和4年度委員会経費について
2	令和4年 5月16日	1 休学について 2 新規実習施設の追加について 3 教員授業負担調査について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>4 令和4年度前期末試験について</li> <li>5 令和4年度前期末試験における試験監督マニュアルについて</li> <li>6 学年暦について</li> </ul>
3	令和4年 6月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学について</li> <li>2 新規実習施設の追加について</li> <li>3 令和4年度後期 科目等履修生、聴講生の募集について</li> <li>4 令和4年度前期 末試験日程およびスケジュール案について</li> <li>5 学年暦について</li> <li>6 令和4年度後期教科書販売について</li> <li>7 教員授業負担調査について</li> </ul>
4	令和4年 7月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学について</li> <li>2 令和4年度前期末試験日程及びスケジュールについて</li> <li>3 放送大学の単位認定試験における次学期での受験について</li> <li>4 成績評価の異議申立てに関する規程（案）について</li> </ul>
5	令和4年 8月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 休学について</li> <li>2 非常勤講師の新規任用について</li> <li>3 新規実習施設の追加について</li> <li>4 令和4年度前期末試験日程について</li> <li>5 成績評価の異議申立てに関する規程（案）について</li> <li>6 後期履修登録について</li> </ul>
6	令和4年 9月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の復学・休学について</li> <li>2 非常勤講師の新規任用について</li> <li>3 放送大学単位互換協定に基づく令和4年度前期 修得単位の認定について</li> <li>4 成績評価の異議申立てに関する規程（案）について</li> <li>5 令和5年度学年暦について</li> </ul>
7	令和4年 10月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の休学について</li> <li>2 新規実習施設の追加について</li> <li>3 成績評価の異議申立てに関する規程（案）について</li> <li>4 令和4年度後期授業評価アンケートの実施について非常勤講師の新規任用について</li> </ul>
8	令和4年 11月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の休学について</li> <li>2 新規非常勤講師の任用について</li> <li>3 成績評価の異議申立てに関する規程（案）について</li> <li>4 令和5年度 授業時間割について</li> <li>5 令和5年度前期 科目等履修生等の募集について</li> <li>6 令和4年度後期授業評価アンケートの実施について</li> </ul>
9	令和4年 12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の休学について</li> <li>2 非常勤講師の新規任用について</li> <li>3 新規実習施設の追加について</li> <li>4 令和5年度 授業時間割及び時間割の変更要望について</li> <li>5 放送大学単位互換科目について</li> <li>6 大学設置基準の一部を改正する省令の交付による学則の改正について</li> <li>7 令和5年度学生ハンドブックの変更について</li> <li>8 令和5年度ポートフォリオの手引きの変更について</li> <li>9 令和5年度新生・在学生ガイダンスのスケジュール案について</li> <li>10 教務委員会規程の確認について</li> </ul>
10	令和5年 1月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生の復学・休学について</li> <li>2 非常勤講師の新規任用について</li> <li>3 新規実習施設の追加について</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>4 令和4年度後期 期末試験日程及び試験監督マニュアルについて</li> <li>5 令和5年度 授業時間割及び時間割の変更要望について</li> <li>6 成績評価の異議申立てに関する規程(案)について</li> <li>7 大学設置基準の一部を改正する省令の交付による学則の改正について</li> <li>8 令和5年度学生ハンドブックの変更について</li> <li>9 令和5年度ポートフォリオの手引きの変更について</li> <li>10 教務委員会規程の確認について</li> </ul>
11	令和5年 2月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度卒業判定について</li> <li>2 学生の復学・休学・退学について</li> <li>3 非常勤講師の新規任用について</li> <li>4 令和4年度後期 追再試験日程及び試験監督マニュアルについて</li> <li>5 令和5年度 授業時間割及び時間割の変更要望について</li> <li>6 令和5年度学生ハンドブックの変更について</li> <li>7 令和5年度ポートフォリオの手引きの変更について</li> <li>8 大学機関別認証評価：評価報告書(案)について</li> <li>9 成績評価の異議申立てについて</li> </ul>
12	令和5年 3月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 令和4年度進級判定について</li> <li>2 学生の復学・休学・退学について</li> <li>3 非常勤講師の新規任用について</li> <li>4 放送大学単位互換協定に基づく令和4年度前期修得単位の認定について</li> <li>5 新規実習施設の追加について</li> <li>6 定期試験監督者マニュアルについて</li> <li>7 令和5年度新入生・在学生ガイダンスについて</li> </ul>
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	令和5年 3月19日	教育アセスメントおよびカリキュラム開発について
H	評価(成果および改善事項)	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重点課題1および3について、ICTを活用した教育方法のレベルアップを目的に①Office365を活用した授業デザイン②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方をテーマに、学内教員講師による遠隔動画配信(Teams)を実施した。新任教員を含め、いつでも振り返り繰り返し確認できるよう、当該Teams内に現在も動画は継続配信中である。</li> <li>2. 重点課題2では、授業評価アンケートの質問項目について検討し、内容および回答のしやすさ(質問数)、経年変化を見る観点から現状維持とした。今年度もFormsを用いて実施したが、昨年度の反省から、アンケートFormのQRコードの提示と用紙を使用しての調査を実施した。後期分は実施中だが、前期回収率は1割増加することができた。また、大学機関別認証評価においても、“教育の質及び学習成果の向上に繋がっている”とのコメントを得ることができた。</li> <li>3. 重点課題4および5について、令和4年9月の大学設置基準の一部を改正する省令の交付を受け、委員会内で学則改正の可否も含めて議論・検討し、特に単位の計算方法、授業形態については一体的な検討が必要であることを委員会内で共通認識を持つことができた。大学全体としての共通認識をはかるべく、改正事項の整理を引き続き行い、関係各部署とも連携し、必要に応じて来年度以降の学則改正を目指す。また「成績評価の異議申し立て」制度について検討し、規程および様式を策定した。この制度の趣旨について、適切に運用するべく、教員・学生両者への丁寧な説明を尽くし、次年度より実施予定である。</li> <li>4. 教員授業負担調査を8月に実施し、人事委員会に結果を提出した。既存の調査内容と概ね同様の内容としたが、説明や計算方法の整理することができた。重点課題5について、卒業時アンケートでの結果把握(本学での大学生活と授業について)と、カリキュラム開発・教育アセスメントについて、外部講師を招いて教員向けFDを実施予定で、アウトカム基盤型教育の考え方についても学ぶ機会を提供し、出席者が70名以上にものぼった。</li> <li>5. 大学機関別認証評価受審に向けて、委員会内で現状の整理と改善すべき事項を洗い出し、一部課題事項(成績評価の異議申し立て制度の検討など)について改善することができた。</li> </ol>	

I	次年度の方策
	1. 現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正の検討 2. 大学設置基準の一部を改正する省令の交付に関わる学則やシラバス表記などの改正の検討 3. 課題解決力を高めるための自己主導型（アクティブラーニング）に対する知識と認識を深めるためのFD開催

(4) FD・SD委員会

A	委員長名	岡村 太郎・教授
B	委員名	菊池 裕・教授(キャンパス・ハラスメント防止対策委員長) 浅井 美千代・教授(入試改革検討委員長) 谷内 洋子・教授(教務委員長) 太和田 暁之・教授(学術推進企画委員長) 島田 美恵子・教授(学生進路支援委員長) 加瀬 政彦・教授(研究倫理審査委員長) 酒巻 裕之・教授(危機管理委員会) 吉原 郁美・企画運営課長(事務局) 伊藤 拓哉・企画運営課(担当事務局)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内のFDの推進に関すること 2 学内のFDの連携, 調整に関すること 3 教授会が付託した事項に関すること 4 その他FDに関すること
E	年度当初の重点課題	
	FD・SDマップに則して, 以下課題の概要検討・内容決定を, 各委員会に依頼し実施するシステムの構築 1. 社会貢献 : FD・SDを企画・実施の促進 2. 教育 : 新任教員向けの講習会・教員向きの講習会を企画・実施の促進 3. 研究 : 研究遂行スキルの向上(目的; 科研費申請率アップ)・研究倫理の理解の講習会の企画・実施 4. 管理・運営: ハラスメント予防のための講習会・危機管理の講習会・相談員向けの講習会の企画・実施 5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施 6. SD(スタッフ・ディベロップメント)を中心に活性化を目標に企画運営課長の企画実施	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月22日	1. 本年度FD・SD委員会検討課題 2. 本年度必須コースの担当決め 3. 昨年度評価表の内容について
2	令和4年 6月17日	1. コロナ感染対策等諸事情のため中止
3	令和4年 9月16日	1. コロナ感染対策等諸事情のため中止
3	令和4年 11月18日	1. アンケート方法と報告方法 2. FDSDマップに記入方法する 3. 各委員会時の報告確認 4. 来年度のFDSDの企画案依頼
4	令和5年 3月17日	1. 本年度FD・SDの報告について 2. FD・SD委員会活動方向点検・評価表の確認 3. アンケート方法と実施・報告について報告検討 4. 受験科目「情報I」の内容についてFDの企画について 5. その他, 予算の使用方法について検討報告

G 行事開催記録		
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 2月28日 (動画配信継続)	新任教員向けの講習会「ICTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り①Office365を活用した授業デザイン-with コロナ：学内教員による講演②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方と探索-コロナ収束後を見据えて」2022年2月28日より継続し遠隔動画配信（継続中/教員全員）教務委員会実施
2	令和4年4月	自大学の理解「大学の成り立ちと人材育成の目標」（新任教員対象）学長実施
3	令和4年 5月10日	情報を公開する手法「行政と連携した、大学の新しい役割」千葉大学病院 次世代医療構想センター長 吉村健佑 社会貢献委員会実施
4	令和4年 5月10日	2SDを中心に活性化など目標の検討：＜地方・教育公務員としての基礎知識＞「公立大学に関する基礎研修(公立学校協会主催)」(全教職員＜特に公立大学に初めて勤務する職員＞zoom配信 事務局
5	令和4年 5月10日	「倫理規定・人事評価について」「公立大学の学校事務について」事務局 SDを中心に活性化を目標に企画運営課長を中心に実施できた。
6	令和4年 6月29日	研究の国際化「大学の教育・研究活動の国際展開 千葉大学教授 織田雄一 学術推進企画委員会実施
7	令和4年 7月30日	研究遂行スキルの向上＜目的；科研費申請率アップ＞「科研費の最近の動向」文部科学省研究振興局学術研究推進課 林史晃 (youtube 視聴配信) 学術推進企画委員会実施
8	令和4年 7月30日	「科研費申請の戦略的アプローチ 2022年度版」ロバストジャパン株式会社 (youtube 視聴配信) 学術推進企画委員会実施
9	令和4年 7月30日	「公立大学が活用できる外部資金制度について」山陽小野田市立山口東京理科大学 研究推進部 塩満典子 (youtube 視聴日配信) 学術推進企画委員会実施
10	令和4年 12月26日	基礎的知識と基本的スキルを備える＜ハラスメント予防について＞「1. ハラスメントの法的問題について 松本・山下綜合法律事務所 弁護士 山口祐輔. 2. ハラスメントの法的問題について ハラスメント外部相談員 前田昭子」 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会実施
11	令和5年 3月14日	研究倫理の理解の講習会「近年の本学における研究倫理審査の変更点について」：Teams開催）倫理委員会実施
12	令和5年 3月17日	＜複雑な事象に対応できる指導・管理的能力を養う＞カリキュラム開発・教育アセスメントについて「教育アセスメントおよびカリキュラム開発について」俣木志朗先生，日本歯科大学生命歯学部 教務委員会実施
H 評価（成果および改善事項）		
1. 学内のFD推進に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初2年間の完成目標をたて段階的に「FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は、FDの学内委員会調整とFDの推進はほぼ達成された</li> </ul> 2. 教授会が付託した事項に関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度、特に教授会から付託された事項はなかった</li> </ul> 3. その他FDに関すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SDアンケートについて職員に周知と回収が改善事項である</li> </ul>		
I 次年度の方策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度のFD・SDマップの再検討と2023年度FD・SD年度計画の検討</li> <li>・FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などのシステム構築と運用と実施</li> </ul>		

## (5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	太和田 暁之・教授（看護学科）
B	委員名	河部 房子・教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 佐藤 大介・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と部会員名	<b>【紀要編集部会】</b> 部会長：金澤 匠・准教授（栄養学科） 部会員：河部 房子・教授（看護学科） 春日 広美・教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 佐々木 みづほ・准教授（歯科衛生学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） <b>【学内共同研究審査部会】</b> 部会長：河野 舞・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 部会員：太和田 暁之・教授（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 室井 大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
D	所掌事務	1 大学内の学術推進に関すること 2 共同研究等の募集及び審査に関すること 3 紀要の編集及び発行に関すること 4 大型外部資金の獲得に関すること 5 動物実験に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・競争的外部資金獲得のための方策を検討，実施する	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月18日	1. 科研費等の申請率向上のための方策について(教授陣によるサポート体制など)，学内共同研究費について 2. 将来構想委員会との連携による県の施策と関連する研究とその成果の報告事業の検討について 3. 学内共同研究費の費目間の融通(変更)に関する県への相談について 4. 学術推進企画委員会の定例開催について



		5. イブニングセミナーの講師推薦について
2	令和4年 4月20日～4月25日 (メール審議)	1. 教員を対象とした学内共同研究費の備品購入費に関するアンケートの実施について 2. 千葉大学の織田雄一先生へのイブニングセミナーの講演依頼について 3. 学術推進企画委員会の委員会経費を ZOOM 費用と計上することについて
3	令和4年 5月16日	1. 2022 重点施策年度目標について 2. 科研費セミナー及びイブニングセミナーの講師について 1. JAXA 塩満典子氏 2. 千葉大学織田雄一教授 3. 科研費等の申請率向上のための方策について 4. 学内共同研究変更について(栄養学科 菊池裕教授) 5. 県の施策と関連する研究への助成について (学内共同研究費または学長裁量研究費)
4	令和4年 6月20日	1. 2023 年度学内共同研究費の費目間配分について 2. 科研費等の申請率・採択率向上のための方策について 3. 令和3 年度教育年報(学術推進企画委員会)原稿について 4. 学術推進企画委員会 7～8 月の開催について 5. 第 13 回学内共同研究発表会について 6. 2023 年度学内共同研究費募集要項の修正案について 7. 紀要第 14 巻編集方針について
5	令和4年 9月12日	1. 2023 年度学内共同研究費募集要項
6	令和4年 10月17日	1. 「2023 年度学内共同研究費募集要項」
7	令和4年 11月21日	議題なし
8	令和4年 12月19日	1. 「2023 年度学内共同研究 研究計画審査」について
9	令和5年 1月16日	1. 2023 年度学内共同研究計画審査要領について
10	令和5年 2月20日	1. 学術推進企画委員会活動達成状況点検・評価表について 2. 令和4 年度学内共同研究費 延長及び変更申請について
11	令和5年 3月20日	1. 「論文作成能力が向上する」に関する FD について
開催日		紀要部会の主な議題
1	令和4年 9月8日	1. 投稿予定論文の応募状況及び編集担当者について
2	令和4年 10月3日	1. 投稿論文編集者・査読者の決定について 2. 査読依頼の手続きについて
3	令和4年 11月2日	1. 査読結果及び審査結果について
4	令和4年 12月26日	1. 査読結果及び審査結果について
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和5年 1月24日	1. 2023 年度学内共同研究審査方法について
2	令和5年 2月13日	1. ヒアリングの日程調整について

	(メール審議)	
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 6月29日	第1回イブニングセミナー「大学の教育・研究活動の国際展開」 織田雄一 氏・国立大学法人千葉大学国際未来教育基幹 教授
2	令和4年 7月30日～ (オンデマンド視聴)	第2回イブニングセミナー「科研費の最近の動向」 林史晃氏 文部科学省研究振興局学術研究推進課課長補佐 (公立大学協会主催のオンライン研修会の録画を同協会の承諾を得て学内配信)
3	令和4年 7月30日～ (オンデマンド視聴)	第3回イブニングセミナー「科研費申請の戦略的アプローチ 2022年度版」 中安豪氏 ロバストジャパン株式会社 (公立大学協会主催のオンライン研修会の録画を同協会の承諾を得て学内配信)
4	令和4年 7月30日～ (オンデマンド視聴)	「公立大学が活用できる外部資金制度について」 塩満典子氏 山陽小野田市立山口東京理科大学研究推進部長 (公立大学協会主催のオンライン研修会の録画を同協会の承諾を得て学内配信)
5	令和4年 9月12-16日 (オンデマンド視聴)	第13回学内共同研究発表会
H	評価 (成果および改善事項)	
1	<p>大学内の学術推進に関すること</p> <p>上記のように競争的外部資金獲得と研究能力向上をテーマとしたイブニングセミナーを計4回開催した。科研費等の競争的外部資金獲得促進のための方策、すなわち科研費獲得促進セミナーの開催、採択された科研費研究計画調書の閲覧整備、若手教員の教授への相談体制等を継続した。2023年度から科研費計画調書のレビューやオンデマンド方式による科研費獲得促進セミナーといった研究支援サービスの外部委託を開始する予定である。</p>	
2	<p>共同研究等の募集及び審査等に関すること</p> <p>2023年度の学内共同研究の募集を行い、一般研究9件、若手研究1件の応募があった(例年と同程度)。例年学内共同研究費の費目間配分について多くの学内研究者から調整の要望が寄せられていたため全学を対象としてヒアリングを行い、得られた意見を参考にし、費目間配分を調整した。学内共同研究発表会をweb形式で開催した(以上、学内共同研究審査部会)。</p>	
3	<p>紀要の編集及び発行に関すること</p> <p>論文10編(原著1編、報告5編、資料4編)の投稿があり全編採択とした。加えて学長による巻頭言、学内共同研究抄録14編、2021年度及び2022年度学長裁量研究抄録11編、令和4年度保健医療大学取組報告会の掲載を予定している。2022年度から印刷物の発行を中止しJ-Stageでのオンライン発行のみとした(以上、紀要編集部会)。</p>	
4	<p>大型外部資金の獲得に関すること</p> <p>2023年度実施の科研費等競争的資金(科研費+その他の競争的外部資金+学内共同研究)の申請数と申請率は申請の資格を有する者44名のうち申請数40件(申請率90.9%)であり数値目標の80%および前年度の申請率(申請数38件/有資格者44名=86.3%)を上回った。科研費の採択率は申請数26件のうち採択数3件(11.5%)であり数値目標の30%や前年度の採択率(採択数4件/申請数28名=16.7%)を下回った。</p>	
5	<p>動物実験に関すること</p> <p>該当なし。</p>	
6	<p>教授会が付託した事項に関すること</p> <p>該当なし。</p>	
7	<p>その他学術推進に関すること</p> <p>該当なし。</p>	
I	次年度の方策	
1	<p>2023年度から科研費計画調書のレビューやオンデマンド方式による科研費獲得促進セミナーといった研究支援サービスの外部委託を開始予定である。</p>	
2	<p>科研費等競争的資金の獲得推進について、科研費等競争的資金の申請率80%、科研費採択率30%を数値目標とする。目標達成のため外部の専門業者による研究支援サービス、科研費獲得に関するイブニングセミナーの開催、科研費計画調書の閲覧整備等の取り組みを継続する。</p>	

## (6) 学生委員会

A	委員長名 副委員長	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育） 浅井 美千代・教授（看護学科）
B	委員名	西村 宣子・准教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 須藤 崇行・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援の方針（ハンドブック）に照らした学生支援の検証と改善</li> <li>・卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する</li> </ul>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月12日	① 令和3年度委員会スケジュールについて ② 令和3年度学生支援計画について ③ 日本学生支援機構奨学生の推薦について ④ 委員会経費について ⑤ サークル活動について
2	令和4年 5月10日	① 令和3年度学生支援計画について ② 次年度予算の策定について ③ 学生向けセミナーについて
3	令和4年 6月14日	① 次年度予算の策定について ② 学生向けセミナーについて ③ 学生団体の活動報告・設立について ④ 同窓会について ⑤ いずみ祭の企画の進行及び協力について
4	令和4年 7月12日	① 令和3年度いずみ祭について ② 報告 学生と学長の懇談会 同窓会
5	令和4年 9月13日	① 令和4年度健康診断及び大学祭の日程について ② 学長からの付託事項 1 「新型コロナウイルス感染症に対する現状と今後」 ③ 学長からの付託事項 2 学生調査 授業評価
6	令和4年 10月18日	① 新型コロナウイルス感染症を知る学生のための講演会について ② 令和4年度の健康診断について ③ 令和4年度学生ハンドブックについて ④ 令和4年度自己健康管理ファイル ⑤ 2021年度卒業時調査について ⑥ 学生団体の設立について
7	令和4年 11月18日	① 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ② 令和4年度学生ハンドブックについて

		③ 令和4年度自己健康管理ファイルについて
8	令和4年 12月13日	① 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ② 令和4年度学生ハンドブックについて ③ 令和4年度自己健康管理ファイルについて ④ 卒業式について ⑤ 幕張キャンパス学生ホール棟の売店について ⑥ 卒業時調査について
9	令和5年 1月17日	① いずみ祭について ② 幕張売店・自動販売機及び仁戸名無人販売について ③ 卒業式について ④ 委員会規定の見直しについて
10	令和5年 2月14日	① 令和3年度卒業式について ② 令和4年度学生向けセミナーについて ③ 令和4年度健康診断について ④ 委員会活動評価
11	令和5年 3月14日	① 学生相談に関する調査について ② 令和3年度学生支援計画の結果について ③ 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ④ 自動販売機について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 4月6日～7日	健康診断
2	令和4年 8月16日～29日	学生セミナー 働く前に知っておきたい労働法 オンデマンド配信
3	令和4年 9月13日～26日	学生セミナー デートDV～お互いを尊重した関係とは～ オンデマンド配信
4	令和4年 10月19日～11月7日	学生セミナー 新型コロナ感染症を正しく知る オンデマンド配信
5	令和4年9月	学生アンケート調査 学生生活の実態に関するアンケート Formsにて
6	令和5年 1月18日～2月5日	学生アンケート調査 学内の売店と自動販売機に対するアンケート Formsにて
H	評価（成果および改善事項）	
<p>① 学内整備：学生のロッカー室整備ならず、狭さを解決できなかった。</p> <p>② 学生会：WEBも活用して予定事業はすべて実施した。サークル活動再開マニュアルを作成した。</p> <p>③ いずみ祭：令和3年度いずみ祭を、WEBリアルタイムと動画配信の2部構成で実施した。</p> <p>④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：新担当者を決定して学生による管理を継続した。</p> <p>⑤ 売店・自動販売機：売店に関するアンケート実施。生協撤退に対しての新商品ニーズを把握した。</p> <p>⑥ 卒業式：卒業写真撮影の手配および式歌清聴の準備をした。</p> <p>⑦ 学生対象セミナー：参加者は減少するも2回開講。学長によるコロナ対策特別講演を開講した。</p> <p>⑧ 同窓会：学科別同窓会の動向を把握。代表者WEB会議を開催した。</p> <p>⑨ 学生からの相談内容把握：学生相談アンケートの実施 結果から課題を提示し教員で共有した。</p> <p>⑩ 幕張キャンパス駐輪場管理：入構可能な時期は、整頓状況を確認した。</p> <p>⑪ 後援会：WEB総会および理事会開催を支援。理事会議事を大学に報告した。</p> <p>WEBも活用した臨機応変な対応で、当初の予定に加えた、新たな事業も実施した。キャンパス整備に対する課題が継続された。学生の豊かな学生生活を築くことを目的とした、学生・事務局・後援会との情報と問題意識の共有と行動指針が求められる。</p>		

I	次年度の方策
	・生協撤退などの学習・生活環境の変化が、学生の福利厚生に及ぼす影響を、学生との意見交換や調査などで、客観的に把握する必要がある。同窓会の組織化を強固にする。

(7) 進路支援委員会

A	委員長名	島田 美恵子 教授 (歯科衛生学科 共通教育)
B	委員名	田口 智恵美・准教授 (看護学科) 谷内 洋子・教授 (栄養学科) 山中 紗都・講師 (歯科衛生学科) 佐々木みづほ 准教授 (歯科衛生学科) 室井 大佑・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 その他学長が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
	所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率 100% (全学科) をめざし、学科専攻と連携を図り大学全体として取り組んでいく。 新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響を把握し、4 年生への適切な情報提供を行うとともに、学生が活用しやすい進路支援方法を検討する。	
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
	1 令和 4 年 4 月 19 日	① 令和 4 年度委員会スケジュールについて ② 令和 4 年度進路支援計画について ③ 令和 4 年度委員会活動予算について ④ 令和 4 年キャリアセミナー年間計画および第 1 回キャリアセミナーについて
	2 令和 4 年 6 月 15 日	① 令和 4 年度進路支援計画について ② 令和 4 年度後援会助成依頼について ③ 令和 4 年度第 1 回・第 2 回キャリアセミナーについて ④ 次年度予算策定について
	3 令和 4 年 8 月 17 日	① 令和 4 年度第 2 回キャリアセミナーについて ② 令和 4 年度第 3 回キャリアセミナーについて
	4 令和 4 年 11 月 16 日	① 卒業時調査について ② 第 3 回キャリアセミナーについて ③ 学生ハンドブックについて ④ 進路ガイドブックについて
	6 令和 5 年 1 月 18 日	① 進路支援委員会規程の見直し ② 第 3 回キャリアセミナーについて ③ 学生ハンドブックについて ④ 令和 5 年度ハローワーク相談 (仁戸名含む) について
	7 令和 5 年 3 月 25 日	① 第 3 回キャリアセミナーの振り返り ② ジョブカフェセミナーの振り返りと令和 5 年度計画について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	1 令和 4 年	第 1 回 第 1 部キャリアセミナー 就活のすすめ方 採用者はここをみる (講堂にて開催)

	8月12日	第1回 第2部は学科ごとに開催
2	令和4年 8月25日	第2回キャリアセミナー 公務員試験対策 大講義室にて 学生支援課・動画映写
3	令和5年 3月14日	第3回キャリアセミナー 就職活動に必要なマナーのツボ
4	令和5年 9月26日	ジョブカフェ 自己PR作成セミナー
5	令和5年 11月7日	ジョブカフェ エントリーシート対策セミナー
6	令和5年 3月8日	ジョブカフェ 個人模擬面接セミナー
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>① 年度当初に作成した進路支援計画は、全学および各学科・専攻ごとに、実施できた。</p> <p>② 全学でのキャリアセミナーは例年通り3回実施した。全体セミナーは、新型コロナウイルス感染防止策をふまえた対面方式で実施した。全学年に開催をアナウンスした。</p> <p>③ 各学科専攻によるセミナーにおける学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。対面・オンデマンド両方の方法を工夫しながら、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施された。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。例年、閲覧数の多い、学生が記録を残す就職活動報告書は、いつでも閲覧できるように支援室設置の紙媒体からPDF化してサーバー上でも閲覧が可能な状態とした。</p> <p>⑤ 昨年より実施している「ジョブカフェ」の参加人数が昨年度より増加し、参加者は満足したと回答した。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>・引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を考慮した進路支援計画を作成し実施していく。特に公務員試験対策において、営利を目的としない学外講師を選定する必要がある。</p>	

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	加瀬 政彦・教授（栄養学科）
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>川城 由紀子・講師（看護学科）</p> <p>杉本 健太郎・講師（看護学科）</p> <p>広川 由子・准教授（栄養学科）</p> <p>酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科）</p> <p>鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>堀本 佳誉・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>佐藤 大介・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>米本 肇子・事務局長</p> <p>—学外委員—</p> <p>安村 勉・教授（学習院大学専門職大学院法務研究科）</p> <p>鎌田 浩二・准教授（千葉大学人文科学研究院）</p> <p>竹内 治・弁護士（松本・山下綜合法律事務所）</p> <p>望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科）</p> <p>島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）</p>
C	部会名と 部会員名	<p>【動物実験研究倫理審査部会】</p> <p>部会長：加瀬 政彦・教授（栄養学科）</p> <p>部会員：細山田 康恵・教授（栄養学科）</p> <p>鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>金澤 匠・准教授（栄養学科）</p> <p>島田 美恵子・教授（歯科衛生学科）</p>

D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して、倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	① 研究倫理審査委員会での倫理審査のあり方を改善するための委員会の運営法の検討。 ② 昨年度から継続しているリモート研究の指針とデータの収集と管理の指針の整備。 ③ 研究倫理審査に関するFDをFD/SD委員会と連携して実施を目指す。 ④ 毎月の委員会での研究倫理審査業務を着実に実行。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月13日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件、保留4件）
2	令和4年 5月11日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件、条件付き承認1件、保留3件）
3	令和4年 6月8日	1 倫理審査申請案件の審査（6件：承認1件、条件付き承認1件、保留4件）
4	令和4年 7月13日	1 倫理審査申請案件の審査（13件：承認1件、条件付き承認5件、保留7件）
5	令和4年 9月14日	1 倫理審査申請案件の審査（12件：条件付き承認6件、保留6件）
6	令和4年 10月12日	1 倫理審査申請案件の審査（9件：承認6件、条件付き承認2件、保留1件）
7	令和4年 11月9日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認2件、条件付き承認2件、不承認1件）
8	令和4年 12月14日	1 倫理審査申請案件の審査（2件：承認1件、保留1件）
9	令和5年 1月18日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認2件、保留3件）
10	令和5年 2月8日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件、条件付き承認2件、保留1件、不承認2件）
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	令和4年 6月7日	1 動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 4月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
2	令和4年 9月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
3	令和5年 3月14日	研究倫理に関する講習会開催（講師：研究倫理審査委員会委員長）
4	令和5年 3月27日	令和4年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	・達成事項 ① ZoomやTeamsなどのWeb会議システムを使用する場合の指針を作成した。 ② データの収集と管理に関する指針を現状に合わせ改訂したものを作成した。 また外部クラウドの研究利用について本学で必要な手続きを再度告知する。 ③ 倫理審査結果通知書における「非該当」をはじめとする審査結果の文言の簡潔な説明を作成した。	

④ 新たに加わった「電磁的インフォームドコンセントの取得」について告知。 また「多機関共同研究」での倫理審査の手続き変更について告知文を作成。
⑤ 国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) の講師によるFD実施。(3月4日)
・評価結果の理由と改善策 目標の5項目について、①～③については委員会内での議論により文案ができた(ただし議論はまだ締め切っていないので微調節はあります。)ので目標をほぼ達成できたと考えます。④については「電磁的インフォームドコンセントの取得」については告知済みで、「多機関共同研究」については告知文を作成していつでも告知できる状態にあります。⑤についても順調に準備が進んでいます。
I 次年度の方策
・研究のインターネット利用が進んでいる中、従来の倫理規定で時代にそぐわなくなっているものがあるので、他大学の動向などを参考に来年度以降修正していくべきと考えます。

(9) 国際交流委員会

A	委員長名	石川 裕子・教授
B	委員名	三和 真人・教授(副委員長) 石川 紀子・講師 加瀬 政彦・教授 山本 達也・教授 寺田瑞希・伊藤斐太(事務局)
C	部会名と部会員名	初期医療言語サービスボランティア研修チーム 石川 裕子・教授 神田 みなみ・教授 三枝 香代子・准教授 田口 智恵美・准教授 大内 美穂子・講師 中山 静和・助教
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項 6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国外との国際交流活動(学生を含む)の活性化を行う。</li> <li>・国内での国際交流活動の活性化を行う。</li> </ul>	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月26日 (オンライン)	1 令和4年度国際交流委員会活動目標と活動計画, 年間スケジュール 2 令和4年度国際交流委員会予算について 3 初期医療言語サービスボランティア研修について
2	令和5年 2月14日 (オンライン)	初期医療言語サービスボランティア研修について 神田外語大学(布川先生他6名), 本大学(石川他4名)で, 本年度の研修実施について
3	令和5年 2月16日 (B317 共同研究室)	初期医療言語サービスボランティア研修について 本大学出席者(石川他5名)でポスター, 消耗品, 参加者への連絡事項など
4	令和5年 2月17日	1 委員会活動状況点検評価表の確認 2 初期医療言語ボランティア研修の現在の状況(報告)



	(Team 内報告)	
5	令和5年 3月2日 (B209)	初期医療言語サービスボランティア研修について マネキン・AED 準備, 当日の役割分担, 研修終了後 Forms 調査について
6	令和5年 3月6日 (オンライン)	初期医療言語サービスボランティア研修について 神田外語大学 (布川先生他3名), 本大学 (石川他5名) 当日の実習の流れ等最終確認など
7	令和5年 3月6日 (オンライン)	初期医療言語サービスボランティア研修 本大学 (石川他3名) で, 最終打ち合わせ
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和5年 3月12日 (本学B111・209教室) 9:30~16:00	第2回初期医療言語サービスボランティア研修 対象者への英語など外国語を使用した声かけと状況把握, 体勢への配慮, 誘導, 一時救命処置, 心肺蘇生法・AED使用方法 参加者: 学生15名 (本学6名, 神田外語大学9名) 参加 教職員参加者: 本学7名, 神田外語3名参加
H	評価 (成果および改善事項)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国外との国際交流活動は行うことができなかったが, 本学と神田外語大学との共同開催による第2回初期医療言語サービスボランティア研修を開催することができた。</li> <li>・国外との国際交流活動については, 昨年度シンポジウムを行った Inje 大学との交流を, 先方の意向を伺いつつ計画を立てる必要がある。初期医療言語サービスボランティア研修については, 毎年開催してほしいという声もあるが, 本研修に必要な消耗品購入を両大学でどのようにするか, 再度相談したうえで開催する必要があると思われる。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「初期医療言語サービスボランティア研修」の継続的な実施, 学生対象のセミナー開催などを検討および実施することで国内外における国際交流活動を促進する。</li> </ul>	

(10) 図書委員会

A	委員長名	三和 真人・教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 図書館長
B	委員名	成 玉恵・講師 (看護学科) 広川 由子・准教授 (栄養学科) 栗原 涼子・助教 (歯科衛生学科) 須藤 崇行・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 山中 紗都・講師 (共通教育運営会議) (1月3日まで) 島田 美恵子・教授 (共通教育運営会議) (1月4日から)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集, 購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検索セミナーなどのセミナー, ガイダンスを実施し, 図書館の利用促進, 学生の文献検索能力向上につとめる。</li> <li>・学生の学習, 教育, 調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。</li> </ul>	

F			会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題		
1	令和4年 5月6日	1 活動達成状況点検・評価表（2022年度）について 2 令和4年度の年間予定について 3 令和4年度定期購入図書について 4 令和4年度資料費予算配分について 5 令和5年度予算要求に向けての要望伺い		
2	令和4年 10月26日	1 2023年洋雑誌（冊子体）の更新について 2 2023年電子ジャーナル・データベースの更新について		
3	令和5年 2月2日	1 令和5年度定期購読雑誌（案）について 2 電子ジャーナル・データベース等の利用状況について		
4	令和5年 3月20日	1 卒業研究論文に関する著作権譲渡について 2 令和5年度定期購読雑誌（案）について		
G			行事開催記録	
開催日		行事名称及び行事の内容		
1	令和4年 4月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）		
2	令和4年 4月7日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）（全学科・専攻対象）		
3	令和4年 4月7日	図書館ガイダンス（幕張図書館見学）（看護学科2回，その他の学科・専攻各1回）		
4	令和4年 4月13日	図書館ガイダンス（仁戸名図書館見学）（理学療法学専攻2回，作業療法学専攻2回）		
5	令和4年 4月14日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）		
6	令和4年 5月10日	図書館ガイダンス（新任教員向け）		
7	令和4年 6月13日	文献検索ガイダンス（作業療法学専攻3年生）		
8	令和4年 6月29日	文献検索ガイダンス（理学療法学専攻3年生）		
9	令和4年 9月2日	図書館ガイダンス（新任教員向け）		
10	令和4年 10月20日	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）		
11	令和4年 10月27日	文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」（歯科衛生学科3年生）		
12	令和4年 12月14日	文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」（作業療法学専攻3年生）		
13	令和5年 1月17日	図書館ガイダンス（新任教員向け）		
14	令和5年 2～3月	文献検索ガイダンス（看護学科3年生）（オンデマンド動画配信）		
H			評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業研究を控えた学生を対象に文献検索セミナーを2回，文献検索ガイダンスを5回実施した。</li> <li>幕張図書館で1,827冊，仁戸名図書館で1,105冊の図書を新たに受け入れ，備品費予算のほぼ100%を執行した。</li> </ul>				

I	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が文献検索の指導を受ける機会を増やすよう努める。</li> <li>・学科推薦図書の趣旨を教職員の間であらためて共有し、限られた予算内で、学生・教職員にとって有意義な図書を整備するよう心掛ける。</li> </ul>	

(11) 社会貢献委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授（栄養学科）
B	委員名	鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科） 大内 美穂子・講師（看護学科） 室井 大佑・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1. 公開講座の企画及び運営に関すること。 2. 教授会が付託した事項に関すること。 3. その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師によるFDを企画し、本学が果たすべき地域貢献を広げるように努める。</li> <li>・社会のニーズを踏まえた公開講座をZOOM形成と対面形式で各1回ずつ実施する。</li> <li>・全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」をUR都市機構と千葉県内の地域で計画・実施する。</li> <li>・歯科診療室に受診される地域住民の方を対象に「健康教室」を企画・実施する。</li> </ul>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月26日	1. 令和4年度公開講座の予定について 2. FD日程・役割分担について 3. 委員会経費について 4. URとのほい大健康プログラムについて 5. いすみ市とのほい大健康プログラムについて 6. 歯科診療室を活用した健康相談について 7. 活動達成状況点検・評価表（2022年度）について 8. 重点政策について 9. その他
2	令和4年 5月25日	1. FD・SDアンケート結果について 2. URとのほい大健康プログラムについて（学長裁量研究申請中） 3. URと共催のほい大健康プログラム日程について 4. いすみ市と共催のほい大健康プログラムについて 5. 公開講座の広報掲載申し込み、人員配置について 6. 重点施策の目標について 7. 健康教室について 8. その他
3	令和4年 6月22日	1. 学長裁量研究について 2. 倫理審査結果について 3. 公開講座チラシとホームページについて 4. 健康教室について 5. その他

4	令和4年 9月28日	1. UR とのほい大健康プログラムについて 2. いすみ市とのほい大健康プログラムについて 3. 健康教室について 4. 公開講座の役割分担 5. その他
5	令和4年 10月22日	1. UR とのほい大健康プログラムについて 2. いすみ市とのほい大健康プログラムについて 3. 健康教室について 4. 公開講座について（反省点） 5. その他
6	令和4年 12月15日	1. ほい大健康プログラム（UR といすみ市）のアンケート結果 2. 公開講座のアンケート結果 3. 委員会活動に関する改善策について 4. 社会貢献委員会の規程について 5. その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 5月10日	社会貢献委員会 FD 千葉大学病院 次世代医療構想センター長の吉村健佑に「行政と連携した、大学の新しい役割」について
2	令和4年 10月1日	UR とのほい大健康プログラム 第1回 看護学科・細谷紀子「いきいき暮らせるからだを作ろう」 リハビリテーション学科理学療法学専攻・江戸優裕「運動器の元気度チェックと、脳と身体の同時エクササイズ」
3	令和4年 10月15日	いすみ市とのほい大健康プログラム 第1回 看護学科・大内美穂子「いきいき暮らせるからだを作ろう」 栄養学科・渡辺優奈「バランスの良い食事をとりましょう」
4	令和4年 10月22日	公開講座（ZOOM ウェビナー） リハビリテーション学科作業療法学専攻・岡村太郎「心のみかた、とらえかたー作業療法よりー」 看護学科・富樫恵美子「セルフ・コンパッションー自分のことを思いやるー」をテーマに講演を実施した。
5	令和4年 10月29日	UR とのほい大健康プログラム 第2回 歯科衛生学科・鈴鹿祐子「お口の体操を始めましょう」 栄養学科・峰村貴央「バランスの良い食事をとりましょう」
6	令和4年 11月5日	公開講座（対面） 栄養学科・菊池裕「衛生管理が守る食の安全」 歯科衛生学科・河野舞「マスクの下でお口は開いていませんか？」をテーマに講演を実施した。
7	令和4年 11月12日	いすみ市とのほい大健康プログラム 第2回 歯科衛生学科・鈴鹿祐子「お口に体操を始めましょう」 リハビリテーション学科理学療法学専攻・江戸優裕「運動器の元気度チェックと、脳と身体の同時エクササイズ」
8	令和4年 11月26日	UR とほい大健康プログラム 第3回 リハビリテーション学科理学療法学専攻・成田悠哉「日々の生活から考える介護予防」 看護学科・細谷紀子「いきいき生活を続けるために」
9	令和4年 12月10日	健康教室 第1回 リハビリテーション学科理学療法学専攻・成田悠哉「日々の生活から考える介護予防」 栄養学科・細山田康恵「健康を保つための油の摂り方」

10	令和4年 12月17日	健康教室 第2回 看護学科・今井宏美「楽しむことで若さをKEEPしませんか？」 歯科衛生学科・鈴鹿祐子「お口の機能の測定とアドバイス」
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>① 千葉大学病院の次世代医療構想センター長から、「行政と連携した、大学の新しい役割」について対面でご講演いただき、FD(レベル2)を開催し、概ね目標を達成できた。39名の方に参加していただき、内容に関して、満足66%とやや満足32%で好評であった。</p> <p>② 公開講座の開催案内を県民だよりと県内の関係施設にポスターを送付し、昨年度より約1.6倍の方に参加いただくことができた。1回目のZOOM86名、2回目の対面62名の参加で目標を達成できた。</p> <p>③ 「ほい大健康プログラム」をUR都市機構と共催で真砂第一団地において、3回実施することができた。また、いすみ市と共催でいすみ医療センターにおいて2回実施できた。両方とも、参加者の方のアンケート結果で満足度が高く、目標を達成できた。</p> <p>④ 歯科診療室に通院されている地域住民の方に、各学科の特色を活かした健康教室を企画し4学科のプログラムを組み合わせて2回実施できた。アンケート結果では、好評をいただき概ね目標を達成できた。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>① 本学の重点施策「健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献」に取り組む上で行政と連携する必要性について理解を深めていただけた。今後は、さらに他大学での社会貢献も参考に検討したい。</p> <p>② 公開講座をZOOM形式で実施した際、10代から70代以上の幅広い年層の方に参加していただけたことがわかった。また、対面実施では、高校生の方（千葉女子高校も含む）に多く参加していただけたことがわかった。今後、年層に合わせたテーマや開催方法を設定するように検討したい。</p> <p>③ ほい大健康プログラムをUR都市機構といすみ市で実施したが、非常に満足度が高く、本学の社会貢献として、多職種連携の強みを活かしたプログラムの継続が必要であることが明らかとなった。今後、学内の実施体制を整え、どのように運用していくか検討したい。</p> <p>④ 歯科診療室に通院されている地域住民の方を対象とすると、歯科衛生学科で参加者の方を集めるのが大変になってしまうため、本学として健康教室の位置づけを検討し、必要性も含めて検討すべきと考える。</p>	

### 3) 管理運営部門委員会群

#### (1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	西野 郁子
B	委員名	大川 由一・学部長（兼）歯科診療室長 島田 美恵子・学生部長（兼）共通教育運営会議長 三和 真人・図書館長（兼）理学療法学専攻長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 石川 裕子・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 山本 達也・作業療法学専攻長 米本 肇子・事務局長
C	部会名と部会員名	<p><b>【自己点検・評価委員会】</b>  部会長：荒井 裕介・准教授（栄養学科）  部会員：北川 良子・准教授（看護学科）  鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科）  酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻）  成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p><b>【認証評価部会】</b>  部会長：神田 みなみ・教授（看護学科）  部会員：西野 郁子・教授（看護学科）  菊池 裕・教授（栄養学科）  荒川 真・准教授（歯科衛生学科）</p>

		<p>大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法専攻）  有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻）  寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課）</p> <p>【教育研究年報作成部会】  部会長：松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法専攻）  部会員：大塚 知子・講師（看護学科）  坂本 明子・助教（看護学科）  工藤 美奈子・准教授（栄養学科）  河野 舞・准教授（歯科衛生学科）  江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法専攻）  寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課）</p> <p>【IR 部会】  部会長：佐久間 貴士・講師（広報委員会）  部会員：西野 郁子・教授（自己点検・評価委員会）  浅井 美千代・教授（学生委員会，入試改革検討委員会）  谷内 洋子・教授（教務委員会）  室井 大佑・助教（進路支援委員会）  松尾 真輔・講師（総務・企画委員会）  寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課）  内山 良太・技師（事務局学生支援課）</p>
D	所掌事項	<p>【自己点検・評価委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の項目の設定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の実施に関する事項</li> <li>自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項</li> <li>認証評価に関する事項</li> <li>その他自己点検・評価に関する事項</li> </ol> <p>【教育研究年報作成部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育研究年報に関する事項</li> </ol> <p>【自己点検・評価実施推進部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価の実実施計画等の策定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の項目の設定に関する事項</li> <li>自己点検・評価の実施に関する事項</li> </ol> <p>【認証評価部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>認証評価に関する事項</li> </ol> <p>【IR 部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価に関する情報収集，蓄積と分析に関する事項</li> </ol>
E	年度当初の重点課題	
	<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り，学内の円滑な自己点検・評価を推進する</li> <li>大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し，書面評価・実地調査等に対応してR5年3月に認証の結果を得る</li> <li>IRの機能を促進する</li> <li>大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出する</li> </ol> <p>2 目標達成のための具体的な活動計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>令和3年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。 各部会から年間スケジュールを提出してもらい，部会の所掌事項を推進していく。 大学運営会議等から新たな依頼があった場合には，4つの部会と連携して推進していく。</li> <li>大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し，書面評価・実地調査等に対応する。</li> <li>・IRコンソーシアムの具体的な活用を検討する。 ・卒業時調査や適宜実施される学生調査など，学内におけるIRの機能を果たす。</li> </ol>	

・IR 部会において、教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を開始する。

④ 大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出し、大学運営会議に提示する。

F 会議記録（含む部会の開催）		
開催日	主な議題	
1	令和4年 4月26日～5月2日 (メール審議)	1 委員会活動の目標設定について
2	令和4年 11月28日	1 卒業時調査について 2 自己点検・評価委員会担当の重点施策について
3	令和5年 2月6日	1 大学機関別認証評価 評価報告書(案)への意見申し立て案について 2 自己点検・評価委員会担当の重点施策について 3 教育研究年報のデータの集積について 4 委員会活動達成状況点検・評価について
4	令和5年 3月27日	1 R4年度委員会活動達成状況点検・評価報告書について
開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】	
1	令和4年 12月14日 (メール審議)	1 評価方法・スケジュールの確認 2 部会員への評価分担当案の検討 3 執筆用フォーマット(評価表)の確認 4 執筆依頼(1月教授会)資料案の確認
2	令和5年 3月15日	1 報告書案の審議
開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】	
1	令和4年 5月13日	1 点検評価ポートフォリオの最終確認作業について
2	令和4年 7月19日	1 在校生に対する面談WEBアンケート調査について 2 卒業生及び教職員に対するアンケート調査について
3	令和4年 9月15日	1 実地調査に向けての連絡事項について 2 当日参加者(卒業生)の打診について
4	令和4年 11月7日	1 実地調査 評価結果の伝達について
開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】	
1	令和4年 8月1日	1 年報作成における修正点について 2 令和3年度年報作成の進捗状況について 3 年報作成の今後の作業スケジュールについて
2	令和5年2月 (メール審議)	1 年報業績集計表の作成について
開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【IR部会】	
1	令和4年 6月21日	1 IRコンソーシアムの具体的な活用の検討 2 学内におけるIR機能に関する検討 3 学内データ一元管理に関する検討 4 令和3年度卒業時アンケート集計進捗報告
2	令和4年 7月29日	1 大学IRコンソーシアムの具体的な活用の検討 2 学内におけるIR機能に関する検討(卒業生調査) 3 学内データ一元管理に関する検討(インデックス・データ集積)
3	令和4年	1 学内におけるIR機能に関する検討(卒業生調査)

	10月28日	2 IR コンソーシアムの具体的な活用の検討 3 学内データ一元管理に関する検討（インデックス・データ集積） 4 卒業時調査アンケートに関して（IR コンソーシアム）
4	令和5年 2月14日	1 令和4年度卒業時調査について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
1 達成事項		
① 令和3年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。 各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していった。「教育研究年報」の発行時期については例年より遅れた。 学長より卒業生調査（初回）の依頼があり、＜IR 部会＞により計画・実施した。3月初旬までにデータ収集を行った。		
② 大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査（オンライン、追加訪問調査）に対応して、評価報告書（案）において「大学評価基準を満たしている」と評価を得た。R5年3月に最終結果を得られる予定である（3月3日現在）。		
③ IR コンソーシアムの具体的な活用を＜IR 部会＞の各委員で検討した。教務委員会からは教育の評価に活用することが示されたが、分析をして結果を提示するには至らなかった。 ＜IR 部会＞で卒業時調査、卒業生調査を企画・実施し、学内におけるIRの機能を果たした。 教育研究年報のデータの集積に関して、IR 部会で検討したが、＜教育研究年報作成部会＞で検討することとなり、学科・専攻の量的データについて集約方法を提案し決定した。各委員会が担当する部分も含め、質的なデータについては継続課題である。なお、＜IR 部会＞では、各委員会が調査した結果など、集積しているデータについてのINDEX作業は継続して行った。		
④ 大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出し、大学運営会議に提示した。		
2 評価結果の理由と改善策		
上記「達成事項」に示した通り、①から④について目標は達成できた。 「教育研究年報」の発行時期が遅れたことについては、認証評価に伴う作業量が多かった影響であり、次年度からは修正できる見込みがある。		
I	次年度の方策	
1 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して自己点検・評価を推進していく。 学科・専攻、委員会の重点施策の令和4年度目標の達成度から、学科・専攻や委員会の所掌について検証する。		
2 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された【優れた点】について、継続・発展させる。【改善を要する点】【今後の進展が望まれる点】については、早急にスケジュール・責任部署の計画を立て、対応に取り掛かる必要がある。		
3 IR 部会により、卒業生調査の分析および結果の公表（卒業生・学生も含む）を実施する。IR コンソーシアムの活用により、分析データを公表（学生も含む）する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行っていく。教育研究年報作成部会において、教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を開始する。 自己点検・評価委員会において、各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を行う。		
4 重点施策の担当項目である大学組織に関する項目について、将来構想検討委員会でR5年度の担当（責任）委員会の再検討を依頼する。		



## (2) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	佐藤 紀子・教授（看護学科長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長）
B	構成員名	石井 邦子・教授（看護学科，副学長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，学部長，歯科診療室長） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，学生部長，共通教育運営会議長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長，図書館長） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻長） 西野 郁子・教授（看護学科，学長指名：自己点検・評価委員長） 米本 肇子（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 キャンパス統合の検討に関する事項 2 大学院設置の検討に関する事項 3 公立大学法人化等の検討に関する事項 4 地域貢献の拠点づくりの検討に関する事項 5 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	① 千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進をはかる体制を整備する ② 社会貢献・シンクタンク機能の強化に向けた取り組みを推進する ③ 保健医療の向上への貢献を推進するために本学に求められる機能充実の方策を検討する ④ 自律的な大学運営に向けた検討を行い，本学の方針を明確にする	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月25日	1 今年度の委員会活動目標について 2 重点施策年度目標の推進体制と検証作業について
2	令和4年 7月25日	1 教員懇談会について 2 健康福祉部への取組報告会について
3	令和4年 9月26日	1 健康福祉部への取組報告会について 2 情報共有会のアンケート結果について（報告）
4	令和5年 1月30日	1 重点施策の評価方法について 2 将来構想検討委員会の今年度の評価について 3 委員会規定について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 9月5日	将来構想にかかる情報共有会 日時：令和4年9月5日（月）16：30～18：00 会場：本学大講義室 対象：全教職員 内容： 1) 趣旨説明 2) 県のシンクタンク機能としての研究的取組の紹介 新型コロナと認知症プロジェクトの概要と経過報告 リハビリテーション学科理学療法学専攻助教 室井 大佑 3) 社会貢献事業の紹介 ① R4年度ほい大健康プログラムの展開 社会貢献委員会委員長 細山田 康恵 ② 高齢者の歯科医療・介護予防の実践を推進するための歯科衛生士研修会の概要と経過報告

		歯科衛生学科教授 酒巻 裕之 ③ 千葉県内看護職者の実践力の向上を図る研修プログラム構築の取組 看護学科准教授 川城 由紀子 4) 大学院設置・法人化・キャンパス統合にかかるこれまでの経緯および今後の方向性について 事務局長 米本 肇子 5) 質疑応答・意見交換
2	令和4年 10月25日	令和4年度 保健医療大学取組報告会 会場：千葉県庁本庁舎1階多目的ホール 出席者：健康福祉部17名、保健医療大学13名 内容： 1 大学の概要及びこれまでの取組と成果 2 主な取組の紹介 (1) 研究的取組 ・新型コロナウイルスが千葉県の高齢者に与えた影響について リハビリテーション学科理学療法学専攻助教 室井 大佑 (2) 地域貢献の取組 ・ほい大健康プログラムの展開 社会貢献委員会委員長 細山田 康恵 3 今後に向けて（意見交換）
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点施策の目標管理については、計画どおり4月に今年度の重点施策の目標・評価の点検のための体制を整備し、6月の全学運営会議で承認、達成状況については委員会で検証し3月の運営会議で報告することができた。</li> <li>教職員との情報共有会は初めての試みであったが、アンケート結果から県立大学の教職員としての研究や社会貢献事業への関心を高める効果があることが確認できた。また、取組報告会において「Covid-19が千葉県の高齢者に与えた影響」調査の結果について議論できたことは、本学のシンクタンク機能の役割を認識してもらう上で意義が大きかったといえる。</li> <li>将来構想に関わる検討は、県と執行部との会議が開催されず委員会においても進めることができなかった。</li> </ul>	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度は、重点施策の開始から5年目となり評価の年となる。千葉県保健医療計画の評価も見据えつつ、令和6年度以降の目標設定を行う。</li> <li>教職員との情報共有会については、アンケートの結果を踏まえ、次年度は大学の将来構想に関わる意見交換の場とすることも検討する必要がある。県への取組報告会は、大学の役割や意義を理解していただく上で継続的に実施していくことが重要である。</li> <li>大学の将来構想については健康福祉部と本学の執行部との協議が主導となるが、将来構想検討委員会がこれに対してどのように関与していくのか引き続き議論が必要である。</li> </ul>	

### (3) 総務・企画委員会

A	委員長名	山本 達也・教授(リハビリテーション学科 作業療法学専攻・共通教育運営会議)
B	委員名	石井 邦子・教授(看護学科・副学長) 細谷 紀子・准教授(看護学科) 菊池 裕・教授(栄養学科) 酒巻 裕之・教授(歯科衛生学科) 三和 真人・教授(リハビリテーション学科 理学療法学専攻) 松尾 真輔・講師(リハビリテーション学科 作業療法学専攻)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項

		3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	① 令和4年度の学内環境の整備については、各学科専攻に対して行った意向調査に基づき優先順位をつけ順次整備する。 ② 令和5年度の予算要求は各学科専攻に対して行った意向調査及び令和4年度に策定した長期整備計画に基づき行う。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月11日	1 令和4年度委員会の開催日程及び開催方法について 2 令和4年度総務・企画委員会の目標について 3 令和4年度の全学整備備品の購入優先順位決定について 4 令和5年度当初予算要求に向けた照会の開始について 5 令和4年度共同研究費の余りについて 6 令和4年度委員会経費について
2	令和4年 5月23日	1 総務・企画委員会に係る重点施策の目標設定について 2 来年度当初予算に係る研究費の予算配分（案）について 3 令和4年度共同研究費の余りについて
3	令和4年 6月13日	1 令和5年度当初予算について 2 研究費予算余剰金について
4	令和4年 7月11日	1 令和5年度当初予算について 2 令和4年度研究費予算余剰金（備品購入費）について 3 令和4年度一般選抜小論文試験問題の外部評価について
5	令和4年 9月12日	1 大講義室のプロジェクターについて 2 令和4年度研究費予算余剰金について
6	令和4年 10月24日	1 令和4年度研究費予算余剰金について
7	令和4年 12月13日	1 委員会活動達成状況点検・評価表の作成について 2 学内委員会規程の改正について
8	令和5年 2月13日	1 学生の個人情報の取扱いに係る規程について 2 学内委員会規程の改正について
9	令和5年 3月13日	1 学内規程の改正について 2 教育・研究予算の配分について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・成果</p> <p>① 昨年度予算要求どおり、全学整備備品として505万円の予算が決定されたことから、令和4年度第1回委員会にて優先順位を決定し、当該順位に基づき備品を整備できた。</p> <p>② 全学整備備品及び各学科・専攻等の備品についての令和5年度当初予算要求は、令和4年度第1回委員会にて学内照会について承認された後、令和4年4月12日に学内へ依頼を行った。その後、回答を取りまとめ、第3回、第4回委員会にて審議し、委員会として当初予算案を決定することができた。</p> <p>③ 夏頃より幕張キャンパス大講義室のプロジェクター2台中1台が故障したため、スイッチャー部分の交換も含めてプロジェクターの整備について審議した。特に、プロジェクターの台数について審議し、現在の2台から1台に減らし、スクリーンも大画面1枚に変更することとなった。しかしながら、業者からの見積もりでは1,200万円程度と高額になったため、事務局より来年度以降の整備となる旨、報告があった。</p>	

・改善事項 ① 大講義室のプロジェクターは来年度以降の整備となるため、事務局と情報共有し、使い勝手が向上するように整備する。	
I	次年度の方策
① 優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子，AV 機器等）の整備 ② 令和6年度に向けた予算要求 ③ 大講義室のプロジェクターの整備	

(4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	小宮 浩美・教授（看護学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科）
B	委員名	今井 宏美・准教授（看護学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科・共通教育運営会） 井上 裕光・教授（栄養学科・共通教育運営会） 田中 佑季・助教（栄養学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科 作業療法学専攻） 寺田 瑞希・主事（事務局 企画運営課） 内山 良太・主事（事務局 学生支援課） 総括委員長 石井 邦子・教授（看護学科）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1. 印刷物を活用した広報に関する事項 2. ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3. 学校案内，オープンキャンパスや学校説明会・キャンパス見学（団体）など，入試広報に関する事項（入試改革に係る予告公表を除く。） 4. その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
迅速な広報を可能とする方策を組織に浸透させると共に研究成果を広く広報する方策を実行する。		
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月4日	1. 令和4年度 オープンキャンパス開催方針
2	令和4年 4月18日	1. 令和4年度 広報委員会の目標 2. 令和4年度 オープンキャンパス企画 3. 大学説明会出席とキャンパス見学に係る基本方針 4. 年間活動計画と役割分担 5. 本学 YouTube に掲載する動画の基準 6. 委員会運営経費
3	令和4年 5月16日	1. 令和4年度 オープンキャンパス企画 2. 令和5年度 予算案 3. 令和4年度広報活動に関する新入生アンケートの実施方針 4. 年間活動計画と役割分担の修正
4	令和4年 6月20日	1. 令和4年度 オープンキャンパス企画 2. 令和5年度 予算案 3. 令和4年度新入生アンケート項目と実施方法
5	令和4年	1. 令和4年度 オープンキャンパスの評価

	9月12日	2. 大学案内の作成方針 3. HPの改定案（研究活動ページの掲載） 4. 役割分担の修正
6	令和4年 10月17日	1. 令和5年度 オープンキャンパスの日程 2. 大学案内の作成 3. HPの改定案（研究活動ページの掲載） 4. 動画作成 5. SNSチェックリスト
7	令和4年 12月19日	1. 大学案内2024と大学案内2025の作成 2. 令和5年度オープンキャンパスの開催方針 3. 動画作成 4. HPの改定案（研究活動ページの掲載） 5. SNSチェックリスト 6. 委員会規程の改正の可否
8	令和5年 1月16日	1. 令和5年度オープンキャンパス企画 2. オープンキャンパスの広報 3. 委員会活動達成状況点検・評価表案 4. HPの改定案（研究活動ページの掲載）
9	令和5年 3月20日	1. 令和5年度オープンキャンパス企画 2. 令和5年度広報活動に関する新入生アンケート項目と実施方法 3. 令和4年度委員会活動実績 4. 令和5年度委員会スケジュール案
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	令和4年 7月9日/10日	オープンキャンパス
H	評価（成果および改善事項）	
	<p><b>【入試広報】</b> 大学案内2024はデザインの変更が実現し、納期も6月上旬と早めることができた。対面型のオープンキャンパスを再開し、2日間で参加者は1,563名であり、来場者アンケートでは満足度も高かった（とても満足70%、満足23%）。大学説明会には84回教職員を派遣した。広報活動はコロナ前に戻ったが、オープンキャンパス（R元：参加者2,500名）、大学説明会（R元：105回）とまだ少ないため、さらなる活性化が必要である。アンケートの分析結果から、新入生は主に「受験情報サイト、ホームページ、高校の先生の話」で本学を知り、「大学案内、ホームページ、高校の先生の話」で入学動機を高めていることがわかった。大学案内の重要性が見出されたことからデザインや掲載内容の充実につなげた。大学案内2023の資料請求数は692/前年比72.9%であり、前年度の前年比（63.0%）より改善した。新入生アンケートからホームページを充実させる必要性が見出されたので、予算と改善のための方策を検討する。</p> <p><b>【研究成果の広報】</b> 本学の特徴的な研究を紹介するページの作成について検討し、大枠を決定した。次年度に新たに作成する広報冊子の予算化を実現した。</p> <p><b>【広報活動の基盤整備】</b> 効率的で安全な情報発信を目指し、SNS配信時のチェックリストを作成した。広報活動に関する方針をふまえた活動と役割分担の手順書を作成した。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>1. 多くの来場者を確保できるオープンキャンパスの企画の実施。 2. 受験情報サイト、ホームページでの広報の充実のための方策と予算の検討。 3. ホームページと広報誌による研究活動の情報発信。</p>	

## (5) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：龍野 一郎・学長
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（幕張衛生管理者・歯科衛生学科） 山本 達也・教授（仁戸名衛生管理者・リハビリテーション学科作業療法学専攻） 宗雪 正美先生（産業医・自由が丘クリニックソフィア院長）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の達成		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 7月25日	1 開催日程及び開催方式について 2 産業医による職場巡視日程について 3 職場巡視結果の報告及び衛生管理者による職場巡視について 4 その他報告(新型コロナ感染者数, 療養休暇取得者及び休職者数, 各種休暇の取得促進)
2	令和4年 8月29日	1 産業医による職場巡視日程について 2 職場巡視結果の報告 3 その他報告(新型コロナ感染者数, 療養休暇取得者及び休職者数, ストレスチェックの実施, 各種休暇の取得促進)
3	令和4年 10月7日	1 職場巡視結果の報告 2 その他報告(新型コロナ感染者数, 療養休暇取得者及び休職者数, ストレスチェックの回答状況, 各種休暇の取得促進)
4	令和4年 11月1日	1 職場巡視結果の報告 2 その他報告(新型コロナ感染者数, 療養休暇取得者及び休職者数, ストレスチェックの集団結果)
5	令和4年 12月28日	1 職場巡視結果の報告 2 その他報告(新型コロナ感染者数, 療養休暇取得者及び休職者数, 「メンタルヘルスケア研修」の開催予定)
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 7月13日～8月12日	県職員対象 ストレスチェック
2	令和5年 1月6日	地方職員共済組合千葉県支部主催 メンタルヘルスケア研修
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外産業医 宗雪 正美先生（自由が丘クリニックソフィア院長）による職場巡視（環境測定）を実施した。</li> <li>・ストレスチェックの結果, 対象となった者のうち希望者について, 産業医との面談が実施された。</li> </ul>		
I	次年度の方策	
<p>新型コロナウイルス感染症の分類が5類移行後, 引き続き感染症の拡大に注意を払う。また, ストレス対策として, 時間外超過勤務者と学内産業医との面談は実施されたが, メンタルに異常を訴えて, 休職するものが散見され, 効率的・効果的なストレス管理を引き続き実施する。</p>		

## (6) 危機管理委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之 (歯科衛生学科) 堀本 佳誉 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)
B	構成員名	石井 邦子 (看護学科) 春日 広美 (看護学科) 細山田 康恵 (栄養学科) 工藤 美奈子 (栄養学科) 佐久間 貴士 (歯科衛生学科) 室井 大佑 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 松尾 大輔 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 島田 美恵子 (歯科衛生学科, 学生部長) 井上 裕充 (栄養学科, ネットワーク管理者) 吉原 郁美 (企画運営課課長)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項 3 情報システム管理室における以下の業務に関する事項 ① 学内情報システム (情報ネットワークシステム, 教務・入試システム, 図書館システム) の運用・管理 ② 学生及び教員の情報システム活用の支援 情報セキュリティ対策
E	年度当初の重点課題	
<p>「危機管理の手引き」を作成する。 「危機管理の手引き」に関するFD/SDを開催する。 防災訓練に関するアンケートを実施する。 優先順に危機管理マニュアルを作成する。</p>		
F	会議記録 (含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和4年 5月13日	令和4年度危機管理委員会の目標等について 防災訓練について 防災訓練移管するアンケートについて 千葉県立保健医療大学における危機管理の手引きについて FD/SDについて
2	令和4年 6月13日	防災訓練アンケート調査について 千葉県立保健医療大学における危機管理の手引きについて 令和5年度当初予算要求について 不審者対応報告について
3	令和4年 9月13日	防災訓練移管するアンケートについて 危機管理の手引きについて AED研修会について 不審者対応報告について
4	令和4年 10月17日	危機管理の手引きについて AED研修会について 不審者対応報告について
5	令和4年 11月14日	危機管理の方針について 不審者対応報告について
6	令和4年 12月12日	危機管理の方針について 仁戸名キャンパス防災訓練について

		不審者対応報告について
7	令和5年 1月16日	危機管理の方針について 不審者対応報告について
8	令和5年 2月13日	危機管理の方針について 不審者対応報告について
9	令和5年 3月13日	危機管理の方針について 病原体等安全管理について 不審者対応報告について 委員会活動達成状況点検・評価票について 「さすまた」の設置について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 6月22日	防災訓練（幕張キャンパス）
2	令和4年 11月16日	防災訓練（仁戸名キャンパス）
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・達成事項</p> <p>当初、「危機管理の手引き」は危機に関する情報、危機管理マニュアルの作成や活用方法等について、教職員が共有するものを作成し、大学運営会議に諮った結果、「危機管理の方針」としてまとめ、評議会の承認を得ることとなった。本方針は、2月13日 危機管理委員会の承認を得た。2月27日 大学運営会議に諮り承認後、3月23日 本学評議会議に諮り承認を得る予定である（2月13日現在）。</p> <p>「危機管理の方針」について、教職員対象のFD/SDを予定したが、本方針は令和5年3月開催の評議会議に諮ることになったため、令和5年4月以降の開催へ延期された。</p> <p>防災訓練に関する質問調査を実施した。火災に係る避難訓練について、実施の消火や救助活動と避難者に動きについて詳細な検討、地震、津波等の火災以外の防災訓練を行う等の意見が出た。</p> <p>危機管理マニュアル作成について、「危機管理の方針」の作成に時間を費やしたことから、新たな危機管理マニュアル作成に着手することができなかった。</p> <p>・評価結果の理由と改善策</p> <p>令和4年度は目標2 FD/SDの実施、目標4 個別の危機管理マニュアル作成に着手することはできなかったが、危機管理に対処する本学の方針を示すことができるようになったことは、本年度の委員会活動は意義のあるものと考えられる。</p> <p>「危機管理の方針」について、当初は「危機管理の手引き」を作成して、危機管理委員会委員の中で危機の定義等を共有して、個別の危機管理マニュアルの作成をすることにしていた。作成する中で、危機管理に関して本学全体で共有する必要があることが分かった。また一度大学運営会議に諮った結果、「危機管理の方針」と改めまとめることになった。本方針が承認されると、今後の個別の危機管理マニュアル作成が共通認識のもと作成することができるようになる。</p> <p>防災訓練について、本学の災害等に係る対処法について検討し、必要な改善をしたうえで、その整合性を図る訓練を実施することが必要と考えられる。そこで、本年度実施した質問調査結果等をふまえて、防災訓練のあり方、災害時の対処法の検討、新たな防災訓練の実施等を検討、実施することを、令和5年度危機管理委員会に引き継ぐ。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>「危機管理の方針」に関するFD/SDを開催する。</p> <p>承認された「危機管理の方針」をふまえて、個別の危機管理マニュアル作成を進める。</p> <p>防災訓練そのもののあり方、新たな防災訓練内容について検討する。</p> <p>火災における避難経路、避難方法の見直し</p> <p>地震、津波に対する非難経路、避難方法の検討</p> <p>災害時の帰宅困難者用の備蓄水等の備蓄に関する検討</p> <p>避難時に用いる拡声器等の必要物品の検討</p>	



## (7) 人事委員会

A	委員長名 副委員長名	神田 みなみ・教授（学長指名） 大川 由一・教授（学部長）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（看護学科長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻長） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻長） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議長） 米本 肇子・事務局長（事務局） （事務担当：伊藤 拓哉・企画運営課）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置，教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項
E	年度当初の重点課題	
1) 教員組織の定期的検証システムを確立する。 2) 新たな評価項目を組み込み，人事評価制度に基づいて評価を実施する。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和4年 4月21日	1 人事委員会活動達成状況点検・評価表（2022年度）について
2	令和4年 5月27日	1 教員資格審査委員会の設置について
3	令和4年 6月20日	1 教員資格審査委員会の設置について
4	令和4年 8月30日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の定期的検証について 1) 教員組織の編成方針に基づく定期的検証について（改正案1） 2) 教員組織の定期的検証(R4)について
5	令和4年 9月20日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の定期的検証について 1) 教員組織の編成方針に基づく定期的検証について（改正案2） 2) 教員授業負担調査の結果について 3) 教員組織の定期的検証(R4)について
6	令和4年 11月26日	1 教員資格審査委員会の設置について
7	令和4年 12月26日	1 教員資格審査委員会の設置について
8	令和5年 1月24日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 人事委員会活動達成状況・点検評価表（2022年度）年度当初版について 3 人事委員会関係規程について
9	令和5年 2月24日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 人事委員会活動達成状況・点検評価表（2022年度）年度最終版について

G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
	なし	
H		
評価（成果および改善事項）		
<p>1) 教員組織の定期的検証システムの確立</p> <p>目標通り「教員組織の定期的検証」および教員授業負担調査を実施し、概ね基準に達していることを明らかにした。加えて教員組織の一部変更により改善を行うことができた。</p> <p>(A) 令和4年度「教組織の定期的検証」を実施し、概ね基準に達していると評価された。</p> <p>(B) うち5年毎に行う各教員の授業負担調査を前年の2021年度について教務委員会に依頼して実施した。調査結果は大学運営会議に報告し、各学科・専攻長に伝えた。</p> <p>(C) 人事組織の検討を行い、大学設置基準の教員人数、主要科目の教授・准教授担当割合を十分満たすため、理学療法専攻教授を1名増（准教授1名減）、看護学科の准教授を1名増（講師1名減）とした。</p> <p>2) 「教員業績評価票」に学内委員会活動及びシンクタンク機能に関する活動を含めることを一次評価者である学科・専攻長を通じて、さらに周知した。</p>		
I		
次年度の方策		
<p>1 「教員組織の定期的検証」を毎年5月基準に行い、教員組織の管理・点検を継続する。</p> <p>2 教育の質を継続的に保証する教員組織となるよう専門必修科目の教授・准教授の担当比率の改善等の方法を検討する。（大学認証評価結果）</p>		

(8) 教員再任審査委員会

A	委員長名	平岡 真実・教授（栄養学科）
B	委員名	大川 由一・教授（学部長） 西野 郁子・教授（看護学科） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻） 米本 肇子・事務局長
C	部会名と部会員名	【専門部会】 委員長による指名（各学科・専攻より1名）*2022年度は設置なし
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E		
年度当初の重点課題		
<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な再任審査を実施する。</li> <li>審査書類の記載例の整備、審査における点数化基準の明確化をはかり、修正を検討する。</li> </ul>		
F		
会議記録（含む部会の開催）		
開催日	主な議題	
1 令和4年 5月12日 (Teams開催)	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について 4 その他	
2 令和4年 5月26日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 その他	
3 令和4年 10月20日 (Teams開催)	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について 4 その他	
4 令和4年 11月29日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 その他	

5	令和5年 2月9日 (メール)	1 委員会活動達成状況点検・評価表について 2 教員再任審査に関する覚書について
G 行事開催記録		
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H 評価 (成果および改善事項)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期4名(看護2名, 歯科衛生2名), 後期5名(看護2名, 栄養2名, 歯科衛生1名)再任審査を行い, 再任可と承認された.</li> <li>・審査における点数化基準の明確化に向けて, 審査項目の解釈や基準について意見交換を行い, 審査に関する覚書を作成した. 「教育・研究活動等報告書」記載例の充実をはかった.</li> </ul>		
I 次年度の方策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な再任審査を実施する.</li> <li>・研究業績の審査基準が本学教員に求められる水準として妥当かどうか, また任期最終年の教育研究業績が評価されない現行の審査対象期間について検討する.</li> </ul>		

(9) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	菊池 裕・教授 (栄養学科)
B	委員名	石井 邦子・副学長 大川 由一・学部長 島田 美恵子・学生部長 山本 達也・教授 (作業療法学専攻) (学長指名) 米本 肇子・事務局長 <b>【外部委員】</b> 山口 祐輔 (弁護士) 増井 起代子 (臨床心理士)
C	部会名と 部会員名 (相談員名)	<b>【相談員】</b> 西村 宣子・准教授 (看護学科) 佐伯 恭子・講師 (看護学科) 渡辺 健太郎・助教 (看護学科) 平岡 真実・教授 (栄養学科) 荒井 裕介・准教授 (栄養学科) 鈴鹿 祐子・准教授 (歯科衛生学科) 佐久間 貴士・講師 (歯科衛生学科) 大谷 拓哉・准教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 酒井 克也・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻) 有川 真弓・准教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 松尾 真輔・講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻) 吉原 郁美・課長 (事務局企画運営課) 伊藤 拓哉・主事 (事務局企画運営課) <b>【キャンパス・ハラスメント調査委員会】</b> キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか, キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること

E		年度当初の重点課題
1) キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの見直し 2) 外部委員又は講師による研修会の実施 3) キャンパス・ハラスメント相談員による相談実証状況の把握 4) 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施		
F		会議記録（含む部会の開催）
開催日	主な議題	
1	令和4年 4月28日	前年度のアンケート調査の結果を報告し、意見聴取を行なった。（メール審議）
2	令和4年 6月3日	今年度の委員会活動目標の設定し、委員会で承認を得た。
3	令和4年 8月29日	過去2年間のアンケート調査結果を外部委員へ報告し、意見聴取を行なった。
4	令和4年 12月5日	教職員向け及び相談員向けFD・SD研修会について、委員会の意見聴取を行なった。
5	令和5年 1月30日	アンケート調査の内容を説明し、委員会で承認を得た。
6	令和5年 3月31日	学生及び教職員のアンケート結果を報告した。（メール審議）
G		行事開催記録
開催日	行事名称及び行事の内容	
1	令和4年 12月26日	山口祐輔 弁護士（外部委員）と前田昭子 ハラスメント外部相談員を講師に迎えて、FD・SD教職員向け研修会（レベル1）を実施した。
2	令和5年 2月16日から 3月3日	学生及び教職員を対象としてキャンパス・ハラスメントに関するアンケート調査を実施した。
	令和5年 3月20日	前田昭子 ハラスメント外部相談員を講師に迎えて、FD・SD相談員向け研修会（レベル3）を実施した。
H		評価（成果および改善事項）
やや問題があり、改善の余地がある。 1) レベル1及び3のFD・SD研修会実施を通じて、相談員の技術向上に寄与した。 2) 相談員とキャンパス・ハラスメント防止対策委員の連携が取れておらず、相談案件の概要等を委員会に報告する専門部会の必要性を指摘された。 3) 外部相談員の意見から、事例に対応したキャンパス・ハラスメント防止対策の必要性が明確になった。		
I		次年度の方策
1) 総務・企画委員会で予算措置し、外部講師を招へいしてFD・SD研修会の開催が望まれる。 2) 専門部会を設置し、委員会の活動を活性化することが望まれる。 3) 外部相談員と連携して他大学の状況を調査し、相談員マニュアルの見直しに着手することが望まれる。		

## 5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

### 1) 看護学科

#### (1) 教員組織

令和4年度は、4月1日時点では教授1名、准教授1名、助教3名が新たに着任し、教授10名、准教授8名、講師9名、助教12名、計36名の構成でスタートした（講師2名が欠員の状況）が、年度途中で助教1名が退職となった。

#### (2) 年度当初の重点課題

学科長のリーダーシップのもと、欠員となっている教員を確保し教員体制を整備するとともに、教授会・各委員会を連動させ、効率的・効果的な組織運営をはかるようにする。また、令和4年度は、2023年度の日本看護学教育評価機構による看護学教育分野別評価の受審に向けて、評価の観点を踏まえて学科の取組状況に対する自己評価と組織的改善を進めていく。

#### (3) 取組状況

看護学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、13回（定例12回、臨時1回）開催した。看護学教育分野別評価の受審に向けて、2回のリーダー会議、6回にわたる草案の推敲作業をへて、令和5年3月末日無事に草案を提出することができた。

以下、看護学科で設置している各種委員会の活動状況を報告する。

教務委員会では、本学重点施策を踏まえ①2023看護学教育評価の受審に向け看護学科の教務に関する自己評価と組織的改善、②異なる2つのカリキュラムの円滑な同時進行、③COVID-19感染拡大防止のための教務に関する各種対応の随時、修正、④教務委員会業務の効果的实施を主な目標とした。①に関し、「成績評価に関する異議申立てに関する規程等」を全学で作成し2023年度から運用開始できた。「実習指導教員と臨地実習指導者の役割に関する申し合わせ」を作成し2023年からの導入に向かえた。教員の実習指導能力向上を図る仕組みとして教員意見交換会等を開催した。それらを進めつつ本委員会が関連する評価項目に関する申請書類を作成した。②に関し、履修ガイドランスで履修計画立案に関する留意点の説明強化や新入生を対象にした相談会開催等を行い、履修に関するトラブルなく遂行できた。③に関し、「COVID-19感染防止対策」の修正、ワクチン接種状況調査と接種推奨をすることで学生が安全に実習できるように努めた。④として、ユニフォーム着用時の身だしなみに関する資料作成、ユニフォーム購入方法の改定、令和5年度看護実践能力評価表の各科目の評価基準の更新、ポートフォリオの手引きをディプロマポリシーに基づく内容へ改定および履修科目目標シートの活用強化、特別講義予算の効果的運用システム構築、学生進路支援委員会と協働した履修支援体制整備、休学・復学・退学に関わる個別面接や調整および教務委員会直後に学籍異動を関係教員へ配信する仕組みの構築・実施等を行った。

学生・進路支援委員会では、学生生活支援、進路支援ガイドランス等の工夫・改善、国家試験合格への学習支援、同窓会活動のサポートを行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

総務・企画委員会の重点課題は、学科予算や学科の共有物品等に関する所掌事項を円滑に遂行するとともに、2年に1度の学科長適任者選考を公正に遂行することであった。また、次年度受審予定の分野別評価について担当部分の資料作成を行うことを課題とした。これに対し以下の取り組みを実施した。令和5年度教育用備品費の予算要求については領域間の希望を調整し必要性や公平性を考慮して取りまとめることができた。令和4年度予算についても適正に執行を完了した。共有物品等の管理については、現状のネットワーク環境に適合させるためゼミ用PCのLANケーブルの買い替えを行った。清掃に関しては、実習室の清掃や研究室のワックスがけ等について事務局との調整を行い、被服貸与についても希望のとりまとめや事務局との調整を実施した。学科長が付託する事項については、COVID-19対応として学科内のスペースについて緊急の消毒を1回実施した。看護学科長適任者選考については内規を整備し、公正に選考を実施した。分野別評価については、評価基準の「教育方法：学生が学ぶための種々の工夫」の項目の一部および「教育課程展開に必要な経費」の項目を担当し、草稿案の作成や「看護学科看護実習室の運用指針」等内規の整備を行った。

入試検討委員会の重点課題は看護学科面接試験と対面によるオープンキャンパス、学校説明会、大学案内の作成などの広報活動を円滑に遂行することであった。

前年度より編入学試験を特別選抜と同日に実施しているが、目立ったトラブルなく実施することができた。それぞれの入試において全学入試実施委員会の新型コロナウイルス感染防止対策の方針に従い、面接試験の運営方法を検討し事前準備から役割を分担して行った。特別選抜・編入学・一般選抜の面接試験においては、面接担当者に評価方法及

び評価基準についての説明を行い、公正な入試が行われるよう努めた。令和4年度は3年ぶりの対面によるオープンキャンパスとなった。全学広報委員会の方針（完全予約制等）に則り学科内のイベントを企画運営し来校者の満足と安全性を高められるよう運営を行うことができた。学校説明会マニュアルの改訂作業を行った。新たにファイルを教員に配布し、最新の資料についてはTeamsの看護学科教員のチームのファイルに格納した。2022年度はWebでの学校説明会1回、対面型28回の合計29回実施した。2021年度より4回減少となった。2023年度入試の大学案内は4月早々に、2024年度入試の大学案内は2月から各大・小領域内での取りまとめおよび確認作業を行った。看護学科に関する活動の実際がわかる写真や広報用素材の収集を試みたものの、演習中および実習期間に収集を行うことは困難であった。

令和5年度はオープンキャンパス・入試関連業務共に令和4年度の状況を踏まえつつ開催時の状況に合わせて適切に実施できるように全学入試実施委員会・広報委員会・学生支援課と協働して実施していく。

倫理審査委員会は、4年生の必修科目「看護研究」において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。令和4年度は申請数が27件であり、1教員あたりの審査件数は概ね偏りなく調整を行うことができた。例年、審査者間で審査基準の認識が統一されていないことが課題とされていた。そこで看護学科教員に「研究倫理チェックリスト」に基づく審査基準を作成し、教員の理解の統一を図るためのFDを行った。それにより審査者間の判断のずれは少なくなったと考えられた。また、2回不承認となった申請については、申請者が所属する小領域長から指導を受ける体制としたことで、比較的円滑に修正がなされた。次年度以降、研究倫理指針に変更が生じた場合には、適宜学科内の審査基準を修正・周知する必要がある。

社会貢献委員会では、令和4年度の看護学科専任教員の社会貢献事業の実績一覧を作成し、学科内に公開した。令和3年度に千葉県内200床未満の医療機関に勤務する看護職を対象に開催した「コツコツ学ぼう！セミナー」の受講者を中心に参加者を募り、令和4年8月に「フォローアップセミナー」を開催し、6名の看護職が参加した。オンデマンド配信による講義の視聴とオンラインによるグループワークを行い、事後アンケートでは概ね好評であった。さらに研究指導に関する動画視聴のシステムを構築し、2施設16名が活用した。「シンクタンク機能としての研究の推進」として「地域ケア病棟に勤務する看護職の実践能力に関する研究」を遂行し、研究成果を紀要に公表した。研究成果を基に、地域包括ケアに関する研修企画案を作成した。次年度は研修企画案をさらに具体化し、研修開催を検討することが課題である。

#### (4) 評価（成果および改善事項）

学科運営会議、教授会を中核として各学科内の委員会が連携・協力し、教員の教育研究活動、管理運営業務は円滑に推進できたといえる。また、令和4年度は、感染防止対策を講じながら、3つのカリキュラムを円滑に進行することができた。2023年度の日本看護学教育評価機構による看護学教育分野別評価の受審に向けて、学科一丸となって、自己点検・評価を行い、申請書類の作成とともに必要な指針や内規などの整備を行うことができた。

#### (5) 次年度の方策

新学科長のリーダーシップのもと、全学委員会と学科内委員会とが十分に連携を図りながら、大学の管理運営業務を滞りなく遂行する。個々の教員は、大学全体の動きを見据え、各々の立場から大学の管理運営に参画する。学科内の各委員会は、PDCAサイクルを稼働させ活性化をはかるとともに、学科運営会議での共有・意見交換をとおして、継続的に発展できる管理運営体制を整備する。

## 2) 栄養学科

### (1) 教員組織

教員構成は教授6名、准教授4名、講師2名、助教5名の計17名の構成であった。療養休暇中（助教）の代替として前期は非常勤職員1名を迎えた。専門科目の担当教員は15名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は2名である。

### (2) 年度当初の重点課題等

学科教員間では、学科運営会議やメールで、報告・連絡・相談の機会をもち、情報や問題意識を共有し、大学運営が円滑に進むようにする。また、重点政策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCAサイクルが稼働できるようにする。

### (3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ4回、21回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部

会の組織に所属し、委員長・部長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月2回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議（国家試験担当教員、学科長、担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、各高校へ出張説明会等を行った。オープンキャンパスでは、学科の施設紹介や在校生からみた学科の紹介などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師などオンラインで活動を行った。

#### (4) 評価（成果および改善事項）

今年度の欠員補充をすることができたが、新たな欠員が生じたため、早期に人材確保を目指すようにする。コロナ禍で感染予防対策を徹底し、各委員会で確実に責務を果たし、連携して円滑に活動を行うことができた。

#### (5) 次年度の方策

コロナ前の授業体制にもどり、教員と学生が対話しながら授業ができるようになったことを活かし、よりきめ細やかな指導を心がけるようにする。学科教員間では、学科運営会議やTeamsで、報告・連絡・相談の機会をもち、情報や問題意識を共有し、大学運営が円滑に進むようにする。また、重点政策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCAサイクルが稼働できるようにする。

### 3) 歯科衛生学科

#### (1) 教員組織

学科教員の構成は、教授4名、准教授4名、講師2名、助教1名の11名である。教員のうち専門職は9名（歯科医師5名、歯科衛生士4名）となっている。

#### (2) 年度当初の重点課題

歯科衛生士教員が2名欠員となるため、より一層教員間の連携を密にして円滑な組織運営と教育活動を行う。

#### (3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で11回開催された。本学科付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり11回開催された。

歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認を行った。一昨年度昨年度から診療室における「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策ガイドライン」を更新のため、歯科専門職教員で検討を行いver.3を作成した。

大学全体の管理・運営については、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行った。

入試関係では、各高校へ出張大学説明会等については広報委員が中心となって実施した。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員が入試の監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

#### (4) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生学科教員2名欠員であり、1月から産休となる歯科衛生士教員がいたが、学科教員および非常勤講師の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。

入試関係については、志願者数が減少していることから、学科として志願者数確保のため高校説明会に広報委員だけでなく他の教員も参加し、歯科衛生士の職種としての魅力を伝えるように活動を行う。

#### (5) 次年度の方策

本年度同様、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

#### 4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

##### (1) 教員組織

令和4年度は、4月1日時点では教授1名、准教授2名、講師1名、助教2名、計6名の構成でスタートした(理学療法士6名、教授1名、講師1名の計2名が欠員の状況)。年度途中で教授に1名昇格という異動があり、年度末時点では、教授2名、准教授1名、講師1名、助教2名(理学療法士6名、教授1名、講師1名の計2名が欠員の状況)となった。

##### (2) 年度当初の重点課題

専門職教員の充足と増員および職位の不均衡に対する是正を求めていく。この理由は、他学科・専攻に比較して科目担当者が少ないことである。

本来果たすべき学科・専攻の管理・運営とは何かを常に考え、目の前に生じる問題を中心に着実に対応していく。

##### (3) 取組状況

大学の管理運営について、全教員が教授会・各種委員会への参加・委員会活動を通じ貢献した。

学科の管理運営について、全教員が構成員となるリハビリテーション学科会議が中心で2ヶ月に1回開催し、学科管理運営の円滑化を図った。

理学療法学専攻の管理運営について、全教員が構成員となる理学療法学専攻会議が中心で週1回開催され、教授会・運営会議・各種委員会やワーキング・グループ等の活動状況や主な取組内容の報告、依頼の対応を共有している。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達を図った。

全教員で分担して学校説明会へ参加し、学生募集業務・広報活動を行った。

特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員で分担し、監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

実習担当教員を中心に実習地との調整を行い、長期間の臨床実習の際には全教員が分担し、各実習地への実習地訪問や連絡調整を行った。

##### (4) 評価(成果および改善事項)

教員2名の欠員の状況ではあったが、全教員の協力のもと、円滑な管理運営ができた。

令和5年度に向けて講師(内部障害理学療法分野)の採用、教授に1名昇格が決まったが、教授1名(医師)准教授1名(理学療法士)、助教1名(理学療法士)の計3名の欠員が生じるため、早期に人材確保を目指す。

##### (5) 次年度の方策

3名の教員の欠員でのスタートとなるが、今年度同様、教員間の連携を密にして協力し、円滑な管理運営を行う。各教員の負担を軽減するために、出来るだけ早期に人材確保を目指す。

#### 5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

##### (1) 教員組織

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、医師1名、作業療法士7名の構成で運営された。

##### (2) 年度当初の重点課題

①キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を継続的に運営する。

②研究サポート(研修を含める)を実施する(千葉県作業療法士協会が行う卒業研修の講師として参加サポート、他学科への研究サポート)

③関係機関等と協働し現任教育支援体制、現任教育マニュアル等を整備・改善する。

##### (3) 取組状況

各専攻教員は教授会・各種委員会への参加・委員会活動を通じ大学運営に貢献した。専攻内では毎週1回開催される専攻会議の他、臨床実習WGなどを定期的に開催し専攻の運営を行った。

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援(人材育成)

①昨年度に引き続きMTDLPの基礎研修会を年2回、事例検討会を年3回実施し、コロナ禍での対面研修会が避けられ、今年度もWEB研修会の実施となった。県士会会員の委員間でWEB会議が実施されており、各研修会開催を目的とした会議(5月より4回開催)に参加した。今後社会情勢などを鑑み、千葉県内における研修会や勉強会の開催に向け、感染予防対策など足並みを揃え、対面での研修会が出来るように準備を整えている状況である。

②実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等の企画・依頼等あった場合、専攻会議で検討しそれぞれ窓口を設けた。発達障害領域に関しては、「別支援教育における専門職関係のか



かわり」をテーマに1回約20名の研修会を実施した。あるいは「高齢運転者支援関係」（相談従事者職員を対象）の窓口を明確化した。「高齢者の地域コミュニティ促進事業」としてURの講習会を（1回10名）実施した。実施研究活動の支援強化を実施した。また、論文の査読に関して、千葉県作業療法士学会誌、千葉県作業療法士学会抄録、千葉県立保健医療大学紀要の査読について窓口を明確にし、実施した。

- ③現任教育・キャリア形成の支援（人材育成）として、厚生労働省が指定する臨床実習指導者研修について日本作業療法士協会の指導の下、千葉県作業療法士会が運営を行うにあたり、運営委員・講師として千葉県内の作業療法士に対して数名の本専攻教員が参加し、実施した。特に今年度についてはCOVID-19の影響によりWebによる研修に転向し、大きなトラブルなく終了できた。当初は昨年の研修を2回行い、倍の修了者を輩出する予定であったが、安全な研修開催が優先され、今年度は昨年度の研修修了者より半数となった。この点は今後の検討課題と考える。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組（シンクタンク機能、地域貢献）

- ①特別支援教育における合理的配慮について、保育所・幼稚園や学校などの現場の苦勞と作業療法士への期待が把握できた。専攻教員が個別に保育所や学校からの依頼を受け、合理的配慮に関する研修会や学級観察と助言を行う現場研修の講師を10回程度行った。

#### (4) 評価（成果および改善事項）

- ①キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修は概ね予定通りに実施できた。  
②研究サポート（研修を含める）の実施についてはCOVID19に伴い一部は予定通りにできなかった。  
③千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者研修を実施することに関しては概ね予定通り実施できた。

#### (5) 次年度の方策

##### ①教育活動

- ・千葉県の保健医療分野の現状と将来の「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」に重点をおき、リハビリテーション専門科目・作業療法学専門科目の教育を通して、優れた倫理観とプロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、作業療法学専門領域の実践に必要な知識・技術の習得と、多職種チーム医療教育プログラムの改革を推進する。
- ・ポストコロナの状況を踏まえ、学内外授業の教育に必要な環境（特に、設備の老朽化、Dx環境の整備）の整備を推進する。

##### ②研究活動

- ・「県の健康づくり政策のシンクタンク機能」の推進に向かって、学内の他学科・専攻との多職種連携による研究活動の推進と環境を整備するとともに、その成果を公表、医療改革に向かって提言を行う。
- ・各教員の専門性を生かした研究活動（認知症の運転相談研修会、パーキンソン病の病態・治療についての研究）や多職種連携チーム医療「ほい大健康プログラム」の展開を確実に進め介護予防と地域コミュニティ促進に関わる研究の実施を推進する。

##### ③大学の管理運営

- ・リハビリテーション教育評価機構による教育評価認定結果並びに日本作業療法士協会及び世界作業療法士連盟の審査結果を踏まえ、それぞれの担当となっている委員会活動を通じ、大学全体の管理運営を行う。
- ・専攻会議を通じ、各教員が関わっている委員会活動の内容を全教員が把握することで、本学の将来的な諸課題（大学院設置、キャンパス統合・法人化等）について共通認識をもったうえで大学の管理運営を行う。

##### ④社会貢献

- ・地域包括ケアのためのスキルアップ研修を実施する。
- ・千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者講習会に協賛する。
- ・小・中学校、特別支援学校の教員や児童発達支援事業所等の施設職員を対象とした情報共有の場を設け、知識や技術の伝達を図る。
- ・介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組み込み組織化し、県民の健康づくりに寄与する。

## 6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

### 1) 職員組織

令和4年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員9名、会計年度任用職員5名の計14名、学生支援課は課長を含め職員5名、会計年度任用職員8名の計13名、合計28名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入学共通テストに係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務、実習機関への委託事務等を担当している。

### 2) SDの取り組み

#### (1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

#### (2) 実施状況

5月

「公立大学に関する基礎研修（動画）」／保健医療大学 事務局長 米本 肇子

参加人数：14名

10月

「コンプライアンス研修（書面）」／保健医療大学 企画運営課長 吉原 郁美

参加人数：40名

その他下記の入試、奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に参加した。

①6月21日 質保証研究会

②6月24日 「公立大学法人における個人情報保護法改正に伴う実務者勉強会」（公立大学協会主催）

③7月7日 入学者選抜に関する協議会（公立大学協会主催）

④8月3日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議（千葉大学主催）

⑤8月31日 千葉県大学・短期大学入試広報連絡会 総会（千葉県大学・短期大学入試広報連絡会主催）  
（参加実績なし）

⑥9月26日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）

⑦10月25日 公立大学事務局長等連絡協議会（公立大学協会主催）

## 7. FDの実施状況

### 1) 年度当初の重点課題等

・FD・SDマップに則して、以下を当初の重点課題とした。

1. 社会貢献：FD・SDを企画・実施の促進
2. 教育：新任教員向けの講習会・教員向きの講習会を企画・実施の促進
3. 研究：研究遂行スキルの向上＜目的；科研費申請率アップ＞・研究倫理の理解の講習会の企画・実施
4. 管理・運営：ハラスメント予防のための講習会・危機管理の講習会・相談員向けの講習会の企画・実施
5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施。
6. 検討課題として、SDを中心に活性化を目標に企画運営課長の企画実施とする。

### 2) 主な活動

・2021年度作成のFD・SDマップに則して、2022年度の工程表を作成し、概要検討・内容決定、各委員会に依頼開始・実施できた。

1. 社会貢献：情報を公開する手法「行政と連携した、大学の新しい役割」千葉大学病院 次世代医療構想センター長 吉村健佑（中講義室 2022年5月10日参加人数52名/全教員 満足+やや満足=97%）社会貢献委員会実施

2. 教育 : 新任教員向けの講習会「ICTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り①Office365を活用した授業デザイン-with コロナ:学内教員による講演②対面+遠隔のハイブリッド型授業の在り方と探索-コロナ収束後を見据えて」2022年2月28日より継続し遠隔動画配信(継続中/教員全員) 教務委員会実施
- : <複雑な事象に対応できる指導・管理的能力を養う>カリキュラム開発・教育アセスメントについて「教育アセスメントおよびカリキュラム開発について」俣木志朗先生, 日本歯科大学生命歯学部(中講義室 2023年3月17日(金)(参加人数 61名/全教員 満足+やや満足=89%) 教務委員会実施
3. 研究 : 研究遂行スキルの向上<目的; 科研費申請率アップ>「科研費の最近の動向」文部科学省研究振興局学術研究推進課 林史晃(youtube視聴 2022年7月30日配信) 学術推進企画委員会実施
- 「科研費申請の戦略的アプローチ 2022年度版」ロバストジャパン株式会社 中安豪 youtube視聴 2022年7月30日配信) 学術推進実施委員会実施
- 「公立大学が活用できる外部資金制度について」山陽小野田市立山口東京理科大学研究推進部 塩満典子(youtube視聴 2022年7月30日配信) 学術推進企画委員会実施
- : 研究の国際化「大学の教育・研究活動の国際展開 千葉大学教授 織田雄一(大講義室 2022年6月29日 36人/教員全員, 満足+やや満足=89%) 学術推進企画委員会実施
- : 研究倫理の理解の講習会「近年の本学における研究倫理審査の変更点について」: 2023年3月14日 Teams開催(63人/教員全員 満足+やや満足=84.7%) 倫理委員会実施
4. 管理・運営 : 基礎的知識と基本的スキルを備える<ハラスメント予防について>「1. ハラスメントの法的問題について 松本・山下総合法律事務所 弁護士 山口祐輔. 2. ハラスメントの法的問題について 他機関ハラスメント外部相談員前田昭子.」2022年12月26日 49人/教職員 満足+やや満足=89%) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会実施
- : 自大学の理解「大学の成り立ちと人材育成の目標」2022年4月実施(新任教員対象) 学長実施
- : 相談員向けの講習会<相談員向けの研修計画実施・相談員ミーティングを定期的に開催>「キャンパス・ハラスメント防止対策委員会学外委員による相談員向けオンライン又は対面で研修会を開催」2023年3月20日(月)に対面で図書館棟中講義室実施(49人/教職員 満足+やや満足=88%) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会
5. 各FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一実施
- : 各実施したFD・SD報告書とFD・SDアンケートの書式統一し, 提出の方法について実施はできた.
6. SDを中心に活性化など目標の検討:<地方・教育公務員としての基礎知識>「公立大学に関する基礎研修(公立学校協会主催)」(全教職員<特に公立大学に初めて勤務する職員>) 2022年5月10日 zoom配信 事務局
- 「倫理規定・人事評価について」「公立大学の学校事務について」事務局 SDを中心に活性化を目標に企画運営課長を中心に実施, 促進できた.

### 3) 評価(成果および改善すべき事項)

- ・当初2年間の完成目標をたて段階的に「FD・SDマップに則して, 概要検討・内容決定を, 各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は, ほぼ目標通り達成された.

### 4) 次年度の方策

- ・2022年度作成のFD・SDマップに則して, 2023年度FD・SDマップの再検討と2023年度FD・SD年度計画の検討. FD・SDアンケートを含めFD・SD報告書などのシステム構築と運用の徹底化とその実施を図る.

## IV 教育活動

### 1. 共通教育

#### 1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

#### 2) 年度当初の重点課題

現状の科目状況を把握・評価し、一般教養科目・保健医療基礎科目の充実をはかるとともに、新カリキュラムを作成する。初年次教育の充実をはかる。

#### 3) 取組状況

一般教養科目、保健医療基礎科目において、対面授業が再開されたが、Web 上には、昨年同様に 102 の Teams が作成された。このうちの 82 科目は定期的に活用、3 科目は一時的に活用と、全体の 83%は IT の活用を継続した。学長からの委託である「教養科目の見直し」にあたり、教養科目ワーキング部会が立ち上がった。共通教育運営会議では、現状の問題点を Web 会議にて討議・共有し、教養科目ワーキングへ報告し、報告書を作成した。

令和 3 年度または令和 4 年度に、3 年次に進級できない学生の状況について、会議にて情報を共有した(12 月現在 全学休学者 14 名のうち、1-2 年次は 5 名)。

その他：令和 4 年度は、5 回の会議（初回のみ対面）、1 回のメール審議にて、所掌業務（教養科目・保健医療基礎科目のとりまとめ、非常勤講師選考、体験ゼミナール科目責任者就任、高大連携に関する情報共有、放送大学単位互換科目選定（令和 4 年度受講生のべ 14 名）を例年通り遂行した。マークシート方式による試験方法を取り入れ、非常勤講師による活用をフォローした。

#### 4) 評価

一般教養科目 38 科目 76 コマ、保健医療基礎科目 29 科目 29 コマを、非常勤講師と専任教員により、滞りなく実施できた。新たな試験システムを導入し、また共通教育が抱える問題点を共有し、教養科目ワーキングに報告し、報告書を作成した。業務は共通教育教務委員の負担が大きくなり、また共通教育が抱える問題を学科に共有することができていない。

#### 5) 次年度の方策

令和 5 年度、令和 6 年度教員の退職に伴う、科目の見直しと検証が必要である。

### 2. 看護学科

#### 1) 教育方針

本学・学科の教育理念に基づき、学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

#### 2) 年度当初の重点課題

- ・本学の基本理念および看護学科の教育理念を踏まえ、2023 年看護学教育評価の受審の準備を通して各教員のアウトカム（学修成果）基盤型教育（OBE, outcome-based education）の理解を深め、学科の教育評価を行い、教育環境の整備、組織的改善を進める。
- ・COVID-19 の影響を踏まえ、各学年の学生の習熟度を見極め、不十分な学習内容について、領域を超えて補完し合える体制を整備する。また、コロナ禍で培った経験をポストコロナ時代の教育活動に反映させられるよう、教員間の情報共有・意見交換の機会を設ける。
- ・学科内の教務委員会および学生進路支援委員会を中心に各委員会を連動させ、よりきめ細やかな学生の教育支援体制を構築する。

#### 3) 取組状況

2023 年看護学教育評価の受審の準備を通して、全学的に未整備であった「成績評価に関する異議申立てに関する規程等」の作成を看護学科から提案し、全学教務委員会で取り組み、2023 年度から運用を開始することができた。また、「実習指導教員と臨地実習指導者の役割に関する申し合わせ」を作成するなど実習体制の整備や、教員の実習指導能力向上を図ることを目的として、教員意見交換会等を教務委員会主催で開催した。学生への学習支援としては、教務委員会と学生進路支援委員会が協働し、履修支援体制整備、休学・復学・退学に関わる個別面接や調整等をはかった。

#### 4) 評価

今年度は、授業はほぼ対面で実施することができたが、実習については、まだ COVID-19 の影響で制限を受けた中で行われた実習が多かった。コロナ禍での実習経験を重ねてきたことで教員・学生ともに大きな混乱はなかったが、

コロナ禍で過ごした学生たちの主体性などが従来と比べて低いのではないかなどの教員からの声を受け、昨年度に引き続き12月に教員間で情報共有し、その後の実習に反映させることができた。

令和4年度は、4年次83名が卒業判定に合格し、2名が不合格となった。3年次への進級判定では、77名が合格し、4名が不合格となった。退学者は1名(2年次)であった。

国家試験の合格率は、保健師92.8%(全国96.8%)、助産師100.0%(全国95.9%)、看護師98.8%(全国95.5%)であった。

#### 5) 次年度の方策

これまでのコロナ禍における学生の学修状況を踏まえ、各学年の学生がDPの達成に向け学修を進められるよう、担当科目の教育内容や方法を各々の立場で検討する。また、コロナ禍で培った経験をポストコロナ時代の教育活動に反映させられるよう、領域を超えた教員間で情報共有・意見交換する機会を積極的に活用し、各々の教育活動に活かす。

### 3. 栄養学科

#### 1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧実践する。

#### 2) 年度当初の重点課題

ポストコロナ後の教育において、対面授業を円滑に進め、アウトカム基盤型教育を実践するようになる。保健医療に関わる優れた専門職を育成するために、問題解決能力を高め、自己主導型で学習できるような指導を心がける。また、県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成に努める。

#### 3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程(選択)の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、学科全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習を目標に1年、2年では「管理栄養士導入教育」「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要なとされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に「専門科目」と「臨地実習」、4年次では主に「総合演習」「卒業研究」「管理栄養士特別演習」を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では「特色科目」を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

#### 4) 評価(成果および改善事項)

新々カリキュラムを学んだ4年生23名と新カリキュラムを学んだ2名で25名の卒業生を輩出した。新々カリキュラムを学んだ学生には、食品衛生監視員と食品衛生管理者(任意資格)を取得することができた。3年生は全員進級できたが2名休学することになった。2年生は1名留年となった。1年生は1名、進路変更により退学した。管理栄養士国家試験は2名不合格となり、92%合格できた。全国平均の87.2%を上回る結果となった。就職が内定し、管理栄養士が必須でなかったために、モチベーションが下がったことが考えられる。模試の結果を学科会議で報告し、全教員への現状の周知により、学科全体で国家試験対策を検討し、来年度は100%合格になるよう継続して取り組みたい。就職を希望した卒業生の就職率は100%であった。県内の就職率が36%となり、昨年より約18%減少となった。千葉県に就職先がないことも多いが、できるだけ多くの学生さんが県内に就職できるように努めたい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。また、栄養教諭課程(選択)の履修者は1年6名、2年9名、3年5名、4年生1名であった。受講者が減少しているため、検討していきたい。

#### 5) 次年度の方策

ポストコロナ後の教育において、対面授業を円滑に進め、学生、教員相互のコミュニケーションを十分に図り、豊かな人間性の涵養に努める。保健医療に関わる優れた専門職を育成するために、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れ、自己主導型で学習できるような指導を心がける。また、県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成に努める。

#### 4. 歯科衛生学科

##### 1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

##### 2) 年度当初の重点課題

平成31年度から新々カリキュラムが始まり、新カリキュラムの教育課程と同時進行となるため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。担任、副担任、科目担当教員、教務委員が協力して積極的な学習活動を行う。

##### 3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次後期から3年次前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。新々カリキュラムでは、新たに早期体験実習を設けて、1年次、2年次後期にそれぞれ実施した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次に学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。また継続・個別支援実習においては、対象者それぞれのライフステージにあわせた指導ならびに予防処置について学んだ。臨床実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について学んだ。「発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）」では、幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象に歯磨きの方法や歯ブラシの選び方、交換時期、管理方法についてパワーポイントスライドを作成し講義を行った。また袖ヶ浦特別支援学校では、様々な障害のある児童の学校生活の施設見学を行った。さらに千葉東病院では、障害児診療見学を実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）」では、千葉市内の1か所の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに、高齢者の口腔ケアを実施した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市内・浦安市内の保健センターで実習を受け入れていただき、地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では、5か所の病院（船橋中央病院、旭中央病院、亀田クリニック歯科センター、がん研究会有明病院、千葉メディカルセンター）において実習を行い、歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行い、論文作成後には成果発表会を実施した。国家試験については、進路支援委員が中心に国家試験対策を行い、国家試験のための補講も実施した。卒業生21人のうち20名が歯科衛生士国家試験に合格した。

##### 4) 評価

新々カリキュラムと新カリキュラムが混在する中、滞りなく実施することができた。教員の積極的な学修指導があったが歯科衛生士国家試験は1名不合格と残念な結果となった。

##### 5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員により積極的な学修指導を行う。

#### 5. リハビリテーション学科理学療法専攻

##### 1) 教育方針

大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、理学療法学専攻では、卒業までの4年間で医療専門職として教育や倫理観を涵養し、社会的責務を果たすことができる人材を育成する。そのための方策として、全学年の学生が授業に欠席することなく、臨床実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なく、最終学年までを全うすることとする。また、毎年度継続している国家試験合格者を全国平均よりも上回ることを維持することにある。

##### 2) 年度当初の重点課題

理学療法士国家試験の合格率が100%になるために必要な知識が身に付くよう、1年次から計画的に教育を行う。特色科目、リハビリテーション専門科目、理学療法学専門科目の教育を通して、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材を育成する。

##### 3) 取組状況

前年度に引き続き、2学年以降の専門科目の演習や実技練習をさせたり、各専門領域（運動器障害、神経系障害、内部障害、発達障害や地域理学療法）ごとの演習や特論で積極的に症例情報に基づく演習や実習を取り入れたりと工夫をしている。特に3学年の学生には評価実習を意識した授業を展開（実習前の実技試験：OSCE）し、全員の学生が無事実習を終了する成果が得られた。各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士になるための意欲を確認しながら、学年進行に努めている。

##### 4) 評価（成果および改善事項）

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた学生は28名であった。既卒者1名を加えた29名が国家試験受験し、全員が合格した。県内就職者は28名、県外は1名で千葉県から要望がある県内就職率70%以上の数

値目標を上回った。退学者、休学者をなくすることはできず、目標は達成できなかった。幕張キャンパスでの講義が多い1、2年次での退学者、休学者が多いことから、これらの学年での学生対応を見直していく必要がある。

#### 5) 次年度の方策

引き続き、教員間で学生の意欲や習熟度、不十分な学習内容についての情報を共有し、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材を育成する。また、国家試験の全国平均合格率を上回ること、大学・学科専攻の教育理念と教育目標を達成できる人材育成のために、各担任、各科目担当教員が教育・指導内容をより良くするための工夫を続ける。

### 6. リハビリテーション学科作業療法専攻

#### 1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するために学生教育を実践し、継続した。また、国家試験の合格に向けた受験生への国家試験対策や、臨床実習に関しては学生の利便性や指導を考慮し、千葉県内あるいは通学距離内での臨床実習施設の獲得を実施した。

#### 2) 年度当初の重点課題

①千葉県立保健医療大学の基本理念の遂行、特に「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」に向かつて、リハビリテーション専門科目・作業療法学専門科目の教育を通して、優れた倫理観とプロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、作業療法学専門領域の実践に必要な知識が身に付くよう教育する。

②コロナ禍での学内対面授業、学外での臨床実習が可能な限り行えるよう、教員や学生の健康管理・感染対策を徹底する。

#### 3) 取組状況

令和3年度もコロナ禍で引き続き多くの授業を遠隔で行ったが、学内演習・実習科目は対面で行い学外実習も実施できた。

1年生の特色科目「体験ゼミナール」では、千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を知り、実習で対象となる人々を生活者として理解することを目的としている。昨年に引き続き、WEB上で学生間の連絡調整を行い、課題を進行していった。そのため昨年度同様に地域の団体との交流は、電話・FAXやWEB等で実施され、満足する結果であるとは言えないが、当初の地域交流の目的は果たせた。

実習に関して評価実習は、評価実習Ⅰ期目の期間で緊急事態宣言が発令されており、全て学内実習に変更となった。評価実習Ⅱ期目は全て滞りなく実施された。総合実習は、実習施設の状況に合わせて実施され、補完実習や学内実習の対象となった学生もいた。また令和3年度より新々カリキュラムの対象となる3年生においては、令和4年1月から総合実習Ⅰ期目の7週間が実施され、年度を跨いだ総合実習が開始された。地域作業療法学実習は全員に体験させることができた。

令和3年度の国家試験合格者数は、卒業生25名(25名受験、1名不合格：合格率96.0%)、過年度卒業生2名受験したが2名とも不合格であった。

卒業論文は、各学生に対して担当教員を決め指導にあたり発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

#### 4) 成果および改善事項

コロナ禍で可能な限り実施できたと考えられる。

#### 5) 次年度の方策

令和4年度は原則対面授業に移行するため、コロナ禍以前の授業が実施可能と考えられる。

### 7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートの対象科目は、前期・後期・通年で開講される講義および演習科目(非常勤講師担当を含む)である。授業評価アンケートの質問項目について検討し、内容および回答のしやすさ(質問数)、経年変化を見る観点から現状維持とした。すべての項目に対して5段階で回答する方式(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない・該当しない」)で実施した。

R3年度は、コロナ禍でFormsにて調査を実施したが回答数が減少した反省から、R4年度は十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、アンケート実施時にアンケートFormのQRコードの提示および紙媒体による調査方法も併用して実施した。前後期での回答数は4,361で、回収率は前年度比で約1割程度増加することができた。これらの取り組みについて、大学機関別認証評価においても、“教育の質及び学習成果の向上に繋げている”とのコメントを得ることができた。

結果は表に示すとおりである。14項目中12の質問項目で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が76.6~92.7%と高い数値を示し、14項目中11の質問項目で令和3年度値を上回る値を示し、概ね学生による授

業評価は改善することができたと考える。一方で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は、「予習を行った」35.1%、「復習を行った」61.0%であり、依然として低い数値で課題を残すものの、コロナ禍以前（令和元年度27.0%、42.9%）に比しそれぞれ改善傾向にあると考えられた。今後、With/After コロナの状況では、Teamsを活用した課題提示や対面授業を組み合わせた授業展開が予想されることから、授業形態の特性を考慮した適切な教材の提供や効果的なフィードバックの実践を推進することで、学生自身の主体的な学習意欲と主観的達成度の向上にもつなげていきたい。

最後に、令和2年度より実施しているMicrosoft Formsによるオンライン・アンケートについて、その手法において回答数確保の観点からは課題が残り、依然として改善の余地があると考えられる。翌年度以降は、十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、オンライン・アンケートに加え、対面/紙媒体による調査方法の併用、アンケート協力への周知について、時間的余裕をもっての教員への周知など、さらなる改善に努めたい。

## 令和4年度学生による授業評価：割合

(%)

	そう思う	どちらか と言えば そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない・該 当しない
授業に積極的に取り組んだ	55.3	37.1	6.4	1.0	0.3
予習を行った	17.8	17.3	25.1	26.5	13.3
復習を行った	24.4	36.6	20.8	13.4	4.7
この授業のシラバスは役に立った	42.2	33.4	18.7	4.4	1.3
授業の目標が明確に示されていた	52.9	34.4	9.7	2.3	0.6
内容がよく理解できるように準備されていた	53.6	34.1	8.1	3.2	1.0
授業内容が充実していた	59.2	30.5	7.8	1.9	0.6
教員の熱意が感じられた	70.6	23.0	3.9	1.1	1.3
教員の説明は分かりやすかった	56.3	30.2	7.7	3.8	1.9
授業方法に工夫がなされていた	51.4	32.7	11.1	3.3	1.5
授業評価の方法を事前に理解していた	57.2	29.9	9.0	2.4	1.3
教員の話し方は聞き取りやすかった	58.8	27.5	8.4	3.4	1.9
学生の理解度に対して配慮がされていた	49.7	33.0	11.1	4.1	2.0
全体としてこの授業を受けられて良かった	64.5	26.2	6.2	1.9	1.3

## 8. 大学全体

### 1) 評価(成果および改善すべき事項)

令和4年度卒業生に対して卒業時アンケート調査を例年通り実施した。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度に関する自己評価では、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力および能力を身につけたことが示された。指導者のもとで「十分発揮できる」および「ある程度発揮できる」との回答を合わせて、「倫理観とプロフェッショナリズム」について、1. 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる；99.1%、2. 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる；96.4%、3. 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる；93.8%、「コミュニケーション能力」について、4. 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる；97.3%、5. 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる；93.8%、6. 同一専門職や関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる；90.3%、7. 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる；60.7%、「実践に必要な知識」について、8. 学際的な幅広い教養と知識を有し実践できる；88.6%、9. 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識を有し実践に活用できる；94.7%、10. 各専門職における実践活動の基礎となる基礎的知識を有し実践に活用できる；91.0%、11. 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識を有し実践に活用できる；90.4%、12. 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法を有し実践に活用できる；90.4%、13. 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識を有し実践に活用できる；90.4%、「健康づくりの実践」について、14. 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる；93.8%、15. 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる；88.6%、16. アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる；92.9%、17. 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる；93.8%、18. 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる；88.5%、19. 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる；



75.6%, 20. 健康づくりの提供計画に基づき, 安全かつ正確な技能により実施できる; 86.0%, 21. 目標の達成度や対象者の反応に基づき, 健康づくりの評価・修正ができる; 93.8%, 「健康づくりの環境の整備・改善」について, 22. 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし, 社会・生活の場である地域環境(人・物・制度)の改善に向けて実践できる; 90.3%, 23. 健康づくりの提供にあたり, 保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる; 81.6%, 24. 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる; 84.3%, 「多職種との協働」について, 25. 多職種の専門性と多様な価値観を理解し, 尊重することができる; 98.4%, 26. 多職種と交流し, 良好な関係を構築することができる; 96.4%, 27. 多職種と状況に応じて適切に協働し, 問題解決できる; 92.1%, 28. ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し, 責任ある行動をとることができる; 93.9%, 「生涯にわたる探究心と自己研鑽」について, 29. 常に探求心をもち, 臨床的あるいは科学的問題を発見し, 解決に取り組むことができる; 85.1%, 30. 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる; 86.0%, 31. ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し, その達成に向けて自己管理できる; 86.0%, 33. 専門職としての自己課題を明確にし, その成長に向けて努力できる; 90.3%で, いずれの項目においても高水準を維持することができた. 今後の課題として, 【「コミュニケーション能力」7. 国内・外からの情報を入手して, 保健医療に活用し発信できる; 60.7%】については, 他に比べ達成度が低いことから, 国際的視野を培う取り組みが急務である. 語学, 国際関係や異文化を理解することに加え, 相手の価値観を尊重し, 新しい価値を協働して創造する能力を備えた人材を育成するような仕掛け(講義・演習に加え, セミナー企画)を含めて, 第三次カリキュラム評価を通して検討していきたい.

次に, 「学位授与の方針の達成に授業科目, 科目編成, 科目の評価, 教員の指導は有用だったか」について, 「とても有用」と「やや有用」を合わせて, 1. 授業科目; 95.4%, 2. 科目編成; 96.5%, 3. 科目の評価; 96.4%, 4. 教員の指導; 96.4%と, 学生の満足度は高水準で維持することができた. With/After コロナの状況で, 今後も授業評価アンケート結果を活用した具体的な学生の意見を汲み上げていくことで, 対面授業にコラボレーションプラットフォームである Teams を活用した効果的な授業実施を推進し, 各科目責任者が担当科目および授業形態の特徴に応じて学生の学修を支援する方策を検討する努力が引き続き求められる.

令和4年度は, 「成績評価の異議申し立て」制度について検討し, 規程および様式を策定した. この制度を適切に運用するべく, 制度の趣旨について教員・学生両者への丁寧な説明を尽くすことで, 教員・学生両者において共通認識をはかることが求められる. また令和4年度には, 大学設置基準の一部を改正する省令が交付されたことから, 委員会内で学則改正の要否も含めて議論・検討し, 特に単位の計算方法, 授業形態については一体的な検討が必要であることを委員会内で共通認識を持つことができた. 大学全体としての共通認識をはかるべく, 改正事項の整理を引き続き行い, 関係各部署とも連携し, 必要に応じて来年度以降の学則改正を目指す.

## 2) 次年度の方策

新々カリキュラムは令和4年度をもって一通りを終えたことから, 各科目(特色科目, 一般教養科目, 保健医療基礎科目, 専門科目)のカリキュラムの評価と改定の検討を行い, 多職種チーム医療教育プログラムの改革を推進する. また新たなカリキュラムポリシー, カリキュラムマップの作成に取り組み, 文理横断・融合教育の推進に向かって, 学部教育体制の改善・改革をはかる.

大学機関別認証評価での評価コメントをふまえて, 成績評価における基準の明示化を検討・着手する. 大学設置基準一部改正にかかわる改正事項の整理と, 必要に応じて学則改正の是非についての検討とそのFD開催を目指す.

## V 学生の受け入れ状況

### 1. 学生の受け入れ方針

#### (1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
  - ・人間性、コミュニケーション能力
  - ・協働、責任感、地域貢献
  - ・主体性、探究心

#### (2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

#### (3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

#### (4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心をもち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人
- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- ⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く

求めている。

(5) リハビリテーション学科理学療法専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

(6) リハビリテーション学科作業療法専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

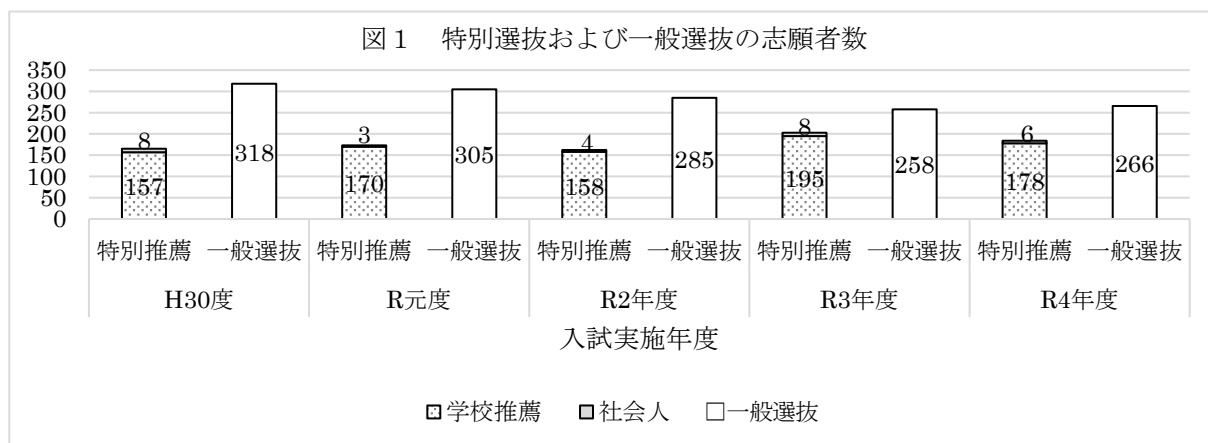
## 2. 年度当初の重点課題

令和4年度は、オープンキャンパスの対面での実施や大学説明会の参加機会の増加が予測され、受験生獲得に向け、機会を活かした効果的な広報活動を行う。迅速な広報を可能とする方策を組織に浸透させると共に研究成果を広く広報する方策を実行する。また、受験生の動向、入学後の学生の学習の取り組み状況などに引き続き注視し、安定的で質の高い学生確保の実現が達成できるよう入試方法の検討に取り組む。

## 3. 入学者選抜状況

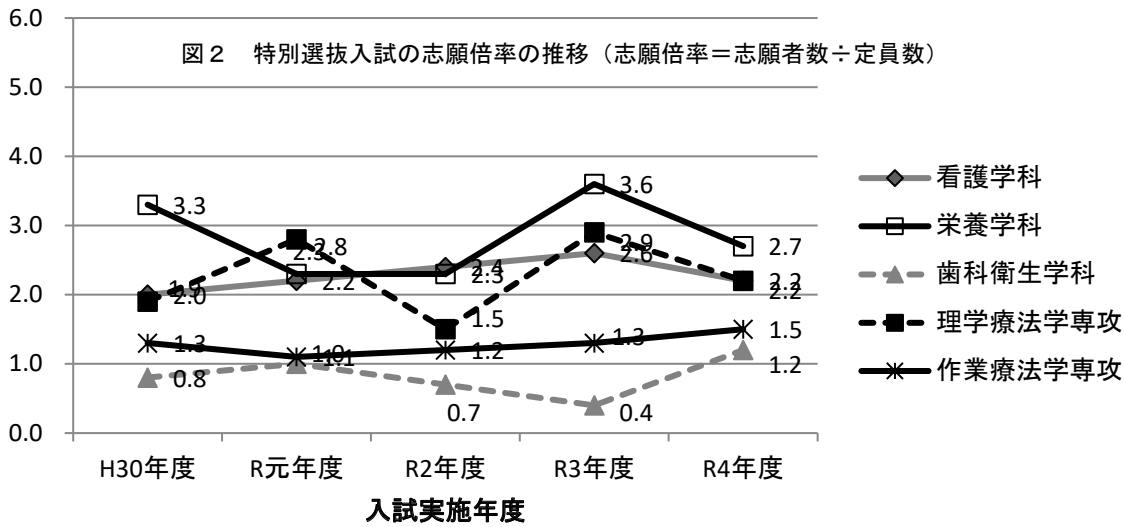
(1) 一般選抜および特別選抜の志願者数（図1）

志願者数は、一般選抜においては減少傾向にあるが、特別選抜においては、160人前後を維持している。



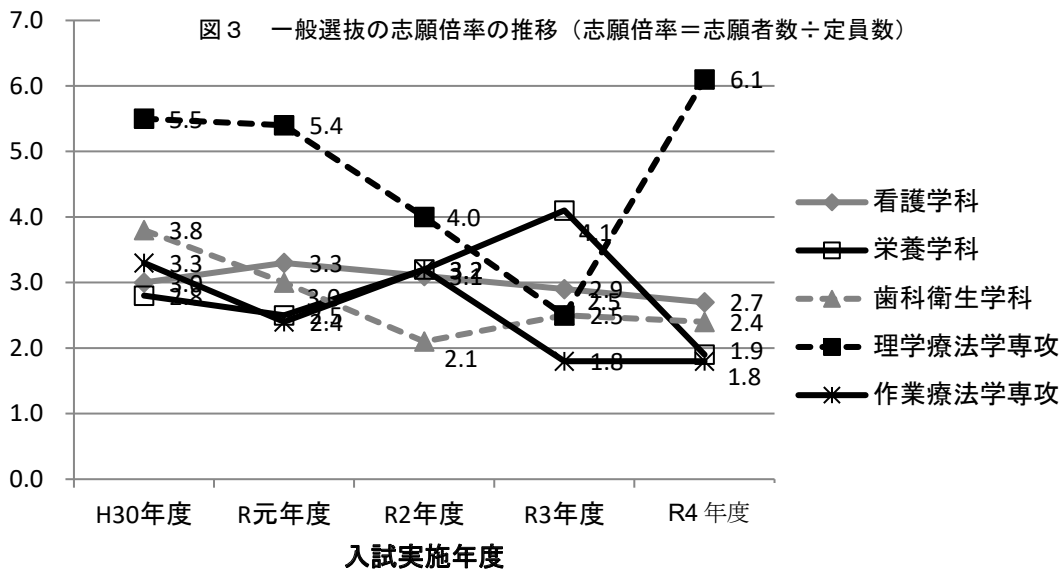
(2) 特別選抜入試の志願倍率の推移 (図2)

志願倍率は、平成30年度に特別選抜の定員枠が4割から5割に拡大して以降、増減を繰り返す傾向の学科専攻と横ばいの学科専攻とがみられるが、いずれも2倍前後で推移している。



(3) 一般選抜の志願倍率の推移 (図3)

栄養学科と理学療法学専攻は、年度により志願倍率の変動が大きいですが、そのほかの学科専攻は横ばい傾向である。2段階選抜となる志願倍率3倍を超えたかどうかの観点でみると、近年は3倍を超える学科専攻が減少している。



(4) 編入学の受験競争率 (出願者数÷合格者数) の推移

編入学(3年次)

(倍)

入試実施年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
看護学科	3.6	3.2	7.5	12.0	2.3	4.0	15.0	10.0

#### 4. 学生募集のための取り組み

##### (1) 大学案内の作成・配布

広報委員会が中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の理念・目的、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、カリキュラムの構成、各学科専攻長からのメッセージ、各学科専攻の特色、在校生からのメッセージ、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、進学フェアのイベント、県内の高等学校、業者経由で希望があった個人に送付した。また、pdf を大学のホームページに掲載し、本学の特色を広く周知するよう努めた。

##### (2) オープンキャンパスの開催

令和4年度は感染予防策を講じながら、7月8日、9日に対面でのオープンキャンパスを実施した。2日間の参加者は1,563名であり、来場者アンケートでは満足度も高かった（とても満足70%、満足23%）。

##### (3) 高等学校での模擬講義・説明会等の実施、高等学校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校や仲介業者からの依頼に合わせて、高等学校での模擬講義や大学説明会の実施、進学セミナーへの参加を行っている。令和3年度の出席件数は71件であったが、令和4年度は84回と増加した。

高校訪問・模擬講義・説明会への出席件数および派遣教職員

年度	依頼件数	出席件数	派遣教職員数（延数）*	出席者数（延数）
平成29年度	134	83（資料参加を含めると117）	89	2082
平成30年度	143	79（資料参加を含めると118）	90	2011
令和元年度	119	105（資料参加を含めると118）	100	1945
令和2年度	96	44（資料参加を含めると56）	47	—
令和3年度	114	71（資料参加を含めると75）	73 （職員を含めると77名）	—
令和4年度	107	70（資料参加を含めると75）	65 （職員を含めると76名）	1497

\*令和2年度までは教員のみ

##### (4) ホームページでの情報提供

大学紹介ページの動画を更新し、本学の理念や教育の特徴について情報発信した。また、本学の特徴的な研究を紹介するページの作成について検討し、大枠を決定した。

##### (5) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッションポリシーや教育内容を周知し、適正のある受験生に本学を志願する意思決定をしてもらえるようにした。

##### (6) 過去問の閲覧

平成30年度入試問題から、大学ホームページ（著作権に配慮した公開）および大学学生支援課窓口で閲覧が可能になった。令和4年度の過去問閲覧の来学者は59名だった。

#### 5. 学生の在籍状況

令和5年3月31日現在の在籍学生総数は731名であり、収容定員(740名)対比は0.99でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が0.96(在籍学生数326名、収容定員340名)、栄養学科が0.99(在籍学生数99名、収容定員100名)、歯科衛生学科が1.03(在籍学生数103名、収容定員100名)、リハビリテーション学科理学療法学専攻が1.01(在籍学生数101名、収容定員100名)、作業療法学専攻が1.02(在籍学生数102名、収容定員100名)である。

退学者については、開学時から令和5年3月31日現在までの退学者累計数は63名であり、退学者の割合は、入学総数(除籍・編入学除く)2351名に対し約2.7%となる。学科別では、看護学科17名、栄養学科12名、歯科衛生学科12名、リハビリテーション学科理学療法学専攻14名、同作業療法学専攻12名である。退学した63名の退学理由の多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。近年、退学者数は減少傾向にあるが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、引き続き、受験生の志望動機の有無をしっかりと見極めるとともに、入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化することが求められる。

## 退学者数

令和5年3月31日現在 退学者(休学後退学) 名

学科等 入学年度	看護学科	栄養学科	歯科衛生学科	リハビリテーション学科 理学療法専攻	リハビリテーション学科 作業療法専攻	計
平成21年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成22年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成23年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成24年度	0	0	0	2(2)	1(1)	3(3)
平成25年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	1(1)	7(6)
平成26年度	2(2)	0	0	1(1)	2(2)	5(5)
平成27年度	3(3)	0	2(2)	0	1(1)	6(6)
平成28年度	2(2)	0	1(1)	1(1)	1(1)	5(5)
平成29年度	2(1)	1(0)	4(1)	0	2(2)	9(4)
平成30年度	0	0	0	1(0)	0	1(0)
平成31年度	2(2)	1(1)	2(2)	0	1(0)	6(5)
令和2年度	0	1(1)	0	3(3)	0	4(4)
令和3年度	0	1	0	0	0	1(0)
令和4年度	0	1(1)	0	0	0	1(1)
累計	17(14)	12(9)	12(8)	14(13)	12(11)	63(51)

## 6. 評価（成果および改善すべき事項）

大学案内については納期だけではなく、デザイン変更の課題も解決できた。大学案内2023の資料請求数は692/前年比72.9%であり、前年度の前年比(63.0%)より改善した。広報活動はコロナ前に戻ったが、成果としてはオープンキャンパス(R元:参加者2500名)、大学説明会(R元:105回)とまだ少ないため、さらなる活性化が必要である。新入生アンケートからホームページを充実させる必要性が見出されたので、予算と改善のための方策を検討する。オープンキャンパス参加者アンケートと新入生アンケートの回収率が低いいため、実施方法を変更する。

## 7. 次年度の方策

多くの来場者が確保できる実施方法で対面のオープンキャンパスを実施する。受験情報サイト、ホームページによる広報の充実のための方策と予算を検討する。ホームページと広報誌による研究活動の情報発信を実行する。

入学後の進路変更が減少するよう、受験生の志望動機を見極める。

## VI 学生支援

### 1. 年度当初の重点課題等

学生部（学生委員会・進路支援委員会）は、学生支援に関する基本指針に基づき、以下の活動を課題とした。

- ① 学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への種々の留意点を把握し、学生支援を行う。
- ② 進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。新型コロナウイルス感染拡大下における、感染予防対策を考慮した就職活動支援を実施する。

### 2. 活動内容

#### 1) 学生委員会

##### (1) 学生の福利厚生：

- ① 令和4年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学生会の企画・運営に助言し、対面でのスポーツ大会（7月）およびいずみ祭（10月）の開催を支援した。「学長と学生による懇談会」の対面での実施を支援した。学生向けセミナー（デートDV・ブラックバイト対策）をオンデマンドで開催した。学内整備や福利厚生物品として、後援会より寄付品を贈呈いただいた。  
令和3年度末に生協売店が、また正面階段上ロビーに設置されていたコピー機が撤退された。撤退後も「学内の売店と自動販売機に対するアンケート」調査を引き続き実施し、自動販売機への要望に関する情報を学生支援課と共有した。
- ② 「令和5年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。

##### (2) 学生の保健衛生：

- ① 令和4年度健康診断は2日に分散して実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。
  - ② 令和4年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。
  - ③ 口腔検診・体力測定、令和4年度健康診断の実施計画について検討した。
  - ④ 「令和5年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。
  - ⑤ 令和5年度からのワクチン追加接種条件の改訂を検討した。令和5年度新入生は、「医療従事者のためのワクチンガイドライン第3版」に基づき、1歳以降のワクチン接種回数を入学時に母子健康手帳のコピーを提出させることで確認することを決定した。
- (3) 学生の課外活動：4月に、Teams上に「令和4年度学生会」チームを作成し、各サークルのチャンネルを設置した。各サークルは、新入生勧誘始め、活動報告、メンバー間の連絡手段として活用した。
- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面接を行った。
- (5) 授業料等の減免：臨時申請の授業料減免（前期・後期）について審議した。
- (6) 後援会、同窓会：

- ① 学内整備・学生の福利厚生を目的に、後援会理事会と連携し、理学療法実習室の椅子や作業療法専攻実習室ブラインドはじめ栄養学科・歯科衛生学科の電子レンジ・ポットなど、学生支援に関する備品を得た。  
Teamsにより令和4年度総会開催を支援した。
- ② 同窓会活動について、学科ごとの同窓会の状況を学生委員会で共有した。各分科会会長に出席願い、Webによる同窓会連絡会を開催した。
- ③ 自己点検評価委員会・IR部会により卒業生調査が実施された。

##### (7) その他：

令和4年度卒業式の運営について検討した。

#### 2) 進路支援委員会

##### (1) 就職・進学支援：

- ① 令和4年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。
- ② 令和3年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和4年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。3年生のみではなく、1・2年生も出席できるようにアナウンスし、第1・2・3回とも集合対面方式で実施した。出席者数は、第1回126名、第2回71名、第3回96名であった。
- ③ 幕張キャンパスの進路情報室にハローワークのジョブサポーターの派遣（週1回）を依頼した。ジョブサポーターによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。また、仁戸名キ

キャンパスの学生が就職相談できるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。

- ④ ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。
- ⑤ ジョブカフェちばによる就活セミナーを計画・実施した。11月、12月と3月の3回、開催した。参加者には好評であった。
- ⑥ 学生有志が記録する「面接・インターン」情報を、紙媒体のみではなく、Web上でも閲覧できるようにした。
- ⑦ 令和4年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。
- ⑧ 令和5年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。
- ⑨ 進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。
- ⑩ 令和4年度就職率は99%であった。

(2) 国家試験対策：

- ① 令和4年度国家試験結果をとりまとめた。
- ② 学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。
- ③ 国家試験模擬試験受験に対して後援会からの助成を受けた。
- ④ 国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。
- ⑤ 令和4年度国家試験合格率は、保健師92.8%、助産師100%、看護師96.8%、管理栄養士92.0%、歯科衛生士95.2%、理学療法士100%、作業療法士96.0%であった。

(3) 県内就職の推進：

- ① 令和4年度県内就職率は68.9%であり、昨年度よりも微増した。
- ② 進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。

(4) その他：

令和4年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）について検討を行った。

### 3. キャンパスハラスメント

- 1) 入学生に向けて、ガイダンスでキャンパス・ハラスメントとその対策について説明をした。
- 2) キャンパスハラスメント委員会と学生委員会が連携し、学生対象の「キャンパスハラスメント対策について」Webにて、11月に動画を配信した。
- 3) 本学におけるキャンパス・ハラスメントの実態を把握し、その防止施策や意識改革に反映させ、本学の教育・職場環境の改善を図ることを目的として、在学する全学生および教職員を対象にアンケート調査を行った。なお、令和4年度に学生からキャンパス・ハラスメント防止対策委員会に苦情の申出及び相談はなかった。

### 4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

看護学科の全学生が充実した学生生活を送れるように、担任・担任リーダーは、各マニュアルの内容を理解して適切に支援を行えるようにする。進路支援については、コロナ禍でも積極的、主体的に進路の選択や就職活動を行えるよう、学生の進路決定に必要な情報提供や支援を行う。同時に県内就職の推進を継続する。また、国家試験受験対策について学生が積極的かつ効果的に進められるよう支援する。同窓会活動のサポートを行う。重点施策Ⅱ健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献の年度目標「コロナ禍で基礎看護教育を受けた新任看護職者にある課題の解決に向けた企画を立案・実施する」を達成する。

(2) 取組状況

学生支援体制では、既存の「看護学科担任制マニュアル」を「1. 看護学科担任制について」「2. 看護学科 ケース別対応の方法」「3. 看護学科 個別支援が必要な学生に対する履修計画の指導方針」に分類して整理し担任がマニュアルをより理解しやすい形にした。担任制では、各学年担任リーダーを置き、1年生には8名、2年生には9名、3年生には5名、4年生には2名の教員を担任として配置した。4年生に対しては、看護研究指導教員が就職活動や国家試験受験に向けた支援を行った。直接学生支援にあたる担任に対し、担任リーダーのほか、必要に応じて委員長、学科長がサポートに加わることで学生支援体制を整えた。また、個別履修計画を教員間で共有できる仕組みを整え、個別履修の状況を教員が把握できるようにした。担任グループごとの懇談会（1, 2年生2回, 3, 4



年生1回)を行い、学生からの意見・要望に対し回答を掲示した。また、学生用ML・各学年のTeamsを作成し連絡体制を整えた。

進路支援においては、3年生対象の進路支援ガイダンス3回(6月・12月・2月)を行い、そのうち第3回ガイダンス&卒業生と話す会(2月)を対面で実施し、直接卒業生から就職に関する情報を得る機会とした。また、就職・進学活動の動向調査(3年生・4年生)の結果を今年度よりTeams内にチャンネルを立ち上げ掲示し、学生がより情報を得やすい環境を整えた。

国家試験受験対策は、昨年に引き続き、3年生にはガイダンス、看護師と保健師の模擬試験各1回、特別講義を実施し、4年生には、ガイダンス、看護師3回、保健師2回、助産師3回の模擬試験、看護師2回、保健師・助産師各1回の特別講義を実施した。また、模擬試験成績下位の学生については、看護研究指導教員に個別支援を依頼した。

同窓会に対して、幹事選出、会計監査、役員会開催、在校生との交流会企画・実施、入学式と卒業式の祝花手配等を支援した。一方で、連携して開学後初めてホームカミングデーを開催したり、同窓会の協力を得て卒業生調査を実施したりした。在校生との交流会およびホームカミングデーの実施については初めて大学Facebookに掲載した。

重点施策として、実習施設教育担当者と看護学科教員との卒前・卒後教育情報交換会を企画・実施した。

### (3) 評価(成果および改善事項)

学生支援については、担任制マニュアルを整理したことで、担任は最初に「1.看護学科担任制について」を確認することで担任の役割を把握できるようになった。また、個別対応が必要な学生を支援する担任へのサポート体制については、状況に応じて委員長や学科長まで支援体制を拡大することで臨機応変に整えることができた。進路支援においては、就職率99%、県内就職率75.6%と高い割合を維持した。新卒者の国家試験合格率は、保健師92.8%(全国96.8%)、助産師100.0%(全国95.9%)、看護師98.8%(全国95.5%)であり、就職に影響する看護師の合格率が100%に至らず保健師の合格率は全国平均を下回った。同窓会には支援をする一方で、大学側も連携や協力を得ており、良好な関係性が強まった。重点施策は、卒前・卒後教育情報交換会の実施により目標達成ができた。

### (4) 次年度の方策

整理した担任制マニュアル類の活用と学生支援状況に応じた担任フォロー体制構築、コロナ禍後の状況に応じた進路支援の検討と実施、国家試験対策の評価と検討、同窓会と大学の建設的関係促進、重点施策で実施した卒前・卒後教育情報交換会を継続するしくみ作りを行う。

## 2) 栄養学科

### (1) 年度当初の重点課題

国家試験の模擬試験成績不良学生に対する個別指導を強化するとともに、新々カリキュラムで取り入れた「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

### (2) 取組状況

各学年に担任・副担任を1名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養(必修)10施設・給食経営(必修)15施設・公衆衛生(選択)13施設および栄養教育実習(選択)県内1校】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。コロナ禍ではあったが、先方と綿密に調整し、感染予防対策を取りながら実施した。

就職活動の支援は3年次から担任・進路支援委員を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動・大学祭はCovid-19のため感染予防対策をとりながら実施した。学習・生活指導の相談などは各教員が担当した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、内部模試3回・外部模試3回の試験を計画・実施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

### (3) 評価(成果および改善事項)

2名の留年者を含む卒業生(25名)。管理栄養士の国家試験合格率は92%、卒後の進路は、就職25名となり、就職率は100%であった。県内就職率36%となり。就職先の内訳は病院32%、官公庁(行政、学校)12%、一般企業(管理栄養士・栄養士として食品会社、給食会社等に勤務)40%、福祉施設12%、その他4%であった。次年度は国家試験合格率100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

### (4) 次年度の方策

新々カリキュラムで取り入れた「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した4年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むように

する。

### 3) 歯科衛生学科

#### (1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率 100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関連団体と連携して県内就職率の向上を目指す。

#### (2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、主に教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担当制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、各教員が授業に対応した教材作成とそれを用いた講義を展開し、演習・実習においては昨年度に引き続き感染予防対策を講じ行った。学外の臨床・臨地実習では、実習を受け入れてくださった実習施設と事前打ち合わせを行い、実習前には施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク（公共職業安定所）の協力を得ながら支援した。国家試験対策については、進路支援委員が中心となり、学外全国統一模擬試験を3回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化を図った。

#### (3) 評価（成果および改善事項）

国家試験については教員が積極的に支援を行ったが、1名不合格となり 95.2%の合格率となった。県内就職率については、関係団体との連携を行い50%であった。

#### (4) 次年度の方策

国家試験合格率 100%を目指し、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携を図り、50%以上の県内就職率を目指す。

### 4) リハビリテーション学科理学療法専攻

#### (1) 年度当初の重点課題

メンタルの不調の学生が臨床実習中に発症し、実習が中断とにならないように工夫する。各担当教員は、学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように、毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録を提出させ早めのカウンセリングを受けるように心掛けさせる。メンタルの不調者以外で学習意欲の低い学生に対して、各学年担任は学生の授業や臨床実習へのモチベーション確認を心掛ける。

#### (2) 取組状況

各学年担任による半年に一度の面接を実施している。その他で相談がある場合や欠席などが多い場合は、個別対応を行っている。9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように心掛けている。また学生の問題に対して早期に対応できるよう、毎週の専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援は担任及びゼミの担当教員が中心となり、国家試験対策は国家試験対策担当教員を中心に対応を行っている。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、ゼミの担当教員又は国家試験担当教員が個別対応を行っている。なお個人でのみの国家試験の勉強は極力避けるよう、できるだけ大学にて勉強を行うように促した。臨床実習Ⅱ（評価実習）からⅢ・Ⅳ（総合実習）まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけるなどメンタル面の問題を早期発見するように試みている。

#### (3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習は大きな問題もなく終了出来た。既卒者1名を加えた29名が国家試験受験し、全員が合格した。県内就職者は28名、県外は1名で千葉県から要望がある県内就職率70%以上の数値目標を上回った。2年生で留年者、退学者が出た。留年、退学が出るのは1、2年次が主である。今後何らかの対応をとる必要がある。

#### (4) 次年度の方策

国家試験合格率100%、県内就職率70%以上を維持するとともに、様々な理由で学習意欲の低くなってしまった学生を早期発見し、対応できるように、学年担任を中心に、各教員間の連絡を密にする。

### 5) リハビリテーション学科作業療法専攻

#### (1) 年度当初の重点課題

① 学生のキャンパス間移動の時間的・金銭的（運賃）な負担を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は、基本的に幕張キャンパスで実施しているが、移動など考慮し、水曜に作業療法の専門の科目に関する授業を仁戸名キャンパスで実施している。授業は、作業療法概論をはじめとして基礎作業療法、基礎作業療法実習や体験実習のオリエンテーションなど、演習・実習など実際の作業療法の設備など授業は仁戸名キャンパスで実施して

いる。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に2年生が中心に以降の移動負担が開学依頼解決していない。学生は3年生になると通学の便利なアパートを借り換えなど自主的な方法で解決しているが学生の金銭的な負担は変化しない。

- ② 作業療法士国家試験対策として、4年生よりグループ分けをし、学習環境の調整と模試を実施している。特に12月より2月まで集中して学生指導を実施している。新型コロナウイルスの拡大により感染予防を図っているため、グループ学習の時間の不足は否めないため、国家試験対応が難しい学生は、希望により12月末から約2か月程度週5日程度教員が感染予防などに配慮し個別指導を行う。

## (2) 取組状況

作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、個別に対応している。また、退学・休学など重要な案件は、担任・副担任に加え作業療法学専攻長も対応する。教員は学生支援としてサークル顧問も担当している。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年生～4年生を小グループにわけ、各グループで交流会など、感染状況を鑑み、今年度は開催できなかった。今後、教員の指導・補助など対面・遠隔による対策が課題として残る。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス（1年生、2年生）に通学している学生に対しては、Teamsなど利用し、チャットやメール等で連絡を取り、必要に応じて相談する時間を設けている。作業療法学専攻の学生支援における課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりは、SNSなどの利用により改善はしているが、対面の必要性がある場合など今後検討課題である。また、進路支援や国家試験対策に関して、週に1回、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施し、問題はない。

## (3) 評価（成果および改善事項）

- ① 学生指導や卒業生の交流会などは中断しているが、卒業生が教員となったこともあり、同窓会は当大学で連絡・郵便などの窓口となれた。また就職先として、千葉県内への就職率は昨年同様高い。

## (4) 次年度の方策

国家試験への対応を、組織だてて実施する必要がある。学生の自主性を重んじている。SNSなどの活用の充実を図りたい。

## 5. 令和4年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

### 1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②4年間の学生生活について、③学生生活・学生支援に対する満足度、④実施した就職・進学活動について、⑤学位授与の方針の達成度に関する自己評価、⑥大学の教育に対する意見である。調査時期は2023年2月～3月で、Webにて回答を回収した。

### 2) 調査の結果

#### (1) 対象者の概要

卒業生182名中131名から回答が得られた（回収率72.0%）。所属学科は、看護学科69名（52.7%）、栄養学科10名（7.6%）、歯科衛生学科16名（12.2%）、リハビリテーション学科理学療法学専攻18名（13.7%）、リハビリテーション学科作業療法学専攻18名（13.8%）であった。

#### (2) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「臨床（臨地）実習の学習」「卒業試験のための学習」「国家試験のための学習」「進路・キャリアの検討」「サークル活動」「いずみ祭（大学祭）」「友人等との交流」「先輩・後輩との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」「趣味・レジャー」の17項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を4段階で尋ねた。17項目中12項目において7割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。取り組みの程度の低かった活動は「いずみ祭」（11.45%）、「他大学との学生との交流」（21.4%）「ボランティア」（26.7%）、「サークル活動」（28.2%）、「先輩・後輩との交流」（29.0%）であった。いずみ祭は2年生が中心となって開催されるが、回答者が2年次のいずみ祭は中止であった。他者との交流にもたらずコロナ感染症の影響は深いことが伺われる。

#### (3) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生

保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務手続き」、および施設設備について、合計29項目について満足度を4段階で尋ねた。

29項目のうち、17項目の学生支援に関して「とても満足」「やや満足」が60%以上と回答されていた。昨年の25項目と比較して満足度は低い。「仁戸名無人ワゴン販売」(4.5%)は昨年に引き続き、また、「休学者への支援」、「5年以上在籍の学生への支援」、「事務手続き(仁戸名)」は、いずれも満足度が13%以下であった。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」は、昨年同様の88.6%であった、年々評価は向上している傾向であった(R28年より順に、84.9%、78.7%、82.8%、85.8%)。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が、仁戸名キャンパスを利用する学生において、「講義室(仁戸名)の空調」(17.2%)「講義室(仁戸名)の机・椅子」(15.0%)であった。昨年度満足度が15%前後であった「講義室(仁戸名)の空調」「講義室(仁戸名)の視聴覚設備」「実習室・実験室(仁戸名)の空調」は、本年それぞれ53.8%、37.8%、21.1%であり、低いながらも改善の傾向がみられた。幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は、令和4年度も概して低い。またトイレについては、昨年同様に幕張・仁戸名両キャンパス共に5割を下回っていた(それぞれ48.9%・9.2%)。両キャンパス共に便器の様式化を継続して、トイレの環境を整える必要があることが確認された。

#### (4) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は、昨年と同じく「3年次後期」が最も多かった(41.7%)。受験した施設・企業数は「1か所」が昨年同様、最も多く(54.8%)、次いで「2か所」(20%)であった。内定を得た施設・企業数は「1か所」が多かった(昨年66.9%、本年82.6%)。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」「合同就職説明会」「施設・企業訪問・見学」の順であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、参加した学生はすべての講座で、8割以上が「役に立った」と回答した。

就職にあたり重視した条件・基準は「給料」「施設・病棟の雰囲気」「規模・機能(高度医療を行う病院、長期療養病院等)」の割合が高く、例年の結果と同様であった。

進学活動については、3名の回答があった。

## 6. 評価(成果および改善すべき事項)

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に行うことができた。それらの活動のうち、令和4年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、① 昨年に引き続き、千葉県立保健医療大学「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針」に基づき、対面形式の活動中も感染予防に対して注意を促す生活支援を実施した。②対面形式によりみ祭とスポーツ大会を滞りなく実施できた。③健康診断時のワクチン追加接種方法を見直した。令和5年度入学生より、原則として、生後1歳以上において2回のワクチン接種が母子健康手帳より確認できれば追加接種を不要とする、「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第3版」に則った方式に変更した。

進路支援については、キャリアセミナーや進路支援ガイダンスは対面形式で予定通り実施できた。

学科・専攻においては、学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。

## 7. 次年度の方策

学生支援として以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行い、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。希薄となった交友関係の修復や自主を促す積極的な学生支援を行う。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%(全学科)をめざし、学科専攻および地域施設、卒業生と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

## Ⅶ 社会連携・社会貢献

### 1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

### 2. 年度当初の重点課題

公開講座においては、社会のニーズに踏まえ ZOOM ウェビナーや対面形式を取り入れ、幅広い年層の方に受講していただけるように企画する。全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」については、UR 都市機構と千葉県いすみ市で計画・実施する。また、歯科診療室に受診される地域住民の方を対象に「健康教室」を多職種で取り組む。国際交流の進展を図り、インジェ大学とシンポジウムなどを開催していく。

### 3. 活動内容

#### 1) 公開講座

2022 年度の公開講座は、10 月 22 日 ZOOM ウェビナー、11 月 5 日対面にて、「心豊かにくらすには」をメインテーマに開講された。参加者は 148 名であった。講演タイトルは「心のみかた、とらえかたー作業療法よりー」、「セルフ・コンパッションー自分のことを思いやるー」、「衛生管理が守る食の安全」、「マスクの下でお口は開いていませんか?」で実施した。ZOOM ウェビナーでの開催のため、10 代から 70 代以上の幅広い年層の方に参加いただけた。また、対面実施では、高校生の方に多く参加していただけた。アンケートからは、「参加して良かった」と好評の結果であった。

#### 2) 千葉県健康福祉部との連携協力

「大学の概要及びこれまでの取組と成果」について第 3 回取組報告会を 2022 年 10 月 25 日県庁にて実施した。主な取り組みの紹介として、「新型コロナウイルスが千葉県の高齢者に与えた影響」、「千葉市内 UR 団地、いすみ市、本学を拠点としたほい大健康プログラム」について結果の説明を行った。

#### 3) 共同研究等による学外組織との連携

2022 年度学長裁量研究「介護予防のための生活習慣病継続をめざした多職種連携プログラムの評価」については、UR 都市機構の真砂第一団地で 3 回実施した。また、ほい大健康プログラムをいすみ市と共催で、いすみ医療センターにてボランティアで 2 回実施した。

#### 4) 各学科・専攻の活動状況

##### (1) 看護学科

##### ① 地域におけるボランティア活動等

千葉県内の活動として新ほい大プログラム、コツコツ学ぼうフォローアップセミナー、千葉県こども病院でのボランティア活動等 8 件であった。

##### ② 地域への保健医療活動

X Games Chiba 来場客救護室看護師 (X Games Japan 組織委員会)、初期医療言語サービスボランティア研修の 2 件であった。

##### ③ 審議会、委員会、国家試験委員等の実績：以下 16 件の委員等を務めた。

審議会委員 5 件 (文部科学省職業実践力育成プログラム (BP) 認定審査委員会委員、柏市保健衛生審議会等)、委員会委員 11 件 (厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局参与、千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会委員等、墨田区介護保険事業運営協議会委員)

##### ④ 職能団体委員等：以下計 12 件の委員等を務めた。

理事 2 件 (日本看護系大学協議会、日本看護学教育評価機構)、委員 10 件 (日本看護系大学協議会、千葉県看護協会、日本精神科看護協会他)

##### ⑤ 学会、学術団体への貢献：

##### ・所属学会・学術団体

教員が会員となっている学会は 100 近くあり、主なものとして日本看護科学学会、千葉看護学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本地域看護学会、日本公衆衛生学会、日本母性看護学会、日本看護研究学会、日本公衆衛生看護学会、日本母性衛生学会、文化看護学会等があった。

##### ・学会、学術団体への貢献：以下計 87 件の貢献があった。

学会理事 11 件、学会幹事 2 件、学会監事 1 件、学会代議員・評議員 5 件、学会内委員会委員 39 件 (学会誌編集、学会誌査読、教育、広報、表彰他)、学術集会各種委員会委員 22 件 (企画、実行、査読他)、その他の学術団体への貢献 7 件。

⑥ 講演会／研修会の講師・研究指導等：以下 63 件を務めた。

講演会・研修会の講師等は、42 件（厚生労働省健康局保健師中央会議研修，国立保健医療科学院主催公衆衛生看護研修，千葉県看護協会主催：新人教育担当者研修会，千葉県看護教員養成講習会，看護管理者能力育成研修会他，千葉県主催：現任教育推進研修会，特定健診・特定保健指導経験者研修会，保健師管理者能力育成研修会，県内医療機関主催：千葉県循環器病センター，千葉県がんセンター，県内保健所主催：習志野保健所，夷隅保健所，山武保健所他，県内市町村主催：千葉市，鎌ヶ谷，その他：墨田区 他）

研究指導／サポートは、21 件 9 施設：県内医療機関 3（千葉県がんセンター他），県内保健所 2（君津・夷隅），県内市町村 3（市原市，四街道市他），その他：墨田区）であった。

⑦ その他の社会貢献：なし

(2) 栄養学科

① 地域におけるボランティア活動等

・千葉県内

ほい大健康プログラム（真砂第一団地）（3 回），いすみ市（2 回），健康教室（本学）（2 回），千葉市保健福祉局時健康福祉部健康推進課発行 千葉市 食育&消費者教育情報誌 Vol.8 監修アドバイザー，千葉市子ども食堂ネットワークの 5 件であった。

・千葉県外

東京都小平市（二小青少年対策地区委員会副会長，子ども食堂 3 カ所）

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

・食事・栄養相談，鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導 月 1 回，県外。

③ 審議会，委員会，国家試験委員等の実績：審議会，委員会，国家試験委員等

・ISO/TC34 国内審議会団体事務局（FAMIC 国際課），ISO/TC34/SC12 国内対策委員，独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会（総合委員会，国際調和検討委員会，生物試験法委員会，専門委員），一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会），船橋市ふなばし健やかプラン 21（第 2 次）推進評価委員会委員会，文部科学省科学技術・学術審議会，食品成分委員会及び作業部会専門委員，木更津市食育推進協議会委員，日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー，日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士）試験問題作成委員，新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部の 14 件を務めた。

④ 職能団体委員等

・所属職業団体：日本栄養士，千葉県栄養士会，東京都栄養士会，神奈川県栄養士会の 4 団体に所属。

・委員会・役員等：千葉県栄養士会理事，千葉県栄養士会研究教育事業部副部長，外来栄養食事指導検討委員，千葉県栄養士会研究教育事業部役員，生涯教育委員，栄養指導研究所運営委員を務める。

⑤ 学会，学術団体への貢献

・所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 58 学会であり，その詳細は以下の通りである。

11 名所属（日本栄養改善学会）

5 名所属（日本栄養・食糧学会）

3 名所属（日本生化学会，日本家政学会，日本公衆衛生学会，日本調理科学会，千葉県学校保健学会）

2 名所属（日本解剖学会，日本臨床栄養学会，日本給食経営管理学会，日本疫学会，日本食品科学工学会，日本糖尿病・妊娠学会，日本病態栄養学会）

1 名所属（日本脂質栄養学会，日本補完医療代替学会，日本肥満学会，日本臨床栄養協会，日本神経科学会，日本薬学会，日本マイコプラズマ学会，日本防菌防黴学会，日本ビタミン学会，日本臨床化学会，日本分子生物学会，日本健康教育学会，日本臨床栄養代謝学会，日本心理学会，日本教育心理学会，日本人間工学会，日本教育工学会，日本発達心理学会，日本パーソナリティ学会，日本家庭科教育学会，日本教師学会，日本官能評価学会，日本教育学会，教育史学会，日本教育政策学会，日本英語教育史学会，中部教育学会，国際文化表現学会，DOHaD 研究会，日本高血圧学会，日本農芸化学会，日本女性医学会，日本栄養学教育学会，日本母性衛生学会，日本社会関係学会，日本食育学会，クリニカルパス学会，日本在宅栄養管理学会，日本在宅医療学会，日本応用糖質科学会，日本健康医学会，日本成長学会，日本小児保健協会，日本小児科学会，以上 44 学会）

・学会・学術団体への貢献

評議員，委員会委員長，委員などとしての学会・学術団体への貢献は 35 件であり，詳細は下記のとおりである。

日本栄養改善学会評議員（7名）、日本官能評価学会常任理事（企画）、日本官能評価学会査読、（一財）日本科学技術連盟官能評価セミナー委員長、官能評価セミナー、ベーシックコース感性官能評価担当、日本薬学会微生物試験専門委員、日本防菌防黴学会 GMP とバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員、日本疫学会代議員、日本栄養食糧学会参与、日本病態栄養学会評議員、日本病態栄養学会査読、日本糖尿病・妊娠学会評議員、日本糖尿病・妊娠学会検討委員、栄養学雑誌編集委員、日本栄養・食糧学会倫理審査委員会委員、日本ビタミン学会評議員、日本ビタミン学会トピックス委員会委員、日本ビタミン学会第74回大会一般演題座長、第69回日本栄養改善学会学術総会口演座長、日本栄養改善学会理事、日本栄養改善学会関東・甲信越支部会副支部長、日本公衆衛生学会代議員・公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員、第22回国際栄養学会議プログラム委員、日本教育政策学会事務局書記、千葉県学校保健学会監事、日本栄養教育学会編集委員、日本食品科学工学会第66回大会一般口演座長。

⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：講演会、講師・指導等

- ・本学公開講座、千葉県栄養士会・栄養士、管理栄養士研修会、千葉県栄養士会・生涯教育研修会(2)、千葉県栄養士会・研究教育事業部研修会、行政栄養士研修、新潟県栄養士会・生涯教育実務研修会、坂戸市葉酸プロジェクトに係る講演(2)、千葉県教育委員会、株式会社LEOC（給食受託会社）、ほい大健康プログラム、成田市生涯大学院教養講座、うたせシニア体操・打瀬公民館共済事業の14件

(3) 歯科衛生学科

① 地域におけるボランティア活動等：4件

- ・千葉県内：3件

新ほい大健康プログラム（2022年10月29日UR真砂第一団地、2022年11月いすみ医療センター）、歯科診療室健康教室（2022年12月17日、本学歯科診療室）、口腔機能向上プログラム（2020年8月～現在に至る、流山市南部地域包括支援センター）。

- ・千葉県外：1件

神奈川県横須賀市浦上台北町内会定期清掃活動（横須賀市）。

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）：8件

歯科診療（2022年4月1日～2023年3月31日、本学歯科診療室）、継続個別支援・歯科診療補助の実施（2022年4月～2023年3月31日、本学歯科診療室）、千葉市口腔がん検診・千葉市口腔ケア事業（2022年4月1日～2023年3月31日、本学歯科診療室）、健康教室（2022年12月17日、本学歯科診療室）、手術指導（2011年4月1日～現在に至る、総合病院国保旭中央病院）、体力測定と運動指導（2022年4月～2023年3月、流山市南部地域包括支援センター）、幕張ファミリーハイツ体操教室（2022年4月～2023年3月、千葉市美浜区）、第4回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研究会（2022年12月Zoom開催、2023年3月5日千葉県立保健医療大学にて対面）。

③ 審議会、委員会、国家試験委員等の実績：6件

千葉県歯科衛生士育成協議会役員、同運営委員。

④ 職能団体委員等：11件

全国歯科衛生士教育協議会理事、同教育委員会理事、同教育委員会委員、同教育問題検討委員会委員、同認定委員会委員長、同認定委員会委員、全国大学歯科衛生士教育協議会理事、同事務局長、同教育・研究委員、千葉県歯科衛生士会選挙管理委員、同総務理事。

⑤ 学会、学術団体への貢献

- ・所属学会・学術団体：総数59学会

日本歯周病学会、日本口腔衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科衛生学会、日本歯科保存学会、日本補綴歯科学会、日本歯周病学会、日本歯科審美学会、日本歯科色彩学会、日本歯科理工学会、日本口腔外科学会、日本口腔内科学会、日本口腔科学会、International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons、Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons、日本口腔診断学会、日本臨床口腔病理学会、日本臨床細胞診学会、日本有病者歯科医学会、日本老年歯科医学会、日本小児歯科学会、日本看護技術学会、日本医療安全学会、日本公衆衛生学会、日本顎顔面インプラント学会、日本医学教育学会、国際歯科研究学会（IADR）、国際歯科研究学会日本部会（JADR）、日本歯科医療管理学会、社会歯科学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本測定評価学会、日本バイオメカニクス学会、日本栄養改善学会、日本栄養・食糧学会、大学体育連合、日本疫学会、American College of Sports Medicine、日本咀嚼学会、日本口腔ケア学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、ヘルスカウンセリング学会、日本歯科医学教育学会、日本大学口腔科学会、日本歯科基礎医学会、東京歯科大学学会、北海道医療大学歯学会、日本歯科衛生士会、千葉県歯科衛生士会、日本障害者歯科学会、日本有病者歯科医療学会、国際ICT利用研究学会、情報文化学会、教育システム情報学会、コンピュー

ータ利用教育学会、情報システム学会、日本環境教育学会、日本スポーツ歯科医学会、

・学会、学術団体への貢献：25 件

日本歯科衛生学会査読委員、同学会総務委員、同学会倫理審査委員会委員、日本歯科衛生教育学会理事長、同学会常任理事、同学会理事、同学会編集委員会委員、同学会編集委員会査読委員、同学会編集委員会事前抄録担当委員、同学会規程検討委員会副委員長、同学会査読委員、同学会評議員、同学会監事、日本大学口腔科学会評議員、日本口腔科学会評議員、日本口腔内科学会評議員、日本医療安全学会理事・同学会代議員、同医療安全教育・研修検討部会委員、同多職種連携部会委員部会員、同財務委員会委員、日本歯科医学教育学会評議員、日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員、国際 ICT 利用研究会理事、日本環境教育学会広報委員、

⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：8 件

日歯認定歯科助手講習会講師「高齢者の対応」、2022 年度東京歯科大学大学院講義講師「臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について」、千葉県栄養士地域活動事業部研修会講師「身体活動を高めるために」、柏シルバー大学院生涯過程 E 組講師「日常生活の中での体力づくり」、柏シルバー大学院研究課程講師「コロナ下での高齢者の健康管理と体力づくり」、柏南交友会講師「コロナ下での高齢者の健康管理と体力づくり」、柏シルバー大学院生涯過程 B 組「運動支援と後期高齢者の関節炎とのかかわり」、公開講座「マスクの下でお口開いていませんか？」。

(4) リハビリテーション学科理学療法専攻

① 地域におけるボランティア活動等：1 件

・千葉県外：・コ克蘭日本語翻訳ボランティア（堀本）。

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）：5 件

・2022 年度臨床実習指導者講習会運営責任者、2022 年 4 月 1 日～2023 年 2 月 20 日、千葉県立保健医療大学（大谷）。

・UR 都市機構共催「ほい大健康プログラム」、2022 年 10 月 1 日、真砂第一団地（江戸）。

・千葉県いすみ市共催健康教室、2022 年 10 月 15 日、いすみ医療センター（江戸）。

・千葉県立保健医療大学歯科診療室主催健康教室、2022 年 12 月 10 日、千葉県立保健医療大学（江戸）。

・日本 ACLS 協会主催/BLS インストラクター（室井）。

③ 審議会、委員会、国家試験委員等の実績：1 件

・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価認定委員会評価委員（三和）。

④ 職能団体委員等：10 件

・千葉県理学療法士会 理事、研究倫理委員会委員長（三和）。

・千葉県理学療法士会 障がい児・者支援部部員、倫理審査委員（堀本）。

・千葉県理学療法士会代議員、学術企画研修部員、千葉ブロック介護予防推進リーダーWG メンバー、臨床実習指導者講習会世話人、千葉ブロック副ブロック長。（江戸）。

・千葉県理学療法士会 学術誌編集委員会副委員長（大谷）。

・千葉県理学療法士会 学術局企画運営部部長、（室井）

⑤ 学会、学術団体への貢献

・所属学会・学術団体：(27 団体)

日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、日本臨床神経生理学会、日本電気生理運動学学会、日本運動療法学会、日本体力医学会、世界理学療法士学会、世界電気生理運動学学会、全国大学肺理学療法研究会、世界リハビリテーション医学会、日本小児理学療法学会、日本神経理学療法学会、日本理学療法教育学会、

日本基礎理学療法学会、日本重症心身障害学会、重症心身障害療育学会、日本リハビリテーション臨床教育研究会、日本理学療法学会連合、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、バイオメカニズム学会、日本運動器理学療法学会、臨床歩行分析研究会、日本臨床バイオメカニクス学会、International Society of Posture and Gait Research、International Society of Biomechanics、日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会、日本ニューロリハビリテーション学会、

・学会、学術団体への貢献：38 件

・第 27 回日本基礎理学療法学会抄録演題査読、第 20 回日本神経理学療法学会抄録演題査読（三和）。

・第 20 回日本神経理学療法学会学術大会座長、第 11 回日本理学療法教育学会学術大会演題査読、第 20 回日本神経理学療法学会学術大会演題査読（堀本）。

・第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会演題査読、第 27 回日本基礎理学療法学会学術大会演題査読、第 28 回千葉県理学療法学会学術大会演題査読、第 41 回関東甲信越ブロック理学療法士学会座長（大谷）。

・第 6 回千葉県理学療法士会代議員総会副議長、第 12 回日本理学療法教育学会準備委員、イオン株式会社との



就労支援事業運営スタッフ（イオンスタイル検見川浜店、イオン稲毛店）、第10回日本運動器理学療法学会学術大会演題査読、第27回日本基礎理学療法学会学術大会演題査読、第9回日本予防理学療法学会学術大会演題査読、第9回日本地域理学療法学会学術大会演題査読、第28回千葉県理学療法学会学術大会演題査読、第10回日本運動器理学療法学会学術大会座長、第27回日本基礎理学療法学会学術大会座長、「理学療法 臨床・研究・教育」論文査読、千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」論文査読、「理学療法科学」論文査読、「Journal of Physical Therapy Science」論文査読（江戸）。

- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会世話人, Neuropsychological rehabilitation 論文査読, Journal of NeuroEngineering rehabilitation 論文査読（室井）。
  - ・第21回日本神経理学療法学会準備委員, 第16回全国教育大学理学療法学会学術大会準備委員, Journal of clinical neuroscience 論文査読, Behavioral and Brain Functions 論文査読, Journal of NeuroEngineering Rehabilitation 論文査読, Brain sciences 論文査読. Medicina 論文査読, Journal of Clinical Medicine 論文査読, 千葉県理学療法士会理学療法の科学と研究論文査読, 第20回日本神経理学療法学会学術大会演題査読, 第28回千葉県理学療法学会学術大会演題査読（酒井）。
- ⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：4件
- ・千葉県済生会習志野病院主催勉強会。千葉県済生会習志野病院。診療参加型臨床実習（Clinical clerkship: CCS）。理学療法士。2022年7月6日。千葉県済生会習志野病院（江戸）。
  - ・千葉市社会福祉セミナー。千葉市社会福祉研修センター。理学療法士が教えるフレイル予防～身体と心を元気に保ち、社会参加を活発に～。一般市民。2022年12月7日。千葉市社会福祉研修センター（江戸）。
  - ・第20回日本神経理学療法学会学術大会, 高次脳機能障害の評価と治療（教育講演）, 2022年10月15日, 大阪（酒井）。
  - ・第5回SIGs参加型フォーラム2023, 高次脳機能障害, 2022年3月4日, 東京（酒井）。

(5) リハビリテーション学科作業療法専攻

① 地域におけるボランティア活動等

- ・政府インターネットTV「ビビるとさくらとトモに深掘り！知るトビラ～サポカー限定免許で高齢者の交通事故防止！」（藤田）

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等, 活動期間, 場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談（有川）
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師（有川）
- ・練馬区障害児保育巡回指導（有川）

③ 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績：脳神経内科専門医試験問題作成（山本）

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会, 「高齢運転者支援士」試験作問委員（藤田）
- ・東京都医師会, 高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員（藤田）
- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員（有川）
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員（有川）

④ 職能団体委員等

- 日本作業療法士協会。「運転と作業療法特設委員会」委員長（藤田）
- 日本作業療法士協会。制度対策部部員（有川）
- 日本作業療法士協会。学会演題査読委員（有川）
- 日本作業療法士協会。代議員（有川）
- 日本作業療法士協会。代議員（松尾）
- 千葉県理学療法士作業療法士言語聴覚士連絡協議会。理事（松尾）
- 千葉県作業療法士会。副会長（松尾）
- 千葉県作業療法士会。理事（松尾）
- 千葉県作業療法士会。ブロック部部長（松尾）
- 千葉県作業療法士会。MTDLP委員会 委員（松尾）
- 千葉県作業療法士会。災害対策委員会 委員（松尾）
- 千葉県作業療法士会。地域連携部連携システム委員会 委員長（松尾）
- 千葉県作業療法士会。臨床実習指導者講習会委員会委員（松尾）
- 千葉県作業療法士会。事務局長（有川）
- 千葉県作業療法士会。代議員（有川）
- 千葉県作業療法士会。理事（有川）

千葉県作業療法士会. 渉外部部員 (有川)  
千葉県作業療法士会. 学術部発達障害委員会委員 (有川)  
千葉県作業療法士会. 地域連携部こども連携委員会委員 (有川)  
千葉県作業療法士会. 臨床実習指導者講習会委員会委員 (有川)

⑤ 学会, 学術団体への貢献

・所属学会・学術団体:

日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会. 日本老年医学会. 日本老年精神医学会. 認知神経科学会. 日本高次脳機能障害学会. 自動車技術会. 日本リハビリテーション工学協会. 運転と認知機能研究会. 運転と作業療法研究会. 日本安全運転医療学会. 日本交通心理学会. 日本認知心理学会. 日本交通科学学会. 日本感覚統合学会. 日本作業行動学会. 日本LD学会. 日本発達系作業療法学会. 日本リハビリテーション連携科学学会. 日本発達障害学会. 日本特殊教育学会. 千葉県 POS 連盟. 日本内科学会. 日本神経学会. 日本自律神経学会. 日本排尿機能学会. 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会.

・学会, 学術団体への貢献:

日本高次脳機能障害学会. 代議員 (藤田)  
全日本指定自動車教習所協会連合会. 理事 (藤田)  
日本感覚統合学会. 効果研究委員 (有川)  
日本発達系作業療法学会. 理事 (有川)  
JDD ネットワーク多職種連携委員会. 副委員長 (有川)

⑥ 講演会 (公開講座を含む)

- ・千葉県作業療法士会学術部老年期障害研修会 (藤田)
- ・全日本指定教習所協会連合会障害者教習指導員研修 (藤田)
- ・全日本指定教習所協会連合会高齢運転者支援士研修 (藤田)
- ・警察庁運転免許課安全運転相談専科教養研修 (藤田)
- ・臨床実習指導者講習会 (世話人) (有川)
- ・千葉市健康支援課母子保健研修会 (講師) (有川)

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており, 歯科衛生学科の教員 (歯科医師・歯科衛生士) と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している. 県内を中心に患者を広く受け入れており, 2022年度の延患者数は2,317名であった. また, 「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に59件の個別検診, 口腔機能に関わる口腔ケア事業6件を行った. 当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし, 患者にとって安心な歯科医療環境の提供, 厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている. 歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生の専門資格取得状況は, (公社)日本口腔外科学会専門医1名, (公社)日本口腔外科学会指導医1名, がん患者歯科医療連携登録医1名, 日本糖尿病協会歯科医師登録医1名, 日本口腔内科学会専門医1名, 日本口腔内科学会指導医1名, ICD協議会インフュクションコントロールドクター1名, 千葉市口腔がん検診検診医1名, 千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医1名, 日本口腔衛生学会認定医1名, 日本歯周病学会認定歯科衛生士1名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (摂食・嚥下リハビリテーション) 1名, 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士 (在宅療養指導・口腔保健管理) 2名, 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士2名, ケアマネージャー1名となっている.

6) 国際交流の推進状況

2023年3月12日(日)に, 本学と神田外語大学との共同開催による第2回初期医療言語サービスボランティア研修を本学にて行った. 参加者は学生15名(本学6名, 神田外語大学9名)であり, 内容は英語など外国語を使用した対象者への声掛けと状況把握, 体制への配慮, 誘導, 一時救命処置, 心肺蘇生法・AED使用方法であった. 受講後調査では, 研究内容について満足78%, やや満足22%であり, 内容をよく理解できた, 学習内容はとても役に立ち参加できてよかった, 外国語で症状を伝えることが難しかったのでもっと時間をかけてほしかったなどの意見があった.

#### 4. 評価（成果および改善すべき事項）

本学の教員が講師を担った講習会は全学で95件あった。歯科診療室は2022年度の延患者数は2,317名であり、例年と同様の貢献ができた。「県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案」として地域ケア会議の構成メンバー、団体のアドバイザー、医療施設の専門相談員など、地域および施設の運営に関わっている教員は多い。また、「専門職を対象とした生涯教育の企画、実施公開講座の企画・運営」について、各職能団体の新人研修や現職者研修、専任教員研修に関わる教員が多かった。今後も継続できるように出来たら良いと考える。

公開講座の開催案内を県民日よりと県内の関係施設にポスターを送付し、昨年度より約1.6倍の方に参加いただくことができた。1回目のZOOM 86名、2回目の対面62名の参加で目標を達成できた。公開講座をZOOM形式で実施した際、10代から70代以上の幅広い年層の方に参加していただけたことがわかった。また、対面実施では、高校生の方に多く参加していただけたことがわかった。今後、年層に合わせたテーマや開催方法を検討した方が良いと考える。

「ほい大健康プログラム」をUR都市機構と共催で3回実施し、いすみ市と共催で2回実施できた。両方とも、参加者の方のアンケート結果で満足度が高く、目標を達成できた。本学の社会貢献として、多職種連携の強みを活かしたプログラムの継続が必要であることが明らかとなった。今後、学内の実施体制を整え、どのように運用していくか検討する必要がある。

歯科診療室に通院されている地域住民の方に、各学科の特色を活かした健康教室を企画し4学科のプログラムを組み合わせて2回実施し、アンケート結果では、好評をいただき概ね目標を達成できた。歯科診療室に通院されている地域住民の方を対象とすると、歯科衛生学科で参加者の方を集めるのが大変になってしまうため、本学として健康教室の位置づけを検討する必要がある。

#### 5. 次年度の方策

公開講座は、幅広い年層の方に受講していただけるような開催方法やテーマで企画し、広報をすることが必要となる。「ほい大健康プログラム」については、UR都市機構と千葉県いすみ市で継続して計画・実施する。また、歯科診療室に受診される地域住民の方を対象にした「健康教室」を開催する。

## Ⅷ 教育研究等環境

### 1. 年度当初の重点課題

引き続き、教育研究環境の点検を定期的に行い、計画的な環境整備を行う。また、文献検索セミナー、入学時の図書館ガイダンスを通して、学生の文献検索能力向上に努める。併せて学生が図書館を利用しやすいように、学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備に努める。

### 2. 施設・設備の整備状況

#### (新規購入備品)

##### 幕張キャンパス

教育棟 A 棟	A216	モニター	1 台
	A301	プロジェクター	1 台
	A308	プロジェクター	1 台
	A309	プロジェクター	1 台
教育棟 B 棟	B102	プロジェクター	1 台
	B105	椅子	17 脚
	B106	プロジェクター	1 台
	B107	プロジェクター	1 台
	B209	ホワイトボード	1 台
学生ホール棟	講義室 1	机	16 台
		椅子	43 脚

##### 仁戸名キャンパス

東校舎	治療室	エアコン	1 台
	男子更衣室	ロッカー	7 台

### 3. 図書館の状況

#### 1) 利用者数

幕 張 34,572 人

仁戸名 4,209 人

#### 2) 資料収集

##### (1) 蔵書数

幕 張 図書 76,549 冊 雑誌 1,378 タイトル

仁戸名 図書 33,291 冊 雑誌 719 タイトル

##### (2) 視聴覚資料数

幕 張 CD 40 点 DVD 486 点 スライド 7 点

仁戸名 CD 10 点 DVD 225 点

#### 3) 開館時間および開館日数

##### 開館時間

【授業期間中開館時間】(幕 張) 月・金曜日 8:45~21:00, 火~木曜日 8:45~20:00, 土曜日 9:00~17:00

(仁戸名) 月・金曜日 9:15~21:00, 火~木曜日 9:15~20:00, 土曜日 9:00~17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも) 月~金曜日 : 9:00~17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

##### 開館日数 (年間延べ数)

幕 張 256 日

仁戸名 277 日

#### 4) 利用状況

貸出冊数 幕張 4,540冊

仁戸名 1,238冊

参考業務件数 幕張 1,023件

仁戸名 147件

複写 幕張 244件 2,800枚

仁戸名 26件 535枚

#### 5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

図書館ガイダンスの実施（計15回）

文献検索ガイダンスの実施（計5回）

文献検索セミナーの実施（計2回，参加者のべ人数49名）

図書館だより「ぼ〜れぼ〜れ」の発行 年2回（4月，10月）

### 4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・令和4年4月1日，9月1日 新任教員を対象に，研究倫理・コンプライアンス研修会を実施した。
- ・令和5年3月14日 研究倫理審査委員会委員長を講師にして研究倫理に関するFDを遠隔リアルタイム方式で実施した。
- ・令和5年3月27日 令和4年度科学研究費助成事業に係る内部監査を実施した。

### 5. 評価（成果および改善すべき事項）

整備計画に基づき，学内環境の整備および予算要求等を目標どおりに行うことができた。一方で幕張キャンパス大講義室のプロジェクター2台中1台が故障したため，来年度以降に大型プロジェクターの整備が必要となった。また，学内のエアコンも古いものが多く，故障が起きているため，机・椅子等と同様に学内の状況を把握し，長期的な整備計画を作成が求められる。

### 6. 次年度の方策

教育設備の段階的更新・整備を学内の合意に基づき着実に実施する。とくに幕張キャンパス大講義室のプロジェクターの故障については教育に支障がないように対応するとともに，新たな大型プロジェクター等の整備を進める。

## Ⅸ 研究活動報告

### 1. 看護学科

- (1) 著書：和文単著 1 件，共著 13 件，英文単著 1 件，編集 1 件，その他 6 件，総数 22 件であった。
- (2) 学術論文：英文 12 件，和文 46 件，その他 17 件，総数 75 件であった。
- (3) 発表：国際学会 8 件，全国学会 58 件，地方学会 0 件，その他 3 件，総数 69 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：2 件（教育講演 1 件，学術集会等講演 1 件）であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究は 85 件（うち科研費 61 件，科研費以外の外部資金 3 件，学内共同は 8 件，学長裁量は 13 件であった。
- (6) 賞・特許：2 件（表彰 1 件，特許 1 件）であった。

### 2. 栄養学科

- (1) 著書：共著件の 7 著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 3 件，和文原著 9 件，その他 9 件，総数 21 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 11 件，全国学会 25 件，地方学会 0 件，総数 36 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム・セミナー講師等：総数 10 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 9 件（うち科研費 7 件），学内共同は 6 件，学長裁量研究は 3 件であった。
- (6) 賞・特許：2 件。

### 3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：単著 0 件，共著 3 件，編集 1 件，総数 4 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 2 件，和文原著 1 件，総数 3 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 5 件，全国学会 14 件，総数 15 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：1 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 6 件（科研費 6 件）であった。学内共同研究は 2 件，学長裁量研究 4 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件であった。

### 4. リハビリテーション学科理学療法専攻

- (1) 著書：共著 2 件，総数 2 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 11 件，その他 13 件，総数 24 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 2 件，全国学会 7 件，地方学会 3 件，総数 13 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：教育講演 3 件，シンポジスト 1 件，総数 4 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 4 件（内科研費 4 件）であった。学内共同は 7 件であった。
- (6) 賞・特許：第 28 回千葉県理学療法学会 優秀演題賞 受賞（室井） 1 件，総計 1 件であった。

### 5. リハビリテーション学科作業療法専攻

- (1) 著書：単著 0 件，共著 2 件，編集 0 件，翻訳書 0 件，その他 0 件
- (2) 学術論文：英文原著 8 件，和文原著 0 件，その他 12 件，総数 20 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 6 件，地方学会 1 件，研修・講習会 24 件，その他 0 件，総数 34 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：教育講演 3 件，基調講演 0 件，シンポジスト 2 件，セミナー講師 1 件，総数 6 件の発表があった。
- (5) 研究資金獲得状況：科研費 3 件，科研以外の外部資金は 0 件であった。学内共同は 1 件，学長裁量は 0 件であった。
- (6) 賞・特許：特になし。

## X 内部質保証のための取り組み

### 1. 年度当初の課題

自己点検・評価委員会の当初の活動目標は次の通りである。

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、学内の円滑な自己点検・評価を推進する。具体的には、令和3年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開する。各部会から年間スケジュールを提出してもらい、部会の所掌事項を推進していく。大学運営会議等から新たな依頼があった場合には、4つの部会と連携して推進していく。
- 2) 大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査等に対応してR5年3月に認証の結果を得る。
- 3) IRの機能を促進する。具体的な計画としては次の通りである。IRコンソーシアムの具体的な活用を検討する。卒業時調査や適宜実施される学生調査など、学内におけるIRの機能を果たす。IR部会において、教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を開始する。
- 4) 大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出する。

### 2. 評価（成果及び改善すべき事項）

- 1) 令和3年度の「委員会活動達成状況点検・評価報告書」を学内・学外公開した。各部会からの年間スケジュール提出により、部会の所掌事項を推進していった。「教育研究年報」の発行時期については例年より遅れたが、認証評価に伴う作業量が多かった影響であり、次年度からは修正できる見込みである。学長の依頼により卒業生調査（初回）をIR部会で計画・実施し、3月初旬までにデータ収集を行った。
- 2) 大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査（オンライン、追加訪問調査）に対応した。令和5年3月に評価報告書において「大学評価基準を満たしている」と評価を得た。
- 3) IR部会においてIRコンソーシアムの具体的な活用を検討し、教務委員会からは教育の評価に活用することが示されたが、分析をして結果を提示するには至らなかった。IR部会で卒業時調査、卒業生調査を企画・実施し、学内におけるIRの機能を果たした。教育研究年報のデータの集積に関して、IR部会で検討したが、教育研究年報作成部会で検討することとなり、学科・専攻の量的データについて集約方法を提案し決定した。各委員会が担当する部分も含め、質的なデータについては継続課題である。IR部会では、各委員会が調査した結果など、集積しているデータについてのINDEX作業は継続して行った。
- 4) 大学組織の定期的検証システムの確立に向けた課題を抽出し、大学運営会議に提示した。

### 3. 次年度の方策

- 1) 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」に則り、4つの部会と連携して自己点検・評価を推進していく。学科・専攻、委員会の重点施策の令和4年度目標の達成度から、学科・専攻や委員会の所掌について検証する（4～5月）。
- 2) 大学機関別認証評価の評価報告書において指摘された【優れた点】について、継続・発展させる。【改善を要する点】【今後の進展が望まれる点】については、自己点検・評価委員会で早急にスケジュール・責任部署の計画を立て、対応に取り掛かる必要がある。
- 3) IR部会により、卒業生調査の分析および結果の公表（卒業生・学生も含む）を実施する。IRコンソーシアムの活用により、分析データを公表（学生も含む）する。各委員会が調査した結果などのデータについてのINDEX作業を継続して行っていく。教育研究年報作成部会において、教育研究年報の学科・専攻の量的データの集約を開始する。集約したデータについて、IR部会のINDEXに含めるかどうかはIR部会に検討を申し入れる。自己点検・評価委員会において、教育研究年報の各委員会が担当する部分など、各委員会が集積しているデータを一括して管理することについて、収集・集積する情報とその収集方法・集積方法に関する検討を行う。
- 4) 重点施策の担当項目である大学組織に関する項目について、将来構想検討委員会でR5年度の担当（責任）委員会の再検討を依頼する。





## 第2部

### 教員の教育研究活動記録



学長



## 学長 龍野 一郎 博士 (医学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナ感染対策を強化し、学生に寄り添って大学の授業環境を正常化する。同時に、県の保健医療政策の連携拠点としての役割（保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮，地域への貢献，時代のニーズに合わせた人材育成）を果たす。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール
- ・管理栄養士導入教育

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・龍野一郎（分担執筆），日本肥満学会ガイドライン作成委員会，肥満症診療ガイドライン 2022，ライフサイエンス出版，東京
- ・龍野一郎（分担執筆）日本人の肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術の適応に関する 3 学会合同委員会コンセンサスステートメント，糖尿病学 2022（編集：門脇孝，山内敏正），2022，診断と治療社，東京
- ・齋木厚人，龍野一郎（分担執筆）：肥満，内分泌疾患診療ハンドブック Ver. 3（編集：龍野一郎，橋本尚武，岩岡秀明），2022，中外医学社，東京

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・Watanabe Y, Yamaguchi T, Nagayama D, Tanaka S, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Saiki A, Tatsuno I. Factors associated with relapse of type 2 diabetes mellitus after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese subjects: a subgroup analysis of J-SMART study. *Obes Facts*. 2023;16(2):119-130. doi: 10.1159/000529546. Epub 2023 Feb 7.
- ・Kirkham FA, Mills C, Fantin F, Tatsuno I, Nagayama D, Giani A, Zamboni M, Shirai K, Cruickshank JK, Rajkumar C. Are you as old as your arteries? Comparing arterial aging in Japanese and European patient groups using cardio-ankle vascular index. *J Hypertens*. 2022 Sep 1;40(9):1758-1767. doi: 10.1097/HJH.0000000000003214. PMID: 35943103
- ・Shimizu N, Ito T, Sato S, Sugiura Y, Tatsuno I. Urothelial Carcinoma With Pulmonary Tumor Thrombotic Microangiopathy After Chemotherapy for Hodgkin Lymphoma. *J Clin Med Res*. 2022 Aug;14(8):327-333. doi: 10.14740/jocmr4802. Epub 2022 Aug 27.

- Suzuki S, Ruike Y, Ishiwata K, Naito K, Igarashi K, Ishida A, Fujimoto M, Koide H, Horiguchi K, **Tatsuno I**, Yokote K. Clinical Usefulness of the Growth Hormone-Releasing Peptide-2 Test for Hypothalamic-Pituitary Disorder. *J Endocr Soc*. 2022 Jun 6;6(8):bvac088. doi: 10.1210/jendso/bvac088. eCollection 2022 Aug 1.
- Terano C, Hamada R, **Tatsuno I**, Hamasaki Y, Araki Y, Gotoh Y, Nakanishi K, Nakazato H, Matsuyama T, Iijima K, Yoshikawa N, Kaneko T, Ito S, Honda M, Ishikura K; Epidemiology of biopsy-proven Henoch-Schönlein purpura nephritis in children: A nationwide survey in Japan. Japanese Study Group of Renal Disease in Children. *PLoS One*. 2022 Jul 8;17(7):e0270796. doi: 10.1371/journal.pone.0270796. eCollection 2022.
- Watanabe Y, Yamaguchi T, Tanaka S, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Saiki A, **Tatsuno I**. Characteristics of childhood onset and post-puberty onset obesity and weight regain after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese subjects: a subgroup analysis of J-SMART. *Obes Facts*. 2022 May 9. doi: 10.1159/000524941. Online ahead of print.
- **龍野一郎**：肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する日本肥満症治療学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会合同委員会のコンセンサスステートメント，糖尿病と代謝(0303-6057)49 巻 2 号 Page66-70(2022. 04)
- **龍野一郎**：高齢者の内分泌疾患-ホルモンの病気を見逃さないために- 特集にあたって，日本老年医学会雑誌第 59 巻 2 号 Page139(2022. 4)
- 金居 理恵子，齋木 厚人，川久保 さおり，瀬尾 恵理，山浦 一恵，木下 幸歩，神戸 和泉，鮫田 真理子，大城 崇司，**龍野 一郎**：スリーブ状胃切除術前後の栄養管理にフォーミュラ食を用いた IgA 腎症合併高度肥満症の一例，日本病態栄養学会誌(1345-8167)25 巻 1 号 Page119-126(2022. 04)
- 清水 直美，山口 崇，大平 征宏，中村 祥子，田中 翔，渡邊 康弘，永山 大二，齋木 厚人，松澤 康雄，菊地 秀昌，松岡 克善，**龍野 一郎**，寺井 謙介，蛭田 啓之，武城 英明：プレセプシンの新たな産生機序解明に関する報告，東邦医学会雑誌(0040-8670)69 巻 2 号 Page110-111(2022. 06)
- 竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，松原 久裕，**龍野 一郎**，高齢者肥満外科の適用委員会：減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 高齢者肥満外科の適用委員会ならびに高齢者肥満外科手術の適応のワーキンググループからの報告，肥満症治療学展望 10 巻 1 号 Page2-4(2022. 08)
- **龍野一郎**：肥満症治療の最前線 減量・代謝改善手術と肥満 2 型糖尿病，日本内科学会雑誌(0021-5384)111 巻 9 号 Page1931-1937(2022. 09)
- 清水 直美，山口 崇，**龍野 一郎**：プレセプシンの新たな産生機序解明，東邦医学会雑誌(0040-8670)69 巻 3 号 Page148-149(2022. 09)
- 山口 崇，**龍野 一郎**：高齢者における高度肥満症診療の現状と展望，*Geriatric Medicine*(0387-1088)60 巻 10 号 Page875-881(2022. 10)
- 竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，竹本 稔，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，松原 久裕，**龍野 一郎**，稲葉 洋介，日本肥満症治療学会高齢者肥満外科の適用委員会，：減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討 高齢者肥満外科の適用委員会ならびに高齢者肥満外科手術の適応のワーキンググループからの報告(第 2 報)，肥満症治療学展望 11 巻 1 号 Page12-13(2023. 03)

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- ・竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，松原 久裕，龍野 一郎：高齢者高度肥満症患者の減量・代謝改善手術に関する検討，第 65 回日本糖尿病学会学術集会，2022 年 5 月，神戸
- ・山口 崇，齋木 厚人，佐々木 章，内藤 剛，松原 久裕，横手 幸太郎，岡住 慎一，卯木 智，山本 寛，太田 正之，石垣 泰，笠間 和典，関 洋介，辻野 元祥，白井 厚治，宮崎 安弘，正木 孝幸，永山 大二，龍野 一郎：スリーブ状胃切除術後の糖尿病再発の実態と寄与因子(多施設共同研究 J-SMART サブ解析)，第 65 回日本糖尿病学会学術集会，2022 年 5 月，神戸
- ・渡邊 康弘，山口 崇，田中 翔，齋木 厚人，佐々木 章，内藤 剛，松原 久裕，横手 幸太郎，岡住 慎一，卯木 智，山本 寛，太田 正之，石垣 泰，笠間 和典，関 洋介，辻野 元祥，白井 厚治，宮崎 安弘，正木 孝幸，永山 大二，龍野 一郎：小児期発症の高度肥満症患者の特徴と減量・代謝改善手術の成績に関する検討，第 65 回日本糖尿病学会学術集会，2022 年 5 月，神戸
- ・谷内 洋子，山田 貴穂，藤原 和哉，生魚 薫，堀川 千嘉，田中 康弘，龍野 一郎，曾根 博仁：妊娠中期における糖代謝状態と低出生体重児出産との関連の検討，第 65 回日本糖尿病学会学術集会，2022 年 5 月，神戸
- ・竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，龍野 一郎：減量・代謝改善手術の適応年齢に関する検討，第 95 回日本内分泌学会学術総会，2022 年 6 月，別府
- ・田中 翔，山口 崇，恩田 洋紀，阿部 一輝，山岡 周平，中村 祥子，渡邊 康弘，大平 征宏，龍野 一郎，齋木 厚人：トピロキソスタットが 2 型糖尿病合併高尿酸血症患者の血管弾性におよぼす影響，第 95 回日本内分泌学会学術総会，2022 年 6 月，別府
- ・類家 裕太郎，鈴木 佐和子，五十嵐 活志，石渡 一樹，内藤 久美子，石田 晶子，藤本 真徳，小出 尚史，龍野 一郎，山崎 有人，笹野 公伸，坂本 信一，市川 智彦，横手 幸太郎：結節毎に異なる画像所見・カテコラミン遊離能・遺伝子発現を有する SDHD 遺伝子変異褐色細胞腫パラガングリオーマの 1 例，第 95 回日本内分泌学会学術総会，2022 年 6 月，別府
- ・山口 崇，阿部 一輝，恩田 洋紀，山岡 周平，中村 祥子，田中 翔，渡邊 康弘，清水 直美，辻 紗耶佳，高橋 由佳，龍野 一郎，齋木 厚人：高度肥満症における可溶性 LR11 および脂肪組織 LR11 発現の意義，第 95 回日本内分泌学会学術総会，2022 年 6 月，別府
- ・竹本 稔，林 愛子，田中 智洋，全 泰和，林 秀樹，笠間 和典，齋木 厚人，佐々木 章，岡住 慎一，龍野 一郎：減量・代謝改善手術の高齢者高度肥満症患者に対する適応に関する検討，第 65 回日本老年医学会学術集会，2022 年 10 月，横浜

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・龍野 一郎：肥満 2 型糖尿病に対する減量・代謝改善手術 薬物治療の進歩を見据えた今後の展開，合同シンポジウム 3 「糖尿病合併症の早期発見・早期治療のための技術革新」，第 37 回日本糖尿病合併症学会・第 28 回日本糖尿病眼学会総会，2021 年 10 月，京都
- ・龍野 一郎： 理事長提言「ニューノーマル時代に向かう統合的肥満症治療-誰一人取り残さない共生社会の実現-」 第 40 回日本肥満症治療学会学術集会・第 43 回日本肥満学会，2022 年 12 月，沖縄
- ・龍野 一郎：特別講演「肥満症治療の最前線 -肥満 2 型糖尿病と減量・代謝改善手術-」，NST スキル UP 講習会 「過栄養・肥満患者の栄養管理」，第 26 回日本病態栄養学会，2023 年 1 月，京都

- ・龍野一郎: 特別講演「肥満2型糖尿病に対する最新の治療戦略 -薬物療法と減量・代謝改善手術の進歩-」, 第94回千葉糖尿病教育スタッフ研究会定例会, 2023年3月, 千葉

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 1 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本医療政策機構 肥満症対策プロジェクト アドバイザリーボードメンバー2022年7月～

##### 2 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県糖尿病対策推進会議 理事 2021年3月～
- ・社団法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2021年4月1日～
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2021年4月1日～
- ・千葉地方裁判所委員 2021年4月1日～

##### 3 学会, 学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本内科学会・日本内分泌学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会・日本肥満症治療学会・日本臨床栄養学会・日本動脈硬化学会・日本性差医療医学会, 日本骨粗鬆症学会・日本成人病学会・日本医療マネジメント学会・千葉医学会

###### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職)

- ・日本肥満症治療学会 理事長
- ・日本臨床栄養学会 理事・COI委員会委員
- ・日本栄養療法推進協議会 理事
- ・日本内科学会 評議員, 関東地方会元常任幹事
- ・日本内分泌学会 関東甲信越支部幹事, 評議員, 前専門医認定部会試験小委員会副委員長
- ・日本肥満学会 評議員, 日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同委員会委員長
- ・日本糖尿病学会 学術評議員
- ・日本骨粗鬆症学会 評議員, 骨粗鬆症検診委員会委員
- ・日本動脈硬化学会 評議員
- ・日本性差医療・医学会 評議員
- ・日本成人病生活習慣病学会 評議員
- ・千葉医学会 評議員

##### 4 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 衛生委員会, 新型コロナ研究プロジェクトチーム, 次期情報システムワーキンググループ



## VI 評価（成果および改善すべき事項）

全教員との面談を通して、本学の持つ中長期的な課題を共有するとともに、将来構想委員会の活動を通して、シンクタンク機能としての本学の役割の機能に努めることができた。また、新型コロナウイルス感染症対策については ICT を用いた報告体制の活用、マニュアルの機動的な改訂、学長メッセージ、オンデマンドビデオなどを多用した感染・広報対策を実施、クラスターなどの感染の拡大を防止し、2023 年 5 月からの感染症分類の 2 への意向に向かって、体制を整え、ほぼ学内活動を正常化できた。

## VII 次年度の目標

ポストコロナ・ウイズコロナの時代に、まず学生に寄り添って、大学の授業環境を整備する。加えて、千葉県  
の保健医療を取り巻く状況は引き続き厳しく、それに立ち向かうためにも長年の課題であった大学改革（キャン  
パス整備・統合、大学院設置、独立法人化）を DX に焦点を当てながら推進し、県の保健医療政策の連携拠点  
としての役割（保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人  
材育成）を果たす体制を整える。



# 看護学科



## 教授 石井 邦子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では、ウィズ・コロナを見据えて、対面授業と遠隔授業のメリットを活かしたハイブリッドによる授業を実施し、検証する。研究活動では、研究代表者を務める科研を計画通りに進めるとともに、教室で取り組んでいる母性看護学実習と中堅助産師のキャリア開発に関する研究にも精力的に取り組む。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と円滑な運営体制を継続し、将来構想等の諸課題に取り組む。認証評価受審を滞りなく実施する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・看護学入門
  - ・看護学入門学習
  - ・育成期看護概論
  - ・母性看護学方法論Ⅰ
  - ・母性看護学方法論Ⅱ
  - ・母性看護学実習
  - ・助産学概論
  - ・助産診断・技術学Ⅰ
  - ・助産診断・技術学Ⅱ
  - ・助産診断・技術学Ⅲ
  - ・助産診断・技術学Ⅳ
  - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）
  - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）
  - ・助産学実習Ⅲ（産婦ケア）
  - ・総合実習
  - ・看護研究
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・統合医療安全・特定行為実践特論（放送大学大学院）

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・石井邦子，廣間武彦，他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2023年，医学書院，東京
- ・森恵美，鈴木俊治，大月恵理子，石井邦子，他：助産師基礎教育テキスト（2023年版）第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア，第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア，2023，日本看護協会出版会，東京。
- ・森恵美，工藤美子，香取洋子，堤治，石井邦子，他：母性看護学概論（系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]）第14版 第2章母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状，2023年，医学書院，東京。
- ・石井邦子，他：2022年版系統別看護師国家試験問題集 第112回看護師国家試験 解答と解説，2023，医学書院，東京。

## 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・増田恵美，石井 邦子，北川 良子：産後1ヶ月における骨盤周囲の固定による腰背部痛に対する効果，千葉県立保健医療大学紀要，

## 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，北川良子，川村紀子，山崎麻子：熟練助産師の産後抑うつ状態の診断における観察の視点，第63回日本母性衛生学会学術集会，2022.9.10，神戸国際会議場。

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究代表者。
- ・学内共同研究（学長裁量），母子のための地域包括ケアシステムの現状と課題—モデル構築に向けた文献研究，研究代表者
- ・学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案，研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省，職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員，2022.4～2023.3.

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護系大学協議会，理事，2022.7～2023.3.
- ・日本看護系大学協議会，高等教育行政対策委員会副委員長，2022.4～2023.3.
- ・日本看護学教育評価機構，理事，2022.4～2022.6.
- ・日本看護学教育評価機構，評価委員会副委員長，2022.7～2023.3.

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本生殖看護学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，理事長，2022.4～2023.3.
- ・千葉県母性衛生学会，理事，2022.4～2022.6.
- ・日本看護科学学会，代議員，2022.7～2023.3.
- ・日本助産学会，代議員，2022.3～2023.3.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学評議会，大学運営会議，教授会，将来構想・検討委員会，総務・企画委員会，広報委員会，危機管理委員会，キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等>

・ホームページ:千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では、すべての授業を対面で実施する一方で、出校停止の学生に授業動画を配信したり、Teamsによる事前・事後課題の提示や、学生の個別指導にオンライン通話を使用する等、オンラインの活用による教育の効率化を図ることができた。研究活動では、教育で取り組んだ学内共同研究費による研究課題を計画通りに遂行する反面、研究代表者を務める科研の進捗が遅れてしまった。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と円滑な運営体制を継続することができたものの、将来構想等の重要課題の進展にはつながらなかった。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行した。

## VII 次年度の目標

令和5年度は、教育活動では、コロナ禍の経験を活かしたTeamsの有効活用やコミュニケーション等の対人関係スキルの育成と共に、領域教員の教育活動の支援にも力を入れる。研究活動では、研究代表者を務める科研の遅れを取り戻すと同時に、学外・領域内で取り組んでいる産後ケアに関する研究が計画通りに実行する。大学管理運営では、教務委員、図書館長としての責務を確実に遂行する。第三次カリキュラム評価と看護学分野別評価における責務も確実に遂行する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

## 教授 佐藤 紀子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、依然としてコロナ禍での実習となることから実習施設と綿密な調整を行い、学習機会の確保と学内実習の工夫に努め、学習効果の向上をめざす。また、領域の長として、新任教員をサポートしながら、効果的に講義・演習・実習ができるよう教員間の協力体制を強化する。研究活動は、コロナの影響により見直した研究計画を推進し、成果を出す。管理運営面では、学科長として、各教員が意欲をもって教育、研究、管理運営、社会貢献に取り組めるよう体制を整備しサポートする。将来構想検討委員会委員長としては、重点施策の推進、シンクタンク機能の発揮、将来構想に関わる本学の方針の検討に尽力する。社会貢献としては、引き続き千葉県内の保健医療に貢献できるように、審議会等の委員や研修講師等を積極的に引き受ける。また、学会への貢献として、担っている役割を確実に遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門
- ・看護学入門実習
- ・地域看護学概論
- ・地域看護学方法論Ⅰ
- ・地域看護学方法論Ⅲ
- ・災害看護学
- ・地域看護学実習
- ・総合実習（地域看護学）
- ・看護研究
- ・看護学統合

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・看護理論（東京医療保健大学大学院千葉看護学研究科）

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版2022年版各論1（宮崎美砂子他編集），2-49，2023年2月，日本看護協会出版会，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・細谷紀子，佐藤紀子，杉本健太郎，雨宮有子，泰羅万純：全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の実態と関連要因，日本公衆衛生雑誌，69巻，8号，606-616，2022。
- ・細谷紀子，佐藤紀子，杉本健太郎，雨宮有子，泰羅万純：全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動，日本地域看護学会誌，25巻，2号，4-12，2022。
- ・細谷紀子，佐藤紀子，雨宮有子，杉本健太郎，松浦めぐみ：リフレクションに基づく個別支援能力向上プログラムに参加した保健師の個別支援の現状，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻第1号，3-11，2023。
- ・Kentaro Sugimoto，Noriko Sato，Yuko Amamiya and Noriko Hosoya：Infection control measures promoted by the public health center for “housing for the elderly” facilities during norovirus cluster outbreaks，Journal



of Rural Medicine, 17(3), 151-157, 2022.

- 川城由紀子, 浅井美千代, 石川紀子, 佐藤紀子, 佐伯恭子: 地域包括ケア病棟の看護師に求められる実践能力, 千葉県立保健医療大学紀要, 14, 1, 19-28, 2023.
- 雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎: 新人保健師のリフレクシオン力育成のためのファシリテーションガイドの開発—批判的分析に資する「自己の考えの意識化」を意図するガイド項目の使用状況と影響—, 令和2年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 105, 2023.
- 細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎: リフレクシオンに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査, 令和3年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 95, 2023.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- 細谷紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 佐藤紀子: リフレクシオンに基づく実践能力向上プログラムを受講した保健師の個別支援の現状と課題, 日本地域看護学会第25回学術集会, 2022年8月27日~28日, 富山県.
- 飯野理恵, 宮崎美砂子, 佐藤紀子, 杉田ゆかり, 石丸美奈, 時田礼子, 鈴木悟子, 坂井文乃, 佐藤太一, 栗栖千幸, 土屋裕子: 予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJTの条件, 日本地域看護学会第25回学術集会, 2022年8月27日~28日, 富山県.
- 春山早苗, 佐藤紀子, 嶋野洋子, 大神あゆみ, 金谷志子, 山縣千開, 江角伸吾: いまさら聞けない研究倫理 (ワークショップ). 第11回日本公衆衛生看護学会, 2022年12月17日, 宮城県.

### 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- 第15回文化看護学会学術集会. 会長講演 人と人をつなぐケアの本質. 2023年3月19日, 千葉県.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究代表者.
- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.
- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B)), 予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT実用化研究, 研究協力者.
- 文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 「正解のない問題」に取り組むメタ認知に着目し公衆衛生看護の思考を深める対話法, 研究協力者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 千葉県現任教育推進会議. 委員長. 2012年4月~現在.
- 千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会. 委員. 2020年4月~2023年3月.
- 令和5年度千葉県看護職員研修事業「実習指導者講習会」および「特定分野 (7日間コース)」受託者選定会議. 委員. 2023年2月~3月.
- 柏市保健衛生審議会. 副委員長. 2022年4月~2022年6月.
- 柏市保健衛生審議会. 委員長. 2022年7月~2024年6月.
- 柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会. 委員長. 2020年4月~2024年6月.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議. 委員. 2022年8月~2024年3月.
- 千葉県看護協会 千葉県ナースセンター運営委員会. 委員. 2022年7月~2024年6月.

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会、千葉看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、文化看護学会、日本家族看護学会、日本公衆衛生看護学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会、副理事長、2021年4月～2024年3月。
- ・文化看護学会、副理事長、2020年9月～2023年4月。
- ・日本地域看護学会、代議員、2021年6月～2023年5月。
- ・日本看護科学学会、代議員、2023年2月～2027年3月。
- ・日本地域看護学会、教育委員、2021年6月～2023年5月。
- ・日本地域看護学会、専任査読委員、2021年6月～2023年5月。
- ・千葉看護学会、利益相反（COI）委員会、委員長、2021年4月～2024年3月。
- ・千葉看護学会、専任査読委員、2005年4月～2024年3月。
- ・日本公衆衛生看護学会、査読委員、2022年6月～2024年5月。
- ・日本公衆衛生看護学会、倫理委員、2022年6月～2024年5月。
- ・第11回日本公衆衛生看護学会学術集会、座長、2022年12月17日～18日。
- ・第15回文化看護学会学術集会、学術集会会長・企画委員長、2022年3月～2023年4月。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和4年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者研修会講師、千葉県健康福祉部健康づくり支援課、保健師の実践能力・組織力向上のための効果的な現任教育のあり方～変化に強い人材・職場づくりをめざして～、県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者、2022年8月31日、千葉県教育会館。
- ・令和4年度千葉県保健活動業務研究発表会総合講評、千葉県、実践活動の質を高める業務研究となるために、千葉県内保健師、2023年3月7日、千葉県。
- ・令和4年度保健活動業務研修会、柏市、地域保健活動における地区診断～地区診断は共通ツール～、柏市職員、2023年3月24日、柏市ウエルネス。
- ・令和4年度保健活動業務研究における指導、夷隅保健所、保健所保健師、2022年6月～2023年3月、夷隅保健所。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議、看護学科人事評価部会、コロナ担当。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

実習に関しては、コロナ禍で体験できる内容に制限はあったものの、これまで蓄積してきた学内演習のノウハウを活かすことで、学生の満足度・学習目標の達成度が低下することはなかった。また、領域の長として、新任教員とはコミュニケーションを積極的にとり、教員としての課題を確認しながら必要なサポートを行った。研究活動については、自身が研究代表者となっているものを計画的に進めることはできなかったが、分担研究者としては6件の論文作成、5件の学会発表に貢献できた。管理運営面では、学科長として、各教員が意欲をもって教育、研究、管理運営、社会貢献に取り組めるよう体制を整備しサポートする。将来構想検討委員会委員長としては、重点施策の推進管理、教職員の情報共有会の開催、県への取組報告会の開催などを実施することはできたが、将来構想に関わる課題を進展させることはできなかった。社会貢献としては、自

治体、職能団体、学会等における役割を確実に遂行した。

## Ⅶ 次年度の目標

昨年度の授業評価もふまえ、事前課題・事後課題を効果的に設定し、学生の学習意欲と教育効果を高める。また、今年度予定されているカリキュラム評価および看護学教育評価受審を通して行われる評価結果を理解し、次年度以降の課題と改善点を整理する。研究については、代表となっている研究課題が今年度最終年度となることから、これまでの遅れを取り戻し、計画的に推進し、報告書としてまとめる。管理運営では、学部長として、学長のガバナンスを強化させ、重点施策の推進、シンクタンク機能の発揮、大学院等将来構想に関わる本学の方針の検討に尽力する。社会貢献では、本学の社会貢献事業に積極的に参画するとともに、県内の自治体、職能団体、学会等で与えられた役割を確実に遂行する。

## 教授 西野 郁子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては、領域内の教員の欠員がある状況においても、領域の教員間・授業協力者と連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。実習においては、感染防止対策を取りながら可能な限りの効果的な実習をしていきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、自己点検・評価委員会の委員長として、大学機関別認証評価の受審への対応や内部質保証を推進する役割に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・看護学入門.
  - ・看護学入門実習.
  - ・育成期看護概論.
  - ・小児看護学方法論Ⅰ.
  - ・小児看護学方法論Ⅱ.
  - ・小児地域ケア論.
  - ・小児看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，p. 13-18，2023年.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），配属異動後に小児看護に新たに携わる看護師の小児看護実践能力育成プログラム開発，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・千葉県子ども病院でのボランティア活動の推進のための協働・調整，2022年4月～2023年3月.

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課, 千葉県移行期医療支援連絡協議会委員, 2022年4月～2023年3月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会, 日本小児保健協会, 日本看護科学学会, 日本新生児看護学会, 千葉看護学会, 全国保育園保健師看護師連絡会, 日本保育保健協議会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本小児看護学会, 日本小児看護学会誌, 査読委員, 2022年4月～2023年3月.
- ・日本小児看護学会, 第33回学術集会査読委員, 2023年3月.
- ・千葉看護学会, 千葉看護学会会誌, 査読委員, 2022年4月～2023年3月.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・看護研究の研修会の講師, コツコツ学ぼうフォローアップセミナー, 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科社会貢献委員会主催, グループワークのファシリテーター, 千葉県内中小規模病院に勤務する看護職, 2023年8月, 千葉県立保健医療大学.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 自己点検・評価委員会 (委員長), 将来構想検討委員会, 教員再任審査委員会, 認証評価部会, IR部会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科教務委員会, 看護学科「看護研究」作業グループ会議, 看護学科「総合実習」作業グループ会議

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育においては、領域内の教員の欠員がある状況においても、領域の教員間・授業協力者間で連携して授業の質を保つことができた。実習においては、実習場から提示された感染対策に随時応えながら、見学が中心であったがすべての期間で臨地実習が実施できた。研究活動については、科学研究費助成事業に関して慢性疾患をもつ子どもの親への支援方法を作成したが、支援方法を洗練するための調査の実施は次年度になった。大学の運営面では、自己点検・評価委員会の委員長として、大学機関別認証評価の受審への対応を滞りなく実施でき、受審と並行して内部質保証の推進に取り組むことができた。社会貢献については、学科で企画した研修会の講師を担当した。

## VII 次年度の目標

非常勤講師として、科目責任者・担当教員と協働して講義・演習を効果的に実施する。

## 教授 河部 房子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動においては、これまでのコロナ禍における教育方法の検討をふまえ、より効果的な教育方法について検討し実施する。科研費を得て行っている研究は、最終年度になるため、これまでの研究成果をふまえた成果物（教材）を作成し、教育実践に取り入れることで有用性を検討する。また分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。

管理運営では、入試実施委員長として今年度の取り組みを評価しつつ、公正・公平かつ効率的な入試実施に向けて、よりよい方法を検討し、委員長としての役割を果たす。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護学入門実習.
  - ・看護学入門.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
  - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（統合看護技術）.
  - ・日常生活調整方法論
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・博士後期課程 論文審査員（副査）（宮崎県立看護大学大学院看護学研究科）

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・斉藤しのぶ、飛世真理子、和住淑子、河部房子：初めて模擬患者に対して看護過程を展開する場面における看護初学者の対象認識および表現の特徴、日本看護学教育学会誌、32巻3号、p1-13、2022.
- ・渡辺健太郎、今井宏美、河部房子：Learning Management Systemの導入が看護系大学生の学習活動に与える影響の解明、千葉県立保健医療大学紀要、14巻1号、p55-59、2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・渡辺健太郎、河部房子：看護系大学生の「主体的に学ぶ力」の向上を支援する取り組みと効果、日本看護学教育学会第32回学術集会、2022年8月.
- ・今井宏美、渡辺健太郎、麻賀多美代、麻生智子、鈴木祐子、酒巻裕之、真田知子、河部房子ほか：連続的に使用される非滅菌手袋の細菌付着とその安全性に関する研究、産業保健人間工学会第27大会回会、2022年10月、
- ・斉藤しのぶ、飛世真理子、齊藤可紗、和住淑子、林恵里子、河部房子ほか：対象の健康回復を目指した看護過程展開を

目的としたシミュレーション演習の学習効果, 第42回日本看護科学学会, 2022年12月.

#### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(B), 看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発, 研究分担者.
- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 夜間交替制勤務による看護師への影響と概日適応を促進する健康教育プログラムの開発, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本看護学教育評価機構, 評価員(副査), 2022年4月~2023年3月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護管理学会, 千葉看護学会, 日本看護学会, ナイチンゲール研究学会, 日本良導絡自律神経学会, 日本看護シミュレーションラーニング学会.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2013年4月1日~現在に至る.
- ・千葉看護学会, 理事, 2021年4月1日~現在に至る.
- ・千葉看護学会, 表彰論文選考委員会委員長, 2021年4月1日~現在に至る.
- ・千葉看護学会 第28回学術集会企画委員, 2021年9月~2022年9月.
- ・千葉看護学会 第29回学術集会長, 2022年8月~2023年9月.
- ・日本看護学教育学会, 専任査読者, 2018年4月1日~現在に至る.

#### 6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・千葉県循環器病センター看護研究指導, 臨床看護師, 2022年6月~2022年12月 計3回.
- ・コツコツ学ぼうフォローアップセミナー, 千葉県内中小規模医療施設中堅看護師, 2022年8月31日, オンデマンド.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学教授会, 学術推進企画委員会(副委員長), 紀要編集部会, 入試実施委員会(委員長), 入試改革検討委員会(副委員長), 教員資格審査委員会.

#### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科運営会議, 看護学科入試検討委員会(副委員長).

### VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動に関しては, 原則対面授業とする大学の方針に則り, 感染防止策を講じながら実施した. 少人数グループでの授業展開を工夫し, 限られた時間を学生が有効活用しながら技術習得ができるよう実施することができた. 実習においても, 昨年度と同様に全学生が臨地での実習を実施することができた. しかし, 病棟での実習時間が十分に確保されないことにより, 展開についていけないという学生の反応が多かった. 次年度は, 実習の進め方を検討する必要がある.

研究活動においては, 昨年同様に研究時間を確保することが困難であったが, その中でも科研費による研究課題について,

教材アプリの作成や総説の執筆と投稿を行うことができた。大学の管理運営では、入試実施委員長として公平・公正な入学  
者選抜試験の実施を担った。昨年度の入試実施方法の反省点を活かし、円滑に入試を実施することができた。また、小論文  
試験問題作成の支援体制や小論文試験の採点結果の入力方法等について、昨年度より導入した方法をふまえながら、円滑に  
進めることができた。

## VII 次年度の目標

教育活動においては、これまでのコロナ禍における教育実践での経験知をふまえ、より効果的な教育方法について検討し  
実施する。特に、技術演習や臨地実習において、学生の習得度や満足度が高まるよう、教員間の意思疎通をはかり、学生に統  
一した関わりがなされるよう調整する。研究活動としては、昨年開発したフィジカルアセスメント学習教材アプリの有用性  
の検証を行う。また分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。

管理運営では、看護学科長として学科内委員会の各委員長と連携をはかりながら、学科全体の管理運営業務を遂行する。  
特に、学科として実施する社会貢献事業については、委員長・委員と連携をはかり有意義な事業となるよう運営に携わる。  
また将来構想検討委員長として、重点施策の4年間のまとめと、今後5年間の目標設定について検討し、その役割を果たす。



## 教授 浅井 美千代 博士 (看護学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、学生の慢性疾患患者理解を促進する教授法を開発するための慢性期看護教育研究会を継続し、授業や学内演習の内容を改善する。研究活動は優先順をあげて取り組み、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行う。委員会活動では、学科の社会貢献活動が充実するように努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・看護学入門
  - ・看護学入門実習
  - ・臨床看護学概論
  - ・臨床看護学方法論 I
  - ・臨床看護学方法論 II
  - ・臨床看護学方法論 III
  - ・急性期看護学実習
  - ・慢性期看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合
  - ・体験ゼミナール
  - ・千葉県の健康づくり

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，真田知子，浅井美千代：COVID-19 感染拡大により学内で行われた総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，47-53，2023.
- ・田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，内海恵美，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護職者となって職場で感じた困難，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，61-67，2023.
- ・川城由紀子，浅井美千代，石川紀子，佐藤紀子，佐伯恭子：地域包括ケア病棟の看護師に求められる実践能力，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，19-28，2023.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・島田美恵子，浅井美千代，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，本宮暢子：関節リウマチ患者の握力と体組成，第77回日本体力医学大会，令和4年9月，WEB 開催.
- ・Mieko Shimada，Michiyo Asai，Taro Okamura，Nobuko Hongu：Association between nutrition status，physical function，and physical activity in patient with rheumatoid arthritis，22ND IUNS-ICN International Congress of Nutrition，2022/12/6-11，Japan.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活かした自己管理における意思決定支援の

方法, 研究分担者.

- ・学内共同研究費 (学長裁量), 千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会, 日本看護技術学会, 日本看護教育学学会, 日本がん看護学会, 日本介護福祉学会, 日本老年行動科学会, 日本看護科学学会, 千葉看護学会, 日本慢性看護学会, 北日本看護学会, 日本リウマチ看護学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本リウマチ看護学会, 査読委員, 2022年～現在.
- ・日本看護学会, 査読委員, 2022年4月～現在.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・看護研究指導, 千葉県循環器病センター, 看護師, 2022年6月17日・9月16日・12月7日・2023年1月27日.
- ・看護研究指導, 東京歯科大学市川総合病院, 看護師, 2022年10月12日・12月16日・2023年1月31日・2月21日.
- ・看護研修会の講師, 研究デザインの理解・研究計画書の書き方, 千葉県がんセンター, 看護師, 2022年12月6日.
- ・研修会の企画・運営, 千葉県立保健医療大学, 看護研究フォローアップセミナー, 看護師, 2022年8月31日.
- ・看護研修会の講師, 看護リフレクション研修Ⅰ, 千葉県循環器病センター, 看護師, 2022年7月13日.
- ・看護研修会の講師, 看護リフレクション研修Ⅱ, 千葉県循環器病センター, 看護師, 2022年10月29日.
- ・看護研修会の講師, コロナ禍における新任期看護職の成長・習熟への支援～養成施設学内実習における学生の看護過程についての学び及び現任教育の配慮～, 印旛健康福祉センター, 看護師, 2023年3月22日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学生委員会.
- ・入試改革検討委員会.
- ・FD・SD委員会
- ・IR部会

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学生・進路支援委員会.
- ・看護学科社会貢献委員会.
- ・看護学科コロナ担当.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動においては, 講義内容を一部修正したが, 実習での学生の活用状況から, さらなる検討が必要になると考えられたため, 引き続き講義内容を検討する. 研究活動は, 優先順位をあげることができず, 目標を達成できなかった. 具体策を明確にした取り組む必要がある. 委員会活動は, 学生委員として, 4年ぶりの対面でのいずみ祭開催を支援した. また, 学科のコロナ担当として, 学生の状況を把握し感染拡大の防止に努めた. 入試改革検討委員長としては, 委員会目標を達成に向けての適切な情報収集や意思決定方法に課題が残った. 社会貢献活動は, 県立病院看護師を対象とした新規の研修を引き受けるなど, 積極的に行うことができた.

## VII 次年度の目標

教育活動では、慢性疾患患者の看護の特徴をより明確に示せるよう、教材研究や研究活動に力を入れる。研究活動は、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行うことを最優先課題として行う。委員会活動では、ひとつひとつの仕事を確認しながら丁寧に行い、ミスを防ぐことを心がける。社会貢献活動は、前年度に引き続き、積極的に取り組む。

## 教授 春日 広美 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和3年度の経験をふまえ、令和4年度は対面授業が主となることもあり、在宅看護シミュレーション演習を取り入れて、従来通り、在宅の場を理解し、「在宅看護学を考える」ことができる学生の頭づくりを推進する。また、研究活動は、取り組んでいる文科省科学研究助成の研究について、研究倫理審査委員会の承認を得ることができたので、今年度は介入とデータ収集を行う年となる。計画通りに実施できるよう努力する。社会貢献活動では、千葉県民が望む場所で療養できるための環境づくり、人づくりを促進する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール
  - ・専門職間の連携活動論
  - ・リスクマネジメント論
  - ・看護学入門
  - ・看護学入門実習
  - ・ターミナルケア論
  - ・高齢者・在宅看護学概論
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ
  - ・在宅看護学方法論Ⅱ
  - ・退院支援論
  - ・在宅看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・春日 広美, 藤沼 小智子, 新井 志穂, 清水 典子: 大学キャンパス周辺の地域住民の保健・医療・福祉に関するニーズ調査, 東京医科大学雑誌, 80, 3, 218-224, 2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・遠山寛子, 春日広美, 山崎律子, 太田浩子, 久長正美, 窪島領子: ストーリー型教材を用いた授業内容とその教材の評価の動向, 日本看護科学学会第42回学術集会, 2022年12月2・3日, 広島.
- ・春日広美, 遠山寛子: 訪問看護師が就労介護者の介護離職防止のために行う看護活動に関する探索的研究, 日本在宅ケア学会, 2022年7月30・31日, 広島.
- ・山崎律子, 太田浩子, 窪島領子, 久長正美, 遠山寛子, ブルーヘルマンス・ラウル, 松永信介, 春日広美: 日本在宅ケア学会, 2022年7月30・31日, 広島.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）, e ラーニングを活用した分岐型ストーリーの在宅看護シミュレーションシステムの課題（研究代表者）

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）
- ・一般社団法人日本看護系大学協議会 文部科学省委託事業令和4年度「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究」調査事業実行委員会委員、2022年7月28日～2025年3月31日

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、千葉看護学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、日本医史学会、日本老年社会科学会、日本在宅ケア学会、日本家族看護学会、日本シミュレーション医学教育学会
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
- ・千葉看護学会会誌 査読委員
  - ・日本在宅ケア学会会誌 査読委員
  - ・日本看護歴史学会会誌 査読委員
  - ・日本看護協会会誌 査読委員
  - ・日本家族看護学会会誌 査読委員
  - ・日本看護歴史学会、第37回学術集会企画委員 令和4年6月3日～令和5年8月31日

#### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・危機管理委員会
  - ・紀要編集委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・学生・進路支援委員会

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度から対面でのアクティブラーニング（在宅看護シミュレーション）演習を実施した。主にロールプレイとディブリーフィングで構成するが、時間割上80名が同時にできるよう、B409実習室とB410教室をオンラインで結んで演習を実施した。アクティブラーニングにはかなり限られた実習室・教室環境であり、通信環境も十分ではないため、特にB409実習室にて展開される訪問看護場面をリアルタイムの映像としてB410教室の学生が見るのは困難があった。画像転送は遅れ、音声は聞こえない時間が長かった。アクティブラーニングを推進する高等教育全般の流れに沿い、可能なかぎり可能な学習機会の提供に努めることはできた。

#### VII 次年度の目標

昨年度よりも可能なかぎりの演習環境の充実をはかり、ラーニングピラミッドにおいてより学習効率が高い教育の提供を目指す。

在宅看護実習について、学生の在宅看護学の理解の向上、在宅看護の魅力が伝わる実習を目指して、その在り方を検討する。各実習施設の臨床指導者と懇談会を開催して意見を募る。検討事項は、実習スケジュールや受け持ち療養者の看護計画立案を課すこれまでの実習の在り方などである。臨床の意見を反映して、必要時、実習方法の改善を行う。

学内運営については、所属する全学委員会および学科委員会において職務を全うし、必要時、情報収集、資料提供、資料作成を行う。

社会貢献については、依頼のあった社会貢献活動を積極的に担当し、千葉県民の健康生活の維持、千葉県の看護の質の向上、特に訪問看護事業の拡大に寄与できるよう努める。

## 教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間: 2022年4月1日~2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

大学の管理運営 (人事委員長, 認証評価部会長) としての任務を滞りなく遂行する。機関別認証評価の受審の年となり, 書類等の完成と提出, 実地調査の対応に当たる。英語授業については対面での実施となり, 滞りなく非常勤講師を含めて実施できるように教員との連携, 学生の支援を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・英語 I (講読)。
  - ・英語 III (講読・記述)。
  - ・英語 V (保健医療英語) 看護学科。
  - ・英語 V (保健医療英語) 栄養学科。
  - ・英語 V (保健医療英語) 歯科衛生学科。
  - ・英語 VI (応用英語)。
  - ・英語 VII (上級英語) A。
  - ・英語 VII (上級英語) B。
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)。
  - ・実践歯科英会話 (日本歯科大学東京短期大学)

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・神田みなみ: 特集英語多読の底力「GR から児童書へ 英語読書を楽しもう!」多聴多読マガジン, Vol. 91, pp. 30-33, 2022.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 The Thirty-Nine Steps, 多聴多読マガジン, Vol. 91, p. 83, 2022.
- ・神田みなみ: 快読快聴ライブラリ解説 Kind Emma, 多聴多読マガジン, Vol. 96, p. 41, 2022.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018-2022 年度科学研究費補助金基盤研究(C), 保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証, 研究代表者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本多読学会, 日本英文学会, 大学英語教育学会 (JACET), 全国語学教育学会 (JALT), American Association of Applied Linguistics (AAAL: アメリカ応用言語学会), TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会), International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL: 英国・外国語としての英語教育学会), 映像メディア英語教育学会, 外国語教育メディア学会, Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会), 日本医学英語教育学会, 英語コーパス学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本多読学会, 監事・理事, 2022年4月～2023年3月.
- ・国際異文化学会, 副会長・理事, 2023年4月～2023年3月.

## 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・初期医療言語サービスボランティア研修, 神田外語大学 / 千葉県立保健医療大学, 「対象者への声がけと状況把握」, 令和5年3月12日, 9時30分～16時, 千葉県立保健医療大学.

## 7 その他

- ・千葉県立保健医療大学・韓国インジェ大学国際シンポジウム, 司会担当, 2021年3月23日, オンライン.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 共通教育運営会議, 教務委員会, 人事委員会, 入試改革検討委員会, 自己点検・評価委員会認証評価部会, 教員資格審査委員会, 教養教育のあり方に関する検討ワーキング.

### 2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教授会, 看護学科学生・進路支援委員会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動として, 令和4年度は全ての授業が対面となり, 改めて英語専任教員として非常勤講師と連携し, クラス分け, 名簿作り, 学生や教務に関する情報交換, 学生対応等の業務を遂行した. 図書館のオンラインライブラリー及び Teams を利用して, 事前・事後課題, 授業内課題や学習記録等のオンライン提出を行い, 指導の効率化と補強を行うことができた. 大学の管理運営業務としては, 委員長として人事委員会にて教員組織の定期的検証を実施し, 教員組織の検討を行った. 大学機関別認証評価受審に関しては訪問調査の準備・対応を認証評価部会と自己点検・評価委員会とともに滞りなく進めた.

## VII 次年度の目標

教育に関して, 担当の英語科目を充実させて保健医療職として活用できる英語指導, 英語カリキュラムを非常勤講師を含めて効果的に実施できるように教員との連携, 学生の支援を行う. 大学の管理運営 (人事委員長) としての任務を遂行する.



## 教授 木内 千晶 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は特に、教育においては、県民の健康ニーズに即した看護実践能力を養うため、学生の理解に合わせた講義・演習・実習を展開する。研究においては、科研費の助成を受け行っている研究について、コロナ禍で制約がある中でも可能な限り高齢者看護の質向上を目指し看護職のチーム力を促進させる研究調査を推進する。大学運営では、学科、全学委員会活動に積極的に参画し担当の役割を、責任をもって果たす。社会貢献では、学会における役割を確実に果たす。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール
  - ・看護学入門
  - ・看護学入門実習
  - ・高齢者・在宅看護学概論
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ
  - ・高齢者看護学方法論Ⅱ
  - ・高齢者看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・看護管理学演習Ⅱ、埼玉医科大学大学院

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Maki Matsuo, Yuko Takayama, Chiaki Kinouchi, Eiko Suzuki : The Mediating Role of Sense of Coherence and Striving for Work-Life Balance on Intention to Leave From Nurses' Burnout, The Journal of Health Care Organization, Provision, and Financing, 60, pp.1-8, 2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・高山裕子, 柳井田恭子, 藤原実香, 松尾まき, 町田貴絵, 木内千晶 : 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下における病院勤務看護職の困難感, 第26回日本看護管理学会学術集会, 令和4年8月19日～20日, 福岡
- ・町田貴絵, 松尾まき, 北島裕子, 高山裕子, 小檜山敦子, 木内千晶, 鈴木英子 : 病棟看護師のチーム連携への影響要因, 第26回日本看護管理学会学術集会, 令和4年8月19日～20日, 福岡
- ・齋藤史枝, 木内千晶, 赤石美幸 : 介護老人保健施設職員の急変時の感染対策を含めた対応の実態とシミュレーショントレーニングのニーズ, 第24回北日本看護学会学術集会, 令和4年9月3日～10月1日, オンライン開催
- ・Yuko TAKAYAMA, Maki MATSUO, Chiaki KINOUCHI, Takae MACHIDA, Atsuko KOBIYAMA : Hospital Nurses' Competencies during the Pandemic of Coronavirus Disease 2019, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS, 3月10日～11日, 東京

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（若手研究），高齢者看護に携わる看護補助者のワーク・エンゲイジメント・プロセスモデルの検証，研究代表者
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ウィズコロナ社会における看護職の困難感因果モデルと緩和的介入の明確化，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），ヘルスリテラシーに着目した脊髄損傷者の褥瘡再発予防のための教育プログラムの開発，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・岩手看護学会，日本認知症ケア学会，日本老年行動科学学会，日本看護研究学会，日本看護科学学会，日本老年看護学会，日本看護管理学会，北日本看護学会，日本看護学教育学会

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・北日本看護学会、専任査読者，2021年3月1日～現在に至る
- ・岩手看護学会，理事，2022年4月1日～現在に至る
- ・岩手看護学会、査読委員，2023年2月9日～現在に至る

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国際交流委員会，大学教授会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，看護学科教授会，看護学科運営会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、レスポンスシートを活用し学生の理解度等を把握し講義内容に反映させた。公欠の学生に対しては、オンラインで講義を受講できるよう配慮した。実習は新型コロナウイルス感染症の影響により、学内実習に置き換えることがあったが、領域教員と協力して、実習目標を到達できるよう内容を吟味した。技術演習については、次年度より一部の講義を演習に変更することを決定し準備を進めることができた。研究活動は、科研は倫理審査を終了したが、研究時間の確保ができず、調査準備等を進めることができなかった。学会発表および学術論文執筆は共同研究者として参画することができた。大学運営、社会貢献については、与えられた役割を責任をもって遂行することができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、講義・演習において学生が主体的に学習できるよう、アクティブラーニングの要素を取り入れ、学習を支援する。また、今年度より実習記録を一部変更するため、実習での学生の学びの過程を評価し、領域教員の実習指導力の向上に努める。研究活動では、遅れている科研の研究調査を実施する。分担者となっている科研の研究についても積極的に参画する。学長裁量研究においては研究メンバーと協力し研究を推進する。管理運営では、社会貢献委員会の委員長として大学の社会貢献活動がスムーズに実行されるようリーダーシップを発揮する。また、学科の委員会では担当役割を責任をもって果たす。学会等の役割も確実に遂行する。

## 教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

地域包括ケアを担う看護職者の育成に向けて、精神看護実践能力を高める効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に次年度は遠隔と対面授業の効果を検証しつつ、各科目の目的が達成できるよう授業を企画運営する。研究活動では、科研費や学内共同研究費の研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。管理運営業務では、研究活動についての広報活動の推進、大学認証評価および看護学分野別認証評価受審に向けた準備、学内教務の質の向上を目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・看護学入門.
  - ・看護学入門実習.
  - ・精神看護学概論.
  - ・精神看護学方法論Ⅰ.
  - ・精神看護学方法論Ⅱ.
  - ・精神看護学実習.
  - ・退院支援論.
  - ・心の健康.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・体験ゼミナール.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・公衆衛生学（東京医科歯科大学大学院）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・小宮 浩美、加藤隆子、小林雅美：看護学生は患者とのかかわる意味をどうとらえるのか（その2）、精神科看護、49巻10号、64-71. 2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・小宮 浩美、加藤 隆子、小林 雅美：精神看護学実習における教員が実施するSST(Social Skills Training)を体験した学生の学び、第32回日本精神保健看護学会学術集会、2022年5月、東京
- ・加藤 隆子、小林 雅美、小宮 浩美：精神看護学実習におけるロールプレイ演習の学び うつ状態の患者役と看護師役の体験を通して、第32回日本精神保健看護学会学術集会、2022年5月、東京
- ・小林 雅美、小宮 浩美：精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症患者の力と退院へと導く看護、第32回日本精神保健看護学会学術集会、2022年5月、東京
- ・梶本真理亜、小宮浩美：思春期や青年期におけるレジリエンスを発揮するプロセスの研究、第29回日本精神科看護専門学会、2022年11月、島根

- ・鈴木祐子, 小宮浩美, 小山均: 退院支援において症状悪化が生じ, 支援を中断した後の看護の検討, 第29回日本精神科看護専門学会, 2022年11月, 島根
- ・金丸友, 飯村直子, 原 加奈, 小宮浩美, 三池純代, 東本裕美: 保育所の保育士・看護職が感じる精神疾患をもつ母親との関わりにおける困難, 第42回日本看護科学学会学術集会, 2022年12月, 広島

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C). 精神科病棟の看護師を対象に EBP に関する継続的な学習を支援する教育システムの開発, 研究分担者.
- ・学内共同研究費, 千葉県内公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人 日本精神科看護協会, 論文査読委員, 2022. 4. ~現在に至る
- ・一般社団法人 日本精神科看護協会千葉県支部, 顧問, 2022. 4. ~現在に至る

#### 5 学会, 学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護管理学会, 日本精神保健看護学会, 千葉看護学会, 日本看護評価学会.

##### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会, 査読者, 2022. 4. ~現在に至る
- ・日本精神保健看護学会, 倫理・利益相反委員会 委員, 2022. 4. ~2023. 6. 代議員会終了時まで
- ・日本看護評価学会, 編集委員, 2022. 4. ~2023. 3. 31.
- ・千葉看護学会, 第29回学術集会企画委員, 2022. 11. ~現在に至る

#### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・新人看護職員研修担当者研修, 千葉県看護協会主催, 新人看護師の基礎教育の状況, 新人看護職員研修担当者または教育担当者, 10月24日10時~12時30分 (オンライン)

#### 7 その他

- ・精神看護出版, 編集委員, 2022. 4. ~2023. 3. 31.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学教授会, 広報委員会, 教務委員会, 教員資格審査委員会.

#### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 人事評価部会, 看護学科運営会議.

### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 自己主導型学習を促進するため, 精神看護学方法論1, 精神看護学概論において, 領域内教員と協働しながら, ロールプレイとグループワークの教授方法と取り入れた. 方法論1では各精神疾患の事例について授業で知識を説明し, 事後課題では授業の知識の活用を促した. ロールプレイ演習ではコミュニケーション力の強化を目指し, 学生全員のプ

ロセスレコードの課題に個別に教員からフィードバックした。実習ではクラスターにより病院から受け入れ中止となったグループにおいて、急遽実習先の病院を変更し臨地実習を行った。学内演習においても教育の質が下がらないよう、新しいプログラムを実施した。研究活動は、教育実践における研究の成果の発表と共同研究として新しい研究テーマに着手した。しかし、代表者となっている研究が遅れているため、次年度はスピード感をもって研究を推進したい。大学管理運営は、広報委員会委員長として3年ぶりの対面オープンキャンパスの実施をはじめとした広報活動を推進した。また、全学教務委員および看護学科副教務委員長として、学内教務の円滑な進行に努め、成績異議申し立て制度の規程作成、ポートフォリオの手引きの修正にあたった。分野別評価受審のための資料準備および学科内の規程や申し合わせの修正・作成を行った。学外の関係団体の委員の役割を果たした。

## Ⅶ 次年度の目標

地域包括ケアを担う看護職者の育成に向けて、精神看護実践能力を高める効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容をさらに充実させる。特に県内の精神科看護を担う人材を輩出していきたい。研究活動では、科研費の代表者となっている研究計画を推進するとともに、これまでの研究成果の論文投稿に取り組む。管理運営業務では、教員再任審査委員会および共通教育運営会、倫理審査委員会における役割を果たす。特に教員再任審査委員会においては委員長として円滑な審査と審査項目や審査方法の課題の解決を目指す。

## 教授 太和田 暁之 博士 (医学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

- ・教育：基礎医学と臨床医学の系統講義を通じて学生の総合的な発展を支援し、人道的な価値観と卓越した臨床スキルを備えた将来の医療に貢献する医療専門家の育成を目指す。
- ・研究：先端技術と革新的な手法を駆使し、疾病メカニズムの解明と革新的な治療法の発見に取り組み、予防と治療の分野で革新的な成果を生み出す。
- ・管理・運営：大学組織の効果的かつ効率的な運営を追求し、高等教育機関としての戦略的かつ持続的な発展に寄与する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・人体の構造と機能Ⅰ.
  - ・人体の構造と機能Ⅱ.
  - ・人体の構造と機能Ⅲ.
  - ・病態学Ⅰ.
  - ・病態学Ⅲ.
  - ・臨床検査論.
  - ・内科学概論(歯科衛生学科).
  - ・高齢者医療論(歯科衛生学科).
  - ・高齢者医療論(栄養学科).
  - ・画像診断学(全学科・専攻).
  - ・体験ゼミナール(全学科・専攻).
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)。
  - ・なし

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線 : 著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・なし

#### 2 学術論文・その他 (著者 : 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Ozeki Y, Kanogawa N, Ogasawara S, Ogawa K, Ishino T, Nakagawa M, Fujiwara K, Unozawa H, Iwanaga T, Sakuma T, Fujita N, Kojima R, Kanzaki H, Koroki K, Kobayashi K, Nakamura M, Kiyono S, Kondo T, Saito T, Nakagawa R, Suzuki E, Ooka Y, Nakamoto S, Muroyama R, Tawada A, Chiba T, Arai M, Kato J, Ikeda JI, Takiguchi Y, Kato N. Liver biopsy technique in the era of genomic cancer therapies: a single-center retrospective analysis. Int J Clin Oncol. 27(9):1459-1466(2022)
- ・Imai C, Saeki H, Yamamoto K, Ichikawa A, Arai M, Tawada A, Suzuki T, Takiguchi Y, Hanazawa T, Ishii I. Radiotherapy plus cetuximab for locally advanced squamous cell head and neck cancer in patients with cisplatin-ineligible renal dysfunction: A retrospective study. Oncol Lett. 23(5):152(2022)

- 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）  
 ・なし
- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）  
 ・なし
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）  
 ・科研費基盤研究(C)，肝癌感受性遺伝子 MICA のシェダーゼ阻害を基盤とした新規治療薬の探索，太和田暁之(研究代表者)，荒井潤(研究分担者)，室山良介(研究分担者)  
 ・科研費基盤研究(C)，肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的治療の開発，瀧口雄一(研究代表者)，太和田暁之(研究分担者)，椎葉正史(研究分担者)，新井誠人(研究分担者)
- 6 受賞・特許  
 ・なし

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称. 活動期間. 場所等）
- 1) 千葉県内  
 ・なし
  - 2) 千葉県外  
 ・なし
  - 3) 海外  
 ・なし
- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）  
 ・なし
- 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称. 委員名称. 活動期間）  
 ・なし
- 4 職能団体委員等（職能団体名称. 委員名称. 活動期間）  
 ・なし
- 5 学会，学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体  
 ・The Asian Pacific Association for the Study of the Liver，日本内科学会，日本臨床腫瘍学会，日本消化器病学会，日本消化器内視鏡学会，日本肝臓学会，日本人類遺伝学会，千葉医学会
  - 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）  
 ・なし
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 時場所）  
 ・なし

## 7 その他

- ・なし

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、学生委員会、共通教育運営会議、FD/SD 委員会、健康危機対策委員会会議(COVID-19 対策会議)、教授会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生進路支援委員会、進路支援部会、人事評価部会、1 年生担任、学科教授会。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・なし

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・教育：全学科・看護学科、栄養学科、歯科衛生学科、リハビリテーション学科(理学療法学科・作業療法学科専攻)の学部生を対象に基礎医学および臨床医学の系統講義を行った。
- ・研究：文部科学省科学研究科研費助成事業の(研究代表)研究課題を遂行した。
- ・管理・運営：COVID-19 対策会議に参画し、科学的エビデンスや国内外の政策動向を踏まえ、COVID-19 対応マニュアルを適宜改訂した。学術推進企画委員会(委員長)では競争的外部資金の獲得を促進する新たな方策を立案し次年度の実施への道筋をつけた。学内の学術研究の促進のために外部講師によるFDを複数回開催した。

## VII 次年度の目標

- ・教育：基礎医学と臨床医学の系統講義を通じて学生の総合的な発展を支援し、人道的な価値観と卓越した臨床スキルを備えた将来の医療に貢献する医療専門家の育成を目指す。
- ・研究：先端技術と革新的な手法を駆使し、疾病メカニズムの解明と革新的な治療法の発見に取り組み、予防と治療の分野で革新的な成果を生み出す。
- ・管理・運営：大学組織の効果的かつ効率的な運営を追求し、高等教育機関としての戦略的かつ持続的な発展に寄与する。



## 准教授 雨宮 有子 博士（スポーツ健康科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育では、特にコロナ禍で、保健師活動の実際を学べる教育方法へ改訂し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献では、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として看護分野別評価を進め教育体制を整備する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・地域看護学概論.
  - ・地域看護学方法論II.
  - ・地域看護学方法論III.
  - ・看護政策論
  - ・地域看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・2023年版 保健師国家試験問題 解答と解説，成人保健活動・高齢者保健活動，2022，医学書院，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・雨宮有子，荒木田美香子，牛尾裕子，齊藤和美，下村登喜子，新谷アサ子，林裕美：災害時における自治体保健師間連携（ネットワーク）の検討，令和4年度地域保健総合推進事業「災害時における自治体保健師間連携（ネットワーク）の検討」報告書，1-135，2022.
- ・宮崎美砂子，奥田博子，雨宮有子，時田礼子，相馬幸恵，山田祐子，藤原真里，井口紗織：災害時における所属機関の異なる保健師間及び地元関係団体との連携項目リストの精練，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和3年度 総括・分担研究報告書，7-13，2022.
- ・奥田博子，雨宮有子：災害時の保健活動における所属機関の異なる保健師間及び地域関係組織団体との連携強化のための体制整備に関するグループインタビュー調査，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和3年度 総括・分担研究報告書，70-88，2022.
- ・宮崎美砂子，奥田博子，雨宮有子，時田礼子，相馬幸恵，山田祐子，藤原真里，井口紗織：災害時の保健活動推進のための保健師間及び地元関係団体との連携強化に向けた体制整備ガイドラインの作成，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和3年度 総括・分担研究報告書，89-121，2022.
- ・Sameh Eltaybani, Haruno Suzuki, Ayumi Igarashi, Mariko Sakka, Yuko Amamiya, Noriko Yamamoto-Mitani: Long-term care facilities' response to the COVID-19 pandemic: A protocol of a cross-sectional, multi-site, international survey. WILEY. Nursing Open. 9(5) Sep 2022, 2506-2517, doi.org/ 10.1002/nop2.1264. 2022. 6.
- ・Kentaro Sugimoto, Noriko Sato, Yuko Amamiya, Noriko Hosoya: Infection control measures promoted by the

public health center for “housing for the elderly” facilities during norovirus cluster outbreaks. Journal of Rural Medicine. 17(3), Jun 2022, 151-157, doi: 10.2185/jrm.2022-006.

- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 松浦めぐみ: リフレクションに基づく個別支援能力向上プログラムに参加した保健師の個別支援の現状, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 3-11, 2023.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 杉本健太郎, 雨宮有子, 泰羅万純: 全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の実態と関連要因, 日本公衆衛生雑誌, 69(8), 606-616, 2022.8.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 杉本健太郎, 雨宮有子, 泰羅万純: 全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動, 日本地域看護学会誌, 25巻, 2号, 4-12, 2022.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・雨宮有子, 高岡誠子, 奥田博子, 吉川悦子, 井口理, 春山早苗: IHEATの可能性と発展への課題 (ワークショップ). 第11回日本公衆衛生看護学会, 2022.
- ・雨宮有子, 奥田博子, 宮崎美砂子, 時田礼子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時の保健活動推進のための連携強化に資する体制 (1) 所属機関の異なる保健師間. 第81回日本公衆衛生学会総会, 403, 2022.
- ・奥田博子, 雨宮有子, 宮崎美砂子, 時田礼子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時の保健活動推進のための連携強化に資する体制 (2) 地元関係団体. 第81回日本公衆衛生学会総会, 403, 2022.
- ・宮崎美砂子, 時田礼子, 奥田博子, 雨宮有子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時保健活動における所属機関の異なる保健師間の連携. 第81回日本公衆衛生学会総会, 403, 2022.
- ・時田礼子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 雨宮有子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時保健活動における地元関係団体との連携. 第81回日本公衆衛生学会総会, 403, 2022.
- ・雨宮有子, 石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 拝田一真: 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と外部専門家のパートナーシップ形成の要素. 日本地域看護学会第25回学術集会, 227, 2022.
- ・石橋みゆき, 雨宮有子, 佐藤奈保, 坂上明子, 高橋良幸, 拝田一真: 自然災害からの回復・復興と災害に強い地域づくりに向けた住民と支援者のパートナーシップ形成過程. 日本地域看護学会第25回学術集会, 226, 2022.
- ・伊藤隆子, 吉田千文, 雨宮有子, 辻村真由子, 島村敦子, 石垣和子: コロナ禍における在宅ケア専門職が経験するモラルディストレスと対処. 第42回日本看護科学学会学術集会, 1111, 2022.
- ・細谷紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 佐藤紀子: リフレクションに基づく実践能力向上プログラムを受講した保健師の個別支援の現状と課題. 日本地域看護学会第25回学術集会, 257, 2022.
- ・立石順久, 石橋みゆき, 黒田久美子, 雨宮有子, 佐藤奈保, 岩崎寛: 学部教養教育としての「災害シチズンサイエンス演習」の取組—音声SNSアプリを用いた防災まち歩きによる地域防災への理解と関与を深める試み—. 第28回日本災害医学会総会・学術集会, 2023.
- ・雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎: 新人保健師のリフレクション力育成のためのファシリテーションガイドの開発—批判的分析に資する「自己の考えの意識化」を意図するガイド項目の使用状況と影響—. 令和2年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 105, 2023.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎: リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査, 令和3年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 95, 2023.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 2016-2022, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究代表者.
- ・地域保健総合推進事業, 2022, 災害時における自治体保健師間連携 (ネットワーク) の検討, 研究代表者.
- ・厚生労働省科学研究費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業), 2022-2023, 自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究, 研究分担者.
- ・厚生労働省科学研究費 (健康安全・危機管理対策総合研究事業), 2022-2023, 保健所における感染症対応職員の役割機能強化のためのガイドライン及び研修プログラムの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B)), 2020-2023, Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2018-2023 在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログ

- ラムの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2019-2023, エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局. 参与. 2020年3月～現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本難病看護学会. 日本家族看護学会. 日本在宅看護学会. 日本在宅ケア学会. 日本看護管理学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 千葉看護学会. 日本保健医療福祉連携教育学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・一般社団法人 日本公衆衛生看護学会. 代議員. 2021年～2024年.
- ・一般社団法人 日本家族看護学会 専任査読者. 2016年8月1日～2024年8月31日.
- ・公益社団法人 日本看護科学学会. 和文誌選任査読委員. 2021年10月1日～2023年9月30日.
- ・一般社団法人 日本在宅看護学会. 査読者. 2021年11月～現在.
- ・一般社団法人 日本在宅ケア学会. 査読員. 2022年7月10日～2024年.
- ・日本保健医療福祉連携教育学会学術誌. 査読員. 2021年4月1日～2025年3月31日.
- ・千葉看護学会. 査読委員. 2018年4月1日～2024年3月31日.
- ・日本家族看護学会第29回学術集会. 査読委員. 2022年5月.
- ・第15回文化看護学会学術集会. 実行委員長・事務局員・企画委員・査読委員. 2022年3月より現在に至る.

### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・令和4年度健康危機における保健活動推進会議. 厚生省健康局健康課. ①統括的な役割を担う保健師の危機管理に係る連携 (ネットワーク) の現状とこれからの展望, ②健康危機発生時における自身の役割・行動を考える～実際の事例によるシミュレーション, ③～平時からのつながりが活きる～統括的な役割を担う保健師のネットワークづくりに向けて. 全国都道府県の本庁等・保健所設置市・特別区・一般市町村に所属する統括保健師または統括的役割を担う保健師. 2022年11月1日. Web 会議開催.
- ・令和4年度保健師中央会議. 厚生労働省健康局健康課. 効果的・効率的な保健活動の推進に向けた多様な取組. 全国都道府県の本庁等・保健所設置市・特別区・一般市町村に所属する統括保健師または統括的役割を担う保健師. 2022年8月3日. 全国都市会館.
- ・2022年度保健師管理者能力育成研修. 千葉県健康福祉部. 根拠に基づく事業・施策の展開. 市町村に勤務する保健師で管理者あるいは次期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者として役割・機能を果たす者. 2022年11月16日. 千葉県教育会館.
- ・2022年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修. 千葉県健康福祉部. 標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術. 特定保健指導従事経験年数3年目以上の従事者 (県内市町村の国民健康保険等, 医療保険者および保健衛生部門等ならびに県内医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師, 管理栄養士等). 2022年9月6日. Web 会議開催.
- ・全国保健師長会千葉支部研修. 千葉市職員保健師会. やってみよう! リフレクション～視点が広がる人材育成～. 全国

保健師長会千葉支部会員。2022年11月30日。千葉市保健所。

- ・2022年度第1回習志野保健所管内保健師業務連絡研究会。習志野保健所。コロナ禍における地域保健福祉活動の実践。習志野保健所および管内自治体の保健師。2022年6月24日。習志野保健所。
- ・2022年度第2回習志野保健所管内保健師業務連絡研究会。習志野保健所。保健師活動の振り返り。習志野保健所管内令和4年度新規採用保健師。2022年11月11日。習志野保健所。
- ・2022年度第2回松戸保健所管内保健師等業務連絡研究会。松戸保健所。地区診断を通じて災害時に備える～住民を守る視点を保健師活動に活かす～。松戸保健所管内中堅保健師等。2022年10月17日。Web会議開催。
- ・2022年度第1回ケアの意味を見つめる事例研究。東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野。模擬事例を用いた演習。ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方。2022年7月2～3日。Web開催。
- ・2022年度第2回ケアの意味を見つめる事例研究。東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野。模擬事例を用いた演習。ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方。2022年12月24～25日。Web会議開催。
- ・看護を見つめる研修会。さいたま赤十字病院。ケアを見つめる事例研究。埼玉赤十字病院 中堅看護師。2022年8月25日、10月6日。さいたま赤十字病院。
- ・業務研究サポート。千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議。君津保健所：結核の困難事例からみえた保健師のかかわりと今後のありかた。君津保健所保健師。2022年6月～12月。
- ・業務研究サポート。千葉県公衆衛生看護学教育連絡会議。松戸市：日本語版M-CHATの第2段階スクリーニング時の保健師が特に困難と考える状況への効果的な対応方法の検討。松戸市保健師。2022年8月～12月。Web会議。

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・教務委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科教務委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、前年度の引き続きコロナ禍でWeb会議システムや事例、映像教材を活用し、コロナ禍以前と同等の教授内容を担保できた。今年度、新たに開講した健康政策論では対面で開講できた。保健師として17名が就職した。研究では、文部科研・厚労科研等において、論文発表5本（共著）、報告書4編（筆頭1篇）、学会発表11本（筆頭4本）等により公表した。特に、地域保健総合推進事業における研究成果として、令和4年度健康危機における保健活動推進会議を厚生労働省健康局健康課と共に企画・演習等の実施及び評価した。その成果は、全国都道府県・保健所設置市・一般市町村へ還元した。加えて、研究成果に基づき、コロナ感染拡大の波の合間に対面での保健所管内研究会講師等を担い、人材育成・体制整備を支援できた。管理運営としては、学科教務委員長としてCOVID-19拡大防止策を全学の方針に基づき随時、調整した。また、2023年度看護学教育評価受審に向け、「成績評価の異議申立てに関する規程」を全学で整備し2023年度から運用開始するなど、必要な対英整備・書類作成ができた。

## VII 次年度の目標

教育では、担当科目において、学生が看護職、特に保健師への関心を高め基礎的知識及び実践能力が学得できるよう努める。研究に関しては、共同研究の計画的推進とともに既存の研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献では、県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援することに加え、学術団体や国の委員において全国の保健師活動の発展に貢献できるように努める。管理・運営に関しては、研究倫理審査の体制整備に参画する。

## 准教授 細谷 紀子 博士 (看護学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育については、今年度より担当する看護政策論をはじめ、専門職間の連携活動論、その他担当科目について学生の学びを保証・支援できるようにする。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員や学術団体の各委員として役割を果たす。また、今年度より担当する千葉県および保健医療科学院主催の研修講師について有益なものとなるよう努める。大学の管理運営については、全学総務・企画委員、看護学科総務・企画委員長としての職務を責任をもって遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・地域看護学概論
  - ・地域看護学方法論Ⅱ
  - ・地域看護学方法論Ⅲ
  - ・地域看護学実習
  - ・災害看護学
  - ・看護政策論
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合
  - ・専門職間の連携活動論

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・細谷紀子：第2章 I 障害児者保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版 2023年版各論1 (宮崎美砂子他編集)，180-225，2023年2月，日本看護協会出版会，東京。

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・細谷紀子，佐藤紀子，杉本健太郎，雨宮有子，泰羅万純：全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の実態と関連要因，日本公衆衛生雑誌，69巻，8号，606-616，2022。
- ・細谷紀子，佐藤紀子，杉本健太郎，雨宮有子，泰羅万純：全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動，日本地域看護学会誌，25巻，2号，4-12，2022。
- ・細谷紀子，佐藤紀子，雨宮有子，杉本健太郎，松浦めぐみ：リフレクションに基づく個別支援能力向上プログラムに参加した保健師の個別支援の現状，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻第1号，3-11，2023。
- ・Kyoko Yoshioka-Maedal, Takafumi Katayama, Misa Shiomi, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii and Tatsushi Mayama: Feasibility of an educational program for public health nurses to promote local healthcare planning: protocol for a pilot randomized controlled trial, Pilot and Feasibility Studies, 2022. <https://doi.org/10.1186/s40814-022-01054-8>
- ・Kyoko Yoshioka-Maedal, Misa Shiomi, Takafumi Katayama, Noriko Hosoya, Hitoshi Fujii and Tatsushi Mayama: Association between public health nurses' involvement in local healthcare planning and the corresponding off-the-job training, Nursing Open, 10, 796-806, 2023. <https://doi.org/10.1002/nop2.1347>

- Kentaro Sugimoto, Noriko Sato, Yuko Amamiya and Noriko Hosoya : Infection control measures promoted by the public health center for “housing for the elderly” facilities during norovirus cluster outbreaks, Journal of Rural Medicine, 17(3), 151-157, 2022.
- 吉岡京子, 塩見美紗, 細谷紀子, 本田千可子, 岩崎りほ : WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の活用における保健師との連携に関する研究, 令和3(2021)年度厚生労働科学研究費(障害者政策総合研究事業)「WHO 統合国際診断面接第5版(CIDI 5.0)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検証および活用のための体制整備に資する研究」分担研究報告書, 18-20, 2023.
- 細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎 : リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査, 令和3年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 95, 2023.
- 大川由一, 細山田康恵, 麻生智子, 大内美穂子, 室井大佑, 松尾真輔, 佐久間貴士, 細谷紀子, 佐伯恭子, 成玉恵, 河野公子, 麻賀多美代, 岡村太郎, 成田悠哉 : 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム(新・ほい大健康プログラム)の評価, 令和3年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 102, 2022.
- 雨宮有子, 佐藤紀子, 細谷紀子, 杉本健太郎 : 新人保健師のリフレクション力育成のためのファシリテーションガイドの開発—批判的分析に資する「自己の考えの意識化」を意図するガイド項目の使用状況と影響—, 令和2年度学長裁量研究抄録, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻第1号, 105, 2023.

### 3 発表(発表者:発表タイトル,主催学会(学会名称),開催日,場所等.本人下線)

- 細谷紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 佐藤紀子 : リフレクションに基づく実践能力向上プログラムを受講した保健師の個別支援の現状と課題, 日本地域看護学会第25回学術集会, 2022年8月27日~28日, 富山県.
- 吉岡京子, 片山貴文, 塩見美紗, 細谷紀子, 藤井仁, 真山達志 : 保健医療福祉計画策定に関する保健師WEB教育プログラムの開発:パイロット調査, 第81回日本公衆衛生学会総会, 2022年10月7日~9日, 山梨県.

### 5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名,研究テーマ,研究代表者/研究分担者)

- 2020~2023年度科学研究費助成事業(基盤研究(C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究代表者.
- 令和4(2022)年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業), ICTを用いた保健師活動アルゴリズム及び評価手法の開発と統括保健師による人材育成への活用, 研究分担者.
- 2020~2023年度科学研究費助成事業(基盤研究(C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 分担研究者.
- 2019~2022年度科学研究費助成事業(基盤研究(B)), 保健医療福祉計画策定に必要な保健師の施策化能力向上のための教育プログラムの開発, 分担研究者.
- 2019~2022年度科学研究費助成事業(基盤研究(C)), エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 分担研究者.
- 2022年度学長裁量研究費, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム(新・ほい大健康プログラム)の評価, 共同研究者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等.活動期間.場所等)

#### 1) 千葉県内

- 新・ほい大プログラム(第1回看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」10月1日, 第3回看護学科プログラム「いきいき生活を続けるために」11月26日. UR真砂第一団地).

### 3 審議会,委員会,国家試験委員等の実績(活動団体名称.委員名称.活動期間)

- 千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会委員. 2021年7月より現在に至る.
- 千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員. 2021年6月より現在に至る.
- 八千代市第2次健康まちづくりプラン推進評価委員, 2022年6月より現在に至る.
- 八千代市健康づくりアドバイザー, 2022年6月より現在に至る.

- ・令和4年度千葉県保健師現任教員教育検討会。有識者。2022年9月～2023年3月。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会。千葉看護学会。日本公衆衛生学会。日本看護科学学会。文化看護学会。日本公衆衛生看護学会。日本ルーラルナーシング学会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会誌査読委員。2015年4月より現在に至る。
- ・日本ルーラルナーシング学会誌査読委員。2020年4月より現在に至る。
- ・文化看護学会。編集委員会委員。2020年9月より現在に至る。
- ・日本看護系大学協議会。災害連携教員。2021年1月より現在に至る。
- ・第26回東アジア研究者フォーラム（26th East Asian Forum of Nursing Scholars : EAFONS2023）。査読委員。2022年8月。
- ・第15回文化看護学会学術集会。事務局長・企画委員・査読委員。2022年3月より現在に至る。
- ・日本公衆衛生看護学会誌査読委員。2022年6月より現在に至る。

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和4年度「公衆衛生看護研修（中堅期）」。国立保健医療科学院。リスクマネジメント（災害）と保健師の役割。中堅期保健師40名。オンデマンド講義（2022年5～6月）。
- ・令和4年度中堅中堅前期保健師研修会。千葉県健康づくり支援課。千葉県内中堅期保健師60名。オンデマンド講義および集合研修。2022年10月3日、12月14日。千葉県教育会館
- ・業務研究に関する指導。四街道市。アフガニスタン人母子の生活実態・子育てニーズと今後の支援のあり方。四街道市健康増進課保健師5名。2022年8月～11月。
- ・令和4年度第4回香取保健所管内保健師業務連絡研究会。香取保健所。住民に伝わる事業評価の方法について。香取保健所管内保健師10名。2022年12月23日（書面開催）。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務企画委員会。特色科目運営会専門職間の連携活動論作業部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科総務・企画委員会。看護学科総合実習作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、「専門職間の連携活動論」科目責任者として、3年ぶりの全面対面授業に向け調整役割を担い学習効果を高めることができた。看護政策論についてはこれまでの研究成果を活かした講義内容を立案し教授することができた。研究については、科研費等による研究成果を筆頭著者3編を含む論文6編、報告書等4件および学会発表2件により公表した。また今年度より厚生労働科学研究費補助金による研究課題の分担研究者としての取り組みを開始した。社会貢献については千葉県国民健康保険団体連合会の保健事業支援・評価委員や、千葉県および保健医療科学院主催の研修講師等により役割を果たすことができた。大学の管理運営については、看護学科総務・企画委員長および全学総務企画委員としての任務や入試等の業務について責任をもって遂行することができた。

## Ⅶ 次年度の目標

教育については、担当科目において学生が看護への関心を深め、基礎的実践能力を習得できるように努める。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県主催の保健師現任教育や関係機関・学術団体の各委員の任務を責任をもって遂行する。加えて、今年度より看護学科社会貢献委員長を担うため、地域包括ケアを担う看護職に対する研修等を推進できるように努力する。大学の管理運営については、前述の看護学科社会貢献委員会委員長、および学術推進企画委員としての職務や入試業務等を責任をもって担う。



## 准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では、母性看護学実習の臨地実習をより充実した実習内容に修正を行う。研究活動では地域包括ケアに関する研究成果を論文化し公表する。また新たな研究に着手する。管理運営・社会貢献では、「コツコツ学ぼう！セミナー」のフォローアップセミナーを開催し、臨床での研究活動の活性化に貢献する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・専門職間の連携活動論。
  - ・母性看護学方法論Ⅰ。
  - ・母性看護学方法論Ⅱ。
  - ・母性看護学実習。
  - ・助産学概論。
  - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)。
  - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)。
  - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)。
  - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)。
  - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)。
  - ・助産学実習Ⅱ (継続支援)。
  - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)。
  - ・総合実習。
  - ・看護研究。
  - ・看護学統合。

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所。)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 川城由紀子他：助産診断・技術学Ⅱ[3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2023年, 医学書院, 東京。

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川城由紀子, 浅井美千代, 石川紀子, 佐藤紀子, 佐伯恭子：地域包括ケア病棟の看護師に求められる実践能力, 千葉県立保健医療大学紀要, 14, 1, 19-28, 2023。

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 山崎麻子：熟練助産師の産後抑うつ状態の診断における観察の視点, 第63回日本母性衛生学会学術集会, 2022年9月9・10日, 兵庫。

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費基盤 (C), 日本人更年期女性に生じる骨量低下に関連する日常生活要因の探索—睡眠状態を中心に—, 研究代表者。

- ・科学研究費基盤 (C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究分担者.
- ・学内共同研究, 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 母子のための地域包括ケアシステムの現状と課題—モデル構築に向けた文献研究, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会, 助産師職能委員, 2018年6月～2022年6月.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本母性看護学会, 日本母性衛生学会, 日本衛生学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県母性衛生学会, 理事, 2022年6月～現在に至る.
- ・日本母性看護学会, 専任査読委員, 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉看護学会, 査読委員, 2018年10月～現在に至る.
- ・第53回日本看護学会学術集会, 抄録選考委員.

### 7 その他

- ・千葉県立保健医療大学看護学科主催, コツコツ学ぼう! フォローアップセミナー講師, 研究指導の実践例の紹介, 看護職, 2022年8月オンデマンド配信.
- ・千葉県立保健医療大学将来構想委員会企画, 将来構想にかかる情報共有会, 千葉県内看護職者の実践力の向上を図る研修プログラム構築の取り組み, 本学教職員, 2022年9月5日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究倫理審査委員会

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科社会貢献委員会, 看護学科倫理審査委員会, 看護学科3年生担任.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

令和4年度は, 教育活動では, 特に母性看護学実習の臨地実習の期間を増やし, 施設側と調整しながら受け持ち実習を再開することができた. 受け持ち実習を通して看護過程を展開し, 昨年度より学生の学びを深めることができた. 研究活動では, 地域包括ケアに関する研究成果を本学紀要で公開することができた. また, 科研費を獲得し, 新たな研究に着手することができた. 管理運営では, 「コツコツ学ぼう! フォローアップセミナー」をオンラインで開催し, また講師として「研究指導の実践例の紹介」を行い, 臨床での研究活動に貢献できた. 看護学科倫理審査委員長としては, 倫理審査基準の作成と周知を行い, 学科教員間で統一した理解につながった.

## Ⅶ 次年度の目標

令和5年度は、教育活動では、母性看護学実習の臨地実習をさらに充実できるよう、実習内容を検討する。研究活動では、科研費の研究を遂行する。管理運営では、進路支援委員として、県内就職の促進を念頭に置きながら、学生の進路選択や志望する進路に進められるよう支援を行う。社会貢献では、千葉県母性衛生学会理事等について責任をもって役割を遂行する。

## 准教授 三枝 香代子 修士 (教育学)

対象期間：2022年4月1日～2022年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では学生の学びの状況を把握して細やかな対応をし、理解しやすい授業内容となるよう工夫する。研究活動については、科学研究費補助金基盤研究(C)の計画を進めていく。大学運営については、委員会で担当する役割を滞りなく進める。社会貢献については、貢献できるように積極的に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・ターミナルケア論.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・成人看護援助論Ⅰ (和洋女子大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・田口智恵美, 三枝香代子, 大内美穂子, 内海恵美, 坂本明子, 浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻, 第1号, 61-67, 2023.
- ・内海恵美, 田口智恵美, 三枝香代子, 大内美穂子, 坂本明子, 浅井美千代：卒業生による, COVID-19感染拡大により学内でシミュレーション実習となった総合実習の振り返り, 千葉県立保健医療大学紀要, 第14巻, 第1号, 49-55, 2023.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・今井宏美, 三枝香代子, 中畑千夏子, 坂下貴子, 茂野香る：リニューザブルカフを介した病原微生物伝播の検証, 日本環境感染学会, 37回 P60-, 2022.6月
- ・松崎裕佳, 根岸一樹, 三枝香代子：患者と家族の意思の相違に対する意思決定支援の一考察, 日本救急看護学会学術集会, 2022年10月.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C), 運動器外傷患者の回復過程における希望を維持する看護支援プログラムに関する研究, 研究代表者.

- ・学内共同研究費（学長裁量）、千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難、研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・災害訓練協力者プログラム参加 第1回10月6日、第2回10月13日、第3回10月29日 千葉県救急医療センター。

### 3. 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・看護学校教育課程編成委員、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校、年2回  
(2022年10/20・2022年3/16)
- ・学校関係者評価委員／主任評価委員、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校、年2回  
(2022年10/20・2022年3/16)

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、日本クリティカルケア看護学会、日本救急看護学会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研究会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・初期医療言語サービスボランティア研修、神田外語大学／千葉県立保健医療大学、「一時救命処置（一般市民用）講習」「一時救命処置（一般市民用）実習」、令和5年3月12日、9時30分～16時、千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究指導、1病棟 年3回、東京歯科大学市川総合病院。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育委員会、教務委員会、社会実習作業部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護研究作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については、昨年度の教育内容・方法を洗練させることができた。また、臨地実習においては、学生の学びの状況を把握し、細やかに対応しながら教育を進めることができた。研究活動については、新型コロナウイルスまん延により調査対象である施設の現場は対応に追われ、研究協力を依頼できる状況ではなかった。次年度は早々に取り組む予定である。大学運営については、共通教育委員会、教務委員会での役割を遂行することができた。看護学科教務委員会では、カリキュラム実施部会長として看護学科のカリキュラム全般にわたってメンバーと協働しながら遂行することができた。社会貢献については、看護専門学校の学校関係者評価委員や実習施設の研究指導等を行った。

## VII 次年度の目標

教育活動では、より効果的な教育方法を検討し改善を図る。研究活動では、コロナの影響により遅れているデータ収集に取り組む。大学運営については、担当するカリキュラムに係る委員会の年間行事を滞りなく進める。社会貢献については、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

## 准教授 北川 良子 博士 (看護学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では、特に助産科目の演習、実習の内容の見直しを行い、ニューノーマルな時代に合わせたより質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、計画的に研究を遂行できるように時間を確保することと、研究成果をまとめ公表するとともに新たな研究に着手する。管理運営では、入試実施委員会として安全公正な全学的な入試実施に努めるとともに、看護学科入試検討委員長として学科内の入試・広報業務が円滑に行えるように努める。社会貢献では学会の総務理事として円滑な学会運営に寄与する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・母性看護学方法論Ⅰ.
  - ・母性看護学方法論Ⅱ.
  - ・母性看護学実習.
  - ・助産診断・技術学Ⅰ.
  - ・助産診断・技術学Ⅱ.
  - ・助産診断・技術学Ⅲ.
  - ・助産診断・技術学Ⅳ.
  - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
  - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
  - ・助産学実習Ⅲ (産婦ケア).
  - ・総合実習.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所.)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 小川亮, 北川良子他:助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2023年, 医学書院, 東京.

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・増田恵美, 石井 邦子, 北川 良子:産後1ヶ月における骨盤周囲の固定による腰背部痛に対する効果, 千葉県立保健医療大学紀要,

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・石井邦子, 川城由紀子, 北川良子, 川村紀子, 山崎麻子: 熟練助産師の産後抑うつ状態の診断における観察の視点, 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2022

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2021～2023 年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラム

- ムの開発, 研究分担者.
- ・2022 年度 学内共同研究, 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案, 研究代表者.
- ・学内共同研究 (学長裁量), 母子のための地域包括ケアシステムの現状と課題—モデル構築に向けた文献研究, 研究分担者

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会.
- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
  - ・日本母性看護学会 総務理事 (2019 年 6 月から現在に至る)
  - ・日本母性看護学会, 査読委員 (2017 年 4 月～現在に至る)

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施委員会, 自己点検・評価実施推進部会

##### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科入試検討委員会, 看護学科 2 年生担任.

##### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学 (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

#### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 令和 4 年度も COVID19 の影響に伴う授業形態の変更・内容の検討を余儀なくされたが, オンライン・オンデマンド配信を取り入れ学生の学びや反応から学習目標を達成し得る内容であったことが確認できた. 実習においても学内実習への変更, 実習施設の変更・新規開拓があったが目標達成となる実習ができた. 研究活動では, 共同研究者として新たな研究に着手することができたが, 教育や大学運営に多くの時間を費やしたため十分な研究活動を行うことができなかった. 管理運営では, 看護学科入試検討委員会委員長として 3 年ぶりの対面によるオープンキャンパスと入試実施に対応することができた. 共通テストの実施では関係者とともに協力し滞りなく実施することができた. 社会貢献では, 日本母性看護学会総務理事として関係者と協働しながら役割を遂行できた.

#### VII 次年度の目標

教育活動では, 特に助産科目の演習, 実習の内容の見直しを行い, ニューノーマルな時代に合わせたより質の高い教育を提供できるようにする. 研究活動では, 研究成果をまとめ公表するとともに新たな研究に着手する. 管理運営では, 入試実施委員会として安全公正な全学的な入試実施に努めるとともに, 看護学科入試検討委員長として学科内の入試・広報業務が円滑に行えるように努める. 社会貢献では学会の総務理事として円滑な学会運営に寄与する.

## 准教授 今井 宏美 博士（工学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は従来の対面型の授業に Online での技術習得のための自己学習を組み合わせ、双方のよい処を生かした効率的な技術獲得方法を検討していきたい。研究活動は資金獲得した研究活動および、昨年度 COVID - 19 の影響によって十分なデータが得られなかった部分を補完し、同時にこの時代のニーズにあった研究を一部担っていく。また、職位にみあうような組織内での活動が可能となるようを広い視野をもって円滑な運営に努めたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
  - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・日常生活調整方法論
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・看護師国家試験問題集，2022，医学書院，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・渡辺健太郎，今井宏美，河部房子：Learning Management System の導入が看護系大学生の学習活動に与える影響の解明，千葉県立保健医療大学紀要，14巻1号，p55-59，2023.
- ・看護教育，看護教員のつぶやき2，看護技術習熟のための自己学習動画，口腔ケア（ブラッシング）技術を例として，2022，医学書院，東京.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，三枝香代子，中畑千夏子，坂下貴子，茂野香おる：リニューザブルカフを介した病原微生物伝播の可能性の検証，第37回日本環境感染学会学術集会，2022年6月16-18日，ハイブリッドパシフィコ横浜.
- ・今井宏美，真田知子，渡辺健太郎，河部房子，三澤哲夫：連続使用しているグローブの安全性の検討，日本人間工学会第63回大会，2022年7月30-31日，広島県尾道.
- ・今井宏美，渡辺健太郎，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，酒巻裕之，真田知子，河部房子，三澤哲夫：連続的に使用される非滅菌手袋の細菌付着とその安全性に関する研究 - 第2報 - ，産業保健人間工学会第27大会回会，2022年10月15日，玉川大学



- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費助成若手研究、現実適合性の高いモデルを活用した歯周病疾患予防・悪化防止に資するプログラムの創成、研究代表者。
  - ・科学研究費補助金基盤研究（C）、看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発、研究分担者。
  - ・科学研究費助成事業（補助金）基盤研究（B）、身体的インタラクション特性に基づく介護動作生成モデルおよび適用システム、研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 5 学会、学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会、日本環境感染学会、日本看護学教育学会、日本看護技術学会、日本看護科学学会、勤務環境改善マネジメント研究会、産業保健人間工学会、日本人間工学会

###### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉看護学会 第29回学術集会企画委員、2022年9月～現在に至る。
- ・産業保健人間工学会、未来検討委員会、2023年1月～現在に至る。

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・健康教室、社会貢献委員会、楽しむことで若さを Keep しませんか？、歯科診療室来院の地域住民、2022年12月17日、歯科診療室。
- ・東京歯科大市川総合病院看護研究指導、臨床看護師、2022年7月～2023年3月、東京歯科大市川総合病院。
- ・千葉県循環器病センター看護研究指導、臨床看護師、2022年6月～2022年12月 計3回、WEB。

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会、看護学科入試検討委員会、1年次生担任、看護学科運営会議。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、対面授業が再開されたものの、3密の回避のために実習室での自己練習時間の使用制限等の制約はあったため、登校時は技術演習と自己練習した技術確認の時間に充て、事前/事後および技術の部分学習はOnlineでの対応にする等の充実を図った。この取り組みについて、商業誌に取り上げられた。しかしながら、本学はLMSの活用が十分になされない教育環境下でもあることからLMSの効果について分析しその有効性を再確認した。研究としてはCOVID-19感染拡大以降に急速に増加した多剤耐性菌に関連する調査研究を行い、学会にて座長推薦をいただいた。一方で、外部資金を獲得していた代表と授業協力いただいていた療養者が急逝、領域内に欠員が生じたことから教育に費やす時間が多く、研究の進捗にも影響があった。大学運営では、1年次生のリーダーおよび広報委員としての役割遂行に多くの時間を割き、円滑な運営に努めた。

#### VII 次年度の目標

2023年度は、5類に引き下げられたCOVID-19との共存を医療職・教育職として感染状況を見極めながら、パンデミックの中で高校・大学生活を過ごしてきた学生の教育方策を検討していきたい。研究活動はこれまでの成果の論文化と、作成し

た教育教材の評価を行いつつ、新しい教育教材アプリの開発を行っていく。大学の管理運営においては、領域内では欠員が続くことが予想され、学科内委員では人員削減があるが、各業務ごとに目標を設定し、効率化をすすめてつ話しやすい・相談しやすい雰囲気をつくることで円滑な運営に努めたい。

## 准教授 西村 宣子 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育に関しては、2年間オンライン授業を中心に受けた学生が、対面授業に集中して受講できるよう授業内容や方法を工夫した授業を展開していく。感染対策を踏まえ、臨地実習目標が達成できる効果的な方法について継続して検討し、実施する。研究活動においては、今年度科研費を得ている研究は、介入研究を計画しているため、計画的かつ精力的に推進し、また、成果の公表に向けて準備をする。大学の運営管理については、前年度の経験を活かして円滑に責務を遂行する。また、学生の就職活動の支援を継続して行っていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護管理論
  - ・看護キャリア発達論
  - ・看護倫理
  - ・リーダーシップ論
  - ・リスクマネジメント論
  - ・看護学入門
  - ・国際看護論
  - ・家族看護論
  - ・看護管理実習
  - ・基礎看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合
  - ・専門職間の連携活動論

### III 研究記録

#### 1 著書（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・西村宣子 富樫恵美子：一般病院に勤務するセカンドキャリアに関する意識調査，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，1号，p21-28，2022，
- ・西村宣子：看護サマリーの書き方，看護技術，メヂカルフレンド社，Vol.68，No10，p69-73，2022.
- ・西村宣子：看護師のセカンドキャリアに管理者経験はどう生かせるか，週刊 医学界新聞，第3491号，2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・西村宣子，富樫恵美子：人生100年時代 セカンドキャリアを自分らしく生きる～看護管理者としての経験を活かしたキャリアデザイン～（インフォメーションエクステンジ），第26回日本看護管理学会学術集会，2022年8月19～20日，福岡国際会議場，マリンメッセ福岡B館
- ・NORIKO NISHIMURA，EIKO SUZUKI：Awareness survey on second career for head nurses working at general hospitals. International Nursing and public Health Conference，2023年3月16日～18日，Village Hotel Bugis Singapore.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・2021～2023 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C））、行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修の開発、研究代表者。
  - ・千葉県保健医療大学 共同研究、新人看護師の夜勤導入におけるマネジメントの実践、研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）
- ・公益社団法人 日本看護協会 認定実行委員会 委員（2022年4月～2024年3月）
  - ・公益社団法人 千葉県看護協会 教育委員会 委員（2022年8月～2024年7月）
- 5 学会、学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本看護管理学会、日本運動器看護学会、日本災害医学会、医療マネジメント学会、日本看護教育学会。
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）
- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導、2022年7月～2023年3月 計8回（2部署）、臨床看護師。
  - ・第41回・42回認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会、人材管理Ⅰ、リーダーシップ、看護管理者、2022年6月26日、2023年1月20日、公益社団法人千葉県看護協会。
  - ・看護管理者研修会、「看護管理者のための看護倫理」、看護管理者、2022年12月2日、公益社団法人千葉県看護協会
  - ・習志野保健所管内看護管理者研修会、「看護管理における組織作りとマネジメント」、館内病院の看護管理者、2023年2月22日、千葉県習志野健康福祉センター。

#### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・学生委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・看護学科運営会議、学生・進路支援委員会、進路支援部会、4年生担任リーダー。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動に関しては、感染防止策を講じながら、主体的に学習することと学生同士の理解や自尊心が高められるよう、参加型授業、グループワークをできるだけ取り入れるなど授業方法を工夫して展開することができた。臨地実習においては、実習施設との綿密な調整、特別講師の協力を得ながら実習方法を柔軟に計画し、限られた時間の中でもおおむね実習目標を達成することができた。

大学運営については、委員会メンバーと連携を図りながら担当する責務を果たした。また、大学の重点施策の一つである「専門職の現任教育体制の整備」として、県内実習施設、本学卒業生の就職施設との「卒前・卒後教育情報交換会」を企画し、開催することができた。今後は継続的な仕組みを構築していくことが課題である。

研究活動については、介入研究である看護管理者研修を計画通り3回開催することができ、また、関連学会での研究成果の発表も行うことができた。

#### VII 次年度の目標

教育活動においては、前年度の教育方法についての評価を踏まえてより効果的な授業を展開していく。また、担当科目のなかで、長い臨床経験で得た看護職としてのやりがい、尊さについて事例を用いながら伝え看護に対する関心を高めていき

たい。研究活動においては、昨年度実施した介入研究の成果の検証のために計画的に推進していく。次年度より、看護学科学生・進路支援委員長になるがその職務を責任をもって務めていく。

## 准教授 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育では、発展する医療や看護の状況を反映した教授活動ができるよう、学会等で最新の知見を得て講義内容等を更新する。大学運営では、担当する学生支援や進路支援に関わる委員会の年間行事を滞りなく進め、国家試験合格や県内就職につながるよう活動する。研究活動では、自己の専門性を追究するテーマで研究を進め、成果を報告する。社会貢献では、職能団体、学会、実習施設など、多様な場で活動する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・臨床看護学概論.
  - ・臨床看護学方法論Ⅰ.
  - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
  - ・臨床看護学方法論Ⅲ.
  - ・急性期看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・救命・救急の理論と実際.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)。
  - ・クリティカルケア看護学特論Ⅴ (急性期看護援助論B) (順天堂大学大学院).

### III 研究記録

#### 1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。)

- ・田口智恵美：第Ⅵ章内視鏡治療・鏡視下手術の術前・術後の看護，看護学テキスト NiCE 成人看護学 急性期看護①概論・周手術期看護 (改訂第4版) (林直子，佐藤まゆみ編集)，2023，南江堂，東京。

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線)

- ・田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，内海恵美，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護師となつて職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，61-67，2023。
- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，浅井美千代：卒業生による，COVID-19感染拡大により学内でシミュレーション実習となった総合実習の振り返り，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，49-55，2023。

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・田口智恵美，臨床状況で情動を伴うクリティカルケア看護師の行動の様相，千葉県立保健医療大学共同研究発表会，2022年8月，千葉。

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）  
・学内共同研究費（学長裁量）、千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難、研究分担者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本看護協会、論文審査・編集委員会委員、2021年4月～現在

##### 5 学会、学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本クリティカルケア看護学会、日本循環器看護学会、千葉看護学会、日本看護学会

###### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本看護科学学会、和文編集委員会専任査読委員、2018年9月～現在
- ・日本クリティカルケア看護学会編集委員会委員、2019年5月～現在。
- ・日本クリティカルケア看護学会、査読委員、2004年～現在。
- ・日本循環器看護学会、学会誌選任査読委員、2013年2月～現在。
- ・日本看護学会、査読委員、2021年4月～現在。
- ・日本看護学会学術集会、一般演題座長、2022年11月8日。

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・講演会、千葉県循環器病センター、「研究計画書の書き方」、看護研究に取り組んでいる看護職員、令和4年7月29日17時30分～18時30分、千葉県循環器病センター（Zoom）。
- ・初期医療言語サービスボランティア研修、神田外語大学／千葉県立保健医療大学、「体勢への配慮」「一時救命処置（一般市民用）実習」、令和5年3月12日、9時30分～16時、千葉県立保健医療大学。
- ・看護研究指導、1病棟、年3回、東京歯科大学市川総合病院。
- ・看護研究指導、2病棟、年6回、千葉県循環器病センター（遠隔）。

##### 7 その他

- ・ファシリテーター、千葉県立保健医療大学看護学科、看護研究のコツがてんこ盛り！コツコツ学ぼうフォローアップセミナー、コツコツ学ぼうセミナー受講者、令和4年8月31日、13時～15時、千葉県立保健医療大学（Zoom）。
- ・ファシリテーター、千葉県立保健医療大学看護学科学学生・進路支援委員会、ホームカミングデー、本学看護学科2021年度・2020年度卒業生、令和4年9月3日、11時～12時、千葉県立保健医療大学。

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員会。

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営委員会、看護学科学学生・進路支援委員会、総合実習作業部会。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学会等で発信されている最新の知見を講義内容に取り入れ更新した。大学運営では、学生・進路支援委員長として、担任制マニュアルを刷新して学生支援体制整備に貢献した他、卒業生ホームカミングデーや学生の就職・実習施設との情報交換会の開催を実現させ委員会としての成果を上げた。社会貢献では、職能団体・看護系学会・実習関連施設と

多様な場で活動することができた。研究活動では、学内共同研究の助成を受けて実施した研究成果を公表するとともに、さらに発展させる形で研究を継続した。今後はこれまでの成果を活かし、発展的に活動をしていく必要がある。

## VII 次年度の目標

教育では、発展する医療や看護の最新の情報を収集し、現状に即した内容をタイムリーに教授内容に反映させていく。大学運営では、社会実習担当や国際交流委員として新たに求められる役割を理解し、関連する担当教員や事務局と協働・連携しながら任務を遂行する。研究活動では、担当する複数の研究を年度内に成果として報告できるよう進める。社会貢献では、引き続き職能団体、学会、実習施設など多様な場で活動する。



## 講師 成 玉恵 修士 (政治学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

今年度は対面授業が開始されるため、アクティブラーニングを取り入れた授業や演習を機能的に行う。また、実習では、Teams等オンライン機能を利用しデジタルによる実習記録の活用を試みる。研究に関しては、科学研究費が最終年であるため調査をすすめ研究の成果をまとめる。また、墨田区と共同で進めている研究の成果を発表する。社会貢献活動では、引き続き墨田区の地域包括支援センターの事業評価研修を行い、技術向上に寄与する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
  - ・高齢者・在宅看護学方法論 I
  - ・在宅看護学方法論 II
  - ・在宅看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護学統合

### III 研究記録

- 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)
  - ・成 玉恵: 地域包括支援センターを対象にした事業評価研修の効果—カークパトリックの研修評価を用いた質的研究—, 第27回日本在宅ケア学会学術集会, 2022年7月, オンライン開催.
- 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)
  - ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 市町村保健師による民間活力を活かしたヘルスケア対策に向けた基盤的研究, 研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)
  - ・ほい大健康プログラム, 令和4年10月～11月の2回, 千葉市.
- 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)
  - ・墨田区, 介護保険事業運営協議会委員, 2021年4月～2024年3月.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本在宅ケア学会, 日本地域看護学会, 日本行政学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本看護学教育学会, 日本看護科学学会, 日本公衆衛生学会.
- 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)
  - ・高齢者支援総合センター 高齢者みまもり相談室職員専門研修, 墨田区, 事業評価アドバンスコース 事業評価の見え

る化と outcome→ロジックモデルを作成してみよう。 墨田区高齢者支援総合センター 高齢者みまもり相談室職員。  
令和4年8月22日 9月5日。 墨田区役所会議室。

- ・実践的な地域アセスメントを考える 組織で取り組む継続的な地域アセスメントの提案ワークショップ。 日本地域看護学会第25回学術集会。 2022年8月28日。

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・図書委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科教務委員会、看護学科総務・企画委員会、総合実習作業部会

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度は、対面授業が開始されたため、アクティブラーニングを取り入れた授業や演習を積極的に行った。 本学のネット環境が不十分なためトラブルも多かったが、概ね学生の参加姿勢も良く、実習のレディネスになったと考える。 実習では、Teams 等オンライン機能を利用し、冊子による実習要項の配布を廃止、デジタルによる実習記録の活用を行った。 これにより、実習中の記録指導の効率化がはかられ、実習内容が充実したと考える。 研究に関しては、科学研究費が最終年であったがコロナ禍のため調査が進まず、研究の成果をまとめることができなかった。 そのため、科学研究費は1年間の延長申請を行い、次年度は引き続き調査を進め、研究の成果をまとめる。 社会貢献活動としては、墨田区の地域包括支援センターの事業評価研修を2回行った。 これらの成果を研究として学会で発表することができ、併せて墨田区の第8期介護保険事業計画の総括に貢献したと考える。

## VII 次年度の目標

次年度は、更に授業や演習、実習にデジタル化を取り入れ、DXを推進した教育を行う。 授業ではオンライン機能を利用し遠方の講師を招き講義を行う。 演習では様々なデジタル機器を駆使しアクティブラーニングを進める。 実習では Teams 等オンライン機能を利用し、臨地での双方向的な指導を試みる。 研究に関しては、科学研究費が最終年であるため調査をすすめ研究の成果をまとめる。 社会貢献活動では、引き続き墨田区の地域包括支援センターの事業評価研修を行い、第9期介護保険事業計画の立案に寄与する。

## 講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動においては、コロナ禍の影響がみられる学生に対し、丁寧なコミュニケーションと対人による相互理解を促進するような授業を心掛け、学生の1人ひとりが学習課題に向き合えるようサポートしていく。また、今の保健医療従事者に求められる県民や社会ニーズに関心を持ち、授業や実習においてその要素を取り入れ展開していく。研究活動においては、外部資金獲得において研究計画が採択されるよう取り組む。また、委員会活動においてはその職務を遂行し、常に改善点を考え提案できる視点を持ちながら役割を果たしていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・看護管理論
  - ・看護管理実習
  - ・看護キャリア発達論
  - ・リーダーシップ論
  - ・看護倫理
  - ・基礎看護実習
  - ・総合実習
  - ・千葉県の健康づくり
  - ・専門職間の連携活動論
  - ・看護研究
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・西村宣子 富樫恵美子：一般病院に勤務するセカンドキャリアに関する意識調査，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，1号，p21-28，2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・西村宣子 富樫恵美子：人生100年時代 セカンドキャリアを自分らしく生きる～看護管理者としての経験を活かしたキャリアデザイン～，（インフォメーションエクステンジ），第26回日本看護管理学会学術集会，2022年8月19～20日，福岡国際会議場，マリンメッセ福岡B館.
- ・水野有希 水野基樹 山田泰行 芳地泰幸 岩浅 巧 富樫恵美子 新井由美 稲葉健太郎 林 英範 櫻井順子：コロナ禍における看護組織のコミュニケーション形態の変化に関する一考察，第26回日本看護管理学会学術集会，2022年8月19～20日，福岡国際会議場，マリンメッセ福岡B館.
- ・水野基樹 芳地泰幸 岩浅 巧 山田泰行 水野有希 富樫恵美子 新井由美 稲葉健太郎 福田妙子 岡田 綾：ウェアラブル技術と感性制御技術を用いた看護組織のコミュニケーションと組織活性化に関する研究，第26回日本看護管理学会学術集会，2022年8月19～20日，福岡国際会議場，マリンメッセ福岡B館.
- ・富樫恵美子：中小規模病院における新人看護師の夜勤導入の実際，第57回人類動態学会全国大会，2022年10月29日，小田原短期大学.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者/研究分担者）

- ・千葉県保健医療大学 共同研究、新人看護師の夜勤導入におけるマネジメントの実際、研究代表者。
- ・2021～2023 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C））、行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修の開発、共同研究者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本医療マネジメント学会、医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会、人類働態学会、産業保健人間工学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・人類働態学会、理事、2022年9月1日～2023年3月31日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・令和4年度千葉県立保健医療大学公開講座、セルフ・コンパッションー自分のことを思いやる。一般市民、2022年10月22日、オンライン開催。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会・カリキュラム実施部会・看護学科履修ガイダンス主担当
- ・総務・企画委員会・看護学科運営会議主担当

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、学生の理解しやすさと自ら学びを深めていける問いを学生自身が抱けるよう医療界の時事問題や臨床現場で起こっていることにも触れ、授業を工夫した。また、課題に対してはその後に解説を行い理解を助けるようにし、理解度は概ね70%以上が年間を通し9.8割と効果的であった。しかし、相互理解という点では議論が深まらず課題が残った。研究活動においては進捗が大幅に遅れ、学会発表が1件のみとなってしまった。委員会活動においては、周囲と協力しながら工夫点を加えて実施できた。また、公開講座を担当し参加者からも評価をいただき、テーマについて更に発展させていきたいと感じた。

## VII 次年度の目標

コロナ禍の影響がひと通り見通せるようになり、主に対面での授業や実習になっていく中で、社会情勢を見据えてこれから期待される看護職の役割とは何か？それにはどのような能力が必要になるのか？常に考えながら、教育活動に反映できるように自身の能力向上に取り組み、それを学生に還元していくよう心掛ける。また、研究活動においては外部資金獲得を果たし、計画的に研究に取り組む体制を整えていく。更に大学組織での委員会活動及び社会貢献活動にも積極的に参加し、役割期待に応えられるよう取り組む。

## 講師 川村 紀子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度の教育活動では、講義・演習・実習における学習目標を達成できるように、コロナ前後による効果を見直し実施する。また、学生個々のレジネスに応じた指導、学生が主体的に学習を継続できるように工夫する。研究活動は、計画的に活動時間を確保し、様々な研究に取り組み、収集したデータの分析を進め、研究成果をまとめる。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう適切に判断すること、また看護学教育評価の受審の準備を行い、役割を遂行する。社会貢献活動では、幅広い視野を持ち社会貢献活動に参加する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・母性看護学方法論Ⅰ。
- ・母性看護学方法論Ⅱ。
- ・母性看護学実習。
- ・助産診断・技術学Ⅰ。
- ・助産診断・技術学Ⅱ。
- ・助産診断・技術学Ⅲ。
- ・助産診断・技術学Ⅳ。
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）。
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）。
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）。
- ・総合実習。
- ・体験ゼミナール。
- ・看護研究。
- ・看護学統合。

### III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・石井邦子，廣間武彦，小川亮，川村紀子他：助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2023年，医学書院，東京。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，北川良子，川村紀子，山崎麻子：熟練助産師の産後抑うつ状態の診断における観察の視点，第63回日本母性衛生学会総会・学術集会，2022年9月9,10日，神戸。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2018～2023年度 科学研究費補助金基盤研究（C），助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発，研究代表者。
- ・2021～2023年度 科学研究費補助金基盤研究（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者。
- ・2021～2022年度 学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア

支援プログラムの考案, 共同研究者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉県母性衛生学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・日本母性看護学会, 選挙管理運営部会委員, 2022年10月1日～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・教務委員会.

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科入試検討委員会, 看護学科2年生担任.

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学 (<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義内容及び指導内容を再検討し, 改善点を修正し学習効果を図ることができた. 新生児看護の講義, 演習, 実習における一貫性及びコロナ前後による効果を考慮し, 学生の反応や評価より学習目標を達成することができた. 母性看護学及び助産学実習において, 施設との連絡調整を図り安全に実習を行うことができた. また学内での母性看護学実習内容を見直し, フィジカルアセスメントの課題からプログラムを修正し, 効果的な学習成果を得られた. 研究活動では, 助産ケアにおけるヒヤリ・ハット事例の分析, 産後抑うつ状態の診断プロセス, また母性看護学実習プログラム, 中堅助産師のキャリアニーズの分析などを行い, 様々な研究に取り組んだ. 大学の管理運営について, 業務を遂行するために教職員方に助言を受けながら, 複数の委員会の役割責任を担い運営を円滑にすることができた. そのひとつである看護学教育評価の受審の準備を行った. 社会貢献活動では, 学会の選挙管理運営部会委員として, 関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた.

## VII 次年度の目標

教育活動では, 学生の DP 達成に向けて, 講義・演習・実習における学習目標を達成するよう学習効果を見直し実施する. また, 学生個々のレジネスに応じた指導, 学生が主体性を維持し学習できるように工夫する. 研究活動は, 計画的に活動時間を確保し, 収集したデータの分析を進め, 研究成果をまとめる. 大学の管理運営について, 円滑な委員会運営となるよう適切に判断すること, また看護学教育評価の受審結果による課題に取り組み, 役割を遂行する. 社会貢献活動では, 幅広い視野を持ち社会貢献活動に参加する.

## 講師 加藤 隆子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、講義・演習科目では、学生間の議論と学修が深まるよう内容を工夫する。また、看護過程演習や実習においては、対象像の理解が深まり、個別性を重視した計画が立案できるよう、記録用紙の検討を重ねていく。臨地実習では、感染予防対策に留意するとともに、指導者との関係性の再構築を図りながら、学生のレディネスを考慮した実習目標が達成できるよう指導者と協働して実習指導を遂行する。研究活動では、これまでの研究成果をまとめ、次のステップへの準備に着手する。組織運営では、所属する委員会の教員と連携を図りながら、学生支援や委員会の目標達成のための活動を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・精神看護学概論.
  - ・精神看護学方法論Ⅰ.
  - ・精神看護学方法論Ⅱ.
  - ・精神看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：精神科看護，看護学生は患者とかかわる意味をどうとらえるのか（その2）精神看護学実習を終えて得たもの，2022年（49巻363号）精神看護出版，東京.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・加藤隆子，小林雅美，小宮浩美：精神看護学実習におけるロールプレイ演習の学びうつ状態の患者役と看護師役の体験を通して，第32回日本精神保健看護学会学術集会，2022年6月4日-6月5日，web開催.
- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：精神看護学実習における教員が実施するSST（Social Skills Training）を体験した学生の学び，第32回日本精神保健看護学会学術集会，2022年6月4日-6月5日，web開催.
- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：トラウマにより生きにくさを抱えた方のサポートグループに関わる支援者の体験—臨床傾聴士の体験に着目して—，第36回日本保健医療行動科学学会，2022年6月18日-6月19日，web開催.
- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：家族関係の葛藤の中で生き抜いてきたEさんのライフストーリー，第42回日本看護科学学会，2022年12月3日-12月4日，広島.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科研費補助金（若手研究）2020-2023，精神科のトラウマケアを向上するICTを用いた教育プログラムの開発，研究代表者.
- ・2022年度学内共同研究，千葉県内公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・日本看護学会誌、査読委員、2022年4月～現在に至る。
- ・日本精神科看護学術集会誌、論文査読委員、2023年2月～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本トラウマティック・ストレス学会、日本保健医療行動科学学会、日本ヒューマンケア心理学。

### 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会、チーム医療 チームアプローチ論、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2022年7月11日、7月20日、品川。
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会、患者-看護師関係 援助関係、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2022年7月25日-7月26日、品川。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科学学生・進路支援委員会(同窓会、3年担任リーダー)、総合実習作業部会。

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では、学生間の議論が深まるように講義の内容を工夫すること、学生の思考過程が深まるよう演習計画や記録用紙を見直すことで目標は達成できた。臨地実習は、感染対策に留意しながら、学生のレディネスを考慮した実習目標が達成できるよう、指導者との関係性の再構築を図りながら実習指導を行うことができた。研究活動では、科研費(若手研究)の研究は学会発表を行うことができたが、最終段階である教育・支援プログラムの計画実施に遅れが出ており、来年度まで期間を延長し研究を進めていく。学内委員会活動では、他教員と協働しながら学生支援や委員会の目標達成のための活動を遂行できた。

## VII 次年度の目標

次年度は、学生の思考力が高まるように講義演習科目の内容を見直していきたい。実習では、学生の対象像の理解が深まり、看護実践能力が高まるよう実習記録の見直しを図るとともに、指導方法も検討していきたい。研究活動では、科研費(若手研究)の最終年度となるため、教育・支援プログラムの実践のための研究計画を進めていきたい。大学の管理運営では、教務委員会や入試検討委員会の活動の業務を円滑に行い、役割を果たす。社会貢献では、各学術団体や職能団体に参加し大学教員の役割を果たしていきたい。



## 講師 佐伯 恭子 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、対面での講義・演習となるため、コロナ禍の2年間で実感した対面授業の利点を意識して学生が興味や関心、学ぶ意欲を持てるように準備して実施する。実習については、まだ臨地実習が十分にできる状況にはならないと考えられるため、学生間での経験の差が学びの差とならないよう、領域内で協力し実習の組み立てや進め方を工夫する。この2年間コロナ禍の影響や教授欠員で研究活動が思うように進められなかったが、今年度は成果発表を目指して積極的に取り組む。管理運営では、各担当業務について関係者と協働しながら責任を持って取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・ターミナルケア論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・医療倫理学、信州大学大学院.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・川城由紀子、浅井美千代、石川紀子、佐藤紀子、佐伯恭子：地域包括ケア病棟の看護師に求められる実践能力，千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，19-28，2023.
- ・櫻井理恵、杉本知子、相馬由紀子、佐伯恭子：健康問題をもつ老年期の看護職が終了継続を可能にする工夫，千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，39-46，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・櫻井理恵、杉本知子、相馬由紀子、佐伯恭子：健康問題をもちながら就労継続する老年期の看護師の実態—介護保険施設で就労するA氏の一事例—，日本看護科学学会，2022年12月3-4日，広島（オンデマンド）.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・新しい大プログラム（2022年10月15日、いすみ市）

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会、日本医学哲学・倫理学会、日本看護科学学会、日本看護倫理学会、日本老年看護学会、千葉看護学会

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本医学哲学・倫理学会、広報委員会委員、2021年5月～

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・一般社団法人日本精神看護協会、精神科認定看護師養成研修会、チーム医療 チームアプローチ論2、精神科認定看護師資格取得を目指す者、2022年7月11日（東京）。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパスハラスメント相談員、共同研究審査部会、新型コロナと認知症プロジェクトチーム

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会／国試対策担当、看護学科2年生担任、看護研究作業部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、新着任の教授のもと、領域内で協力し、3年ぶりの対面授業や演習を滞りなく終えた。実習はCOVID-19の影響で学内実習となった学生への指導を中心に担当し、臨地実習した学生と同程度に目標達成に導くことができた。研究活動では、代表者としての成果公表はできなかったが、共同研究者としての成果が発表できた。社会貢献および大学管理運営では、昨年度の担当に加え、新型コロナによる高齢者への影響を調査するプロジェクトチームに参加した。

## VII 次年度の目標

教育活動では、領域内教員が半分入れ替わった新体制のもと、学生が主体的に興味関心を持って学ぶことを支援していく。研究活動では、代表者としての成果発表を目標に取り組む。同時に、大学管理運営および社会貢献活動での役割を果たせるよう、教育研究活動とのバランスをとりながら取り組みたい。

## 講師 大内 美穂子 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動と研究活動の優先順位を考え、研究遂行や教育改善のための時間を確保する。コロナによる制限下においても、研究対象者や学生の安全を確保した上で、臨床現場における教育や研究を継続できるように工夫する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・臨床看護学概論.
  - ・臨床看護学方法論Ⅰ.
  - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
  - ・臨床看護学方法論Ⅲ.
  - ・急性期看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.
  - ・看護学入門実習.
  - ・救命・救急の理論と実際.
  - ・体験ゼミ

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，内海恵美，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，61-67，2023.
- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，浅井美千代：卒業生による，COVID-19感染拡大により学内でシミュレーション実習となった総合実習の振り返り，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，49-55，2023.
- ・大川由一，細山田康恵，麻生智子，大内美穂子，室井大佑，松尾真輔，佐久間貴士，細谷紀子，佐伯恭子，成玉恵，河野公子，麻賀多美代，岡村太郎，成田悠哉：介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，令和3年度学長裁量研究抄録，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻第1号，102，2022.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），セルフモニタリングアプリを活用してがん患者の術前準備を支援する看護支援方法の開発，研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（B），がん患者の主体性を育み活用できる外来看護師育成プログラム：普及性向上のための改善，研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練，研究分担者
- ・学内共同研究費（学長裁量），千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難，研究分担者.
- ・学長裁量研究，介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本遠隔医療学会、千葉看護学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時、場所）

- ・看護研究指導、1病棟 年4回、千葉県がんセンター（遠隔）
- ・看護研究指導、2病棟 年6回、千葉県循環器病センター（遠隔）
- ・新しい大プログラム（第1回看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」ファシリテーター、2022年10月1日、第3回看護学科プログラム「いきいき生活を続けるために」ファシリテーター、2022年11月26日、UR真砂第一団地）
- ・新しい大プログラム（看護学科プログラム「いきいき暮らせるからだをつくろう」講師、2022年10月15日、いすみ市）
- ・健康教室、「楽しむことで若さをKeepしませんか?」、ファシリテーター、2022年12月17日、千葉県立保健医療大学
- ・初期医療言語サービスボランティア研修、神田外語大学／千葉県立保健医療大学、「体勢への配慮」「一時救命処置（一般市民用）実習」、講師、2023年3月12日、9時30分～16時、千葉県立保健医療大学

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・社会貢献委員会

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・看護学科教務委員会、体験ゼミ作業部会、看護学科運営会議

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、講義内容に最新の知見を取り入れるとともに、学生が主体的に学べる工夫を新たに取り入れることができた。研究活動では、患者対象調査を実施し分析し、公表準備を進めることができたが、プログラムの開発には至らず、進捗は遅れているため、継続して取り組んでいく。大学運営では、看護学科教務委員会実習検討部会長として、実習施設との連携、臨地実習指導者と大学教員の役割などについて検討し、看護学科としての方針の明確化に貢献した。教員の実習指導能力向上に向けた取り組みとして、教員間の意見交換会を企画・実施することができた。社会貢献活動では、地域住民向けの健康講座や健康教室に社会貢献委員として企画から携わり、円滑に運営することができた。昨年度同様に教育や研究に十分な時間を確保することが難しかったため、次年度も改善に取り組む。

## VII 次年度の目標

教育では、最新の情報を収集するとともに、実習施設の看護師の知識や技術を直接得ながら、現場に即した内容を講義や演習に反映させられるようにする。大学運営では、学生・進路支援委員会の国試担当や4年生担任リーダーとして役割を理解し、国家試験合格に向けて、これまでの取り組みを評価・改善するとともに学生を支援する。研究活動では、プログラム開発と実施、評価を最優先として研究を遂行する。共同研究者としても研究に取り組み、成果報告できるよう進める。社会貢献では、研究指導に限らず、大学運営とは別の形でも学生支援活動を増やせるように取り組む。

## 講師 杉本 健太郎 博士 (看護学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、対面での学習の機会を可能な限り確保するとともに、オンラインによる学習メリットがある部分は生かしながら教育に取り組んでいきたい。研究については、今年度見出した知見を踏まえ、新たな計画を立案・調査実施する。また、地域の自治体や学術団体内での活動にも積極的に参加し、大学教員として社会に貢献していく。大学の運営については、次年度所属委員会が一部変わる見込みであるため、他の委員と連携しつつ円滑に業務遂行したい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・地域看護学概論
  - ・地域看護学方法論 II
  - ・地域看護学方法論 III
  - ・地域看護学実習
  - ・総合実習 (地域看護学)
  - ・看護研究
  - ・看護学統合
  - ・専門職間の連携活動論

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・ Kentarō Sugimoto, Noriko Sato, Yuko Amamiya, Noriko Hosoya: Infection control measures promoted by the public health center for “housing for the elderly” facilities during norovirus cluster outbreaks, Journal of Rural Medicine, 17(3), 151-157, 2022.
- ・ 細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 泰羅万純: 全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の実態と関連要因, 日本公衆衛生雑誌, 69(8), 606-616, 2022.
- ・ 細谷紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 佐藤紀子: 全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動, 日本地域看護学会誌, 25(2), 4-12, 2022.
- ・ 星美鈴, 佐々木晶世, 杉本健太郎, 大竹まり子, 丸山幸恵, 土肥真奈, 中村幸代, 柏木聖代, 叶谷由佳: 地域包括ケアシステムに貢献できる看護職に必要なコンピテンシー. 日本看護管理学会誌, 26(1), 140-149, 2022.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究代表者.
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2020-2023, 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2019-2022, エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 研究分担者.
- ・ 科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 2016-2022, 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ 柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本運動器看護学会、日本看護管理学会、日本健康医学会、日本高齢者ケアリング学研究会、文化看護学会、

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 日本在宅看護学会、編集委員、2018年9月17日～現在
- ・ 日本看護科学学会、査読委員、2019年10月～現在
- ・ 第15回文化看護学会学術集会、事務局・企画委員、2022年3月～2023年4月、

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・ 令和4年度 第3管内保健師業務連絡研究会、講師、2022年11月2日、九十九里町保健福祉センター、
- ・ 業務研究に関する指導、市原市、乳児健診等未受診者訪問から見えてきた成果と課題、市原市子育てネウボラセンター保健師1名、2022年10月～12月、

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 研究倫理審査委員会、

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 看護学科学生進路支援委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科担任、

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

対面授業や臨地実習を実施できる機会が増え、昨年度まで遠隔授業や学内実習としていた内容について再検討する必要が生じたが、教材や実習プログラムを新たに作成・調整することにより円滑に対応でき、学生はコロナ以前と同様の学習目標を達成することができた。研究に関しては、筆頭著者として1本、共著者として3本の論文を学術誌に投稿し採択された。社会貢献・大学運営に関しても年間通して尽力し、年度目標を達成できた。

## VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、今年度以上に教育環境に変化が生じると考えられるため、適宜所属領域の他教員や臨地実習指導者等と調整を図りながら、状況に応じた効果的な教育を提供していきたい。研究については、今年度見出した知見から着想したテーマについて、研究計画を立案し調査実施する。社会貢献に関しては、自治体、職能団体、学術団体の活動に積極的に参加し、大学教員として社会に貢献していく。大学の運営については、他の委員と連携しつつ、各所属委員会の目標達成に貢献したい。

## 講師 栗田 和紀 博士 (理学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

着任1年目である本年度は、本学および学科の位置づけ、方針、規則、慣習、環境などを理解し、教育、研究、管理運営、社会貢献ができるように努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
  - ・生物学.
  - ・観察生物学入門.
  - ・環境変化と生態.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・岡本卓・栗田和紀・徳田龍弘・竹内寛彦：日本産トカゲ・陸生ヘビ類の地理的分布の概要といくつかの話題，爬虫両棲類学会報，2022，2，273-293，2022.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・公益財団法人中辻創智社 2022年度研究費助成，琉球列島産トカゲ属を例にした仮説検証型効率的種分類法の確立，研究代表者

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・ほい大健康プログラム，2022年10月1日，真砂第一団地.
  - ・ほい大健康プログラム，2022年11月26日，真砂第一団地.

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本爬虫両棲類学会，日本動物分類学会，日本動物学会，沖縄両生爬虫類研究会，The Society for the Study of Amphibians and Reptiles.
- 2) 学会，学術団体への貢献 (学会・学術団体名，役職，活動期間)
  - ・日本動物分類学会，生物多様性保全委員，2022年7月～現在に至る.
  - ・日本爬虫両棲類学会，2023年度年次大会実行委員，2022年11月～現在に至る.

#### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・SS 探求総合，埼玉県立春日部高等学校，系統分類学，高校1～2年生，2022年9月13日，埼玉県立春日部高等学校 16

～18時.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 共通教育運営会議. 入試実施委員会. 特色科目運営会（体験ゼミナール作業部会）. 研究倫理審査委員会（動物部会）. 自衛消防隊. 次期情報システムワーキンググループ.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 入試検討委員会. 1年生担任.

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- ・ 図書館だより『ぼーれぼーれ』No. 83 巻頭言.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、担当科目全てにおいてシラバス記載の内容を実施することができた。研究では、これまでの研究成果の一部を学会誌で報告することができた。また、外部資金を得ることができ、これまでの研究テーマを進展させた。ただし、今後も研究が継続的に行えるよう、学内における研究環境の整備をより進める必要がある。大学の管理運営については、所属委員会の活動に積極的に参加し、役割を理解したうえで任務にあたることができた。社会貢献では、「1まい大健康プログラム」への参加や所属学会の委員としての活動を通して学外に向けた取り組みを広げることができた。その他、授業やクラス担任を通して多くの学生と関わりをもつことができ、主に1年生であるが本学の学生の特徴を知ることができた。

## VII 次年度の目標

教育については、「深い学び」に誘えるような科目内容を目指す。研究では、これまでの研究成果をまとめ、学内の研究環境を整備していく。管理運営については、新たに所属する委員会を含めて積極的に活動に参加する。社会貢献においては、専門外の分野でもできるだけ役割を果たせるように努める。



## 講師 大塚 知子 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和5年度は、特に本学および領域の特徴を理解した授業・演習を実施することができるよう自己研鑽する。研究については自らの課題研究を推進するとともに、共同研究についても継続して取り組み成果をまとめることができるよう進めていく。大学運営については、自らの役割を意識し取り組んでいく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール
  - ・救命救急の理論と実際
  - ・臨床看護学方法論Ⅰ
  - ・臨床看護学方法論Ⅱ
  - ・慢性期看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護研究
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・TOMOKO OTSUKA: Conceptual Model of Stigma Among Women Diagnosed With a Pre-Cancerous Cervical Lesion, the 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7<sup>th</sup> WANS), 2022/10/18-19, Taiwan. Tomoko Otsuka, Tomoko Majima

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金若手研究，妊娠初期検診に前がん病変と診断された女性の産後の受診行動を支える看護モデルの開発，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），子宮頸部前がん病変と診断された女性とパートナーのスティグマを予防・低減する看護モデルの開発，研究代表者.
- ・学内共同研究費（学長裁量），千葉県内の病院に入職した新人看護師が感じる困難，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会. 日本がん看護学会. 日本看護研究学会. 日本看護学教育学会. 日本緩和医療学会. 千葉看護学会. 文化看護学会. International Society of Nurses in Cancer Care.
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
  - ・第15回文化看護学会学術集会. 実行委員. 2023/1/31～2023/4/30

- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）
- ・看護研究指導、看護師、千葉県循環器病センター、全3回（6/10、9/9、12/16）

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・教育研究年報作成部会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科教務委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科社会貢献委員会

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和4年度の教育活動については、おおむね目標通りであった。今後も学生の興味関心や新たな知見を取り入れ教育活動に反映していく。研究に関しては、コロナ禍ではあったが対象施設の協力を得ながら遂行することができた。今後は、得られた研究成果の公表を積極的に行っていく。

## VII 次年度の目標

昨年度に引き続き、本学の特徴を踏まえた教育活動ができるよう自己研鑽する。研究については、自らの課題研究を遂行するとともに、共同研究として新たに取り組む研究課題についても積極的に参加し、研究メンバーとして貢献できるようにする。大学運営については、自らの役割を意識して取り組んでいく。

## 助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に対面での授業に戻ることを踏まえ、意欲的に授業に参加できるような工夫をする。また、学内での講義と演習の学びが臨地実習で活かせるように教育内容を工夫する。委員会活動では、新たな業務について理解し、メンバーと調整しながら遂行できるように努める。研究活動では、研究期間を延長するに至ったため、計画に沿って着実に研究活動を進め、成果発表に向けて分析作業を進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・専門職間の連携活動論
  - ・小児看護方法論Ⅰ
  - ・小児看護方法論Ⅱ
  - ・小児看護学実習
  - ・総合実習(小児看護学領域)

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・中山静和，西野郁子，石川紀子：保育所看護職が認識している「気になる子」への保健活動，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，第1号，p. 13-18，2023年。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究代表者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・初期医療言語サービスボランティア研修，2023年3月12日，千葉市。

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会，日本小児保健協会，日本保育保健協議会，全国保育園保健師看護師連絡会，日本臨床睡眠医学会

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科学生・進路支援委員会，看護学科総務・企画委員会

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、担当する専門科目の授業において、自己の臨床経験や臨地実習指導での事例をベースとした具体的な内容を示すことにより、授業内容の理解を促進するよう努めた。学生へ提示した課題に対する正確な回答内容や、臨地実習での的確な質問内容・技術提供の様子から、工夫が理解につながったと考えられた。また、飛沫感染が生じる可能性がある演習においては、学生が自宅でも演習できるように教材ビデオを作成し直し、オンライン学習として学習環境を整えたことにより、理解につなげることができた。委員会活動では、担当する役割において、昨年度理解した業務内容をもとに、円滑に業務が進むようにメンバーと連絡調整しながら実践することができた。研究活動では、学内共同研究費による研究の成果を、紀要に投稿し、掲載に至ることができた。研究期間を延長した学術研究助成基金助成金による研究については、十分な分析に至らなかったため、次年度の課題としたい。

## VII 次年度の目標

次年度は、所属する専門領域の上席教員とともに、これまでの教育内容について見直しを行い、学生が意欲的に学習に取り組めるような工夫を検討し、実践する。また、臨地実習施設側との情報交換を十分に行い、実習期間内で学生が学習可能な内容について再考し、指導の方向性についても共通認識を高めるように努める。研究活動では、延長した研究について、計画に従って着実に進め、成果発表に向けて努力する。

## 助教 増田 恵美 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度の教育活動においては、演習や実習において学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では、新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い、学生が学びやすい環境を整えていく。また、研究活動においては学会発表を行うこと、研究費を獲得することができること、計画通りに研究を進めていくことを目標とする。総務・企画委員会では、委員長の指示に従い、系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し、他の社会貢献活動を充実させる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・母性看護学方法論Ⅰ.
  - ・母性看護学方法論Ⅱ.
  - ・母性看護学実習.
  - ・助産診断・技術学Ⅱ.
  - ・助産診断・技術学Ⅲ.
  - ・助産診断・技術学Ⅳ.
  - ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
  - ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
  - ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.
  - ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・増田 恵美：2023年版系統別看護師国家試験問題集 第111回看護師国家試験 解答と解説，2023，医学書院，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・増田恵美，石井邦子，北川良子：産後1ヶ月における骨盤周囲の固定による腰背部痛に対する効果 千葉県立保健医療大学 紀要，第14巻，1号，75-80，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Emi Masuda，Kumiko Otsuka，Erika Ota，Yaeko Kataoka，Effect of Yoga on Back and Pelvic Pain During Pregnancy: A systematic Review. 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference. Taipei, Taiwan, 21-22th April, 2022.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2022～2023年度，学長裁量研究，妊婦の腰痛・骨盤痛改善を目的としたオンラインによるヨガプログラムの開発と検証ーヨガプログラム動画教材の評価と改善ー，研究代表者
- ・2022～2024年度，一般社団法人日本助産学会 奨励研究（B），妊婦の腰痛改善を目的としたオンラインヨガを活用した腰痛プログラム-Feasibility study-，研究代表者

- ・2021～2022年度、学内共同研究、中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案、研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、千葉県母性衛生学会、聖路加看護学会、

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県母性衛生学会、会計幹事、2020年5月～現在に至る。

### 7 その他

- ・放送大学、オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）、2022年4月1日～2023年3月31日

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、学生進路支援委員会、看護学科3年生担任、

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学（<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>）。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において、学生が目標を達成できるように学習状況に応じ、個別的な指導内容を工夫した。研究活動においては積極的に活動した。令和4年度学長裁量研究、一般社団法人日本助産学会 奨励研究（B）の研究資金を獲得することができた。25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conferenceで、自身のテーマ内容に関するシステムティックレビューを行い発表することができた。研究計画を基に計画的に進めて実施すること、実施した研究について投稿準備を進めることができたことは評価できる。学内共同研究では、分担されたデータ収集や分析を行い、進めていくことができた。学生進路支援委員会では、3年生担任での役割を果たし問題がある時は、責任者へ報告しながら業務を進めていくことができた。社会貢献活動は、千葉県母性衛生学会の会計幹事として、係りとともに会計業務を行うことができた。業務が滞りに遂行することや計画的に作業していくことを課題とする。

## VII 次年度の目標

令和5年度の教育活動においては、演習や実習で学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では、新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い、学生が学びやすい環境を整えていく。また、研究活動においては、学会発表を行うこと、実施した研究について投稿することができることを計画通りに進めていくことを目標とする。総務・企画委員会や入試検討委員会では、委員長の指示に従い、系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し、社会貢献活動を充実させる。

## 助教 相馬 由紀子 修士（学校教育学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、COVID-19禍と対面の講義・演習の内容を統合し、学生が学修意欲を維持し、理解が深まるように準備し実施していく。臨地実習においては、感染対策のもと施設側と協働し、学生が目標達成できるよう支援し、高齢者への看護の思考過程を構築できるよう指導方法を工夫する。大学運営活動においては、所属する委員会において、教職員と連携しながら計画的に活動を遂行する。研究活動では、これまで収集したデータを分析し、成果をまとめる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
  - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
  - ・高齢者看護学実習.
  - ・総合実習（高齢者）.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・櫻井理恵，杉本知子，相馬由紀子，佐伯恭子. 健康問題をもつ老年期の看護職が就労継続を可能にする工夫. 千葉県立保健医療大学紀要 14(1), 39-46, 2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・櫻井理恵，杉本知子，相馬由紀子，佐伯恭子:健康問題もちながら就労継続する老年期の看護師の実態-介護保険施設で就労するA氏の一事例-. 第42回日本看護科学学会学術集会，2022年12月3-4日，広島.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本老年看護学会. 日本看護学教育学会. 日本看護科学学会.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科総務・企画委員会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

COVID-19禍での対面の講義・演習を円滑に遂行して学生の学修意欲の向上に努めることができた。臨地実習においては、学生が授業で配布した資料を用い看護過程の展開につなげることができた。大学運営活動においては、所属する委員会にお

いて、教職員と連携しながらスムーズに遂行できた。研究活動では、これまで収集したデータを分析し成果をまとめ、発表をすることができた。



## 助教 内海 恵美 修士（教育学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

COVID-19による学修活動への影響は当面続くことが予想されるが、他方ではwebを活用した遠隔での種々の活動も一般的になり、その利便性を享受している。臨床の現場を見ても更なるDXが進んでいくのは明白である。従来の教育方法にとらわれることなく、常に質の向上を目指した教育活動を行う。大学運営においては、与えられた委員会活動を他教員と協働しながら実施していく。研究活動においては、看護基礎教育と現任教育の切れ目ない支援を目指しながら研究を進め、成果の公表を目指すと同時に、研究課題の見直しを行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・臨床看護学概論.
  - ・臨床看護学方法論Ⅰ.
  - ・臨床看護学方法論Ⅱ.
  - ・ターミナルケア論（旧カリキュラム：がん看護学読み替え）.
  - ・成人看護学実習（慢性期）/慢性期看護学実習.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，真田知子，浅井美千代：COVID-19 感染拡大により学内でシミュレーション実習となった総合実習の報告. 千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，47-53，2023.
- ・田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，内海恵美，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護職者となって職場で感じた困難. 千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，61-67，2023.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量共同研究，千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難，研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 1) 千葉県内

- ・VリーグD3千葉ゼルバホームゲームにおける選手救護看護師（千葉県バレーボール協会），2023年1月21日・1月22日・2月18日・3月12日の計4日間. 千葉公園体育館

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・X Games Chiba 来場客救護室看護師（X Games Japan 組織委員会），2022年4月22～24日の計3日間.ZOZO マリンスタジアム. 日本で初開催となる本大会の円滑な運営のため，大会組織委員会・千葉市医師会と連絡をとりながら，必要と思われる資機材の提案や初期対応の方法等，準備と指導を行った. 期間中は速やかな救急搬送のためのシステム構築を，

組織委員会および千葉市消防局と都度調整した。

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本外来小児科学会、日本医学看護学教育学会、日本医療教授システム学会、日本看護学教育学会、日本ダンス医科学研究会。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科総務・企画支援委員会、看護学科入試検討委員会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動（領域別実習と総合実習）は、COVID-19 感染状況により実習時間や看護活動の制限がなされ、その都度、学修目標と学生の体験・学びの状況を踏まえてプログラムを再構成したことで、学習の質を低下させることなく実施することができたと考える。特に、臨地実習を途中で切り上げて学内実習することとなった領域実習では、「発熱」を主題に症候学的視点を取り入れこれまでにない演習を行うことができた。研究活動では、これまで本学卒業生を対象としていた調査を県内医療機関に就職した新人看護師へと対象を広げ、調査することが出来た。次年度学会発表すべく準備を進めている。

## VII 次年度の目標

従来の教育方法・内容にとらわれることなく、臨床との連携を図り、最新の知見を得ながら常に質の向上を目指し教育活動をおこなう。特に、領域実習・総合実習における学生のパフォーマンスとパフォーマンスに至るまでの思考の支援を検討する。大学運営においては、委員会活動を他教員と協働しながら実施していく。研究活動においては、引き続き千葉県内の医療機関に入職した新人看護師を対象として研究を進め、基礎教育と現任教育の切れ目ない支援を目指す。

## 助教 山本 千代 博士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度における教育活動では、昨年度に引き続き、COVID-19感染状況を反映した授業運営の実施および支援を行う。また、COVID-19感染状況からオンライン授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、他教員とコミュニケーションを取りながら、授業および演習が滞りなく進むよう実習室の運営や物品管理を行う。

研究活動では、科学研究費補助金基盤研究（C）における研究成果を学術集会で発表する。そして、次の段階へ研究を進めていく。大学運営管理では、引き続き、看護学科教務委員会のメンバーとしての役割を全うしていく。社会貢献も同様に、COVID-19流行の動向、県の方針を把握し、県からの業務要請に従事していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）.
  - ・日常生活調整方法論.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・総合実習
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・山本千代，永野光子，野崎真奈美：中規模病院に勤務するジェネラリスト看護師の教育ニーズに関連する要因の検討 — 役職についていない臨床経験10年以上の看護師に焦点を当てて —，日本看護学教育学会誌 32(2-1)，41-54，2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・山本千代，野崎真奈美，永野光子：臨床看護師の根拠のある看護（EBN）のための情報活用行動の実態，日本看護学教育学会第32回学術集会，2022年8月6日，オンライン

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），根拠のある看護（EBN）のための情報リテラシー能力体系の開発，研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者

#### 6 受賞・特許

- ・日本看護学教育学会第32回学術集会 優秀演題賞

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護学教育学会、日本看護科学学会。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院 看護研究指導、臨床看護師、2022年8月～2023年1月 計2回。

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科教務委員会/実習検討部会、看護学科1年生担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、昨年度に引き続き、COVID-19感染状況を鑑みて、その都度必要な感染防止対策を行いながら講義・演習を支援した。領域内の欠員のため、上席教員に領域運営の状況を確認し、助教および非常勤任用の教員と協働して領域内の業務に従事した。

研究活動は、科学研究費補助金基盤研究（C）の研究を進め、その成果を学会発表し、優秀演題賞を受賞した。大学運営管理では、特に看護学科教務委員実習検討部会として、実習に関する教務活動に従事した。また、1年生担任として、担当する学生には対面授業時およびTeamsで適宜声かけし、いつでもサポートすることを伝え、学生の支援に努めた。社会貢献では、保健所応援要請に従事する機会がなかったが、COVID-19流行の動向、県の方針を把握に努めた。また、臨床看護師の看護研究の質を向上するための支援を行った。

## VII 次年度の目標

教育活動では、引き続き、講義・演習の支援を行い、授業運営の実施および支援を行う。研究活動は、科学研究費補助金基盤研究（C）の研究成果をまとめ、その成果を学会発表もしくは学術誌投稿をする。

大学運営管理では、新たに学生進路支援委員会のメンバーとしての役割を果たす。社会貢献では、臨床看護研究指導を継続し、臨床看護師の看護研究の質を向上するための支援を行う。

## 助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は対面授業が再開されるため、教育活動ではCOVID-19によって構築した新たな講義・実習内容と従来の対面授業の利点をあわせた方法で実施していけるよう、科目責任者の助言の下で工夫していく。慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して、学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する。研究活動では、科学研究費助成事業の研究が最終年度となるため、成果をあげられるよう進めていく。また、未だ公表できていない成果があるため、学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール
  - ・救命救急の理論と実際
  - ・臨床看護学方法論 I
  - ・臨床看護学方法論 II
  - ・慢性期看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・坂本明子：心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化（第1報）：ケア移行に関する看護師の判断内容，日本循環器看護学会誌 18(1) 42-50, 2022.
- ・田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，内海恵美，坂本明子，浅井美千代：コロナ禍に本学卒業生が新人看護職者となって職場で感じた困難，千葉県立保健医療大学紀要 14(1) 61-67 2023.
- ・内海恵美，田口智恵美，三枝香代子，大内美穂子，坂本明子，真田知子，浅井美千代：COVID-19感染拡大により学内でシミュレーション実習となった総合実習の報告，千葉県立保健医療大学紀要 14(1) 47-53 2023.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」，研究代表者
- ・学長裁量共同研究，千葉県内医療機関に入職した新人看護師が感じる困難，研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本老年看護学会，日本看護学教育学会，千葉看護学会，文化看護学会，看護質的統合法研究会

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本循環器看護学会, 指名理事, 2020年11月～現在
  - ・日本循環器看護学会, 広報委員, 2020年11月～現在
  - ・第15回文化看護学会学術集会, 実行委員, 2023/1/31～2023/4/30

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・自己点検・評価委員会 報告書作成部会
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・看護学科運営会議, 看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科医療生活支援領域会議,

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

2022年度は科目責任者の助言の下, 慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関しての学生の理解が深まるよう演習方法の検討・実施ができた。対面授業の再開にもなって感染対策を講じながら講義・実習を行えたことで, 入学以来オンデマンド授業を受けてきた学生のモチベーションが向上しているように思われる一方で, コミュニケーションに困難感をもつ学生のサポートを引き続き実施していく必要性を感じている。研究活動については, 「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化 (第1報): 終末期移行に関する看護師の判断内容について」が学会誌に掲載された。その査読のプロセスから多くの学びや示唆を得られた。今年度最終年度であった科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア: 苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」は, データ収集方法の修正変更を行ったため, 来年度まで延長し成果をまとめられるよう計画的に遂行していく。

## VII 次年度の目標

2023年度は, 慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して, 学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する。研究活動では, 1年延長した科学研究費助成事業の研究で成果をまとめられるよう進めていく。また, 未だ公表できていない成果があるため, 学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

## 助教 山崎 麻子 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、学内委員会活動では、昨年から引き続き学科教務委員会と、今年度より新たに総務・企画委員会を担当することになり、新しい業務内容も増えるため、計画的に、漏れの無いように業務を遂行していく。複数の業務となるため、委員会の上司教員への確認を行い、間違いがないように細心の注意を払って行うようにする。担任業務では、継続して学生生活が安心して送れるように支援をしていく。助産課程の指導においては、R4年度は学生2名を担当するため、学生それぞれの個別性を見極めながら、成長できるようにサポートしていく。また、実習施設もR3年度とは異なる施設となるため、施設職員との信頼関係を築き、学生が学びやすい環境を整える。研究活動は、現在取り組んでいる研究（科研分担、共同研究分担）を進めること、修士論文を投稿することを目標とする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、
  - ・母性看護学実習
  - ・助産診断技術学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
  - ・助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
  - ・総合実習（母性）
  - ・体験ゼミナール
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・山崎 麻子：2024年版系統別看護師国家試験問題集 第112回看護師国家試験 解答と解説，2023，医学書院，東京。

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，北川良子，川村紀子，山崎麻子：熟練助産師の産後抑うつ状態の診断における観察の視点，第63回日本母性衛生学会学術集会，2022.9.10～9.10，神戸国際会議場。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案，研究分担者
- ・科学研究費基盤（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本超音波医学会，日本母性衛生学会，日本母性看護学会，千葉県母性衛生学会

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県母性衛生学会 (会計幹事, 2022 年 4 月～2023 年 3 月)

## 7 その他

- ・放送大学, オンライン教育補助者 (特定行為研修演習指導支援者), 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

## V 管理・運営記録

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科 2 年生担任

### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

学科内委員会活動にて, 計画的に実施することや, 担当役割業務遂行のために, 上席教員への確認作業などを行い, 確実に業務遂行するとしていたが, 年度当初の計画通りに進めることができたと考える。また, 担任業務では, 2 年生の担任として, 安心して学生生活を送れるように懇談会や必要の応じて個人面談などを通して支援できたと考える。休学・復学学生を担当していたが, 休学, 復学に関して等不安を最小限に過ごせるよう, 担任リーダーとの連携を密に行い, 対応を行った。1 名は無事に後期復学し, 学修を継続できている。もう 1 名は, いまだ休学中であり, 学生が安心して学生生活に戻れるよう今後, 次年度担任への申し送りなどを確実に行う必要がある。助産課程の教育に関しては, 担当学生 2 名のうち 1 名が途中で履修を中断する決断をしたが, その際にも学生の話しを十分に聞き, 意思決定を支援し, 決定したことに対して支持する姿勢で対応した。もう 1 名に関しては, 施設実習を 1 名で完走できるよう, 臨地実習指導者と連携をとりながら, 学修面のほか精神的支援も行い, 単位習得となった。研究活動としては, 今年度に 1 本学会発表を行ったが, 共同研究者として担当している分担役割を果たすことができたと考える。自身の研究活動については, 年度当初は科研申請することを目標としていたが, 退職決定のため申請することなく, また修士論文の投稿についても進行中であるが, 投稿には至らず目標達成とはならなかった。



## 助教 櫻井 理恵 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

対面授業が再開されたが、COVID-19の流行は続いている。感染対策に留意しながらGW等を取り入れた授業や演習の実施を他教員と共に担う。実習では、臨地に行ける学生と行けない学生での差ができるだけ少なくなるよう、体験の共有を取り入れた運営を他教員と共に行っていく。研究活動では、学内および、学会発表を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・体験ゼミナール
  - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ
  - ・高齢者看護学方法論Ⅱ
  - ・高齢者看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・櫻井 理恵，飯岡 由紀子，常盤 文枝：がんサバイバーの看護師が仕事と療養生活の両立のために職場に対して抱く考え・行動の変化のプロセス，保健医療福祉科学，12，15 - 22，2022.
- ・櫻井 理恵，杉本 知子，相馬 由紀子，佐伯 恭子。健康問題をもつ老年期の看護職が就労継続を可能にする工夫，千葉県立保健医療大学紀要，14，1，39 - 46，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・櫻井 理恵，杉本 知子，相馬 由紀子，佐伯 恭子：健康問題をもちながら就労継続する老年期の看護師の実態—介護保険施設で就労するA氏の一事例—，日本看護科学学会，2022年12月3日・4日，広島（オンデマンド）。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会，日本緩和医療学会，日本がん看護学会，埼玉県立大学保健医療福祉科学学会

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科学生・進路支援委員会，入試検討委員会。

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

COVID-19の影響により，臨地実習に行けたグループと行けないグループで，できるだけ全員の学びが平等になるよう，領

域の他教員と相談しながら学生同士で体験や学びの共有を行うことのできる演習を取り入れた学生からは臨地と学内のどちらもそれぞれ特徴のある学びが得られたとの感想が聞かれた。しかし、臨地に全く行けなかった学生の学びが、より深められる工夫が必要である。研究活動では、学内発表、学会発表の目標を達成できた。

## 助教 小林 雅美 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、COVID-19 対応をとりながら、遠隔授業および対面授業において学生たちの学習目標が達成できるよう、準備を行っていききたい。また、臨地実習が再開された際には、実習先との連携を密に行いながら、COVID-19 対応をとり実習目標が達成されるよう進めていききたい。研究活動では、「公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識」に関する研究について研究倫理審査へ申請し、研究を進めていききたい。社会貢献では、引き続き COVID-19 関連の派遣要請に積極的に対応していききたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・精神看護学概論.
  - ・精神看護学方法論 I.
  - ・精神看護学方法論 II.
  - ・精神看護学実習.
  - ・総合実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：看護学生は患者と関わる意味をどう捉えるのか（その 2），精神科看護，49 巻 10 号，64-71. 2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・小林雅美，小宮浩美：精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症患者の力と退院へと導く看護，第 32 回日本精神保健看護学会学術集会，2022 年 6 月 4 日～5 日，Web 開催
- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：精神看護学実習における教員が実施する SST（Social Skills Training）を体験した学生の学び，第 32 回日本精神保健看護学会学術集会，2022 年 6 月 4 日～5 日，Web 開催
- ・加藤隆子，小林雅美，小宮浩美：精神看護学実習におけるロールプレイ演習の学び—うつ状態の患者役と看護師役の体験を通して—，第 32 回日本精神保健看護学会学術集会，2022 年 6 月 4 日～5 日，Web 開催

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2022 年度学内共同研究費，公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識，研究代表者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，千葉看護学会，ナイチンゲール研究学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本看護科学学会, 若手の会エリアコーディネーター, 2021年12月～現在に至る

## V 管理・運営記録

- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
- ・看護学科学生・進路支援委員会 (進路支援部会, 2年担任), 看護学科総務・企画委員会

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 感染対策をとりながらの対面授業となった。領域教員間で講義・演習の検討を重ねながら, 準備を行い, 円滑に授業を行い, 学生たちが学習目標が達成できるよう支援を行うことができた。臨地実習は, 実習先との連携を密に行いながら, 実習を円滑に進め, 学生たちの学習目標が達成できるよう支援を行うことができた。研究活動では, 精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症患者の力と退院へと導く看護に関する研究について学会発表を行うことができた。公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識に関する研究では, 2022年度学内共同研究費を獲得し, 研究倫理審査委員会承認後より研究活動を行うことができた。社会貢献では, COVID-19 関連の派遣要請はなかった。しかし, 日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして南関東エリアの検討会を3月に開催することができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では, 対面授業において学生たちの学習目標が達成できるよう, 準備を行っていききたい。また, 臨地実習では実習先との連携を密に行いながら, 学生たちの実習目標が達成されるよう支援を行っていききたい。研究活動では, 「公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識」に関する研究について学会発表する。また, 新たな研究を令和5(2023)年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (研究活動スタート支援) に応募し進めていききたい。そして, 今年度学会発表を行った精神科看護師が捉えている長期入院している精神症状が不安定な統合失調症患者の力と退院へと導く看護に関する研究の原著論文投稿へに向けた準備を進めていききたい。社会貢献では, 引き続き日本看護科学学会若手の会エリアコーディネーターとして合同ミーティング等に参加し, エリア検討会の企画・運営の準備を進めていききたい。

## 助教 松浦 めぐみ 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、本学入職初年度であった。本学における組織、委員会業務、領域業務などの全体像を理解する。領域内の教員に相談をしながら、講義を補助し、領域別実習ならびに総合実習では実習先との協働により実習を円滑に進めていくことを目指し、学生の学習がさらに高まるように役割を遂行する。  
本学で開催予定の第15回文化看護学会学術集会に向けて、他委員と協力しながら役割を遂行すること。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・地域看護学概論
  - ・地域看護学方法論Ⅲ
  - ・地域看護学実習
  - ・総合実習
  - ・看護学入門実習
  - ・体験ゼミナール
  - ・看護学統合

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Megumi Matsuura, Mina Ishimaru, Satoko Suzuki, Seiko Iwase : The Difficulties of Engaging in Social Activities for Japanese Adolescents Requiring Medical Care at Home, The 7th ICCHNR conference, June 21-22, 2022, Sweden (Online).
- ・松浦めぐみ, 石丸美奈, 鈴木悟子, 岩瀬靖子: 在宅で生活する青年期の医療的ケア者の日常生活の様相, 日本地域看護学会第25回学術集会, 2022年8月27日～8月28日, 富山.
- ・Megumi Matsuura, Mina Ishimaru: Decision-Making of Adlescents with Medical Care Living-at-Home to Achieve Independence in Daily Life in Japan: 26th ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS. March 10-11, 2023, Tokyo.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本地域看護学会, 千葉看護学会, 文化看護学会

- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第15回文化看護学会学術集会, 事務局・企画委員・実行委員, 2022年4月～2023年3月.

#### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・鎌ヶ谷市母子保健(新生児訪問)研修, 市保健師および新生児訪問指導員, 2023年3月24日, 鎌ヶ谷市.

## V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科教務委員会

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

領域内の教員のみならず、委員会活動を通して他領域の先生方にも業務を教えていただき、本学の業務理解を一層深めることができた。領域の上席教員が担当する科目は概ね聴講することができ、学生のレディネスを知ることができた。それにより、領域別実習での効果的な声掛けや、学習の振り返りを促すことができた。研究活動においては筆頭での学会発表に加え、本学で行われた第15回文化看護学会学術集会の事務局員、企画委員、実行委員として役割を遂行することができた。

次年度は今年度を踏まえて、より積極的に自身の担当する業務及び研究活動に励んでいきたい。

## VII 次年度の目標

学内委員会活動では、昨年から引き続き学科教務委員会と、R5年度から総務・企画委員会を担当することになり、新しい業務内容も増えるため、計画的に実施し貢献していきたい。またR5年度から担任業務を担うことになったため、学生にとって学生生活が安心して送れるように支援をしていく。

講義および実習においては、引き続き上席教員や実習先の指導者と信頼関係を築き、学生の学習を促進できるよう働きかけていくことを目指す。研究活動においては修士論文の投稿を目標とする。

## 助教 松村 彩 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2022年9月30日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、コロナ禍でも学生が授業や演習、臨地実習に円滑に臨めるように他教員、職員と協働していく。また、担任（2年生10名）として、学生生活での悩み・不安を表出できるよう支援していく。研究活動では、昨年度の研究活動の成果を年度内に発表するとともに、新任教員としてスタート支援等の研究費が獲得できるよう意欲的に活動していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論 III（検査治療技術）.
  - ・日常生活調整方法論.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・看護研究.
  - ・看護学統合
  - ・体験ゼミナール

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Aya Matsumura and Ayumi Amemiya: Verification of the feeling of heat and stuffiness in a medical full wig using each material inner cap: A randomized crossover trial, Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 2022 (in press).

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Matsumura A, Amemiya A, Minowa T, and Ichida M: Study of Alarm Threshold for Assumed Nasogastric Tube Self-removal Action Using a Contact Sensor System, The 2022 44th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine & Biology Society (EMBC 2022), on July 11-15 2022, at the Expo Glasgow, United Kingdom.

#### 6 受賞・特許

- ・山下(雨宮)歩，松村彩，市田誠，箕輪 隆城：接触動作判断モジュール，及びこれを用いた生体接触検知装置。特願2022-110849，2022年7月。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・看護理工学会. 看護科学学会. 医療の質・安全学会

## V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）  
・学生・進路支援委員会（2022年4月1日～2022年9月30日）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

業務上の不明点などは確認するなど、他の教員と協働して学内演習・臨地実習に臨んだ。また、担任（2年生10名）として、前期懇談会、ポートフォリオの確認のみならず、学生生活での悩みなどを受けた際は担任リーダーとともに支援した。研究活動においては、昨年度までの成果2本を年度内に発表することができた。令和4（2022）年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（研究活動スタート支援）に応募（研究テーマ「接触検知システムを用いた身体拘束削減効果の検証」）し採択されが、一身上の都合により辞退することとなった。以上より、前期に限定した期間ではおおむね達成できた。しかし、年度途中での退職のため後期の活動ができず、年間を通した目標は未達成となった。



## 助教 渡辺 健太郎 修士（看護学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では、他教員とコミュニケーションを取り協力することで、教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備や実習室管理を行うことを目標とする。担当の講義・演習においては、学生にとって効果的・魅力的な授業の実施を目指す。研究活動では、本年度実施した研究の公表を行うとともに、研究を発展させ競争的資金の申請を目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・看護学原論.
  - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
  - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
  - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
  - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
  - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
  - ・基礎看護学実習.
  - ・日常生活調整方法論.
  - ・総合実習.
  - ・看護学統合.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・渡辺健太郎，今井宏美，河部房子：Learning Management System の導入が看護系大学生の学習活動に与える影響の解明，千葉県立保健医療大学紀要，第14巻，1号，55-59，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，真田知子，渡辺健太郎，河部房子，三澤哲夫：連続使用しているグローブの安全性の検討，日本人間工学会（第63回大会），2022年7月，広島.
- ・渡辺健太郎，河部房子：「学び方を学ぶ」ことが看護系大学生の自己調整学習方略に与える影響の解明：単一事例験，日本看護学教育学会（第32回学術集会），2022年8月，web.
- ・今井宏美，渡辺健太郎，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，酒巻裕之，真田知子，河部房子，三澤哲夫：連続的に使用されるグローブの細菌付着とその安全性に関する研究—第2報—，産業保健人間工学会（第27回大会），2022年10月，東京.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本看護教育学学会、日本看護学教育学会。
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
  - ・第31回日本看護教育学学会、企画委員、2022年4月～8月。

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・キャンパス・ハラスメント相談員。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会、看護学科1年生担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、コミュニケーションを十分にとり授業や演習の準備や実習室管理を行うことで、滞りなく目標達成を支援できた。担当の講義・演習においては、Learning Management Systemの導入など、ICTを活用することで学習環境を整備することができ、学生から肯定的な評価を受けることができた。アンケートの結果、十分な演習時間の確保が課題となったため改善を目指す。研究活動では、論文投稿および学会発表にて研究成果の公表を行うことができた。

## VII 次年度の目標

教育活動では、効果的・効率的・魅力的な教育提供を目標に、授業担当・補助を行う。特に担当する单元では、技術習得に向けた授業設計や、必要な演習時間の確保により、技術習得における目標の達成を支援する。研究活動では、研究計画の立案と競争的資金への申請を目指す。また、共同研究者としての役割を果たし、成果の公表を目指す。管理・運営では、所属する委員会において、教職員と連携しながら積極的に役割を遂行する。

# 栄養学科



## 教授（兼）学科長 細山田 康恵 博士（医学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

Covid-19 感染症予防対策を徹底しながら、学生教育に力を注ぎ、講義では理解度が深まるように資料を作成し、実験のレポート課題には、コメントを入れて返却し学習意欲の向上につながるように心がける。研究においては、学内・学外の方とも協力して進めていけるよう時間の確保につとめ、研究成果を学会発表し論文として報告できるようにする。大学運営では学科長として、他学科と協力し、業務に積極的に取り組めるように努める。学科の人事では、欠員を補充し、体制を整えるようにする。社会貢献委員会では委員長として、年齢に合わせた公開講座の開催方法を検討し、参加者が増えるように工夫する。また、ほい大健康プログラムを活用し、地域住民の健康づくりを支援し、生活向上につながるように検討する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖生理学 I.
- ・解剖学実験.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士特別演習.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・体験ゼミナール.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・山田正子，樋口誉誌子，細山田康恵：調理用加熱済み野菜のカリウム量，日本食生活学会誌，33-4，205-209，2023.
- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育—ニーズ調査と実施に向けた検討—，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，69-74，2023.
- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，96，2023.
- ・大川由一，細山田康恵，麻生智子，大内美穂子，室井大佑，松尾真輔，佐久間貴士，細谷紀子，佐伯恭子，成玉恵，河野公子，麻賀多美代，岡村太郎，成田悠哉：介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，102，2023.
- ・麻賀多美代，佐藤紀子，細山田康恵，岡村太郎，大川由一：千葉県立保健医療大学歯科診療室を活用した健康教室（健康増進プログラム）の実践，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，103，2023.
- ・佐藤紀子，石井邦子，細山田康恵，室井大佑，大川由一，石川裕子，岡村太郎，三和真人，山本達也，龍野一郎：令和4年度保健医療大学取組報告会—保健・医療・福祉の連携拠点として—，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，106，2023.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：低糖質食に魚油加工食品を摂取したラットの酸化ストレスと行動に及ぼす影響，日本脂質栄養学会第31回大会，2022年9月9日，弘前。
- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：魚油とフラボノイドを添加したラットにおけるオートファジーへの影響，第69回日本栄養改善学会学術総会，2022年9月18日，誌上開催。
- ・樋口誉誌子，平山京花，村松菜由，宮崎奈央，細山田康恵，山田正子：食塩量1日5g未満の食事の受容に関する研究，第69回日本栄養改善学会学術総会，2022年9月18日，誌上開催。
- ・Yasue Hosoyamada，Takumi Kanazawa，Yoshiko Higuchi，Masako Yamada: Effects of flavonoids added to fish oil on fat accumulation and adipocytokines in rats. 22<sup>nd</sup> IUNS-International Congress of Nutrition, December 6-11, 2022. Tokyo.
- ・Yoshiko Higuchi，Ikiko Kinoshita，Yasue Hosoyamada，Masako Yamada: The amount of iron eluted from iron balls in aqueous solutions. 22<sup>nd</sup> IUNS-International Congress of Nutrition, December 6-11, 2022. Tokyo.
- ・Masako Yamada，Yoshiko Higuchi，Yasue Hosoyamada: Potassium content of partially cooked vegetables. 22<sup>nd</sup> IUNS-International Congress of Nutrition, December 6-11, 2022. Tokyo.

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者/研究分担者）

- ・学内共同研究 ラット性周期による卵巣ホルモンの変動が肝オートファジーに及ぼす影響，研究分担者。
- ・学長裁量研究 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラムの評価，研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・URほい大健康プログラム，2022年10月1日，真砂第一団地
- ・いすみ市ほい大健康プログラム，2022年10月15日，いすみ医療センター。
- ・URほい大健康プログラム，2022年10月29日，真砂第一団地
- ・いすみ市ほい大健康プログラム，2022年11月12日，いすみ医療センター。
- ・URほい大健康プログラム，2022年11月26日，真砂第一団地
- ・健康教室（歯科診療室の方対象），2022年12月10日，本学。
- ・健康教室（歯科診療室の方対象），2022年12月17日，本学。
- ・千葉市保健福祉局健康福祉部 令和4年度食育情報誌作成指導 2022年8月23日，本学。

### 5 学会・学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養食糧学会，日本栄養改善学会，日本脂質栄養学会，日本解剖学会，日本生化学会，日本補完代替医療学会。

#### 2) 学会・学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本栄養改善学会，評議員，2003年4月から現在に至る。
- ・第69回日本栄養改善学会学術総会，生理・生化学2 口演座長，2022年9月17日，岡山。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名/活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，大学運営会議，共通教育運営会議，社会貢献委員会，危機管理委員会，将来構想検討委員会，FD・SD委員会，資格審査委員会，自己点検・評価委員会，人事委員会，動物倫理審査部会。

### 2 学科/専攻内委員会（委員会名/活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議，栄養学科教授会，卒業研究委員，国試対策委員。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

感染症予防対策を徹底しながら、学生教育に力を注ぐことができた。講義では理解度が深まるように資料を作成し、実験のレポート課題には、コメントを入れて返却し学習意欲の向上につながった。研究においては、学長裁量研究「栄養学科卒業生に対するリカレント教育—ニーズ調査と実施に向けた検討」についてを本学紀要に掲載することができた。学会発表は、通常の発表の他に、国際栄養科学連合（IUNS）に3報を発表できた。学外との共同研究も、成果を論文に投稿し、継続して研究を進めるように心がけたい。大学運営では学科長として、他学科と協力し、すべての業務に積極的に取り組めた。社会貢献委員会の委員長として、公開講座の開催周知を広め、参加者を増員することができた。また、ZOOMと対面形式で開催したことで、幅広い年層の方に参加していただけたことがわかった。ほい大健康プログラムについては、千葉市UR団地で3回、いすみ市で2回、本学で2回実施することができた。参加者の方の満足度が高く、継続してほしいというご意見から、千葉県民の健康づくりの向上に寄与できたことは大きな成果といえる。今後も、継続していける体制を整えることが必要と考える。

## VII 次年度の目標

コロナポストで学生教育を対面で実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めるように心がける。実験では、講義で修得した内容を実際に確認し、課題解決能力を高めるために、自己主導型学習を促すように指導する。研究においては、学内・学外の方と協力して進め、研究成果を論文として報告できるようにする。大学運営では業務に積極的に取り組めるようにする。社会貢献では、これまでの問題点を踏まえ、活動できるようにする。学生委員会と進路支援委員会では委員長として、委員の先生方と協力し、学生生活が充実できるような支援を心がける。また、学生部長として、学生会・同窓会・後援会の活動が円滑に進むように務める。

## 教授 井上 裕光 修士（教育学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和四年度は、教育の質をさらに向上させる。研究活動も再開する。

このコロナ対策の状況が続くことを前提に、感染対策を考慮した演習時間を用意して情報リテラシーIを運用する（三密対策の上でスキルアップを意図した対面授業を行う）。

新システム運用については、年度中に移行が予定されている、Sinet6への移行準備を進め、同時に引き続き、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、安全な情報端末の廃棄作業を手伝う。とくに、利用拡大のため回線混雑が目立ってきたため、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、安定した運用のためにトラフィックを解析し、今年度予算請求でTeamsの安定運用の方法を検討する。

さらに、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。とくに、新しいシステムであるため、理解不足からの情報漏洩事故等に最大限配慮する。

WindowsUpdateについては、学内サポートバージョンの統一が必要であり、その工程策定、およびウイルスバスターCorp. ed.の新バージョンApex\_oneへの移行を円滑に行うために努力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・統計学.
  - ・情報リテラシー I.
  - ・情報リテラシー II.
  - ・教育の方法と技術.
  - ・実践統計学.
  - ・事前指導.
  - ・総合演習.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名・大学名）.
  - ・実践統計学（日本女子大学）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・井上裕光：保健情報統計学，2023，医歯薬出版，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金沢匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育—ニーズ調査と実施に向けた検討—，千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，69-74，2023.



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課)、ISO/TC34/SC12 国内対策委員、2004～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理学会、日本教育心理学会、日本人間工学会、日本教育工学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ学会、日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本教師学学会、日本官能評価学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本官能評価学会、常任理事（企画）、1996～現在に至る、学会大会司会 1 件
- ・日本官能評価学会、査読 2 件、2022-2023。
- ・（一財）日本科学技術連盟、1998 年より官能評価セミナー委員長、現在に至る。
- ・官能評価セミナー 4 件、ベーシックコース感性官能評価担当、セミナー 4 件

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2022 年度（第 11 回）定時総会 栄養士・管理栄養士研修会、千葉県栄養士会、「あてになる」情報を手に入れるには?、千葉県栄養士会会員、2022 年 5 月 28 日、Zoom

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、広報委員会、入試改革検討委員会、入試実施委員会、共通教育運営会議。
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート、学内情報システム・企画運営課サポート、学内ネットワーク運営保守、教員サポート、学生サポート、情報ネットワーク・ゼミ用 PC 運用、図書館システム運用サポート、レセコン設置運用サポート。
- ・システム更改計画作成、性能評価票作成、DC での運用管理・物品管理

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上について、対面授業への復帰を行った。自習用教材の追加、動画教材作成により、ワクチン接種等で欠席した学生へのフォロー動画配信を行うことができた。また、必要な教材の配布等も予定通りに行うことができた。同時に、Teams の仕様変更に伴う情報提供・学内教員への Q&A 提供・フォローアップなど、できることはやった。初学者教育対策として、レポート作成スキルアップについて引き続き行い、新入生へのスキル向上を行った。また、応用編としての実践統計学も 9 月に集中講義で行った。

研究する時間は確保できなかった。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、また、遠隔での紹介を行うなどさらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムについては、新システムではクラウド活用（安定利用）を図り、データセンター（DC）利用と Sinet6 への移行とを順調に行えた。しかし、配布 PC の不良が多く、予備機の確保ができず、新年度のぎりぎりのチューニングが必要になり、事務局の協力のもとで連日の調整が続いてしまった。Windows10 の年 2 回のシステム更新の影響もあり、一時的に Windows Update を停止するなど、調整に追われた。学内情報システム端末更新作業も、予定通りには進まなかった。

しかし、学内接続端末を学外に恒常的に持ち出して、WindowsUpdate を行っていない危険な状態のままの端末が、Apex\_One 導入とともに明確になって、その対応が困難を極めた（対処にほぼ時間を使い切る状態が、6 月から 9 月まで続いた。以後厳重な管理を各学科に求めた）。

大学ホームページ運用・SNS 運用については、事務局の協力を得て、実務処理を事務局でお願いし、広報委員会メンバーとしてサポートに回った。

遠隔授業後に対面授業が再開されても、ハイブリッド環境での授業が展開され続けている。このままでは回線状態がパンクするため、事務局の協力を得て、DC への経路のインターネット回線を増強するための予算請求を行った。

## VII 次年度の目標

在職しての最終年度となる。退職後のスムーズな引継ぎを目指す。

教職課程に関しては、人材確保が難しくなることもあるため、授業の継続については非常勤講師も想定する必要がある。しかし、システムに関わる授業科目については、システム管理者を返上するため、授業担当がかなり困難である。できるだけ協力できる体制を考えたい。

システムについての更改スケジュール等については、できるだけ気が付いたことは事務局にも共有し、また学内の新しいシステム管理の在り方にもアドバイスしていく。また、潜在的な危機に関してはシステム運営会社を伴ってできるだけ手を打つつもりである。

## 教授 菊池 裕 薬学博士

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

担当する授業及び実習で、最新の科学の動向を取り入れると共に、学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する。

学外競争的研究費の獲得にむけ、食品行政に即した研究課題を立案すると共に、学内研究環境の更新を図りたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・食品学総論.
- ・理化学概論.
- ・食品加工学.
- ・食品衛生学.
- ・食品微生物学.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・体験ゼミナール.
- ・食品化学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・食品加工学実習.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）。

- ・星薬科大学非常勤講師：レギュラトリーサイエンス概論、星薬科大学

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・奥輝明，菊池裕：令和2年度「日本薬局方の試験法等に関する研究」研究報告 単球活性化試験法による新規発熱性物質試験法の開発. 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス **53**, 5, 440-445. 2022.
- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜希子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光. 栄養学科卒業生に対するリカレント教育ニーズ調査と実施に向けた検討一，千葉県立保健医療大学紀要，14-1，69-74，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・菊池裕：本シンポジウムの果たす役割，日本防菌防黴学会 第38回GMPとバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム—微生物関連試験法，微生物管理等の最新情報を踏まえて—，2023年3月6日，東京.
- ・川井真好，菊池裕，北村壽朗，高松宏治，千葉隆司，野本竜平，杉田 隆：微生物試験法 細菌および真菌の菌叢解析法，日本薬学会143年会，2023年3月26日，札幌.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
- ・令和4年度「日本薬局方の試験等に関する研究」、微生物試験に用いる培地の管理に使用する pH 電極に関する研究、菊池裕、竹田智子、青山剛士、峰村貴央、湯之前雄太。
  - ・2022年度学内共同研究、HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究、菊池裕、工藤美奈子、生魚薫、一條知昭。

## 6 受賞・特許

- ・特許 7184683 号、除染法、松本浩子、山中誠、竹本史敏、畠山健治、齋島由二、工藤由起子、菊池裕、福井千恵、令和4年11月28日。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会、2022年4月1日-2023年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会、2022年4月1日-2023年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会、2022年4月1日-2023年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員、2022年4月1日-2023年3月31日。
- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会、2022年4月1日-2023年3月31日。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本薬学会、日本生化学会、日本マイコプラズマ学会、日本防菌防黴学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本薬学会微生物試験専門委員
- ・日本防菌防黴学会 GMP とバリデーションをめぐる諸問題に関するシンポジウム企画・運営委員

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・令和4年度公開講座「心豊かにくらすには」、講演① 衛生管理が守る食の安全、令和4年11月5日、千葉県立保健医療大学 幕張キャンパス 図書館棟 大講義室。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会、FD・SD委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、認証評価部会。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症の流行下で、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」に従い、担当した講義、実験及び実習は対面で、講義はすべて遠隔授業で行なった。実習で作製した食品の官能評価に一部支障はあったが、令和3年度の実験及び実習より改善できた。

競争的研究資金に応募し、外部資金と学内共同研究資金を獲得した。

## VII 次年度の目標

令和5年度は、前年度の講義及び実習を参考とし、新たな知見を加えて学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革として、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学生に対する学習支援として、学生の視線から講義、実験及び実習を捉える。

学外競争的研究費の獲得にむけ、食品行政に即した研究課題を立案すると共に、学内研究環境の更新を図りたい。

## 教授 加瀬 政彦 博士（医学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、本学に赴任2年目になるので、特に本学における様々な業務をより広い領域で実行することを目標にした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・解剖生理学Ⅰ.
  - ・解剖生理学Ⅱ.
  - ・解剖学.
  - ・疾病論.
  - ・生理学実験.
  - ・解剖学実験.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・総合演習.
  - ・栄養統計学.
  - ・卒業研究.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本解剖学会. 日本神経科学会.

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会. 研究倫理審査委員会動物部会. 国際交流委員会. 共通教育運営会議. FD/SD委員会. 教員資格審査委員会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

赴任2年目である令和4年度に本学の様々な業務、特に教育と大学運営業務により習熟することを目標にしたが、これらはある程度達成できた。教育では対面授業を円滑に行うことができた。委員会活動では倫理審査委員会委員長としての活動、FD/SD委員会では研究倫理に関するFDの講師を務めた。また、栄養学科1年生の担任を無難に務めることができた。しかしながらまだ十分に各種業務に慣れていないところがあったのでさらに努力したい。

### VII 次年度の目標

令和5年度はさらに高いレベルで本学の各業務の遂行ができるようにする。

## 教授 平岡 真実 博士（保健学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育においては、学生との対話を重視しながら質の高い講義、実習を行い、学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究では、学内外と協力してコロナ禍で遅延している研究を遂行すること、さらに研究成果の発表を必須とする。大学運営では担当業務に積極的に取り組み、委員会委員長では所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・応用栄養学Ⅰ.
  - ・応用栄養学Ⅱ.
  - ・応用栄養学Ⅲ.
  - ・応用栄養学実習.
  - ・スポーツ栄養学.
  - ・千葉県の健康づくり.
  - ・栄養統計学.
  - ・卒業研究.
  - ・管理栄養士特別演習.
  - ・総合演習.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・病態栄養学（お茶の水女子大学）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・平岡真実：ビタミン栄養学 UPDATE—新たな臨床的意義の確立にむけて⑧ 葉酸をめぐる話題，臨床栄養，141 巻，2 号，231-235，2022.
- ・平岡真実：トピックス 葉酸摂取とメタボリックシンドローム，ビタミン，96 巻，第 10 号，438-440，2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・平岡真実，坂本香織，百合本真弓，香川靖雄：葉酸栄養状態とメタボリックシンドローム関連指標，日本ビタミン学会第 74 回大会，2022 年 6 月 25 日，福岡大学.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）（一般），葉酸関連遺伝子多型別栄養介入による健康づくり支援の有効性：開始 15 年目の追跡調査，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本ビタミン学会、日本臨床化学会、日本栄養・食糧学会、日本分子生物学会、日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本ビタミン学会評議員、2015年11月～現在に至る。  
・日本ビタミン学会トピックス等委員会委員、2018年6月～現在に至る。  
・日本栄養改善学会評議員、2022年11月～現在に至る。  
・日本ビタミン学会第74回大会、一般演題座長、2022年6月25日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

・坂戸市葉酸プロジェクト 食と健康のプランニングセミナー 講師、坂戸市、地域活動栄養士、2022年8月23日、坂戸市役所。  
・坂戸市葉酸プロジェクト 食と健康のプランニングセミナー 栄養士研修会 講師、坂戸市、葉酸プロジェクトの取組状況について他、地域活動栄養士他 葉酸プロジェクト協力者、2023年3月22日、坂戸市立市民健康センター。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・教員再任審査委員会、学生委員会、学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、紀要編集部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、対面授業となり学生の反応を直接感じながら授業を実施したことで、これまでよりも対話が増え質の高い内容も組み込むことができた。研究活動では、学会発表や依頼論文等での研究成果発信はできたが、原著論文執筆にはおぼろげなため、論文文化に積極的に取り組む必要がある。科研費は最終年度であったが期間再延長をして、当初の研究計画を実施する予定である。社会貢献では学会での委員等が増えたため、今後は積極的に関与するよう努める。大学管理運営活動は積極的に取り組み、滞りなく役割を果たすことができた。

## VII 次年度の目標

教育においては、学生の自主的な学びに繋がるような授業展開の工夫をする。質の高い講義、実習のために常にブラッシュアップを行い、最新の情報を取り入れた内容で学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究では、新たに科研費基盤C研究が3年計画でスタートする。研究代表者として計画遂行、さらに期間延長した研究課題の総括にむけて、研究時間を増やすことを心掛け、研究成果の発表を必須とする。大学運営では学科長として学科運営を滞りなく進める。また委員会業務に積極的に取り組み、所掌事項を円滑に遂行するよう努める。



## 教授 谷内 洋子 博士（学術）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度の授業実施は、学生の安全を第一に優先し、対面授業と遠隔授業との両方を適宜活用し、学生の学びがより一層深いものとするとともに、学生と教員、学生と学生の関わりをつなぎ、県民はじめ自分以外の他者の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くす。これまでどおり、講義・実習において、身体や栄養に関する専門的知識・技能の修得に加え、対象の身体・心理・環境的要因を総合的に捉える能力と、包括的かつ具体的な方策を提案しうる能力を養うべく、演習での症例検討等においては、感染状況によっては遠隔授業であっても、履修生同士の意見交換等の場を提供することにより、臨床栄養学に関する理解を深める授業の工夫に着手する。

また、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学術学会のシンポジストでの講演を通じて、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

低栄養と過剰栄養が混在する現代日本において、専門領域である若年女性のやせおよび妊産婦の低栄養問題について、エビデンスベースで対応策を検討し、一般の方から専門職に至るまで、広く最新の知見を普及することにも注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導（臨地実習）.
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・臨床栄養学。（日本女子大学）
- ・臨床栄養学実践演習。（日本女子大学）
- ・課題解決型ワークショップ「こっぼん食を考える」。（日本女子大学）
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野。新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・谷内洋子、曾根博仁他：すべての診療科で役立つ 身体運動学と運動療法、2022年、羊土社、東京。
- ・谷内洋子：妊娠前からの適切な栄養摂取の重要性について；月刊母子保健、2022年、ヴィドゲン社、東京。

## 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- Maki Kawasaki, Naoko Arata, Takashi Sugiyama, Tatsumi Moriya, Atsuo Itakura, Ichiro Yasuhi, Yasuko Uchigata, Eiji Kawasaki, Hirohito Sone, Yuji Hiramatsu, DREAMBee study gestational diabetes mellitus group ;Yachi Yoko, et al. : Risk of fetal unfergrouwth in the management of gestational diabetes mellitus in Japan, Journal of Diabetes Investigation, doi: 10.1111/jdi.13977, 2023.
- 細山田康恵, 生魚薫, 峰村貴央, 岡田亜希子, 鈴木亜夕帆, 海老原泰代, 河野公子, 金澤匠, 荒井裕介, 平岡真実, 加瀬政彦, 菊池裕, 谷内洋子, 井上裕光. 栄養学科卒業生に対するリカレント教育-ニーズ調査と実施に向けた検討, 千葉県立保健医療大学紀要, Vol.14, No.1, 69-74, 2023.

## 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- Yachi Y, Tanaka Y, Yamada Y, Iijima H, Ikiuo K, Tastuno I, Sone H. :Secont Trimester Fasting Insulin Level as anImportant Predictor of Low Birth Weight Infants, The 8<sup>th</sup> Asian Congress Dietetics, August 19, 2022, PACIFICO Yokohama.
- 谷内洋子, 山田貴穂, 生魚薫, 龍野一郎, 曾根博仁: 妊娠中期における糖代謝状態と低出生体重児出産との関連の検討, 第65回日本糖尿病学会年次集会, 2022年5月12日~2022年5月14日, 神戸国際会議場.
- 谷内洋子, 柴崎康彦, 山田貴穂, 生魚薫, 龍野一郎, 曾根博仁: 妊娠初期における母体のヘモグロビン値・赤血球恒数と低出生体重児出産との関連の検討, 第33回日本疫学会学術集会, 2023年2月1日~2023年2月3日, アクトシティ浜松.

## 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 令和4年度上伊那地域栄養士「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針-改定のポイント」シンポジスト, 2022年9月12日, web開催.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C), 若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立, 研究代表者
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(B), 地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成, 研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 2) 千葉県外

- 食事・栄養相談, 令和4年4月~令和5年3月, 東京都大田区.

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- 日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー, 令和4年4月~令和5年3月
- 日本栄養・食糧学会 倫理審査委員会 委員, 令和4年4月~令和5年3月
- 日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士/管理栄養士）試験問題作成委員, 令和4年4月~令和5年3月

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- 公益社団法人 千葉県栄養士会 理事, 令和4年4月~令和4年5月
- 公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業務 副部長, 令和4年4月~令和4年5月
- 公益社団法人 千葉県栄養士会, 外来栄養食事指導検討委員, 令和4年4月~令和5年3月

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本疫学会、日本病態栄養学会、日本栄養・食糧学会、日本糖尿病・妊娠学会、DOHaD 研究会、日本栄養士会、千葉県栄養士会。

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本疫学会、代議員、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本病態栄養学会、評議員、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本病態栄養学会、The Journal of Metabolism and Clinical Nutrition 査読、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本糖尿病・妊娠学会、評議員、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本糖尿病・妊娠学会、妊娠糖尿病・糖尿病、合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 DREAMBee Study、検討委員、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本栄養改善学会、評議員、令和4年4月～令和5年3月
- ・栄養学雑誌、編集委員、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本栄養・食糧学会、参与、令和4年4月～令和5年3月
- ・日本栄養・食糧学会 倫理審査委員会 委員、令和4年4月～令和5年3月

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2022年度千葉県栄養士会生涯教育研修会、千葉県栄養士会、「若年女性の痩せ/肥満の問題-栄養障害の二重負荷の解決に向けて-」、2022年6月25日、web開催。
- ・2022年度千葉県栄養士会研究教育事業部研修会、千葉県栄養士会、「Society5.0社会における栄養士/管理栄養士教育、2022年12月17日、web開催。
- ・令和4年度行政栄養士研修、山口県健康福祉財団、「妊娠前からはじめる妊産婦のための食事生活指針2021」の改訂ポイントと妊産婦をめぐる食生活習慣の現状と課題、2023年2月7日、web開催

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、進路支援委員会、FD・SD委員会、IR部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員。

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・久ヶ原スイミングクラブ、令和4年4月7日、質の良いトレーニングとバランスの良い食事。  
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220408.html>
- ・久ヶ原スイミングクラブ、令和4年5月10日、スポーツをするお子様の栄養①。  
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220510.html>
- ・久ヶ原スイミングクラブ、令和4年6月9日、中学生の低い心肺持久力・筋力と代謝異常リスク。  
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220609.html>
- ・久ヶ原スイミングクラブ、令和4年7月8日、スポーツをするお子様の栄養②。  
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220708.html>

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和4年度においては原則対面授業の実施となったが、これまで以上の授業内容の充実をはかるべく、配布資料および事前・事後課題の内容等工夫に加え、受講学生に事前に授業に関する資料を配布することで、さらなる学びの促進と授業時の

理解強化となるよう授業運営を心がけた。実習・演習での対面授業では、調理実習、試食を伴う形態の授業が多かったことから、実習中は3密を回避する対策を行い、安全かつ充実した授業運営に取り組むことができた。

また千葉県栄養士会の理事および研究教育副部長として、県民の健康維持増進に貢献できるよう、生涯教育研修会の企画・立案に従事し、生涯学習研修会のセミナーの講師をつとめるとともに、学生対象とした教育セミナーの企画立案を実施し、100名を超える受講者へのスキルアップ、知識の底上げ、専門職としての使命やその自覚を育むことができた。

来年度も本学学生へのより良い指導の在り方を模索、検討し実践するとともに、学会役員の立場から、県内専門職への啓蒙活動に加え、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会のシンポジスト活動を通して、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行う。さらに自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

## Ⅶ 次年度の目標

令和5年度の授業実施は、全面的に対面授業の実施となることが想定されるが、コロナ禍では困難なことも多かった授業内での学生間の交流の支援を通じて、学生のコミュニケーション能力の向上や専門職としての資質の底上げ、エビデンスに基づいた治療を展開する責務を担う管理栄養士としての自覚の育成にも尽力する。学生の学びがより一層深いものとするとともに、学生と教員、学生と学生の関わりをつなぎ、県民はじめ自分以外の他者、国民全体の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くしたい。

また、近年増えてきた保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会でのシンポジスト活動を通じて、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。さらに、専門職として調査・研究を行う管理栄養士が増えている中、そのスキルに課題があることが指摘されていることから、研究計画の立案や文献検索の手技などに関する講演に従事する予定である。研修会での講演や演習を通じて後進の育成に尽力することで、管理栄養士びプレゼンス向上にも努めたい。

## 准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面ではデータの解析をすすめて論文化に取り組む。また共同研究に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・公衆栄養学Ⅰ.
  - ・公衆栄養学Ⅱ.
  - ・公衆栄養学実習.
  - ・公衆栄養臨地実習.
  - ・栄養管理臨地実習.
  - ・事前指導.
  - ・事後指導.
  - ・管理栄養士導入教育.
  - ・栄養統計学.
  - ・総合演習.
  - ・卒業研究.
  - ・千葉県の健康づくり.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・公衆栄養学（大阪公立大学）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論 2022/2023（エスカパーシック），2022年4月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介，阿部絹子，今井具子他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 公衆栄養学 2023年版，2023年2月，医歯薬出版，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Yamaguchi M, Praditsorn P, Purnamasari SD, Sranacharoenpong K, Arai Y, Sundermeir SM, Gittelsohn J, Hadi H, Nishi N: Measures of Perceived Neighborhood Food Environments and Dietary Habits: A Systematic Review of Methods and Associations, *Nutrients*, 14(9), 1788, 2022, doi: 10.3390/nu14091788.
- ・Koyama T, Arai Y, Iida A, Isobe S, Okamoto R, Kushida O, Shibuya I, Tanaka K, Morooka A, Yoshita K: Impressions and Turning Points of Japanese Public Health Dietitians: a Web-Based Cross-Sectional Study, *Asian Journal of Dietetics*, 4(4), 83-89, 2022.
- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加藤政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育－ニーズ調査と実施に向けた検討－，*千葉保医大紀要*, 14(1), 69-74, 2023.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- Tatsuya Koyama, Yusuke Arai, Ayaka Iida, Sumie Isobe, Rie Okamoto, Osamu Kushida, Izumi Shibuya, Kazumi Tanaka, Ayumi Morooka, Katsushi Yoshita: Do Skill Improvement and What to Aim for in 10 Years as Dietitians Working in Municipalities Differ Depending on their Aimed Position?, The 8th Asian Congress of Dietetics, 2023 Aug, Yokohama.
- Osamu Kushida, Tatsuya Koyama, Yusuke Arai, Kazumi Tanaka, Ayaka Iida, Ayumi Morooka, Sumie Isobe, Rie Okamoto, Izumi Shibuya, Katsushi Yoshita: Learning Needs of Public Health Dietitians by Years of Experience in Health Promotion in Japan, The 8th Asian Congress of Dietetics, 2023 Aug, Yokohama.
- 由田克士, 荒井裕介, 岡本理恵, 串田修, 小山達也, 澁谷いづみ, 田中和美, 飯田綾香, 赤堀摩弥, 磯部澄枝, 諸岡歩: 10年後を見据えた新しい自治体管理栄養士養成プログラムのアウトライン, 第81回日本公衆衛生学会, 2023年10月, 山梨県.
- 飯田綾香, 小山達也, 串田修, 田中和美, 荒井裕介, 諸岡歩, 磯部澄枝, 岡本理恵, 澁谷いづみ, 由田克士: 市町村の行政栄養士がスキルアップするために必要な研修及び環境・体制整備, 第81回日本公衆衛生学会, 2023年10月, 山梨県.

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病対策総合研究事業，公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究，研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- 船橋市，ふなばし健やかプラン21推進評価委員会委員，2022年4月～2023年3月.
- 厚生労働省，管理栄養士国家試験委員会，2022年4月～2023年3月.

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- 日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会，日本高血圧学会，日本疫学会.
- 日本栄養士会，神奈川県栄養士会.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- 特定非営利活動法人日本栄養改善学会，理事，2021年11月～現在に至る.
- 特定非営利活動法人日本栄養改善学会，評議員，2006年11月～現在に至る.
- 特定非営利活動法人日本栄養改善学会，関東・甲信越支部会副支部長，2020年8月～現在に至る.
- 一般社団法人日本公衆衛生学会，代議員，2019年7月～現在に至る.
- 一般社団法人日本公衆衛生学会，公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，2018年2月～現在に至る.
- 第22回国際栄養学会議プログラム委員，2019年4月～2023年1月.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 教務委員会，衛生委員会，自己点検・評価実施推進部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では対面授業の復帰にあわせて授業資料の見直し等を行い，学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう，講義ではスライドのわかりやすい記述や解説説明に努めた．研究面では参加する共同研究にて専門的立場から考察を行い，論文および学術発表を行うことができた．

## VII 次年度の目標

教育面では、担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面では既存の研究データの解析を予定するとともに、外部からの業務の受託がある場合はその業務の遂行する。

## 准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は、学内共同研究に採択された研究課題に着手し、研究の推進及び成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。教育の面では、対面授業へ移行したことを受け、引き続き感染防止対策の徹底に努めるとともに講義や実験・実習の内容に関して工夫し、授業の更なる充実を図る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・栄養学Ⅰ（基礎）.
  - ・栄養学Ⅱ（応用）.
  - ・食品学各論.
  - ・食品学実験.
  - ・基礎栄養学.
  - ・基礎栄養学実習.
  - ・総合演習.
  - ・栄養統計学.
  - ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育-ニーズ調査と実施に向けた検討，千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，69-74，2023年.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：低糖質食に魚油加工食品を摂取したラットの酸化ストレスと行動に及ぼす影響，日本脂質栄養学会，2022年9月9日，弘前.
- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：魚油とフラボノイドを添加したラットにおけるオートファジーへの影響，日本栄養改善学会，2022年9月16～18日，岡山.
- ・Yasue Hosoyamada，Takumi Kanazawa，Yoshiko Higuchi，Masako Yamada：Effects of flavonoids added to fish oil on fat accumulation and adipocytokines in rats，22nd IUNS-International Congress of Nutrition，6/12/2022-1/12/2022，Tokyo.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，ラットの性周期による卵巣ホルモンの変動が肝オートファジーに及ぼす影響，研究代表者.



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本農芸化学会、日本生化学会、日本栄養・食糧学会、日本栄養改善学会、日本食品科学工学会、

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本栄養改善学会、評議員、2022年11月1日～現在に至る

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、紀要編集部会、動物実験研究倫理審査部会、

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、学内共同研究費を獲得することができ、ラットの性周期変動による血中ホルモン量の変化が肝臓でのオートファジーを調節していることを明らかにすることができた。この結果については2023年度内に学会において公表できるように準備を進めている。教育においては、対面授業へ移行したことを受けて引き続き感染防止対策の徹底に努めた。さらに teams や forms といった遠隔授業時に使用していたオンラインツールを対面授業でも活用し、学生の理解状況の把握及びフォローアップに役立てることで授業の更なる充実を図ることができた。大学の管理・運営においては、特に紀要編集部会長として紀要第14巻の発行を行うことができた。

## VII 次年度の目標

2023年度は、研究については引き続き研究を推進し、その成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。また、科研費や学内共同研究費といった研究資金の獲得も積極的に行う。教育では、講義や実験・実習の内容に関して工夫し、授業の更なる充実を図る。大学の管理・運営においては、委員及び部会長として責任を持って委員会や部会の運営に取り組む。

## 准教授 工藤 美奈子 博士（学術）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、本学に着任初年度のため、授業及び本学における様々な業務に習熟することを目標にする。特に臨地実習においては、学生の傾向と特徴をつかみ信頼関係を構築したうえで、学生が滞りなく実習を遂行できるように実習施設との調整や事前・事後指導に尽力する。大学の管理運営においては、COVID-19 禍中においても学生が活発に活動できるようなサポートに努めるとともに、本学のリスクマネジメントのあり方について共通認識を高めていきたい。社会貢献については、これまでの東京都での経験を生かし、千葉県の特徴や現状を把握しつつ多世代の食や健康につながるような地域活動に貢献できる体制を整えていきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・給食経営管理論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・食事設計と調理実習.
- ・在宅栄養支援論.
- ・フードマネジメント論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士国家試験対策講座.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.

### III 研究記録

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究、コロナプロジェクト、研究分担者
- ・学内共同研究、HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究、研究分担者

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

##### 1) 千葉県内

- ・千葉市. 食育&消費者教育情報誌「おいしくタベルたのしくマナブ」vol.8. 令和4年7月～10月

##### 2) 千葉県外

- ・東京都小平市. 二小青少年対策地区委員会副会長. 令和4年4月～令和5年3月

- ・東京都小平市. 子ども食堂3ヶ所. 令和4年11月～令和5年3月

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会. 給食経営管理学会. 日本家政学会. 日本調理科学会.
- ・日本栄養士会. 東京都栄養士会.

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・日本栄養改善学会評議員 令和4年10月1日～令和5年3月

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・危機管理委員会. 学生委員会. 教育年報作業部会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

着任初年度である令和4年度は教育活動は教育活動に重きを置き、学生にわかりやすい授業説明と講義資料の作成を心掛けた。給食経営管理実習では、COVID-19感染予防対策のため、履修者以外への食事提供の困難から評価が得にくい難点を、学長や栄養学科の教員の検食という形で喫食者からの評価取得を実現することができた。その他の実習・演習においても、3密の回避、入室時の健康チェックや一方向での黙食の試食等COVID-19感染予防対策に努めた。理臨地実習では、千葉県地域性を把握し本学と実習施設との良好な関係性を維持・継続するとともに、学生の立場に立ち細やかに親身な学生指導に注力した。結果として、自身の学生理解が進んだと考えている。しかし初年度で、円滑な教育活動に注力した分研究に取り組むことができず、教育と研究の両立の難しさを感じた。また、千葉県との連携活動である新型コロナプロジェクトチームのアンケートグループのリーダーとして活動を推進し、千葉県下の高齢者施設へアンケート調査を実施した。

大学運営業務に関しては慣れることを目標としたが、これらはある程度達成できた。社会貢献では、日本栄養改善学会の評議員を務めることとなり、次年度以降の学会の円滑な運営に貢献していきたい。

以上各種業務に努めたが、まだ十分に慣れず活動できていないところがあったためさらに努力したい。

## VII 次年度の目標

令和5年度はさらに高いレベルで本学の各業務の遂行ができるように積極的に関わっていく。特に、特色科目の「専門職間の連携活動論」では科目代表担当となるため、滞りなく遂行できるように尽力したい。

また、今年度休止していた研究活動を再開していく。新型コロナプロジェクトでは調査結果の公表を通じ、県内施設高齢者の生活の質の向上に貢献したい。社会貢献においては、千葉県内での地域活動を強化し、県民の健康づくりやフレイル予防推進に貢献していくための取り組みをしていきたい。具体的には、本学給食経営管理実習室を活用し、ちいき食堂を開設できる体制を整えていきたい。これにより、地域住民の生活・健康支援の一助とともに、学生の社会活動の場の提供や学内施設の稼働率の向上も目指していく。

## 准教授 広川 由子 博士 (教育学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度においては、本学学生への教育をより充実させるため、担当する授業においてアクティブ・ラーニングによる授業改善に努め、学生の興味・関心をこれまで以上に引き出す。栄養学科2年生の担任としては、広い視野で学生理解に努める。教職課程においては、教職を取り巻く現状を十分踏まえたうえで、質の高い栄養教諭の養成を念頭に講義計画を立案し適切な講義・指導を行う。研究活動においては、科研費初年度から積極的に一次史料の発掘に心がけ、学会での口頭発表・論文投稿を目指す。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら本学の発展に尽力する。社会貢献では、引き続き、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県の教育行政や学校に貢献できる体制を整える。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
  - ・教育学.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・教職論.
  - ・教育学概論.
  - ・教育制度論.
  - ・カリキュラム論.
  - ・道徳・総合的な学習・特別活動論.
  - ・生徒指導論.
  - ・教職実践演習 (栄養教諭).
  - ・栄養教諭教育実習：事前・事後指導.
  - ・栄養教諭教育実習.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・広川由子・高田麻美：生徒自治を育てる特別活動のあり方—長野県師範学校『旅行日記 全』を手がかりにして—, 教育史研究室年報, 28, 37-63, 2023.

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・広川由子：自著を語る 広川由子著『戦後期日本の英語教育とアメリカ：新制中学校の外国語科の成立』(大修館書店, 2022年3月), 日本英語教育史学会 第291回研究例会, 2023年1月7日, オンライン開催.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 占領期沖縄における英語教育政策過程—小学校への「英語科」の導入と廃止—, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本教育学会、教育史学会、日本教育政策学会、日本英語教育史学会、中部教育学会、国際文化表現学会、

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

・日本教育政策学会、事務局書記、2020年7月～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・共通教育運営会議、研究倫理審査委員会、教務委員会、図書委員会、紀要編集部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営会議、栄養学科2年生担任

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

着任して1年半経過し、教育活動ならびに大学運営業務が無事終わることができ、ほっとしている。昨年度同様、教育活動に重きを置き、学生の立場に立ちアクティブラーニングの視点から授業を改善しつつ、わかりやすい講義を心掛けた。また、2年生の担任として、学生理解と指導に丁寧に取り組み、無事任務を全うできたと感じている。研究活動においては、科学研究費補助金基盤研究(C)に採択され、計画通り、沖縄県を訪問し一次史料の調査・収集を実施し、現在も分析を進めることができている。さらに所属学会にて「自著を語る」機会を得て口頭発表を行った。教職課程認定に対応できる研究業績も蓄積することができた。大学運営においては、多くの学内の先生方に学びつつ、関係を構築することができたと実感している。とりわけ研究倫理審査委員会では慣れないことが多く苦労したが、責任をもって取り組むことができた。社会貢献では、日本教育政策学会の事務局書記として、学会の円滑な運営に貢献するとともに、会長選挙等の事務作業に尽力できた。

## VII 次年度の目標

次年度は、教育活動においては、継続して学生の教職への興味・関心を引き出すため、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善・充実に努める。教員不足という現状を十分、踏まえたうえで、栄養教諭養成制度の諸問題を考察しつつ、講義計画を立案し、適切な講義・指導を行えるよう努力する。研究活動においては、再び沖縄県及び米国を訪問し未見の史料を発掘し、新たな研究手法を設定したうえで、所属学会での口頭発表・論文投稿を果たす。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら尽力する。とりわけ大学設置基準の改正により新しい大学教育のあり方が問われていることから、本学のカリキュラム改革において最善を尽くす。社会貢献では、引き続き、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県の教育行政や学校に積極的にアクセスする。

## 講師 鈴木 亜夕帆 博士（学術）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、担当授業において、自ら考え、問題解決する思考が育つような授業展開を目指して、学生に合わせてさらに改善を行う。継続している研究について成果を出せるように努力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・食事設計と調理.
  - ・調理科学実験.
  - ・調理実習.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・千葉県の健康づくり.
  - ・総合演習.
  - ・卒業研究.
  - ・栄養統計学.
  - ・食育論Ⅰ.
  - ・食育論Ⅱ.
  - ・食生活教育論.
  - ・学校栄養教育論.
  - ・教職実践演習.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・食育論（東京歯科大学短期大学）
  - ・食育実践論（東京栄養食糧専門学校）

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・渡邊智子，鈴木亜夕帆：高校生食育リーフレット「自分の食事を自分でデザインしよう！～自分にあった食事の量と量を知らう～」指導用マニュアル・学習指導案展開例（PDFのオンライン公開），2022年4月，千葉県・千葉県教育委員会，千葉県

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育—ニーズ調査と実施に向けた検討—，千葉県立保健医療大学紀要，14巻，1号，69-74，2023年

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・渡邊智子，梶谷節子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美，中路和子，鈴木亜夕帆：千葉県の家庭料理 地域の特徴—多様な地域食品を活かした料理—，日本調理科学会2022年度大会，2022年9月2-3日，兵庫県
- ・鈴木亜夕帆，高口夕葵，氏川優美，渡邊智子：事前浸漬を行ったスパゲティゆでめんの無機質及び物性の特徴，日本調

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・文部科学省科学技術・学術審議会, 食品成分委員会及び作業部会専門委員,
- ・木更津市食育推進協議会 委員,

##### 5 学会, 学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会, 調理科学会, 千葉学校保健学会,

###### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県学校保健学会 監事 2021 年 4 月～現在,

##### 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・千葉県教育委員会 令和 4 年度栄養教諭初任者研修第 5 回校外研修 講師, 「食育の進め方」について講義及び演習, 栄養教諭初任者, 2022 年 7 月,
- ・株式会社 LEOC (給食受託会社) プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC 大学院」における栄養学部 講師, 社内管理栄養士対象, 2022 年 5 月 14 日, 7 月 23 日, 9 月 10 日, 11 月 26 日, 2023 年 1 月 21 日, 2 月 11 日, オンラインまたは対面,

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施委員,

##### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議,

##### 3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・高等学校大学説明会 (千葉県立長狭高等学校, 6 月 30 日)

#### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

担当授業の授業展開を, 感染症対策も行いながら, 学生に合わせてた内容になるように工夫できた. 研究の時間を取り分けることが難しく, 一定の成果はあったが思うような成果を出すことができなかった.

#### VII 次年度の目標

学生にとって主体的で対話的な深い学びとなるような授業展開ができるように, 学生の状況に合わせて内容等を工夫し, 改善を行う. 調理科学及び食育分野での研究を継続して行う. 担当科目及び研究に関する知識を深めることにも心掛ける.

## 講師 渡辺 優奈 博士（栄養学）

対象期間：2022年9月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に教育面において学生参加型のアクティブラーニングを意識した授業を行っていく。研究では、研究代表者を務める研究を中心に調査研究を進めるとともに、携わる共同研究の調査やまとめについて自分の役割を果たし、適切かつ円滑に進めていく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・栄養教育論 I.
  - ・栄養統計学.
  - ・管理栄養士特別演習.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・栄養学（食品学を含む）（新潟大学）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所。）

- ・小林麻貴、渡辺優奈、川野因：サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 栄養教育論，2022，第一出版株式会社，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・藤浪未沙，善方裕美，井畑穰，上原萌美，小谷野豊，安藤希，渡辺優奈，石川大仁，松本美保，細谷吉勝，佐藤嘉純，小松令以子：新生児の皮膚状態と皮膚細菌叢および腸内細菌叢の関連，日本小児皮膚科学会雑誌，42，1，37-47，2023。

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・石川大仁，藤浪未沙，岡村晶子，渡辺優奈，井畑穰，上原萌美，小谷野豊，安藤希，佐藤嘉純，小松令以子，細谷吉勝，松本美保，善方裕美：母体から児へのエクオール産生状況調査 妊娠初期から生後1年までの縦断研究より，第37回日本女性医学学会学術集会，2022年11月12～13日，鳥取（ハイブリッド開催）。
- ・藤浪未沙，善方裕美，渡辺優奈，井畑穰，上原萌美，小谷野豊，安藤希，石川大仁，細谷吉勝，松本美保，佐藤嘉純，小松令以子：妊娠期の便通・腸内環境改善と新生児インドキシル硫酸排泄の関連について，第37回日本女性医学学会学術集会，2022年11月12～13日，鳥取（ハイブリッド開催）。

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究，妊婦の鉄栄養状態と鉄摂取量の関係解明～鉄代謝調節因子「ヘプシジン」に着目して～，研究代表者。
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，地域在住の自立高齢者の低栄養の実態と関連要因～食意識・食行動に着目して～，研究分担者。



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・いすみ市「まい大健康プログラム」, 2022年10月15日, いすみ医療センター.

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部, 長岡地域「地域高齢者等の『食』をサポートする体制整備事業」事業評価委員, 2022年5月～2023年2月.

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本女性医学学会, 日本栄養学教育学会, 日本健康教育学会, 日本母性衛生学会, 日本栄養士会, 千葉県栄養士会.

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本栄養学教育学会, 編集委員, 2023年8月1日～現在に至る.
- ・日本栄養改善学会, 評議員, 2023年11月1日～現在に至る.

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2022年度新潟県栄養士会生涯教育実務研修会⑤, 新潟県栄養士会, データを効率よく見える化するスキル～エクセルを用いた資料作成から集計・グラフ化～, 栄養士会会員対象, 2022年11月, オンデマンド配信.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学部長候補者予備選挙管理委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面においては、積極的にディスカッションや発表の場を設けるなど、学生の主体的な学びを意識して授業を展開することができた。研究においては概ね順調に調査等の準備を進めることができたが、教育と研究それぞれの時間にメリハリをつけて業務を行っていく必要がある。

## VII 次年度の目標

令和4年度に引き続き、教育面では学生参加型のアクティブラーニングを意識した授業を行い、改善を図っていききたい。研究面では共同研究を進めるとともに、調査結果を学会発表や論文にまとめていきたい。

## 助教 生魚 薫 修士 (家政学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、引き続き教育活動に専念する。研究活動においては、コロナ禍にてデータ収集が難しかったため、調査継続しデータ収集を行う。研究成果報告、論文化を目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・臨床栄養学実習。
  - ・給食経営管理実習。
  - ・栄養ケアマネジメント論実習。
  - ・事前・事後指導。
  - ・臨床栄養臨地実習。
  - ・給食経営管理臨地実習。
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名・大学名)。
  - ・千葉市青葉看護学校非常勤講師 (臨床栄養学)

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・生魚薫, 鈴木葉子, 杉原茂孝：保育所における体格評価と食育活動の実態調査について, 第69回日本小児保健協会学術集会, 6月24～26日, 三重県総合文化センター
- ・谷内洋子, 山田貴穂, 藤原和哉, 生魚薫, 堀川千嘉, 田中康弘, 龍野一郎, 曾根博仁：妊娠中期における糖代謝状態と低出生体重児出産との関連の検討, 第65回日本糖尿病学会学術集会, 2022年5月12日～5月14日 兵庫 (神戸)
  - ・Yoko Yachi, Yasuhiro Tanaka, Takaho Yamada, Haruka Iijima, Kaoru Ikiuo, Ichiro Tatsuno, Hirohito Sone : Second Trimester Fasting Insulin Level as an Important Predictor of Low Birth Weight Infants, ACD2022, 2022.8.19～21 (JAPAN) ,
- ・峰村貴央, 生魚薫, 鈴木礼子, 齋藤さな恵, 三舟隆之：東大寺写経生のライフスタイルからみる疾病に関する研究, 第69回日本栄養改善学会学術集会, 9月16日～18日, 川崎医療福祉大学
- ・Kaoru Ikiuo, Shigetaka Sugihara, Yoko Suzuki, Yukie Yanagisawa : Anthropometric assessment of relationship between dietary intake status of mothers and children: Similarity between dietary intake of mothers and children in overweight group is weak, ICN2021, 2022.12.5～12.11 (JAPAN)

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, HACCP システムに用いる微生物管理手法の実証実験に関する研究, 研究代表者 菊池裕, 分担研究者 工藤美奈子, 生魚薫, 一条知昭

#### 6 受賞・特許

- ・千葉県栄養士会会長表彰

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導（2019年11月～月1回継続中）

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床栄養代謝学会、日本栄養改善学会、日本臨床栄養学会、日本病態栄養学会、日本成長学会、日本肥満学会、日本小児保健協会、日本小児科学会、日本糖尿病・妊娠学会、
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会、

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・研修会講師：生涯教育研修会、（公）千葉県栄養士会、「栄養士・管理栄養士が知っておくべき 小児糖尿病の基礎知識とその栄養ケア①-乳幼児～思春期にかけて-」、「栄養士・管理栄養士が知っておくべき 小児糖尿病の基礎知識とその栄養ケア②-小児糖尿病の栄養指導-カーボカウント法の活用-、対象：千葉県栄養士会会員、8月27日、オンライン開催
- ・講演会講師：うたせシニア体操・打瀬公民館共済事業、アクティブシニアの食事～フレイル予防～、対象：一般市民、11月2日（打瀬公民館）

## V 管理・運営記録

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・1年生副担任、栄養学科履行係、

### 3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・千葉県立君津高等学校大学説明会（高校訪問）令和4年9月27日
- ・敬愛学園高等学校大学説明会（高校訪問）令和4年3月16日

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では、感染対策を取りながら、実習が遂行するように努めた。特に調理における対応について科目に関わる教員とともに授業運営について整備することができた。研究活動では、データ収集を継続してきたが、論文文化による公表までに至らなかった点において、次年度改善していきたい。

## VII 次年度の目標

教育活動は、学生により良い学習環境を提供できるように実習・演習において随時見直しする。

研究活動は、前年度データ収集した結果をもとに論文文化を目指す。

## 助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、博士号取得のための原著論文を1報以上作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・公衆栄養学実習.
  - ・公衆栄養臨地実習.
  - ・事前指導.
  - ・事後指導.
  - ・栄養教育論実習.
  - ・栄養教諭教育実習.
  - ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
  - ・食品加工学実習.
  - ・専門職間の連携活動論.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・臨床栄養代謝学（神奈川県立衛生看護専門学校）.
  - ・疾病論Ⅳ（栄養学）（川口市立看護専門学校）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・岡田亜紀子：食と健康，4月号，p. 43, 68-69, 2022, (公社) 日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，6月号，p. 35, 60-61, 2022, (公社) 日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，8月号，p. 37, 64-65, 2022, (公社) 日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，10月号，p. 41, 68-69, 2022, (公社) 日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，12月号，p. 35, 60-61, 2022, (公社) 日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，2月号，p. 31, 56-57, 2023, (公社) 日本食品衛生協会，東京

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年. 本人下線）

- ・細山田康恵，生魚薫，峰村貴央，岡田亜紀子，鈴木亜夕帆，海老原泰代，河野公子，金澤匠，荒井裕介，平岡真実，加瀬政彦，菊池裕，谷内洋子，井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，千葉県立保健医療大学紀要，14(1)，69-74，2023. (査読あり)

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・Akiko Okada, Yasuyo Ebihara, Tomoko Watanabe : Current Status of Nutrition Teacher and School Nutrition Staff in Chiba Prefecture : Cooperation Survey within Schools. The 8th Asian Congress of Dietetics (ACD 2022), August 19, 2022, PACIFICO Yokohama.
- ・Yasuyo Ebihara, Akiko Okada, Tomoko Watanabe : Current Status and Issues of Lifestyle-related Disease

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 5 学会、学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、クリニカルパス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会、日本在宅栄養管理学会、公衆衛生学会、日本在宅医療学会、日本社会関係学会、
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会、

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・成田市生涯大学院教養講座、成田市教育委員会生涯学習課、楽しむ食生活のすすめ、2023年2月1日・2日、成田市生涯大学校、

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科3年生副担任、栄養学科 学科運営委員、

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

遠隔授業から完全対面の授業が再開となり、教育活動や学生支援活動では covid-19 感染症予防対策を念頭に置き、学科教員と連携して学生対応をおこなった。感染リスク軽減がなされるよう、学内実習ならびに臨地実習ともに、学生の学修成果が平時に近づくよう、Teams をうまく活用しながら科目責任者と学生を支援することに努めた。また、授業や大学の運営では、休暇中の助教に関わる業務補完に携わった。学科運営員として、学科会議等、学科内が円滑に運営ができるよう尽力した。

研究活動では、博士号取得のための研究が進まなかったため、次年度の目標としたい。

#### VII 次年度の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、博士号取得のための原著論文を1報以上作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。

## 助教 田村 友峰子 修士（生命科学）

対象期間：2022年12月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

復職して間もないため、体調管理に気を付けながら、各教員と連携をとり、業務を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・食品衛生学実験.
  - ・食品加工学実習.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
  - ・千葉市子ども食堂ネットワーク グレイステーブル. 2023年3月. グレースリバーチャーチ（千葉県千葉市中央区）.

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本栄養士会. 東京都栄養士会. 日本給食経営管理学会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

復職して間もないため、業務に慣れることで精一杯であった。今後は、体調管理に気を付けながら、少しずつ研究にも取り組み、大学教員としての資質の向上に努めたい。

### VII 次年度の目標

教育・研究をバランスよく取り組めるように、体調管理に注意し、各教員との連携をはかりながら、業務を遂行する。

## 助教 峰村 貴央 博士（食品栄養学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、先の見通を立てて教育活動および社会貢献が実践できるように活動を行う。また、研究活動は外部資金獲得へ向けて実験を完遂していく。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）。
  - ・調理科学実験.
  - ・食事設計と調理実習.
  - ・食品化学実験.
  - ・食品学実験.
  - ・調理実習.
  - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）。
  - ・栄養学、千葉市立青葉看護専門学校.
  - ・食品利用安全学研究室、東京農業大学特別研究員.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・細山田康恵、生魚薫、峰村貴央、岡田亜紀子、鈴木亜夕帆、海老原泰代、河野公子、金澤匠、荒井裕介、平岡真実、加瀬政彦、菊池裕、谷内洋子、井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育 ニーズ調査と実施に向けた検討、千葉県立保健医療大学紀要、14(1)、69-74、2023.
- ・細山田康恵、生魚薫、峰村貴央、岡田亜紀子、鈴木亜夕帆、海老原泰代、河野公子、金澤匠、荒井裕介、平岡真実、加瀬政彦、菊池裕、谷内洋子、井上裕光：栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討、千葉県立保健医療大学紀要、14(1)、96、2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・峰村貴央、花城 勲、阿久澤さゆり：青森県産アピオス（*Apios americana* Medikus）から分離した澱粉の理化学的性質とレオロジー特性、日本食品科学工学会 第66回大会、2022年8月24-26日、オンライン開催.
- ・峰村貴央、生魚薫、鈴木礼子、齋藤さな恵、三舟隆之：東大寺写経生のライフスタイルからみる疾病に関する研究、第69回日本栄養改善学会学術総会、2022年9月16-18日、Web開催.
- ・鈴木知沙菜、関根彩乃、吉野友実子、石井佑果、小山はるな、内田杏子、大泉玲奈、町田心、緒形友里、寺内恵美子、峰村貴央、佐藤ゆき、佐藤彩、小西敏郎、関根愛莉、鈴木礼子：大学生の食物繊維摂取量について新型コロナウイルス感染症流行前後比較および食環境・生活状況との検討、第69回日本栄養改善学会学術総会、2022年9月16-18日、Web開催.
- ・吉野友実子、佐藤凜、石井佑果、鈴木知沙菜、内田杏子、大泉玲奈、小山はるな、町田心、緒形友里、寺内恵美子、峰村貴央、佐藤ゆき、佐藤彩、小西敏郎、鈴木礼子：大学生の食環境とカルシウム摂取量との関連について、第69回日本栄養改善学会学術総会、2022年9月16-18日、Web開催.
- ・田中真祐子、峰村貴央、阿久澤さゆり：対馬の保存食「せん」と郷土料理「ろくべえ」の粘弾性に関する研究、第31回

日本健康医学会総会, 2022年11月12日, 東京農業大学.

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等）
  - ・シンポジウムカツオの古代学 Part 1, 鯉色利の粘弾性（シンポジスト）, 2023年2月24日, 東京医療保健大学.
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）
  - ・科学研究費補助金基盤研究(A), 東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病, 研究分担者.
  - ・学長裁量研究, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価, 研究分担者.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 4 職能団体委員等（職能団体名称, 委員名称, 活動期間）
  - ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 研究教育事業部役員, 2022年5月～現在に至る.
  - ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 生涯教育委員, 2022年5月～現在に至る.
  - ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 栄養指導研究所運営委員, 2022年5月～現在に至る.
- 5 学会, 学術団体への貢献
  - 1) 所属学会・学術団体
    - ・日本食品科学工学会, 日本調理科学会, 日本応用糖質科学会, 日本栄養改善学会, 日本健康医学会, 千葉県学校保健学会, 千葉県栄養士会.
  - 2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名, 役職, 活動期間）
    - ・公益社団法人 千葉県栄養士会, 学術部理事, 2022年5月～現在に至る.
    - ・日本食品科学工学会第66回大会, 3Dp 食品物性 一般公演座長, 2022年8月26日.
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所）
  - ・第2回URほい大健康プログラム, 千葉県立保健医療大学, バランスのよい食事をとりましょう, 一般市民, 2022年10月29日, 真砂第一団地.
  - ・健康づくり栄養講座2022, 公益社団法人 千葉県栄養士会, 嚔を防ぐためのオーラルフレイルの予防-口の健康で健康長寿を達成しよう!-, 一般市民, 2022年11月27日, Web開催.
  - ・2022年度 千葉県栄養士会 研究教育事業部研修会, 公益社団法人 千葉県栄養士会, society5.0 社会における栄養士/管理栄養士教育, 大学教員, 2022年12月17日, Web開催.

#### V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・2年生副担任.

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

年度当初の目標通り, 社会貢献を中心に活動することができた. 昨年度までは, 教育と研究を中心に活動していたため, 学外の活動に目を向ける機会が少なかった. 今年度は, 千葉県栄養士会の役員を拝命し, 県民への講演会や会員に向けての教育活動などの企画に積極的に参画した. 職務の遂行を通じて, 多職種の管理栄養士と繋がることができ, 自身の見識を広げることができたと感じる. 教育活動においては, 2年生という将来を模索する学年を担当し, 社会に目を向けて行動をするように指導をした. 研究活動においては, 研究分担者として取り組んでいる研究について学会報告を行い, おおむね順調に取り組むことができた.



## Ⅶ 次年度の目標

教育・研究・社会貢献の業務バランスを意識し、計画的に取り組んでいく。特に研究活動では、前年度から継続している研究を発展させるとともに、これまでの研究成果の公表に取り組んでいきたい。

## 助教 田中 佑季 博士（食品栄養学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2021年の10月に着任したため、2022年の9月までで1年を通しての仕事を一通り経験することになる。このため教育活動の目標は前期までに1年通しでの仕事内容を覚え、後期以降は前年からの経験を活かし、業務を円滑に遂行することとした。また、今年は広報委員会に所属するため、特にオープンキャンパスやパンフレットの作成に力を注ぎ、大学の広報活動に貢献したい。研究活動については学内共同研究費に応募し、これが承認された。テーマは千葉県産のこかぶの抗酸化能である。まずは今回指定した野菜の試料調整から取り組むことになる。これを足掛かりとして今後の研究活動を展開できるように努める。最後になるが今年度は4年生の担任になる。栄養学科としては国家試験の合格率が一つに評価点となるため、できる限り多くの学生が合格できるよう、模擬試験や学生面談などで必要な対策を取りたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
  - ・生化学実験.
  - ・生理学実験.
  - ・応用栄養学実習.
  - ・基礎栄養学実習.
  - ・解剖学実験.
  - ・食品衛生学実験.
  - ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
  - ・学内共同研究費 研究テーマ：千葉県産の小カブの抗酸化能 研究代表者：田中佑季/

### IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）
  - ・健康教室の補助業務、12月10日、千葉県立保健医療大学

- 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・家政学会.

### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・広報委員.
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・国家試験対策委員会.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

年間を通して業務を遂行し、1年間を通したスケジュールの把握できた。学内の設備を大方把握したこともあり、前年から引き続き行っている業務は前年よりスムーズにこなせていると感じており、このまま次年度に向けて改善を続けたい。また、広報委員では、コロナ禍以降初となるオープンキャンパスが実施され、タイムスケジュールの管理や学内配置、動線の設定などで貢献できた、加えて学内案内・パンフレットの作成にも拘わり、より良い物を作ることができたと自負している。研究活動については、当初予定していたこかぶからのBAP測定の試料作製にある程度納得のいく方法を検討することができた。加えて、こかぶの抗酸化能に強く影響を与える成分を見出し、さらなる検討のため、引き続き学内共同研究費に応募している。最後に、今年度の国家試験の合格率は92%となった。残念ながら100%とはならなかったが、全国平均を上回ることができたのは一つの成果と考える。

## VII 次年度の目標

次年度は学校説明会や成田市での生涯大学院講義など新たに行う業務が予定されている。新しい業務を積極的に取り入れ、できることの幅を増やしていきたい。また、前年に引き続き学内共同研究費を取得している。前年の報告や得られた知見を論文にしたい。最後になるが、今年度は3年生の副担任を担当する。学生にとって進路を決めうる重要な時期であることに加え、近年は広報解禁日やインターンの取り扱いなど、就職に係るルールが変更されている。このため、正しい知識を早期に与え、学生に不利益が起らないよう努めたい。



# 齒科衛生學科



## 教授（兼）学科長 石川 裕子 博士（歯学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

授業および実習については、学生の自己主導性を引き出せるような内容に改善する。研究については、昨年度得た分析結果を学会発表および論文投稿へ進める。さらに、学科としてリカレント教育や各種相談など、卒業生が気楽に大学を利用できるようなシステムづくりを目指す。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・歯科衛生体験演習Ⅰ。
- ・歯科衛生学概論。
- ・歯科衛生アセスメント論。
- ・歯科保健指導・健康教育論。
- ・歯科保健指導演習Ⅰ。
- ・歯科保健指導演習Ⅱ。
- ・歯科診療室基礎実習。
- ・継続個別支援実習Ⅰ。
- ・継続個別支援実習Ⅱ。
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）。
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ。
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ。
- ・病院実習。
- ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所。）

- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修，高阪利美，合場千佳子，白鳥たかみ，畠中能子，山田小枝子 編集，遠藤圭子，大川由一，水上美樹，犬飼順子，平澤玲子，来住準一，田副真美，吉田直美，野村正子，秋山恭子，宮崎晶子，荒木美穂，永井由美子，麻賀多美代，石川裕子，佐藤厚子，眞木吉信，石黒梓，大山静江，船奥律子，石井実和子，福田昌代，有井真弓，鈴木厚子，松木千紗，古川絵理華，松本厚枝，小原由紀，菅野亜紀，田村清美，江川広子，石井里加子，久保山裕子，國井知余，升井一朗 執筆：歯科衛生シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論，2023年，医歯薬出版，東京。
- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修，眞木吉信，犬飼順子，高阪利美，石川裕子 編集，宮崎秀夫，高久悟，石塚洋一，大内章嗣，山中すみへ，大川由一，小関健由，石黒梓，神光一郎，白田千代子，荒川浩久，岸光男，三宅達郎，吉松英樹，三浦宏子，山本昌恵，花岡洋一，小川祐司 執筆：歯科衛生シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学，2023年，医歯薬出版，東京。

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システム(GIS)を利用した歯科診療所通院患者の分布に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 12，25-30，2022。

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石川裕子，鈴鹿祐子，麻賀多美代，麻生智子，山中紗都，大川由一，酒巻裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望，日本歯科衛生学会第17回学術大会，2022.9.18-10.31，徳島（web）。
- ・内田真唯，石川裕子，麻生智子：歯ブラシの価格と交換頻度の関係および口腔保健行動への影響，日本歯科衛生学会第17回学術大会，2022.9.18-10.31，徳島（web）。
- ・酒巻裕之，麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子，山中紗都，石川裕子：高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，第13回日本歯科衛生教育学会学術大会，2022.12.2-16，web，

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，歯科衛生士対象のリカレント教育プログラムの実践（第4回目），研究分担者。
- ・学長裁量研究，高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士のリカレント教育プログラムの実施，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・いすみ市ほい大健康プログラム，2022年11月12日，いすみ医療センター。
- ・歯科診療室健康教室，2022年12月17日，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2018年9月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，役員，2022年4月～2023年3月。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，理事，2021年6月～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員長，2021年6月～現在に至る。
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会委員，2021年6月～現在に至る。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本歯科基礎医学会，日本歯科医学教育学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，理事長，2022年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，常任理事・理事，2016年～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2013年～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，大学運営委員会，自己点検評価委員会，将来構想委員会，人事委員会，教員資格審査委員会，国際交流委員会，入試実施委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。



## VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科教員欠員が2名あるなか、学科内の教員と協力し内容等を改善し授業・実習内容等を行うことができた。研究については、学科内教員と協力して実施したリカレント教育の要望調査を学会発表を行い、論文投稿すべく準備中である。さらに卒業生が昨年度行った卒業研究を学会発表を行い、その指導及びサポートを行った。リカレント教育や各種相談などのシステム作りについては、実行に移せなかった点が、今後の改善すべき事項である。

## VII 次年度の目標

授業および実習については、新しい教員を含めた教員間で相談しながら内容改善を行う。研究については、昨年度、学会発表を行った内容を論文投稿を行う。また新たなる教育をテーマとする研究を計画する。さらに、卒業生に対する各種相談などシステムづくりを少しずつでも計画し、実行を目指す。

## 教授 酒巻 裕之 博士（歯学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に教育面では、新型コロナウイルス感染症対策には十分留意しながら対面授業を行う。学生の様子から解説の工夫をして講義を進める。各授業ではFormsを活用し、出席・体調確認を行うとともに、遠隔授業時と同様に振り返りFormsに解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行う。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、危機管理委員会委員長として委員会の運営を行い、本学の危機管理の手引きを作成し、周知目的のFD/SDを開催する。防災訓練の実施要領について審議し、事後アンケートを行い、今後の防災訓練について検討する。教務委員会は副委員長として、入試改革検討委員会ならびに研究倫理審査委員会は委員として委員会所掌を遂行する。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第4回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。テーマは歯科診療補助における口腔粘膜の観察法や口腔粘膜疾患について学ぶ研修会を計画する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・口腔病理学.
- ・歯科医療安全論.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅰ.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習Ⅰ
- ・継続・個別支援実習Ⅱ
- ・病院実習.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②、口腔外科学（診療の基本-②）、日本大学松戸歯学部 兼任講師.
- ・顎口腔外科学、北京学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所.）

- ・野村武史、升井一朗、高阪利美、畠中良子 編集、共著者 酒巻裕之 他19名：歯科衛生学シリーズ 臨床検査、第1

版, 2023, 医歯薬出版, 東京.

## 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大川由一, 栗原涼子, 山中紗都, 河野 舞, 鈴鹿祐子, 荒川 真, 麻生智子, 石川裕子, 酒巻裕之, 麻賀多美代: 地理情報システム (GIS) を利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 12, 25-30, 2023.

## 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 石川裕子: 高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研究会の効果に関する検討, 第13回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2022年12月2-16日, Web開催.
- ・今井宏美, 渡辺健太郎, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 酒巻裕之, 真田知子, 阿部房子, 三澤哲夫: 連続的に使用されるグローブの細菌付着とその安全性に関する研究 一第2報一, 産業保健人間工学会 第27回大会, 2022年10月15日, 東京.
- ・石川裕子, 鈴鹿祐子, 麻賀多美代, 麻生智子, 山中紗都, 大川由一, 酒巻裕之: 某大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望, 日本歯科衛生学会 第17回学術大会, 2022年9月18日~10月31日, Web開催.
- ・辰巳陽一, 宮崎浩彰, 新村美佐香, 酒巻裕之, 夏目義明, 真下泰: 医療安全推進のための多職種連携の在り方 一歯科医師の立場から一 シンポジウム<sup>19</sup> 優れた医療チームのサイロを超えた医療安全へ, 第8回日本医療安全学会 学術総会 シンポジウム, 2022年6月12日, 浜松. (シンポジスト)

## 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, ビデオ喉頭鏡を用いた気管挿管のデモンストレーションの有用性に関する検討, 研究代表者
- ・学長裁量, 歯科衛生士対象のリカレント教育プログラムの実践 (第4回), 研究代表者
- ・学長裁量, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム (新・ほい大プログラム) の評価 (研究分担者)

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

#### 1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月~現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療 2009年4月~現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医 (第770号) 1996年10月1日~現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医 (第664号) 2001年10月1日~現在に至る.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日~現在に至る 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日~現在に至る 2015年2月16日全国に名簿が公表される.
- ・日本口腔内科学会専門医 (第65号) 2019年10月1日~現在に至る.
- ・日本口腔内科学会指導医 (第44号) 2019年10月1日~現在に至る.
- ・ICD協議会インフェクションコントロールドクター (ICD) (第MC 0202号) 2020年1月1日~現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診 検診医 2022年7月1日 ~2023年1月13日 検診数59件 千葉県立保健医療大学歯科診療室
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 (第2018-262号) 2018年3月18日~現在に至る.
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011年4月1日~現在に至る.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Asian Association of Oral and Maxillofacial

Surgeons. 日本口腔外科学会. 日本口腔科学会. 日本口腔内科学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔診断学会. 日本臨床口腔病理学会. 日本臨床細胞診学会. 日本有病者歯科医学会. 日本老年歯科医学会. 日本小児歯科学会. 日本大学口腔科学会. 日本看護技術学会. 日本医療安全学会. 日本口腔ケア学会. 日本公衆衛生学会. 日本顎顔面インプラント学会. 日本医学教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会. 評議員. 2007年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔科学会. 評議員. 2009年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日～現在に至る. 理事. 2018年3月21日～現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 医療安全教育・研修検討部会部会員, 多職種連携部会委員部会員. 2021年4月1日～2022年12月31日. 財務委員会委員. 2023年1月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科医学教育学会. 評議員. 2019年4月1日～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会. 教務委員会. 入試改革検討委員会, 研究倫理審査委員会, 危機管理委員会 (委員長).

### 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 教務委員会.

## VI 評価 (成果および改善すべき事項)

令和4年度, 特に教育面では, 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が続き, 感染対策を講じながら対面授業を中心に授業を進めた. 授業の開始時には出席と健康状態について Forms で回答することで記録に残した. 同時に前回授業に関する問題を解答する設定をし, 前回授業の知識について評価できるようにした. また授業終了時には振り返りについて Forms による課題を行った. 振り返りについて, 授業内容に関する問題・正答・問題の解説文の提出, Suskie による学生の自己省察を深める質問に回答する項目を設け, 実際に学生が毎回の授業について具体的に振り返ることができるようにした. 前期から学生自身がポートフォリオの作成をし, その評価を総合判定に加味した. ポートフォリオの確認方法について, 定期試験等に支障ないよう回収方法を工夫した. 臨床実習の教育面について, 新型コロナウイルス感染症の感染対策に関して感染コントロールドクターの立場から提案しながら感染対策を実践した. 病院実習では, 実習施設の実習指導者と綿密な打合せを行い, 各実習施設のご協力のもと, 全員が予定通り3週間の実習スケジュールで学ぶことができた.

大学の管理・運営について, 令和3年度時から危機管理委員会委員長として, 委員会運営を行った. さらに大学全体で危機管理について共有する必要が認められ, 大学における危機管理の方針を作成することになり, 審議を行ったが, 令和5年度委員会に引き継ぐことになった. 防災訓練について, 実施要領等について承認された. 防災訓練実施後のフィードバックで, 参加者の意見を得て, 現状を把握したうえで, 評価し改善点を検討することになり, 令和4年度に防災訓練後にアンケートを行った. 教務委員会について, 副委員長として委員長の補佐を行いながら委員会所掌を遂行した. 入試改革検討委員会ならびに研究倫理審査委員会には委員会委員として参加し, 委員会所掌を遂行した.

研究面では, 学長裁量研究において, 社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成を目的に, 第4回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会をと企画, 運営した. テーマは口腔粘膜の観察方法で, 3回の研修会を行い, 講師は口腔病理診断医と口腔外科専門医・指導医の歯科医師とした. 各回約13名の歯科衛生士の参加のもと実施された. アンケートの結果, 概ね良好な結果を得, 継続して研修会の開催の希望があった.

社会貢献について, 歯科診療室において, 日本口腔外科学会, 日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診 (個別検診) の検診医として, 検診期間中に59名の検診を行った. また講義や会議等以外の歯科診療時間に住民の歯科治療を行うことで地域住民に貢献した. 引き続き, 新型コロナウイルス感染症対策には最善の対策を講じた.

## Ⅶ 次年度の目標

令和5年度は、学生の様子から解説の工夫をして講義を進める。各授業では継続して、Formsaを活用し、出席・体調確認を行うとともに、遠隔授業時と同様に振り返り Forms に解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行う。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、広報委員会委員長として委員会の運営を行い、本学のオープンキャンパスの実施や高校説明会、大学案内や広報誌の発行を行う。高校説明会に参加について、検討する。教務委員会、人事委員会、将来構想検討委員会、自己点検・評価委員会の委員として委員会所掌を遂行する。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第5回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。テーマは口腔機能評価に係る検査法について学ぶ研修会を計画する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に留意して歯科診療を行う。大学の方針に則り、ほい大健康プログラムなどの社会貢献に参加する。

## 教授 大川 由一 歯学博士

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は原則対面授業となるため学生と直接向き合い自己主導型学習を支援する。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取組み、その成果を発表する。社会貢献については介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（ほい大プログラム）等において実績が残せるよう工夫しながら取り組む。学内の管理運営では学内の諸課題や大学認証評価受審等に対して適切に対応する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・口腔衛生学.
- ・地域歯科衛生学.
- ・衛生行政.
- ・地域歯科衛生演習.
- ・歯科衛生統計演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・地域歯科衛生実習.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・卒業研究

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.

- ・歯科医療管理学. 東京歯科大学.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修、眞木吉信、大飼順子、高阪利美、石川裕子 編集、宮崎秀夫、高久悟、石塚洋一、大内章嗣、山中すみへ、大川由一、小関健由、石黒梓、神光一郎、白田千代子、荒川浩久、岸光男、三宅達郎、吉松英樹、三浦宏子、山本昌恵、花岡洋一、小川祐司 執筆：歯科衛生シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学、2023年、医歯薬出版、東京.
- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修、平田創一郎・眞木吉信 編集、大内章嗣、大川由一、岸光男、杉戸博記、友藤孝明、鳥山佳則、平田幸夫、福泉隆喜 執筆：歯科衛生シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度、2023年、医歯薬出版、東京.
- ・一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会 監修、高阪利美、合場千佳子、白鳥たかみ、畠中能子、山田小枝子 編集、遠藤圭子、大川由一、水上美樹、大飼順子、平澤玲子、来住準一、田副真美、吉田直美、野村正子、秋山恭子、宮崎晶子、荒木美穂、永井由美子、麻賀多美代、石川裕子、佐藤厚子、眞木吉信、石黒梓、大山静江、船奥律子、石井実和子、福田昌代、有井真弓、鈴木厚子、松木千紗、古川絵理華、松本厚枝、小原由紀、菅野亜紀、田村清美、江川広子、石井里加子、久保山裕子、國井知余、升井一朗 執筆：歯科衛生シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論、2023年、医歯薬出版、東京.

## 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システム（GIS）を利用した歯科診療所通院患者の分布に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，12，25-30，2023.

## 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石川 裕子，鈴鹿 祐子，麻賀 多美代，麻生 智子，山中 紗都，大川 由一，酒巻 裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望，日本歯科衛生学会 第17回学術大会，2022年9～10月，Web 開催.
- ・高阪 利美，合場 千佳子，大川 由一，池田 利恵，白鳥 たかみ，山田 小枝子，犬飼 順子，升井 一朗，畠中 能子，日野出 大輔：歯科衛生学教育コア・カリキュラム 教育内容ガイドライン 2022年度改訂版発行にあたり，第13回日本歯科衛生教育学会・学術大会，2022年12月，Web 開催

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラムの評価，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・ほい大健康プログラム，. 2022年10月～2022年11月，UR真砂第一団地.

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療，2009年4月～現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室.

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，理事，2014年4月1日～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育委員会理事，2014年4月1日～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，教育問題検討委員会委員，2014年4月1日～現在に至る.
- ・（一社）全国歯科衛生士教育協議会，認定委員会委員，2014年4月1日～現在に至る.

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，国際歯科研究学会（IADR），国際歯科研究学会日本部会（JADR），日本老年歯科医学会，日本歯科医療管理学会，日本歯科医学教育学会，社会歯科学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本障害者歯科学会，東京歯科大学学会.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，監事，2022年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，2022年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会，編集委員会査読委員，2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本口腔衛生学会，歯科衛生士委員会委員，2017年5月31日～現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会，倫理審査委員会委員，2021年6月13日～現在に至る.

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・2022年度東京歯科大学大学院講義，臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について，東京歯科大学大学院生，2022年12月8-9日，東京歯科大学.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、自己点検・評価委員会、将来構想検討委員会、教員再任審査委員会、人事委員会、キャンパス・ハラスメント防止対策委員会、教員資格審査委員会(歯科・教授)2022. 5. 25～、教員資格審査委員会(歯科・准教授)2023. 2. 17～。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科診療室長（2015年4月1日～2023年3月31日）、第3学年担任。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、すべての授業を対面で実施し、学生アンケートで高い授業評価が得られた。研究活動では複数の教科書の執筆に取り組むとともに本学歯科診療室の実績にかかわる論文を公表した。社会貢献では、各学科専攻の教員の協力により、3年ぶりに「ほい大プログラム」を実施することができた。学内の管理運営では、大学認証評価受審に際し適切に対応した。

## VII 次年度の目標

教育活動では Teams の活用を図りながら対面授業を実施し、学生の自己主導型学習を支援する。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を発表する。社会貢献では歯科診療とほい大健康プログラムに積極的に取り組む。学内の管理運営では、大学認証評価受審評価結果に対応した学内の諸課題に適切に対応する。



## 教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は、共通教育運営会議長、学生委員会委員長、進路支援委員会委員長始め、13の委員会を担った。

- ①科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文としてまとめる。
- ②共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、カリキュラムの見直しについて資料を得る。
- ③令和3年度より担った委員会活動を把握し、検討すべき課題を明らかにし、改善を諮る。
- ④過去に取得したデータをまとめ、論文として発表する。長期縦断的に協力いただいているフィールドを、できれば後進に譲り、継承していただけるようにしたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・体験ゼミナール。
  - ・千葉県の健康づくり。
  - ・前・後期 健康スポーツ科学。
  - ・前・後期 生涯身体運動科学。
  - ・運動生理学総論。
  - ・健康と運動。
  - ・生理学実験。
  - ・卒業研究
  - ・歯科衛生体験演習

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・Shimada M, Asai M, Narita Y, Okamura T, Edo M, Hongu, Study on grip strength and body composition of patients with rheumatoid arthritis. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine 2022 Volume 11 Issue 6 P401

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・Shimada M, Okamura T, Matsuo S, Narita Y, Edo M, Hongu M. Changes in daily physical activity of the elderly under a state of emergency. . American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2022.
- ・Kimura Y, Hisatomi M, Ikegami T, Ohki K, Shimada M, Hongu N. Effects of Marching in Place and Chair Rise Exercise on Functioning in Community-Dwelling Older Adults., merican College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2022..
- ・西牟田守，児玉直子，吉武裕，島田美恵子。ミネラルの出納実験で糞尿以外の排泄量が把握できる。第76回日本栄養・食糧学会大会。2022年6月。
- ・西牟田守，児玉直子，吉武裕，島田美恵子。赤血球中ミネラル (Na, K, Ca, Mg, iP, Zn, Fe, Cu) 濃度。第33回日本微量元素学会総会。2022年9月。
- ・島田美恵子，浅井美千代，岡村太郎，成田悠哉，江戸優裕，本宮暢子。関節リウマチ患者の握力と体組成。第77回日本体力医学会。2022年9月。
- ・Nishimuta M, Kodama N, Yoshitake Y, Shimada M. Transient and Eminent Decrease in Red Blood Cell Copper (RBC-

Cu) during Metabolic Studies in Young Japanese Female. 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition in Tokyo, Japan. Dec. 2022.

- Shimada M, Asai M, Narita Y, Okamura T, Hongu. Association between nutritional status, physical function and physical activity in patients with rheumatoid arthritis. 22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition in Tokyo, Japan. Dec. 2022.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 科学研究費補助金基盤研究（C），疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法，研究代表者。
- 科学研究費補助金基盤研究（C）口腔保健と全身的な健康状態との関係についての研究「超高齢期における口腔機能と身体機能および栄養摂取状況との関連」，分担研究者
- 2022年度 学内共同研究 集合住宅在住の高齢者に対する社会参加を目的とした介護予防教室が社会的フレイルの改善に及ぼす影響 - 支援ニーズ調査と介入準備 研究分担者。
- 2022年度 学長裁量研究 地域在住高齢者における身体活動量と骨格筋の質の関係 研究分担者

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

##### 2) 千葉県外

- 神奈川県横須賀市浦上台北町内会 定期清掃活動参加 年3回

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- 流山市南部地域包括支援センター 健康体操教室指導，2022年4月～2023年3月（計10回）流山ケアセンター。
- 幕張ファミリーハイツ体操教室 2022年4月～2023年3月第2・第4月曜日午後（計21回），ファミリーハイツ集会所

#### 5 学会，学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- 日本体力医学会，日本体育学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine。

##### 2) 学術団体活動

- 全国大学歯科衛生士教育協議会 教育・研究委員会
- 査読・IJERP 2023年1月・IJMS 2023年3月

#### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- 公益社団法人千葉県栄養士会地域活動事業部研修会「身体活動を高めるために」2022年4月23日 Web講習会
- 柏シルバー大学院生涯課程E組「日常生活の中での体力づくり」我孫子ふれあいホール 2022年5月12日
- 柏シルバー大学院研究過程1年「今日の1歩が明日に繋がる」アミュゼ柏クリスタルホール 2022年11月17日
- 柏南交友会「コロナ下での高齢者の健康管理と体力づくり」柏市民会館 2022年11月24日
- 柏シルバー大学院生涯課程B組「運動支援と後期高齢者の関節炎とのかわり」野村証券柏支店ホール 2023年2月21日

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- 大学運営会議，教授会，共通教育運営会議（会議長），学生委員会（委員長），進路支援委員会（委員長），教務委員会，自己点検・評価委員会，将来構想委員会，危機管理委員会，キャンパスハラスメント委員会，人事委員会，FD・SD委員

## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議. 歯科衛生学科担当として資格審査委員会委員.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ①科学研究費による課題「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」は、10名の対象者を得て遠隔講義し、国際栄養学会議、日本体力医学会にて研究成果を発表した。論文の草稿が完成した。当研究について、学内に分担研究者を得、対象者への専門的な個別指導を実施できた。
- ②教養科目ワーキングメンバーとして、「教養科目の在りかた」について、共通教育運営会議の意見をまとめることができた..
- ③後援会総会のWeb開催、大学祭の対面開催を、コロナ感染症対策を留意して実施できた。
- ④科研費の分担研究者として、2024年対面調査に向けての準備を進捗できた。

## VII 次年度の目標

- ①科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文を発表する。
- ②学内共同研究課題として採択されてきた、千葉県のフィールド調査をまとめ、論文にする。
- ③特色科目委員長として、特色科目の過去の状況および現状の問題点をまとめ、今後の指針を得る。
- ④過去に取得したデータをまとめ、論文として発表する。長期継続的に協力いただいているフィールドを、できれば後進に譲り、継承していただけるようにしたい。

## 准教授 荒川 真 博士 (歯学)

対象期間:2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・歯周治療学
  - ・歯科保存学
  - ・国際歯科衛生学
  - ・歯科診療室基礎実習
  - ・歯科診療室総合実習
  - ・卒業研究
  - ・継続個別支援実習
  - ・発達歯科衛生実習 I (小児)
  - ・専門職間の連携活動論
  - ・千葉県健康づくり

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Yoshikawa T, Arakawa M. Effects of C-factor on dentin bonding using various adhesive systems. Niger J Clin Pract 2022;25:255-60
- ・大川 由一, 栗原 涼子, 山中 紗都, 河野 舞, 鈴鹿 祐子, 荒川 真, 麻生 智子, 石川 裕子, 酒巻 裕之, 麻賀多美代 地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 第12号 (通算第27号): 25-29, 2023

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・金子潤, 末永祐磨, 河野舞, 荒川真, 沖野晃俊 大気圧低温プラズマの歯科ホワイトニングへの応用に関する基礎的研究—素素プラズマの生成条件による漂白効果の比較— 第29回日本歯科色彩学会総会・学術大会 (オンライン開催)
- ・荒川真, 金子潤, 園田秀一 「味覚の感受性」と「う蝕」の関連 日本歯科保存学会 2022年度秋季学術大会 (2022年11月10, 11日)

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性, 研究代表者。
- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討, 研究分担者。

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療. 2016年4月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・口腔機能向上プログラム. 2020年8月～現在に至る. 流山市南部地域包括支援センター。

#### 4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会、理事・事務局長、2021年3月～2023年3月

#### 5 学会、学術団体への貢献

##### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本歯科色彩学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会、

##### 2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・日本歯科衛生教育学会 研究倫理審査委員 2019年4月～現在に至る。

### V 管理・運営記録

#### 1 全学委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・広報委員会(副委員長)、衛生委員会(衛生管理者)、自己点検・評価実施推進部会、千葉県健康づくり作業部会、学部長候補者予備選挙管理委員会(委員長)

#### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科4年生チューター、

### VI 評価(成果および改善すべき事項)

#### 《広報委員会》

副委員長として委員会に参画した。

本学HPで発信するコンテンツの作成を行った。

年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った。

#### 《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った。

#### 《歯科診療室》

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間も週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

#### 《学部長候補者予備選挙管理委員会》

委員長として委員会に参画した。

### VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

## 准教授 河野 舞 博士（歯学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度の目標として、教育面ではオンライン授業のデザインや方法を取り入れつつ学生の学習意欲を喚起する授業を行い、授業の改善に努める。研究活動では、研究活動では学外研究助成につなげるための新規研究課題の模索や、2021年度に行えなかったデータの収集に努める。歯科診療室での歯科診療は継続し、大学運営に関しても引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・ 歯科補綴学.
  - ・ 歯科材料学
  - ・ 歯科衛生基礎演習.
  - ・ 歯科衛生体験演習Ⅱ.
  - ・ 発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）
  - ・ 歯科診療室補助実習.
  - ・ 歯科診療室基礎実習.
  - ・ 歯科診療室総合実習.
  - ・ 病院実習.
  - ・ 卒業研究.
  - ・ 専門職間の連携活動論.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・ 臨床実習Ⅰ・Ⅱ、北海道医療大学歯学部.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・ 大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システム(GIS)を利用した歯科診療所通院患者の分布に関する事例分析，全国大学歯科衛生教育協議会雑誌，12，25-30，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等、本人下線）

- ・ 富田侑希，川西克弥，河野 舞，村田幸枝，越野 寿，長澤敏行：学生が形成した支台歯のデジタル評価とルーブリック評価の比較について，第15回日本総合歯科学会総会・学術大会，2021年11月5-6日，Web開催.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 科学研究費補助金基盤研究（C），自家歯牙片とインプラントを併用したハイブリッド歯周組織再生療法，研究分担者.
- ・ 科学研究費補助金基盤研究（C），大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討，研究分担者.

#### IV 社会貢献・国際交流記録

##### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

###### 1) 千葉県内

- ・口腔機能向上プログラム、2020年8月～現在に至る。流山市南部地域包括支援センター。

##### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2017年4月から現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。

##### 5 学会、学術団体への貢献

###### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会、日本歯科医学教育学会、日本口腔インプラント学会、日本歯科理工学会、日本歯科審美学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、北海道医療大学歯学会、日本歯科色彩学会。

##### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・公開講座、マスクの下でお口開いていませんか？、一般住民、2022年11月6日、千葉県立保健医療大学。

#### V 管理・運営記録

##### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議、学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、教育研究年報部会、専門職管の連携活動論作業部会。

##### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科3年副チューター。

#### VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面については担当科目の位置づけを理解するとともに、遠隔授業時に使用した動画教材を利用しながら全ての教材を新製し、教育効果の改善に努めた。研究活動ではCovid-19の影響で地域高齢者や施設への介入を行うことができず、研究が停滞してしまった。大学運営では、学内共同研究審査部会長としてWebを活用した発表会の運営や審査など、柔軟な対応が行えたと考える。社会貢献では引き続き感染対策を徹底しながら歯科診療室における歯科診療を行い、地域住民の方々に貢献できたと考え。

## 准教授 鈴鹿 祐子 修士（学術）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育については、講義も対面授業を再開するにあたり、教材について見直しをして、より良い授業ができるように工夫する。研究については現在、まとめているものについて論文投稿をしたいと思う。また、新しい課題にも着手したい。社会貢献についても十分な感染対策を講じながら行っていきたいと思う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科医療安全論.
- ・発達歯科衛生学 I（小児）.
- ・リスクマネジメント論.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・歯科衛生体験演習 II.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大川 由一，桑原 涼子，山中 紗都，河野 舞，鈴鹿 祐子，荒川 真，麻生 智子，石川 裕子，酒巻 裕之，麻賀 多美代：地理情報システム(GIS)を利用した歯科診療所通院患者の分布に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，12，25-30，2023.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石川 裕子，鈴鹿 祐子，麻賀 多美代，麻生 智子，山中 紗都，大川 由一，酒巻 裕之：某大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望，第17回日本歯科衛生学会学術大会，2022年9月18日～10月31日，Web開催.
- ・酒巻 裕之，麻賀 多美代，麻生 智子，鈴鹿 祐子，山中 紗都，石川 裕子：高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研修会の実施報告，第13回歯科衛生教育学学術大会総会・学術大会，2022年12月2-16日，Web開催.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，研究分担者.
- ・学長裁量研究，歯科衛生士対象のリカレント教育プログラムの実践（第4回），研究分担者.



## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・第2回UR新・ほい大健康プログラム、2022年10月29日、UR真砂第一団地。
- ・第2回いすみ市新・ほい大健康プログラム、2022年11月12日、いすみ医療センター。
- ・第2回健康教室、2022年12月17日、千葉県立保健医療大学。

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施、2022年4月～2023年3月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会、運営委員、2019年4月1日～現在に至る。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士会、総務理事、2020年6月～2022年6月。

## 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会、ヘルスカウンセリング学会、日本歯周病学会、日本歯科衛生学会、日本咀嚼学会、日本歯科医学教育学会、日本歯科衛生教育学会、日本口腔ケア学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会、評議員、2021年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、理事、2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、編集委員会委員、2022年4月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生教育学会、規程検討委員会副委員長、2022年4月～現在に至る。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・令和4年度 日歯認定歯科助手講習会、千葉県歯科医師会、高齢者への対応、2022年10月2日、千葉県立保健医療大学。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、研究倫理審査委員会、動物部会、社会貢献委員会、学内共同研究審査部会、自己点検・評価実施推進部、相談員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、対面授業も再開し、教材については若干であるがアップデートしてより良い授業ができるようにした。演習・実習については感染予防対策を講じながら安全に学内外ともに学生の協力もあり無事に終了した。研究については現在、論文投稿中であり掲載までには至っていない。社会貢献については新・ほい大プログラム等にも積極的に参加し充実したと思う。

## VII 次年度の目標

教育については、担当科目が増えるが一つ一つ丁寧に準備し、学生に理解しやすい授業をするよう工夫を心掛ける。

研究については、教育、臨床の業務とのバランスを調整し、新しい課題についてスムーズに遂行できるように努力したい。

社会貢献についても積極的に行い、特に地域に貢献するよう努力する。

## 准教授 佐々木 みづほ 博士 (歯学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

昨年度から着任のため、前々年度版教育研究年報「Ⅶ次年度の目標」なし。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名).
  - ・ 歯科診断学
  - ・ チーム歯科医療論.
  - ・ 発達歯科衛生学Ⅱ
  - ・ 歯科衛生基礎演習.
  - ・ 歯科診療室補助実習.
  - ・ 歯科診療室基礎実習.
  - ・ 歯科診療室総合実習.
  - ・ 病院実習.
  - ・ 卒業研究.
  - ・ 専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・ 豊下祥史, 佐々木みづほ, 菅 悠希, 川西克弥, 原 修一, 三浦宏子, 越野 寿: 地域在住自立高齢者における口腔関連 QOL と抑うつとの相関, 日本老年歯科医学会, 2022年6月11-12日, 新潟市民芸術文化会館, 新潟.

#### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・ 学長裁量研究費, 新型コロナウイルス感染症による行動制限が施設高齢者の生活に与えた影響, 研究分担者

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
  - ・ いすみ市ほい大健康プログラム, 2022年11月12日, いすみ医療センター.

#### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・ 歯科診療, 2022年4月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・ 千葉市口腔ケア事業口腔機能評価, 2022年4月～現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

#### 5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・ 日本老年歯科医学会, 日本咀嚼学会, 日本補綴歯科学会

## 7 その他

- ・新型コロナと認知症プロジェクト（学内発足）における研究活動. 2024 月～現在に至る.

## V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・学術推進委員会, 入試実施委員会, 進路支援委員会
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）
  - ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議, 歯科衛生学科 1 年生副チューター, 国家試験対策係

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では、初めて携わる衛生士教育の意義を理解した上でデジタルツールを使用した小テストの作製等を行い、視覚的で効果的な教育を行うよう努力した。大学運営では、正直本大学の流れについていくのに必死でクリエイティブな活動は出来なかったため、次年度は出来るよう努めたい。研究ではコロナと認知症プロジェクトに参加し、他学科教員と協力し着実に有意義な結果を出せる方向へ進めていると思う。社会貢献では休診日の木曜日以外に歯科診療室における歯科診療に携わることで地域住民の口腔健康の向上に貢献できたと思う。

## VII 次年度の目標

高齢社会で活躍できる歯科衛生士を育てること念頭に、教育に一番比重を置きつつ、教育の土台となる大学運営に積極的に参加できるよう努める。研究面では大学のプロジェクトのみではなく、歯科衛生分野に役立てるような独自の題材で活動できるよう努力したい。

## 講師 佐久間 貴士 修士（工学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

次年度は、着任三年目だが、まだまだ慣れない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし、コロナ禍におけるオンライン授業の環境整備と運営に尽力する。また、携わる委員会の運営等にも尽力し、大学運営に貢献できるよう努力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・情報リテラシーI.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・情報リテラシーII.
  - ・情報倫理.
  - ・卒業研究.
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・情報入門（千葉商科大学）.
  - ・微分積分学演習C（立正大学）.
  - ・線形代数学演習C（立正大学）.
  - ・コンピュータ・リテラシー（日本大学）.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・Takashi Sakuma, Ryo Sugawara, Shun Okumura : Moral and Legal Responsibilities in School, KICSS 2022, November 23-25, 2022, Kyoto University Clock Tower Centennial Hall, Kyoto, Japan.
- ・佐久間貴士 : 保健医療系大学における情報教育に関する体験型授業の取り組み, 国際ICT利用研究学会第7回全国大会, 2022年12月3日, Web開催.

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））、ESDにおけるエネルギー環境教育の新たな位置づけ-地方の視点からの再考, 研究分担者.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・国際ICT利用研究学会. 情報文化学会. 教育システム情報学会. コンピュータ利用教育学会. 情報システム学会. 日本環境教育学会
  
- 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）
  - ・国際ICT利用研究学会. 理事. 2016年4月～現在に至る.
  - ・一般社団法人日本環境教育学会. 広報委員. 2021年9月～現在に至る.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 広報委員会、危機管理委員会、共通教育運営委員会、社会貢献委員会、IR 部会、体験ゼミナール作業部会、

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

前年度の経験や学内 FD 活動、あるいは文科省関連の研修などに積極的に参加したおかげで、ある一定数を大学に還元できたと評価している。あわせて、学内の遠隔授業に関する FD 用オンデマンド動画とマニュアルに関しても、他学科から一定の評価を受けることができた。引き続き、学外から多くのことを吸収し、可能な限り学内への還元を実施したいと考えている。

## VII 次年度の目標

次年度は、着任四年目だが、まだまだ慣れない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし、次期情報システムワーキンググループ会議を中心に学内の環境整備と運営に尽力する。また、携わる委員会の運営等にも尽力し、大学運営に貢献できるよう努力する。

## 講師 山中 紗都 修士 (障害科学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、全面的に対面形式の授業展開および令和2年度以前の演習・実習方法に戻ったため、改めて授業の見直しを行いたい。また、自身が担当する演習・実習系科目においては、令和2年度、3年度とオンラインで講義を受けた学生が中心となるため、学生のレディネスを考慮した演習・実習計画を立てていきたいと考える。研究活動および大学運営については、昨年度に引き続き積極的に取り組む。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)。
  - ・歯科診療室基礎実習.
  - ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
  - ・歯科衛生概論.
  - ・歯科診療補助演習.
  - ・歯科予防処置演習.
  - ・歯科衛生アセスメント論.
  - ・歯科保健指導演習Ⅰ.
  - ・歯科保健指導演習Ⅱ.
  - ・歯科診療所実習.
  - ・継続・個別支援実習Ⅰ.
  - ・継続・個別支援実習Ⅱ.
  - ・発達歯科衛生実習Ⅰ (小児) .
  - ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
  - ・卒業研究.
  - ・専門職の連携活動論.
- 2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)。
  - ・チーム医療の基礎 (東京医科歯科大学).

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・大川由一, 栗原涼子, 山中紗都, 河野舞, 鈴鹿祐子, 荒川真, 麻生智子, 石川裕子, 酒巻裕之, 麻賀多美代: 地理情報システム (GIS) を利用した歯科診療所通院患者の分布に関する事例分析, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 第12号, 25-30, 2023年3月.

#### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・山中紗都, 河野舞: 視覚障害者における歯科保健行動についての実態調査, 千葉県立保健医療大学第13回学内共同研究発表会, 2022年9月12日～16日, オンライン開催.
- ・石川裕子, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 大川由一, 酒巻裕之: 歯科衛生学科におけるリカレント教育の要望調査と実施, 千葉県立保健医療大学第13回学内共同研究発表会, 2022年9月12日～16日, オンライン開催.
- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 麻生智子, 鈴鹿祐子, 山中紗都, 石川裕子: 高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研修会の実施

報告, 日本歯科衛生教育学会第13回学術大会, 2022年12月2日~16日, Web開催.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

・継続・個別支援・歯科診療補助の実施, 2022年4月~2022年12月, 千葉県立保健医療大学歯科診療室

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

・千葉県歯科衛生士会, 選挙管理委員, 2021年6月~2022年5月

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本歯周病学会, 日本有病者歯科医療学会, 日本歯科審美学会, 日本口腔ケア学会

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

・日本歯科衛生学会, 総務委員, 2021年6月~現在  
・日本歯科衛生教育学会, 評議委員, 編集委員, 利益相反委員, 2022年~現在

### 6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催, 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

・日歯認定歯科助手講習会, 千葉県歯科医師会主催, 歯科助手対象, 2022年10月2日, 千葉県立保健医療大学

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・教務委員会(~令和4年12月29日), 広報委員会(~令和4年12月29日), 学生委員会(~令和4年12月29日), 図書委員会(~令和4年12月29日), 共通教育運営委員会(~令和4年12月29日).

### 2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

・歯科衛生学科会議(~令和4年12月), 歯科診療室会議(~令和4年12月), 歯科衛生学科2年生チューター.

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

授業運営においては, 自身が担当している演習科目を中心に見直しを行い, 引き続き感染対策を講じた上で令和2年度以前の実習形態を維持しつつ, 遠隔授業等で作成した教材なども取り入れて, より充実した授業運営に取り組むことができた.

また, 令和4年度は複数の学内委員会へ所属したため, 大学運営にも積極的に携わることができた. 一方で, 研究面では新規研究に着手することが難しく, これまでの研究発表のみに留まってしまったため, 今後改善していきたい.

## VII 次年度の目標

令和5年度は育児休業の取得により, 授業および大学運営, 研究を行うことが困難であるが, 令和6年度に復帰予定であるため, 復帰に向けて準備を進めていきたい.



## 助教 栗原 涼子 博士（理工学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

各学年学生の実習目標の達成になるための指導を行う。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じると共に歯科診療室の円滑な運営や管理を行い、学生教育のみならず、歯科治療を通して地域住民に対しての社会貢献を行う。大学運営に関わる委員会活動等を積極的に行い、研究活動も進める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・歯科診療室基礎実習.
  - ・歯科診療室総合実習.
  - ・歯科衛生体験演習Ⅱ
  - ・体験ゼミナール.
  - ・専門職間の連携活動論.

### IV 社会貢献・国際交流記録

#### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・歯科診療補助の実施. 2022年4月～2023年3月. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

#### 5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
  - ・日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本スポーツ歯科医学会. 日本口腔ケア学会. 東京歯科大学学会. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会.

### V 管理・運営記録

#### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 図書委員会.

### VI 評価（成果および改善すべき事項）

社会貢献では歯科診療室において新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じることにより、地域住民の方々に対して歯科治療の提供を行った。

教育においては、新型コロナウイルス感染症の影響で実習人数制限がはかられたが、新型コロナウイルス感染症予防策を講じての実習指導を行うことができた。

大学運営に関わる業務について、図書委員会業務を滞りなく遂行した。図書館だより No. 84 「ぽーれぽーれ」において、『巻頭言』の執筆を担当した。

研究については、「日本スポーツ歯科医学会認定スポーツデンタルハイジニスト (SDH) 活動状況調査」(本学倫理審査承認: 2022-20) に関して、栗原を研究代表者とした研究を開始した。

## VII 次年度の目標

次年度も歯科治療の提供に貢献をしたいと考える。研究活動について、教育・研究・管理運営・社会貢献のバランスを考えて学会発表、論文発表を行う。

リハビリテーション学科  
理学療法学専攻



## 教授 三和 真人 医学（障害科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に論文の掲載までには至らなかった研究データを蓄積し、論文作成の時間があれば形にする。

また、学科運営を円滑にすすめ、次年度の学科運営の継続に繋げるようにしたい。また、学内の図書委員長（図書館長を兼ねる）として脱コロナに向け、開館や閲覧の時間など図書館運営の対応にする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅰ（体験実習）.
- ・臨床実習Ⅱ（評価実習）.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・三和真人，堀本佳誉，大谷拓哉，山本達也，真壁寿：運動課題における運動誤差の研究－若年者と高齢者の比較－，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第14巻1号，83，2023年.
- ・大谷拓哉，三和真人，堀本佳誉，江戸優裕：3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第14巻1号，84，2023年.
- ・江戸優裕，酒井克也，成田悠哉，松尾真輔，堀本佳誉，大谷拓哉，島田美恵子，岡村太郎，三和真人：地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討－若年者を対象として－，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第14巻1号，85，2023年.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・三和真人：加速度信号による振戦の評価を研究—多系統症候群の早期検出をめざして—，第59回日本リハビリテーション医学学会，2022年6月23日-26日，神奈川。

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），大脳皮質内における脊髄神経の運動制御に関する研究—2重刺激の磁気誘発電位の分析より—，研究代表者。
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），3次元動作解析装置を用いたベッドからの起き上がり動作における関節運動の分析，研究分担者。
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），本邦における脳性麻痺児に対するリハビリテーションに関するアンケート調査，研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構，評価認定委員会評価委員，2014年4月～現在。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，理事，2018年4月1日～現在に至る。
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会，研究倫理委員会，2019年4月1日～現在に至る。

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会，日本理学療法士協会，日本臨床神経生理学学会，日本電気生理運動学学会，日本運動療法学会，日本体力医学会，世界理学療法士学会，世界電気生理運動学学会，全国大学肺理学療法研究会，世界リハビリテーション医学会。

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・第27回日本基礎理学療法学会，抄録査読委員，2020年9月～現在に至る。
- ・第20回日本神経理学療法学会，抄録査読委員，2022年9月～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・図書館長，大学運営会議，共通教育会議，自己点検評価委員会，将来構想検討委員会，総務・企画委員会，国際交流委員会，入試改革検討委員会，入試実施委員会，人事委員会，図書情報委員会，教員資格審査委員会（理学療法学専攻教授：2名），他。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・理学療法学専攻長，理学療法学専攻会議，リハビリテーション学科教授会，リハビリテーション学科会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

毎年度のことながら，理学療法学専攻の授業調整，学内の各種委員会や教員資格審査などの出席が多く，自己の研鑽をする時間が就業中に作れていない。自宅に持ち込んで処理をすることを良しとする方法もあった。

## 教授 堀本 佳誉 博士（理学療法学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する。4年生の担任として臨床実習や国家試験、就職活動をサポートする。

研究面では、投稿中の論文が受理されること、研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施することを目標とする。社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して千葉県理学療法士会の活動を通して貢献することを継続する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・運動療法学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法研究方法論.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・発達障害理学療法学特論.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・発展領域論
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・地域理学療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・堀本佳誉，佐藤一成，大須田祐亮，高橋尚明，三和真人：小児理学療法分野の臨床実習の現状と養成施設の要望に関する調査，リハビリテーション教育研究，第28号，175-180，2022.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第28回千葉県理学療法学会大会，科学的根拠に基づいた理学療法の提供－理学療法ガイドライン第2版の要点解説と最新トピックスの紹介 第4章小児理学療法ガイドライン，講師，2023年2月26日～3月4日，オンデマンド配信.

## 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般）、本邦における脳性麻痺児に対するリハビリテーションに関するアンケート調査、研究代表者。
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般）、3次元動作解析装置を用いたベッドからの起き上がり動作における関節運動の分析、研究分担者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 2) 千葉県外

- ・コ克蘭日本語翻訳ボランティア。2020年4月～現在に至る。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会。障がい児・者支援部部員。2019年10月～現在に至る。
- ・千葉県理学療法士会。倫理審査委員。2019年度～現在に至る。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会、日本小児理学療法学会、日本神経理学療法学会、日本理学療法教育学会、日本基礎理学療法学会、日本重症心身障害学会、重症心身障害療育学会、日本リハビリテーション臨床教育研究会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第20回日本神経理学療法学会学術大会。座長（ポスター14 神経筋疾患 回復期）。2022年10月15日～16日。
- ・第11回日本理学療法教育学会学術大会。抄録査読（1件）。
- ・第20回日本神経理学療法学会学術大会。抄録査読（3件）。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、研究倫理委員会、特色科目運営委員会、危機管理委員会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、理学療法学専攻会議。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では、対面講義となり理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続できた。4年生の担任として臨床実習や国家試験、就職活動をサポートし、留年者なく卒業でき、国家試験合格率および就職率100%を達成できた。

研究面では、投稿中の論文が受理されることが出来た。

しかし、研究費の申請ができなかったため、早期に研究計画を立案し、研究費申請の準備を行う。

社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して千葉県理学療法士会の活動を通して貢献することを継続出来た。

## VII 次年度の目標

教育活動において、専攻長および教務委員長として新々カリのカリキュラムポリシーおよびカリキュラムマップ、カリキュラム評価を行い、カリキュラム改正の検討を行う。また、理学療法専門科目において、「ほい大健康プログラム」のと教育内容の連動性を高めるために専門科目の部分にどのような内容を組み入れるべきかの調査を行い、次年度より実施できる体



制を作る。主要な担当科目について、理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、満足度を60%以上とする。研究活動においては、「県の健康づくり政策のシンクタンク機能」の推進に向かって、学内の多職種連携及び地方自治体との共同研究を推進のために理学療法学専攻としての役割を明確化し、研究を立案する。また多職種連携チーム医療「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行い、千葉市UR、並びにこいすみ市における展開を確実に進め、プログラムを作成し、研究を立案する。また、2022年度学内共同研究をまとめ、学会発表を行う。管理運営に関しては、2022年の機関別認証評価の結果、本大学では主要科目の教授または准教授の担当の割合が低く、大学認証評価結果で教育の質保証の観点から改善を求められている。本専攻は教授現状2名の状態であり、医系教授1名、准教授1名が欠員となっている。早急に准教授1名の補充を行う。理学療法士の専任教員の教授または准教授の専任教員は3名であり、明らかに少ない。学科・専攻内で教員の役職の配置の検討し、大学に提案する。また、助教1名の欠員を補充する。仁戸名キャンパスの諸課題を集約し、県庁との意見交換の材料を作成する。理学療法学専攻の問題点を把握し、改善を推進する。専攻会議を、週1回、学科会議を2カ月に1回開催し、円滑な学科・専攻運営を行う。社会貢献に関しては、「ほい大健康プログラム」の理学療法学専攻担当部分を見直し、標準化を行い、県民の健康づくりに寄与する。市民公開講座について、理学療法学専攻としてできる内容を再検討する。また千葉県理学療法士会への貢献を通じ、県民の健康づくりに寄与する。

## 准教授 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

新指定規則に則った初めての総合実習（総合実習Ⅰ，Ⅱ）ならびに地域理学療法学実習が開講されるため，関係各所と調整を行い，円滑に実習を実施できるよう取り組む。臨床実習指導者講習会を初めて本学主催で開催する予定であるため，滞りなく準備し，良質な講習会の実施に努める。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）。

- ・運動学Ⅰ。
- ・運動学Ⅱ。
- ・臨床運動学。
- ・運動学実習。
- ・物理療法学。
- ・日常生活活動学。
- ・日常生活活動学演習。
- ・理学療法評価学Ⅲ。
- ・理学療法応用評価学。
- ・老年期障害理学療法学。
- ・生体機能計測学。
- ・理学療法技術論。
- ・臨床体験実習。
- ・評価実習。
- ・総合実習Ⅰ。
- ・総合実習Ⅱ。
- ・地域理学療法学実習。
- ・卒業研究。

### III 研究記録

#### 1 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・三和真人，堀本佳誉，大谷拓哉，山本達也，真壁寿：運動課題における運動誤差の研究—若年者と高齢者の比較—，千葉県立保健医療大学紀要，14，83，2023。
- ・大谷拓哉，三和真人，堀本佳誉，江戸優裕：3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性，千葉県立保健医療大学紀要，14，84，2023。
- ・江戸優裕，酒井克也，成田悠哉，松尾真輔，堀本佳誉，大谷拓哉，島田美恵子，岡村太郎，三和真人：地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討—若年者を対象として—，千葉県立保健医療大学紀要，14，85，2023。

#### 2 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作における関節運動の分析，研究代表者。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

・2022年度臨床実習指導者講習会運営責任者, 2022年4月1日～2023年2月20日, 千葉県立保健医療大学.

### 2 職能団体委員等（職能団体名称. 委員名称. 活動期間）

・千葉県理学療法士会. 学術誌編集委員会副委員長. 2022年4月1日～2023年3月31日.

### 3 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

・日本理学療法学会連合. 日本基礎理学療法学会. 理学療法科学学会. 日本ヘルスプロモーション理学療法学会. パイオメカニズム学会.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・第41回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 演題査読者（2題）. 2022年5月11日～18日.
- ・第27回日本基礎理学療法学会学術大会. 演題査読者（3題）. 2022年6月12日～13日.
- ・第28回千葉県理学療法学術大会. 演題査読者（2題）. 2022年12月9日.
- ・第41回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 座長（口述1）. 2022年9月10日～20日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・学生委員会. 学術推進企画委員会. 認証評価部会. 入試実施委員会. 学内共同研究審査部会. キャンパスハラスメント相談員. 教員資格審査委員会. 学部長候補者予備選挙管理委員会.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・臨床実習調整担当. 大学説明会（千葉市文化センター, 千葉北高校）. オープンキャンパス業務（専攻紹介, 模擬授業, 個別相談）. 専攻12期生担任. リハビリテーション学科備品更新（バイオデックス）.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

新指定規則に則った初めての総合実習（総合実習Ⅰ, Ⅱ）ならびに地域理学療法学実習の開催にあたり, 関係各所と調整を行い, 無事に実施することができた. 臨床実習指導者講習会を初めて本学主体で開催し, 大きなトラブルなく実施することができた.

## VII 次年度の目標

専攻教員の退職, 入職にともない変更となった担当講義について適切に準備をすすめ, 良質な教育の実践に努める. 所属委員会ならびに専攻が目標達成に向けて円滑に業務が遂行できるよう, 関係各所と調整を行い, 管理・運営に取り組む.

## 講師 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度はコロナ禍に入って3年目となるため、対面にオンライン技術も併用して特に教育をはじめとした各業務の質の担保に努める。また、3年生の担任として、登校制限によって接点が減少していた学生生活のサポートを行う。引き続き、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・専門職間の連携活動論.
  - ・運動学実習.
  - ・機能解剖学.
  - ・理学療法評価学Ⅲ.
  - ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
  - ・日常生活活動学演習.
  - ・物理療法学.
  - ・物理療法学演習.
  - ・運動器障害理学療法学.
  - ・運動器障害理学療法学演習.
  - ・理学療法学特論Ⅰ（運動器・老年期）.
  - ・理学療法技術論.
  - ・生体機能計測学.
  - ・理学療法応用評価学.
  - ・臨床体験実習.
  - ・評価実習.
  - ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
  - ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
  - ・地域理学療法学実習.
  - ・卒業研究.
- 2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）.
  - ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・望月久，渡邊観世子，江戸優裕，他：最新理学療法学講座—理学療法評価学一，2023年，医歯薬出版，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・江戸優裕，酒井克也，成田悠哉，松尾真輔，堀本佳誉，大谷拓哉，島田美恵子，岡村太郎，三和真人：地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討—若年者を対象として—，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第14巻1号，85，2023年.

- ・大谷拓哉, 三和真人, 堀本佳誉, 江戸優裕: 3次元動作解析システムを用いたベッドからの起き上がり動作中の関節角度計測法の信頼性, 千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集, 第14巻1号, 84, 2023年.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Mieko Shimada, Taro Okamura, Shinsuke Mastuo, Yuya Narita, Masahiro Edo, Nobuko Hongu: Changes in daily physical activity of the elderly under a state of emergency, American College of Sports Medicine 2022 Annual Meeting and World Congresses, 2022年5月31日~6月4日, San Diego.
- ・江戸優裕: 足部と下腿間の運動連鎖は立脚初期の膝関節側方運動制御に関与する, 第28回千葉県理学療法学会, 2022年3月5日, 千葉県.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・日本学術振興会科学研究費 (若手研究), 前足部および後足部の回内外による運動連鎖を用いた歩行コントロール法, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 集合住宅に在住する高齢者の社会的フレイルと要介護リスクの関連: 社会参加の促進を目的とした次年度介護予防教室のためのニーズ調査, 研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 地域在住高齢者における身体活動量と骨格筋の質の関係, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・UR都市機構共催「ほい大健康プログラム」. 2022年10月1日. 真砂第一団地.
- ・千葉県いすみ市共催健康教室. 2022年10月15日. いすみ医療センター.
- ・千葉県立保健医療大学歯科診療室主催健康教室. 2022年12月10日. 千葉県立保健医療大学.

### 4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県理学療法士会. 代議員. 2019年度~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 学術企画研修部員. 2019年11月~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 千葉ブロック介護予防推進リーダーWGメンバー. 2021年6月~現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会. 第6回千葉県理学療法士会代議員総会 副議長. 2022年6月22日.
- ・千葉県理学療法士会. 臨床実習指導者講習会 (東都大学) 世話人. 2022年11月26日~27日.
- ・千葉県理学療法士会. 千葉ブロック副ブロック長. 2023年2月~現在に至る
- ・日本理学療法士協会. イオン株式会社との就労支援事業運営スタッフ (イオンスタイル検見川浜店). 2022年6月27日~7月1日, 8月29日~9月2日, 11月7日~11日.
- ・日本理学療法士協会. イオン株式会社との就労支援事業運営スタッフ (イオン稲毛店). 2023年1月23日~27日.

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本基礎理学療法学会. 日本運動器理学療法学会. 臨床歩行分析研究会. バイオメカニズム学会. 理学療法科学学会. 日本臨床バイオメカニクス学会. International Society of Posture and Gait Research. International Society of Biomechanics.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・第12回日本理学療法教育学会. 準備委員. 2022年3月~現在に至る.
- ・第10回日本運動器理学療法学会学術大会. 演題査読. 2022年度.
- ・第27回日本基礎理学療法学会学術大会. 演題査読. 2022年度.
- ・第9回日本予理理学療法学会学術大会. 演題査読. 2022年度.
- ・第9回日本地域理学療法学会学術大会. 演題査読. 2022年度.
- ・第28回千葉県理学療法学会学術大会. 演題査読. 2022年度.

- ・第10回日本運動器理学療法学会学術大会. 一般演題座長. 2022年9月24日.
- ・第27回日本基礎理学療法学会学術大会. 一般演題座長. 2022年10月2日.
- ・埼玉県理学療法士会学術誌「理学療法 臨床・研究・教育」. 論文査読. 2022年度.
- ・千葉県理学療法士会学術誌「理学療法の科学と研究」. 論文査読. 2022年度.
- ・理学療法科学学会学術誌「理学療法科学」. 論文査読. 2022年度.
- ・The Society of Physical Therapy Science「Journal of Physical Therapy Science」. 論文査読. 2022年度.

## 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・千葉県済生会習志野病院主催勉強会. 千葉県済生会習志野病院. 診療参加型臨床実習（Clinical clerkship: CCS）. 理学療法士. 2022年7月6日. 千葉県済生会習志野病院.
- ・千葉市社会福祉セミナー. 千葉市社会福祉研修センター. 理学療法士が教えるフレイル予防～身体と心を元気に保ち、社会参加を活発に～. 一般市民. 2022年12月7日. 千葉市社会福祉研修センター.

## 7 その他

- ・理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員. 医歯薬出版. 2017年度～現在に至る.
- ・専門理学療法士（運動器）取得. 日本理学療法士協会. 2022年5月17日.
- ・専門理学療法士（スポーツ）取得. 日本理学療法士協会. 2022年5月17日.
- ・日本理学療法士協会指定管理者（上級）取得. 日本理学療法士協会. 2022年5月17日.
- ・イオン株式会社従業員向け労働災害予防のための1分間体操動画作成. 日本理学療法士協会. 2022年7月1日.
- ・イオン株式会社従業員向け労働災害予防のための1分間体操動画（改訂版）作成. 日本理学療法士協会. 2023年2月17日.

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会. 広報委員会. 紀要編集部会. 教育研究年報作成部会. 専門職間の連携活動論作業部会. 保医大健康プログラム実行委員.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍に対応した授業が求められる中、対面にオンライン技術を併用した授業は学生にも好評であり、教育の質の担保に寄与できたと考える。一方で、自身の研究遂行は不十分であった。

## VII 次年度の目標

令和5年度にはアフターコロナを迎えることが見込まれているが、コロナ前に戻すのではなくコロナ禍でのノウハウも生かした工夫により、特に教育をはじめとした各業務の質の向上に努める。また、入学以来コロナ禍に振り回されてきた4年生の担任として学生生活のサポートを行う。さらに、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

## 助教 室井 大佑 博士（健康科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度の目標は、講義に関して、より学生に理解しやすいように資料をブラッシュアップする。学術面において、2021年度と同様、筆頭著者で国際誌2本のアクセプトを目指す。また、2022年度で科研費が切れるので、2023年度からの科研費獲得を目指す。学会や社会貢献として、2021年度と同様の活動を実施する。日本神経理学療法学会では2023年開催の学術大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、積極的に意見交換をするようにする。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・千葉県健康づくり.
  - ・理学療法評価学Ⅰ.
  - ・理学療法評価学演習.
  - ・理学療法評価学Ⅱ.
  - ・理学療法評価学Ⅲ.
  - ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
  - ・理学療法応用評価学.
  - ・理学療法学特論Ⅰ.
  - ・理学療法学特論Ⅱ.
  - ・臨床体験実習.
  - ・臨床実習Ⅱ.
  - ・臨床実習Ⅲ.
  - ・臨床実習Ⅳ.
  - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・リハビリテーション論（淑徳大学）.
  - ・疾患別理学療法実習（中枢）（東京メディカルスポーツ専門学校）.

### III 研究記録

#### 1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所.）

- ・山口智史，山田実，室井大佑，他：理学療法講座・中枢神経系理学療法（分担執筆：生活期の中枢神経系理学療法），2023年，医歯薬出版，東京.

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Muroi D，Ohtera S，Saito Y，Koyake A，Higuchi T: Pathophysiological and motor factors associated with collision avoidance behavior in individuals with stroke, NeuroRehabilitation, 2022.
- ・Hakamata T，Muroi D，Kodama K，Kondo Y，Higuchi T: Haptic feedback intervention decreases the spatial margin when older adults walk through a narrow space. Journal of Physiological Anthropology, 2022.
- ・Muroi D，Saito Y，Koyake A，Hiroi Y，Higuchi T: Training for walking through an opening improves collision avoidance behavior in subacute patients with stroke: a randomized controlled trial, Disability and

Rehabilitation, 2023, in press.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・室井大佑，齋藤祐太郎，小宅綾希，樋口貴広：回復期脳卒中者に対する隙間通過トレーニングは歩行中の障害物回避能力を改善させる—ランダム化比較試験—，第20回日本神経理学療法学会学術大会，2022年10月，大阪府。
- ・室井大佑，児玉謙太郎，友野貴之，齋藤祐太郎，小宅綾希，樋口貴広：脳卒中片麻痺者の隙間通過課題における行動調整—歩行の速度と複雑性に着目して—，第28回千葉県理学療法学会学術大会，2023年3月，千葉県。

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・日本神経理学療法学会学術大会「教育講演Ⅱ」，「歩行障害の臨床症状とメカニズム 認知制御編」，大阪府，2022年10月

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費 若手研究，回復期脳卒中者における障害物回避トレーニングの効果検証，研究代表者。
- ・日本学術振興会 科学研究費 基盤研究（C），脳卒中患者の退院後の転倒における歩行の適応的運動学習能力の関与，研究分担者。

### 6 受賞・特許

- ・第28回千葉県理学療法学会学術大会 優秀演題賞 受賞。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・日本 ACLS 協会主催/BLS インストラクター。2022年6月26日，9月10日，2023年1月7日。亀田総合病院。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士協会。学術局企画運営部部長。2021年度～現在に至る

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会。千葉県理学療法士協会。日本神経理学療法学会。日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会。International Society of Posture and Gait Research.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会 世話人。2000年8月～現在に至る
- ・Neuropsychological rehabilitation 論文査読
- ・Journal of NeuroEngineering rehabilitation 論文査読

### 7 その他

- ・医歯薬出版。理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員。2017年度～現在に至る。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員会。社会貢献委員会。危機管理委員会。進路支援委員会。学内共同研究審査部会。IR部会。千葉県の健康づくり作業部会。



## 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習担当.

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

入職2年目となり、講義や研究の基盤づくりができた。昨年度課題に挙げた委員会や社会貢献に対する働きかけとして、特に社会貢献委員会や危機管理委員会、IR部会においては改善のための積極的な意見を述べた。また、社会貢献として、いすみ市と連携をして健康診断データの解析を実施することとなった。研究に関しては、科研費（若手）最終年度となり、ランダム化比較試験の結果をDisability and Rehabilitation (IF:3.0 (2021-2022))に掲載することができた。学会や地域貢献としても昨年度から引き続き、神経系理学療法学会での教育講演を担当し、千葉県理学療法士会では企画運営部の部長として、登録理学療法士や専門・認定理学療法士の更新研修会を実施した。今後の課題として、社会貢献活動等を専攻全体で取り組む必要があると考えている。

## VII 次年度の目標

講義に関して、新たに神経系理学療法を担当するため、実技を多く交えて学生に理解しやすいように工夫しながら講義を進めていく。学術面において、2022年度と同様、筆頭著者で国際誌2本のアクセプトを目指す。また、2023年度から新たに科研費を獲得したため、その研究の基盤づくりをしていく。学会や社会貢献として、千葉県理学療法士会では体制変更を予定しているため、現在の社会ニーズに合わせて対応をしていく。日本神経理学療法学会では2023年9月開催の学術大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、新たに教務委員会に参加することとなったため、教務関連の法規などを確認し、カリキュラム評価等も実施していく。

## 助教 酒井 克也 博士（理学療法学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、特に助教業務の効率化を図ることと、継続して国際誌に掲載されることを目標とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・地域理学療法学.
  - ・地域理学療法学演習.
  - ・生体機能計測学.
  - ・人体の機能実習.
  - ・運動学実習.
  - ・理学療法学特論Ⅱ.
  - ・体験ゼミナール.
  - ・中枢神経系理学療法学演習.
  - ・老年期障害理学療法学.
  - ・物理療法学.
  - ・物理療法学演習.
  - ・理学療法応用評価学.
  - ・理学療法技術論.
  - ・理学療法評価学Ⅳ.
  - ・理学療法学評価学演習.
  
- 2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）.
  - ・リハビリテーション概論（法政大学）.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田邊淳平，網本和，酒井克也：臨床に活かすニューロリハビリテーション Virtual reality, 理学療法ジャーナル, 56, 4, 403-410, 2022.
- ・酒井克也：運動イメージにかかわる脳内機構, 理学療法ジャーナル, 56, 9, 1032-1038, 2022.
- ・Katsuya Sakai, Yuichiro Hosoi: Relationship between the vividness of motor imagery and physical function in patients with subacute hemiplegic stroke: a cross-sectional preliminary study, Brain Injury, 36, 1, 121-126, 2022.
- ・Ken Kumai, Yumi Ikeda, Katsuya Sakai, Keisuke Goto, Kenji Morikawa, Keiichiro Shibata: Brain and muscle activation patterns during postural control affect static postural control, Gait & Posture, 96, 102-108, 2022.
- ・Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Shinpei Osaki, Nao Yoshihiro, Tokuei Kataoka: Effects and adaptation of visual-motor illusion using different visual stimuli on improving ankle joint paralysis of stroke survivors: a randomized crossover controlled trial, Brain Sciences, 12, 9, 1249, 2022.
- ・Ken Kumai, Yumi Ikeda, Katsuya Sakai, Keisuke Goto, Kenji Morikawa, Keiichiro Shibata: Comparing brain

regions involved in axial and limb muscle contraction, *Journal of Asian Rehabilitation Science*, 5, 4, 48-54, 2022.

- Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Motoyoshi Morishita, Shinpei Osaki, Nao Yoshihiro, Tokuei Kataoka: Effects of visual-motor illusions with different visual stimuli on the sit-to-stand of people with hemiplegia following stroke: a randomized crossover controlled trial, *Human Movement Sciences*, 87, 4-6, 103021, 2023.
- Katsuya Sakai, Yuichiro Hosoi, Yusuke Harada, Yumi Ikeda, Junpei Tanabe: Overestimation associated with walking and balance function in individuals diagnosed with a stroke, *Physiotherapy Theory and Practice*, 8, 1-8, 2023.
- Katsuya Sakai, Hosoi Yuichiro, Yusuke Harada, Yumi Ikeda: Estimation error consisting of motor imagery and motor execution in patients with stroke, *Journal of Motor Behavior*, in Press, 2023.
- Tomoyoshi Kobari, Takashi Murayama, Kazuhiro Matsuzawa, Katsuya Sakai: Effects of a treatment program based on constraint-induced movement therapy on the lower extremities of patients with chronic stroke: A six-month follow-up pilot study, *International Journal of Rehabilitation Research*, 46, 2, 187-192, 2023.
- 酒井克也, 池田由美, 後藤圭介, 熊井健, 渡邊暁: 運動イメージの難易度が運動イメージ中の事象関連脱同期に与える影響, 千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集, 第14巻1号, 88, 2023.
- 江戸優裕, 酒井克也, 成田悠哉, 松尾真輔, 堀本佳誉, 大谷拓哉, 島田美恵子, 岡村太郎, 三和真人: 地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討—若年者を対象として—, 千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集, 第14巻1号, 85, 2023.

### 3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- 酒井克也, 細井雄一郎, 原田悠亮: 歩行速度によって異なる脳卒中片麻痺患者の身体認知, 第27回日本基礎理学療法学会学術大会, 2022年10月1日, 大阪.
- Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Shinpei Osaki, Nao Yoshihiro: Effects of visual-motor illusion on the ankle joint of the paralyzed side in stroke in relation to the sense of embodiment, 第20回日本神経理学療法学会学術大会, 2022年10月16日, 大阪.
- 酒井克也, 細井雄一郎, 原田悠亮, 池田由美: 脳卒中片麻痺患者の運動イメージと運動実行との誤差は認知機能と運動機能に關与する, 第20回日本神経理学療法学会学術大会, 2022年10月16日, 大阪.
- 田邊淳平, 網本和, 酒井克也, 尾崎新平, 吉弘奈央: 脳卒中患者の麻痺側足関節に対する異なる視覚刺激の視覚性運動錯覚の効果とワーキングメモリの関連, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月5日, 岡山.
- 酒井克也, 川崎翼, 池田由美, 君成田弘八, 二階堂美里, 前川慶亮: クラスタ分析を用いたパーキンソン病患者のすくみ足と運動機能のサブタイプ化, 第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, 2022年11月5日, 岡山.
- Ken Kumai, Katsuya Sakai, Keisuke Goto, Kenji Morikawa, Keiichirou Shibata, Yumi Ikeda, Kazu Amimoto: Relationship among subjective difficulty, brain activity, and postural balance during a repetitive postural control task, 12th World Congress for Neurorehabilitation, 2022年12月16日, Austria.
- 酒井克也, 細井雄一郎, 原田悠亮: クラスタ分析を用いた脳卒中片麻痺患者の遂行機能障害のサブタイプ化と身体機能特性, 第28回千葉県理学療法学会学術大会, 2023年3月5日, 千葉.

### 4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- 第20回日本神経理学療法学会学術大会, 高次脳機能障害の評価と治療 (教育講演), 2022年10月15日, 大阪.
- 第5回SIGs参加型フォーラム2023, 高次脳機能障害, 2022年3月4日, 東京.

### 5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 日本学術振興会科学研究費 (若手研究), 視覚を用いた運動錯覚による運動学習への効果とその神経基盤の解明, 研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会、日本ニューロリハビリテーション学会、理学療法科学学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第21回日本神経理学療法学会、準備委員、2022年4月1日～現在に至る。
- ・第16回全国教育大学理学療法学会学術大会、準備委員、2023年2月1日～3月26日。
- ・Journal of clinical neuroscience. 論文査読。
- ・Behavioral and Brain Functions. 論文査読。
- ・Journal of NeuroEngineering Rehabilitation. 論文査読。
- ・Brain sciences. 論文査読。
- ・Medicina. 論文査読。
- ・Journal of Clinical Medicine. 論文査読。
- ・千葉県理学療法士会理学療法の科学と研究。論文査読。
- ・第20回日本神経理学療法学会学術大会。演題査読。
- ・第28回千葉県理学療法学会学術大会。演題査読。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、自己点検評価部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・理学療法専攻会議議事録作成。

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

目標通り、助教業務の効率化を進めることができ、国際誌も継続して掲載することができた。

リハビリテーション学科  
作業療法学専攻



## 教授（兼）リハビリテーション学科長 岡村 太郎 博士（医学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、感染対策を基底にし、学生の教育や指導を行い、臨床実習において、実習が中止となった学生（施設でのコロナ感染予防など施設・病院都合による）に卒業研究など指導を行う。面接授業による学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指し、病院・施設実習の参加を、可能な限り実施を目標とした。さらにアフターコロナを見据えて学生同士のコミュニケーションが促進されるよう準備し、国家資格の全員取得をめざしたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・作業療法概論.
- ・作業療法基礎理論. 分担
- ・基礎作業学実習. 分担
- ・地域社会参加支援学. 分担
- ・作業療法管理学.
- ・作業療法研究法.
- ・作業療法ゼミナールA①. A②.
- ・作業療法セミナー. 分担
- ・臨床体験実習. 分担
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
- ・地域作業療法実習. 分担
- ・作業療法総合演習. 分担
- ・卒業研究

### III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・岡村 太郎：心のみかた，とらえかた 作業療法より千葉県立保健医療大学公開講座報告書令和4年度 Page3-6(2022. 10)

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・岩田 哲治，山根 岩雄，岡村 太郎，中村 優衣，野田 義人：当院で実施している新人教育プログラムの有用性検証，日本作業療法学会抄録集(1880-6635)56回 Page PR-1-5(2022. 09)

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科研費（基盤C）2018年度～2022年度「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法」代表研究者島田美恵子（2022年度のみ研究分担者として文献レビュー担当）

### IV 社会貢献・国際交流記録

- ・ほい大健康プログラム実施（作業療法学生引率含む）（UR団地にて令和4年10月1，29日，11月26日）
- ・令和4年度千葉保健医療大学公開講座「心のみかた，とらえかた-作業療法より-」講師. Zoomによる令和4年10月22日

## 5 学会、学術団体への貢献

### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本公衆衛生学会、

### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・一般社団法人千葉作業療法士会、学術部査読委員、令和4年度
- ・一般社団法人千葉作業療法士会学会委員会、演題査読委員、令和4年度
- ・一般社団法人千葉県作業療法士会学術部学会委員会、令和4年度

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、共通教育運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会、教員資格審査委員会、教員再任資格審査委員会、教授会、将来構想検討委員会、学内共同研究審査部会、FD・SD委員会（委員長）。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議（学科長）、作業療法学専攻会議（作業療法学専攻長）、
- ・説明案内実施、千葉県黒野副知事が仁戸名キャンパス訪問の視察説明案内（令和4年9月13日）
- ・オープンキャンパス時、高校生保護者に模擬講義を実施（令和4年7月13、14日）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

本年度卒業学生に関して、国家試験に関して1名不合格となった。合格し作業療法士として就職できた。3年4年生は、学内で実施される専門科目など実習・演習を伴う授業も工夫により実施されて本来、対面などで作業療法士として獲得されるコミュニケーション力や臨床への準備段階など順調に獲得できていた。臨床実習に関して、病院・施設より感染予防のため実習が中止になるケースもあり、臨床実習中止の学生に対して対策による補習等実施ができた。今後、特に遠隔授業が中心であった対面授業やグループ学習の経験が少ない学生に関して、臨床・演習・実習を通じた臨床力、特に対人・コミュニケーションの臨床での活用状況と点検等課題である。研究活動としては、臨床活動ができないため停滞しているが他学科との共同研究を実施など新しい取り組みを始めることができた。

## VII 次年度の目標

目標として、面接授業による学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指したい。学生間の活動、あるいはチューターの活用をはかり、1年から卒業生まで体面による作業療法学専攻のコミュニティがひろがるよう工夫したい。ボランティアや課外活動を通じ学生の社会参加を、可能な限り実施を目標としたい。さらに国家資格の全員取得をめざしたい。研究活動は、他学科と協同による活性化を試みたい。



## 教授（兼）専攻長 山本 達也 博士（医学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は、円滑な大学の管理運営、医学系科目の教育の充実、研究活動の充実を目的とした。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
  - ・人体の構造 I
  - ・人体の構造 II
  - ・人体の構造実習
  - ・内科学総論
  - ・内科学各論
  - ・神経内科学総論
  - ・神経内科学各論
  - ・老年科学
  - ・臨床医学概論
  - ・臨床薬理学
  - ・画像診断学
  
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
  - ・脳神経内科学・自律神経学（千葉大学大学院）
  - ・脳神経内科学（福島県立医科大学）

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Yamamoto T, Yamanaka Y, Hirano S, Higuchi Y, Kuwabara S. Utility of movement disorder society-unified Parkinson's disease rating scale for evaluating effect of subthalamic nucleus deep brain stimulation. *Front Neurol*. 2023 Jan;13:1042033. doi: 10.3389/fneur.2022.1042033. PMID: 36686507; PMCID: PMC9852822.
- ・Yamamoto T, Pellecchia MT, Sakakibara R. Editorial: Autonomic dysfunction in multiple system atrophy. *Front Neurol*. 2022 Nov 3;13:1048895. doi:10.3389/fneur.2022.1048895. PMID: 36408528; PMCID: PMC9670115.
- ・Nakano Y, Hirano S, Kojima K, Li H, Sakurai T, Suzuki M, Tai H, Furukawa S, Sugiyama A, Yamanaka Y, Yamamoto T, Iimori T, Yokota H, Mukai H, Horikoshi T, Uno T, Kuwabara S. Dopaminergic Correlates of Regional Cerebral Blood Flow in Parkinsonian Disorders. *Mov Disord*. 2022 Jun;37(6):1235-1244. doi:10.1002/mds.28981. Epub 2022 Mar 14. PMID: 35285050.
- ・Osawa K, Sugiyama A, Uzawa A, Hirano S, Yamamoto T, Nezu M, Araki N, Kano H, Kuwabara S. Temporal Changes in Brain Perfusion in a Patient with Myoclonus and Ataxia Syndrome Associated with COVID-19. *Intern Med*. 2022 Apr;61(7):1071-1076. doi: 10.2169/internalmedicine.9171-21.
- ・Sugiyama A, Terada J, Shionoya Y, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Koshikawa K, Kasai H, Ikeda S, Wang J, Koide K, Ito S, Kuwabara S. Pareidolia in Parkinson's Disease and Multiple System Atrophy. *Parkinsons Dis*. 2021 Oct 31;2021:2704755. doi:10.1155/2021/2704755.

### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 山本達也，山中義崇，平野成樹，荒木信之，杉山淳比古，桑原聡（ポスター発表）排尿効率はパーキンソン病と多系統萎縮症の鑑別に有用である 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンGRESS 2022年7月 東京
- ・ Tatsuya Yamamoto，Masahide Suzuki，Shigeki Hirano，Yoshitaka Yamanaka，Atsuhiko Sugiyama，Nobuyuki Araki，Yoshinori Higuchi，Satoshi Kuwabara.（ポスター発表）The changes in activities of daily livings after deep brain stimulation in Parkinson's disease. 2022 MDS International Congress, Madrid, Spain Web参加 2022年9月
- ・ Tatsuya Yamamoto，Yoshitaka Yamanaka，Shigeki Hirano，Nobuyuki Araki，Atsuhiko Sugiyama，Satoshi Kuwabara（ポスター発表）Voiding efficiency is useful in differentiating multiple system atrophy from Parkinson's disease INTERNATIONAL CONTINENCE SOCIETY 52ND ANNUAL MEETING web参加 2022年9月

### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・ 山本達也 基礎と臨床の融合シンポジウム3「パーキンソン病に伴う自律神経障害」排尿排便障害とQOL 第75回日本自律神経学会 2022年10月 さいたま

### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 学内共同研究費，動物モデルを用いたパーキンソン病の排尿障害発症メカニズムの解明 研究代表者
- ・ 科学技術研究費 基盤研究（C）経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発 研究分担者

## IV 社会貢献・国際交流記

### 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・ 第48回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成
- ・ 大学機関別認証評価委員（大分県立看護科学大学）

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本内科学会，日本神経学会，日本自律神経学会，日本排尿機能学会，日本パーキンソン病・運動障害疾患学会
- ・ Movement Disorder Society，International Continence Society

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・ 日本神経学会 代議員 2019年4月1日～現在に至る
- ・ 日本排尿機能学会 代議員 2018年5月1日～現在に至る
- ・ 日本自律神経学会 評議員 2017年4月1日～現在に至る

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 大学運営会議，共通教育運営会議，学術推進委員会，自己点検・評価委員会，将来構想検討，国際交流委員会，総務・企画委員会，衛生委員会，人事委員会，キャンパスハラスメント防止対策委員会，紀要編集部会。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 作業療法学専攻会議（毎週火曜日）

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・ 目標としていた本学における医学系科目の教育，大学の管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えら

れる.

- ・研究活動についても論文発表・学会発表, 国際誌の査読など概ね達成されたと考えられる.

## VII 次年度の目標

- ・医師教員として, 他学科の医師教員と協力し全学の医系科目の教育に寄与するとともに, 共通教育運営会議長, キャンパスハラスメント委員会委員長として大学の管理運営に貢献することを目的とする.

## 准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動に関しては、改訂された指定規則、作業療法ガイドライン・コアカリキュラムに準拠した実習前教育や実習の実施ができるよう整備を行う。同時に、専攻教員の实習や教育に関する事務作業工数の低減および効率化を図る。担当科目については再度検討を行い、より教育効果が高まる内容への変換を図る。教育備品については、費用対効果を十分に考慮した選定を行う。研究活動については、学外研究費の獲得、新規課題への挑戦、研究成果の社会への還元を行う。

社会貢献活動については、引き続き高齢者・障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また、専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県健康づくり
- ・社会実習
- ・人体の機能実習
- ・作業運動学 I
- ・作業運動学実習
- ・高次神経機能作業療法学
- ・日常生活活動学
- ・日常生活活動学演習
- ・福祉機器論
- ・臨床体験実習
- ・体験ゼミナール
- ・評価実習 I・II
- ・総合実習 I・II
- ・作業療法ゼミナール①②
- ・地域作業療法学実習
- ・作業療法特論 B
- ・作業療法総合演習
- ・卒業研究

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・藤田佳男：軽度認知障害の人に対する自動車運転と QOL, MEDICAL REHABILITATION273, Page32-37, 2022.
- ・藤田佳男：運転再開支援 回復期リハビリテーション病棟医療系専門職に必要な視点, 回復期リハビリテーション 21, 2, Page52-55, 2022.
- ・藤田佳男：作業療法における自動車運転と地域移動に関する教育 養成教育と日本作業療法士協会の活動, 日本安全運転医療学会誌, 2, 1, Page7-13, 2022.
- ・小倉由紀, 藤田佳男：医療機関における運転と地域移動の支援実態と課題, 作業療法ジャーナル, 57, 2Page122-128, 2023.
- ・小倉由紀, 松浦篤子, 藤田佳男：地域包括ケアシステム参画の手引き（第2版）, 第6章地域移動支援と生活行為向上, P151-157, 2023.

- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 1 インTRODクシヨN, 自動車学校, 8, P17-22, 2022.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 2 高次脳機能障害総論, 自動車学校, 9, P23-28, 2022.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 3 脳の機能局在-意識と注意-, 自動車学校, 10, P27-32, 2022.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 4 全般的注意障害と運転, 自動車学校, 11, P27-32, 2022.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 5 視機能および有効視野と運転, 自動車学校, 12, P31-36, 2022.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 6 方向性注意障害と運転, 自動車学校, 1, P31-36, 2023.
- ・藤田佳男：教習所職員のための高次脳機能の基礎知識 7 情動や意欲の障害と運転, 自動車学校, 2, P33-38, 2023

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・地域医療介護総合確保基金フォーラム，運転支援と作業療法（講演），2022年9月3日，宮崎県/Web開催
- ・第8回京都リハビリテーション医学会，運転と地域移動に関する作業療法士の役割（特別企画），2023年2月5日，京都

#### 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究），高齢者の運転適性を評価および訓練する方法の開発，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C），高齢自転車利用者が自身の利用適性を適切に把握するための介入プログラムの開発，研究代表者.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

#### 2) 千葉県外

- ・政府インターネットTV「ビビるとさくらとトモに深掘り！知るトビラ～サポカー限定免許で高齢者の交通事故防止！」.  
(BS朝日 令和4年6月3日放送)2022年6月6日. 内閣府HP (<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg24503.html>).

### 3 審議会，委員会，国家試験委員などの実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高齢運転者支援士」試験作問委員，2022年4月から2023年3月まで
- ・東京都医師会，高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員，2021年9月から2023年5月まで

### 4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・（一社）日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」，委員長，2018年度～2022年度
- ・（一社）全日本指定自動車教習所協会連合会，理事，2021年度～

### 5 学会，学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 日本老年医学会. 日本老年精神医学会. 認知神経科学会. 日本高次脳機能障害学会, 自動車技術会. 日本公衆衛生学会. 日本リハビリテーション工学協会. 運転と認知機能研究会, 運転と作業療法研究会. 日本安全運転医療学会. 日本交通心理学会. 日本認知心理学会. 日本交通科学学会.

#### 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本高次脳機能障害学会 代議員 2021年度～
- ・日本高次脳機能障害学会 BFT 委員会「運転に関する神経心理学的評価法検討小委員会」委員 2021年～2022年度
- ・日本安全運転医療学会 理事 2021年度～
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年～
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年～

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・千葉県作業療法士会学術部老年期障害研修会，千葉県作業療法士会，高齢者の運転に対する作業療法の関わり，会員，2022

年10月15日、千葉県/Web開催。

- ・障害者教習指導員研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2022年10月7日。アルカディア市ヶ谷。
- ・高齢運転者支援士研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2022年11月10日。アルカディア市ヶ谷。
- ・安全運転相談専科教養研修，警察庁運転免許課，高次脳機能障害と運転-作業療法士の立場から-都道府県警警察官，2023年1月23日。警視庁運転免許本部鮫洲試験場。

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会，入試改革検討委員会，入試実施委員会（入試問題校正班）

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議，実習ワーキンググループ

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度に引き続き Covid-19 の影響により，特に実習関連の対策に多くの労力を費やした。教育活動については，学内実習ワーキンググループのリーダーとして指定規則改正に準じた実習の実施や客観的臨床能力試験 (OSCE) の本格実施を終えた。担当する地域作業療法学実習は例年通り施設数に余裕を持たせて全員に体験させた。また，次年度の準備として，指定規則で追加された「訪問・通所リハ」事業所と従来の実習施設両方の実習先の確保に努めた。講義科目「福祉機器論」では，最新の機材を安価に入手し，IT 機器による支援課題を課せるようにした。社会貢献活動については，警察庁担当者からの推薦で政府広報番組「ビビるとさくらとトモに深掘り！知るトビラ～サポカー限定免許で高齢者の交通事故防止！」の監修と出演で協力した。研究については教育関連業務にほとんどの時間を費やした結果，論文執筆は十分にできなかったものの，共同研究を3か所と行うことが出来た。また自身では新たなテーマで20名以上の実験データを取り，科研費が採択された。次年度は，実習事務業務を中心とした教員業務全体の効率化，新入生獲得のためのさらなるデータ分析と方策の策定，新たなテーマでの研究の推進，社会実装を目指した共同研究の推進のため，業務の効率化を一層図り，研究に時間を費やせるようにすることが課題である。

## VII 次年度の目標

教育活動に関しては，主に教員全体が取り組む実習に関する教育内容の見直しや周辺業務の効率化を目指して整備を行う。担当科目については再度検討および適切な教材備品を導入し，より教育効果が高まる内容への変換を図る。研究活動については，新たなテーマの推進と並行して，共同研究や講演等を通して研究成果の社会への還元を行う。

社会貢献活動については，引き続き高齢者・障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また，専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

## 准教授 有川 真弓 博士（保健科学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は、感染対策に配慮して対面での授業を取り入れることで教育効果の向上を図りたい。また、可能な範囲で社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・作業分析学.
- ・人間発達学.
- ・作業療法基礎理論
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法ゼミナール
- ・作業療法評価学総論
- ・発達期作業療法学
- ・発達期作業療法学演習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・地域社会参加支援学演習
- ・作業療法総合演習.
- ・作業療法学特論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ.
- ・評価実習Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

### III 研究記録

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・有川真弓，酒井康年，本間嗣崇：特別支援教育との協働に向けた作業療法士の人材育成と学校との連携，日本特殊教育学会第60回大会，2022年9月18-20日，つくば国際会議場

#### 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第39回日本感覚統合学会研究大会，教育講演Ⅰ コミュニケーションと交流技能評価 Assessment of Communication and Interaction Skills (ACIS) の紹介，2022年11月5日，オンライン開催

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・大田区小学校 特別支援学級医療専門相談、2022年6月1日～2023年3月31日。
- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師、2022年6月1日～2023年3月31日。
- ・練馬区障害児保育巡回指導、2022年4月1日～2023年3月31日。

### 3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員、2022年4月1日～2023年3月31日。

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・日本作業療法士協会、制度対策部部員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・日本作業療法士協会、学会演題査読委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・日本作業療法士協会、代議員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、事務局長、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、代議員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、理事、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、渉外部部員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、学術部発達障害委員会委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、学術部査読委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、地域連携部こども連携委員会委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・千葉県作業療法士会、臨床実習指導者講習会委員会委員、2022年4月1日～2023年3月31日。

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本感覚統合学会、日本作業行動学会、日本LD学会、日本発達系作業療法学会、日本リハビリテーション連携科学学会、日本発達障害学会、日本特殊教育学会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本感覚統合学会、効果研究委員、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・日本発達系作業療法学会、理事、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会、副委員長、2022年4月1日～2023年3月31日。

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・臨床実習指導者講習会（運営スタッフ）、千葉県作業療法士会、作業療法士、2022年8月5日～7日、WEB開催。
- ・臨床実習指導者講習会（世話人）、千葉県作業療法士会、演習1～7、作業療法士、2022年12月3日～4日、WEB開催。
- ・千葉市健康支援課母子保健研修会（講師）、母子保健に係る職員、発達が気になる児・家族への継続した支援について、2023年3月13日、オンライン開催

### 7 その他

- ・埼玉県立小児医療センター保健発達部門作業療法科職員研究指導、2022年4月1日～2023年3月31日。
- ・日本感覚統合学会新検査（ADAPP）開発標準化データ収集協力、2022年5月1日～2022年9月30日。



## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会. 危機管理委員会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員. 進路支援委員会. 自己点検・評価委員会認証評価部会

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議, 臨床実習ワーキンググループ, 高校説明会, 評価実習前 OSCE, 総合実習前 OSCE, 臨床実習指導者会議

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

職能団体の委員会活動はオンラインでの会議を中心に例年よりも活発に活動できた。対面で行われていた社会貢献活動には制限が生じ、取り組むことが難しい時期があった。2022年度は、感染対策に配慮したうえで全面的に対面で授業が実施でき、実技演習等において教育効果の向上を図ることができた。また、可能な範囲で社会貢献活動にも取り組むことができた。

## VII 次年度の目標

2023年度は、研究の結果を全国学会や学術雑誌で発表したい。また、引き続き社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

## 准教授 佐藤 大介 博士 (医学)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和四年度は、担当科目の到達目標の達成状況を随時把握し、基本的臨床能力の習得に向けて授業内容の工夫を図る。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名) .

- ・作業療法評価学総論
- ・精神作業療法評価学
- ・精神作業療法評価学実習
- ・精神作業療法学
- ・精神作業療法学演習
- ・日常生活活動技術学演習
- ・地域社会参加支援学演習
- ・作業療法学特論
- ・作業療法総合演習
- ・臨床体験実習
- ・作業療法ゼミナール
- ・評価実習 I
- ・評価実習 II
- ・総合実習 I
- ・総合実習 II
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究

### III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・Sato D, et al, Effectiveness of Unguided Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy and the Three Good Things Exercise for Insomnia: 3-Arm Randomized Controlled Trial, J Med Internet Res, 24(2), e28747, 2022.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・佐藤 大介，他，不眠を対象としたインターネット認知行動療法の有効性を検討する 3 群ランダム化比較試験，第 47 回日本睡眠学会，2022 年 6 月，京都。

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C)，主観的及び客観的睡眠の不一致へのセルフヘルプ・デジタル認知行動療法の開発，研究代表者。

#### IV 社会貢献・国際交流記録

- 3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)
  - ・横須賀市, 障害程度区分等審査会
- 4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)
  - ・日本作業療法士協会, 教育部資格認定審査委員会
- 5 学会, 学術団体への貢献
  - 1) 所属学会・学術団体
    - ・千葉県作業療法士会, 日本作業療法士協会
  - 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
    - ・千葉県精神保健福祉協議会, 理事
- 6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)
  - ・千葉県作業療法士会, 現職者研修1, 事例研究1, 講師, 2022年9月, 千葉

#### V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・学術推進企画委員会, 研究倫理審査委員会, 学部長選挙管理委員会
- 2 学科 / 専攻内委員会 (委員会名 / 活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
  - ・臨床実習ワーキング

#### VI 評価 (成果および改善すべき事項)

精神障害領域の臨床実習指導と講義, 1年生の担任業務を行った。到達目標の理解度に応じた指導方法の改善を行う。

#### VII 次年度の目標

基本的臨床能力の習得を主眼におき精神障害領域の講義形式の工夫を図る。

## 講師 松尾 真輔 修士 (学術)

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

2022年度は、担当科目での講義や演習、実習形態において専門知識と技術の取得を効果的に行い、臨床実習科目担当として学生が質の良い学習効果が得て、臨床場면을意識した学習環境を設定し、積極的な経験が積める指導に繋げていく。また学生に対し入学時から卒業までの講義や個別指導時に、教育効果を高め理解しやすいような指導を心掛ける。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学演習
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学
- ・身体作業療法評価学実習
- ・身体作業療法学演習
- ・身体作業療法学 I・II
- ・義肢装具学
- ・老年期作業療法学
- ・老年期作業療法学演習
- ・地域作業療法学.
- ・作業療法ゼミナール
- ・作業療法特論
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習 I・II.
- ・総合実習 I・II.
- ・地域作業療法学実習
- ・作業療法総合演習
- ・卒業研究.

##### 2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名) .

- ・作業療法管理学. 八千代リハビリテーション学院.

### III 研究記録

#### 3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・Mieko Shimada, Taro Okamura, Shinsuke Matsuo, Yuya Narita, Masahiro Edo, Nobuko Hongu: Changes In Daily

Physical Activity Of The Elderly Under A State Of Emergency: 2563. Medicine & Science in Sports & Exercise 54, 9S, p 498, September 2022.

- ・江戸優裕, 酒井克也, 成田悠哉, 松尾真輔, 堀本佳誉, 大谷拓哉, 島田美恵子, 岡村太郎, 三和真人, 地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討 ―若年者を対象として―, 千葉県立保健医療大学学内共同研究発表, 2022年9月12~16日, 千葉県立保健医療大学幕張キャンパス.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県作業療法士会. 千葉中央ブロック代議員. 2014年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県生活行為向上マネジメント委員会. 委員. 2013年8月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県作業療法誌. 査読者. 2014年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 災害対策委員会. 委員. 2015年4月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. ブロック部. 部長. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 地域連携システム委員会. 委員長. 2022年6月~現在に至る
- ・千葉県POS連盟. 千葉POS災害対策委員会. 委員. 2016年1月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 副会長. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県作業療法士会. 運転特設委員会・担当理事. 2018年6月~現在に至る
- ・千葉県POS連盟. 理事. 2018年6月~現在に至る
- ・日本作業療法士協会 代議員 2020年6月~現在に至る

### 5 学会, 学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会. 千葉県POS連盟.

#### 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉県POS連盟. 理事会出席. (年6回)
- ・千葉県作業療法士会. 理事会出席 (年12回)
- ・日本作業療法士協会. 代議員総会. 2022年5月
- ・日本作業療法士協会. 地域連携会議. 2022年6月, 8月, 11月
- ・千葉県作業療法士会. 定時総会出席. 2022年6月
- ・千葉県POS連盟. 地域ケア会議研修会運営スタッフ. 2023年2月
- ・千葉県作業療法士会. 予算総会出席. 2022年3月

### 6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日時, 場所)

- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修会. 2022年7月23日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例登録研修会. 2022年9月20日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例登録研修会. 2022年10月19日
- ・千葉県作業療法士会. 地域共生社会推進委員会ブロック部合同研修会. 2022年10月30日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント基礎研修会. 2022年11月12日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例登録研修会. 2022年12月10日
- ・千葉県作業療法士会. 千葉県運転支援情報交換会. 2022年12月14日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例登録者研修会. 2023年1月17日
- ・千葉県作業療法士会. 地域共生社会推進委員会ブロック部合同研修会. 2023年2月6日
- ・千葉県作業療法士会. 生活行為向上マネジメント事例登録研修会. 2023年2月28日
- ・千葉県作業療法士会. 第23回千葉県作業療法士学会. ブロック部主催シンポジスト. 2023年3月5日
- ・千葉県作業療法士会. 第23回千葉県作業療法士学会. MTDLP ランチョンセミナー. 2023年3月5日

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・キャンパス・ハラスメント防止委員会. 紀要編集部会員. 社会貢献委員会. 総務企画委員会. 危機管理委員会. IR 部会.  
自己点検・評価委員会報告書作成等部会. 教育研究年報編集部会部長. 体験ゼミナール部会員.

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・リハビリテーション学科会議. 作業療法学専攻会議. 臨床実習指導者会議. 実習 WG. 学内実習 WG, 高校説明会, 評価実習前 OSCE, 総合実習前 OSCE,

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学での教育活動では、コロナ禍での感染対策を意識した取り組みを行いながら、評価実習と総合実習などの臨床実習に向けた学生指導や実習全体の運営や調整を円滑に行えた。また評価実習指導者会議の開催を企画準備し、実習施設との連絡調整を行い、実習前の OSCE も滞りなく実施できた。大学運営として、任期最終年度として教育研究年報編集部会会長を務め、他の委員会や部会員としても他学科や専攻内での調整を行った。さらに学外の社会貢献活動として、千葉県作業療法士会や千葉県理学療法士作業療法士言語聴覚士連盟の役員として組織運営に携わり、職能団体の研修会の運営や講師、県内の医療圏域で構成される職能団体のブロック活動で啓発し、作業療法の普及啓発活動を行った。

## VII 次年度の目標

次年度は最終学年の担任となることから、臨床実習の運営と国家試験対策について中心的に従事し、専攻内での役割を調整しながら、円滑な大学業務が担えるように取り組んでいきたい。また学生への効果的な学習効果に繋がるよう、必要に応じて個別指導を行っていききたいと考えている。

## 講師 須藤 崇行 修士（リハビリテーション医療学）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

令和4年度は着任1年目のため、本学の環境への順応と理解に務める。また2年生の担任として学生が学業に集中できる環境を整え、学生生活のサポートを行って行く。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）.

- ・体験ゼミナール.
- ・体表解剖学.
- ・作業運動学 II.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・身体作業療法学 I.
- ・身体作業療法学演習.
- ・老年期作業療法学演習.
- ・作業療法学特論.
- ・地域社会参加支援学演習.
- ・作業療法総合演習.
- ・臨床体験実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・評価実習 I.
- ・評価実習 II.
- ・総合実習 I.
- ・総合実習 II.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

### III 研究記録

#### 2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Yukiko Suzuki, takayuki sudo, hideki Mochizuki; Awareness of instrumental activities of daily living disability: pilot study for elderly requiring care and caregivers. Dement Geriatr Cogn Disord Extra. 12:94-99, 2022.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴木優喜子，須藤崇行，望月秀樹：要介護高齢者の IADL 障害に対する病識—本人と主介護者の認識との差異—。第 56 回日本作業療法学会学術集会，2022.

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県作業療法士会、千葉県生活行為向上マネジメント委員会、委員、2013年8月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、学会委員会、委員長、2017年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、代議員、2018年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、理事、2018年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、副会長、2020年6月～現在に至る
- ・千葉県 POS 連盟、理事、2022年12月～現在に至る

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、千葉 POS 連盟。

#### 2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県 POS 連盟、理事会出席。(年4回)
- ・千葉県作業療法士会、理事会出席(毎月第1水曜日)
- ・千葉県作業療法士会、定時総会出席、2022年6月
- ・千葉県作業療法士会、予算総会出席、2023年3月

### 6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所)

- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2022年7月23日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2022年11月12日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント事例登録研修会、2022年9月20日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント事例登録研修会、2022年12月10日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント事例登録研修会、2023年1月17日

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書委員会、学生委員会。

### 2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議、実習 WG、学内実習 WG、教務 WG。

## VI 評価(成果および改善すべき事項)

着任1年目のため試行錯誤しながら役割を担ったが、担任業務や総合実習の科目責任者などを無事にやり遂げることが出来た。特に「臨床実習の手引き」改訂については責任者として携わり、2022年12月より使用することが出来た。担当授業については、臨床場面を意識した構成で行ったが、改善点もあるため次年度の授業内容に反映したい。

社会貢献についても、千葉県作業療法士会を中心に活動に携わり、研修会の運営や講師などを担った。来年度も千葉県作業療法士会を中心に活動を行っていききたい。

## VII 次年度の目標

次年度は着任2年目となるため、担当授業や担任業務、総合実習の科目責任者などの内容を見直し、教育効果の高い内容になるよう改善していく。また各委員会など学内業務にもより積極的に携わっていききたい。



## 助教 成田 悠哉 修士（リハビリテーション）

対象期間：2022年4月1日～2023年3月31日まで

### I 年度当初の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、UR都市機構や県との連携をはかり、成果を報告する。大学管理運営では、広報委員としてオープンキャンパスの専攻説明会の運営を円滑に行う。社会貢献では、現場の作業療法士と共同し、地域高齢者を対象とした介護予防教室を継続する。

### II 教育記録

#### 1 教育の記録

##### 1) 担当・補助授業実績

- ・体験ゼミナール
- ・千葉県の健康づくり
- ・専門職間の連携活動論
- ・基礎作業学実習
- ・人体の機能実習
- ・身体作業療法評価学実習
- ・地域社会参加支援学
- ・作業療法ゼミナール
- ・作業療法学特論
- ・臨床体験実習
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究

### III 研究記録

#### 1 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Kitamura S, Otaka Y, Murayama Y, Ushizawa K, Narita Y, Nakatsukasa N, Matsuura D, Kondo K, Sakata S. Difficulty of the subtasks comprising bed-wheelchair transfer in patients with subacute strokes: A cohort study. J Stroke Cerebrovasc Dis. 2022 Oct;31(10):106740.

#### 3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Mieko Shimada, Taro Okamura, Shinsuke Matsuo, Yuya Narita, Masahiro Edo, Nobuko Hongu: Changes In Daily Physical Activity Of The Elderly Under A State Of Emergency: 2563. Medicine & Science in Sports & Exercise 54, 9S, p 498, September 2022.
- ・吉野智佳子，成田悠哉：セラプラストを対象とした硬さや付着性の物性に関する予備的研究，第56回日本作業療法学会，2022年9月16日～18日，国立京都国際会館。
- ・江戸優裕，酒井克也，成田悠哉，松尾真輔，堀本佳誉，大谷拓哉，島田美恵子，岡村太郎，三和真人：地域住民のロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けた予備検討 ―若年者を対象として―，第13回千葉県立保健医療大学学内共同研究発表会，2022年9月12～16日，千葉県立保健医療大学。

## IV 社会貢献・国際交流記録

### 1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

#### 1) 千葉県内

- ・全国脊髄損傷連合会千葉県支部「車イスで遊ぼう6」の補助。2022年10月9日。千葉ポートタワー前広場
- ・全国脊髄損傷連合会千葉県支部「ピアサポートイベント」の補助。2022年10月23日。千葉ポートタワー前広場
- ・地域高齢者を対象とした籐細工体験教室の運営。2022年12月23日。UR都市機構さつき台団地
- ・地域高齢者を対象とした籐細工体験教室の運営。2023年1月26日。UR都市機構千草台団地

### 4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会。災害対策委員会。委員。2015年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会。教育部。委員。2021年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会。事務局Web研修班。班員。2020年7月～現在

### 5 学会、学術団体への貢献

#### 1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会。千葉県作業療法士会。

#### 2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県作業療法士会。学術誌編集委員会。委員。2020年4月～現在

### 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・ほい大プログラム講師。テーマ「日々の生活から考える介護予防」、地域在住高齢者。2022年11月26日。UR都市機構真砂台団地

## V 管理・運営記録

### 1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・紀要編集部会員。広報委員会。入試実施委員会。自己点検・評価実施推進部会。専門職間の連携活動論部会員。

### 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議。作業療法学専攻会議。臨床実習ワーキンググループ。臨床実習指導者会議。新型コロナと認知症プロジェクトチーム

## VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、専門職間の連携活動論や臨床実習の運営に携わり、一連の進行の補助を行った。また、身体作業療法学実習では、実技指導や臨床推論指導に関わり、学生教育に努めた。研究活動では、脳卒中者の下肢筋量および身体活動に関する論文を報告した。委員会業務として、広報委員会でのオープンキャンパスの専攻企画作成を中心的に携わった。社会貢献では、千葉県の職能団体の委員として県内作業療法士の基礎研修の運営協力や災害対策委員会での会員向けの安否確認訓練などを実施した。

## VII 次年度の目標

教育活動では、臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では、UR都市機構や新型コロナと認知症プロジェクトチームにおける活動の成果を報告する。大学管理運営では、入試実施委員会の運営を円滑に行う。社会貢献では、UR都市機構における介護予防教室や職能団体における活動を継続する。

# 資料 1



別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実	
保健医療基礎科目	人間の心と身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		画像診断学	保健21	2後		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○		
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○		
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○		
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○		
		臨床検査論	看7	2前	1			○		
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○		
		看護学原論	看9	1前	1				○	
		看護倫理	看10	2後	1			○		
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○	
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○	

必修16単位  
＋  
選択3単位【専門科目】  
必修77単位  
＋  
選択3単位

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看13	2前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修77単位 ＋ 選択3単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看14	2後	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看15	2後	1			○		
		日常生活調整方法論	看16	2前		1		○		
		看護学入門実習	看17	1前	2				○	
		基礎看護学実習	看18	2前	2				○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	2後	1			○		
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看20	3前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看21	3前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看22	3後・4前	1			○		
		ターミナルケア論	看23	3前		1		○		
		急性期看護学実習	看25	3後・4前	2				○	
		慢性期看護学実習	看27	3後・4前	3				○	
	療養生活支援	精神看護学概論	看28	1後	1			○		
		高齢者・在宅看護学概論	看29	1後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看30	2後	1			○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看31	3前	1			○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	看32	3前	1			○		
		精神看護学方法論Ⅰ	看33	2後	1			○		
		精神看護学方法論Ⅱ	看34	3前	1			○		
退院支援論		看35	3前		1		○			
高齢者看護学実習		看36	3後・4前	3				○		
在宅看護学実習		看37	3後・4前	1				○		
健康生活支援	精神看護学実習	看38	3後・4前	2				○		
	地域看護学概論	看39	2前	2			○			
	地域看護学方法論Ⅰ	看40	2後	1			○			
	地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2			○			
	地域看護学方法論Ⅲ	看42	3前	1			○			
	地域看護学実習	看43	3後・4前	3				○		
育成支援	看護政策論	看62	4後	1			○			
	育成期看護概論	看44	2前	1			○			
	小児看護学方法論Ⅰ	看45	2後	1			○			
	小児看護学方法論Ⅱ	看46	3前	1			○			
	小児地域ケア論	看47	3前		1		○			
	母性看護学方法論Ⅰ	看48	2後	1			○			
	母性看護学方法論Ⅱ	看49	3前	1			○			
	母性看護学実習	看50	3後・4前	2				○		
	小児看護学実習	看51	3後・4前	2				○		
	助産学概論	看52	3前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅰ	看53	3前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅱ	—	4前		2		○			
助産診断・技術学Ⅲ	—	4通		3		○				

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	—	4後		2		○		【専門科目】 (再掲) 必修77単位 + 選択3単位
			助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看57	3後		1			○	
			助産学実習Ⅱ（継続支援）	看58	4通		2			○	
			助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4通		3			○	
	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○			
		災害看護学	看63	3前	1			○			
		看護キャリア発達論	看64	2後	1			○			
		看護管理実習	—	4前	1						
		総合実習	—	4通	3					○	
		看護研究	看67	4通	2				○		
		看護学統合	看68	4後	1				○		
		リーダーシップ論	看69	2前	1			○			
		国際看護論	看72	2前		1		○			
		家族看護論	看73	2後		1		○			

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅷ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。



別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																					
		講義科目								演習科目								実習科目																					
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習				
1前	看護学入門実習	○																																					
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○											○																
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○			○										○	○	○															
	慢性期看護学実習			○				○	○			○										○	○	○															
	地域看護学実習				○	○						○	○										○	○															
	精神看護学実習		○									○		○									○	○															
	在宅看護学実習						○					○				○	○						○	○															
	高齢者看護学実習						○					○				○	○						○	○															
	母性看護学実習											○								○			○	○															
小児看護学実習				○							○									○			○	○															
4前	看護管理実習								○																														
4通	助産学実習Ⅱ																						○																○
	助産学実習Ⅲ																						○																○
4後	総合実習																																						
	看護学統合																																						○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

## 別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

### 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	100単位	26単位	126単位

#### ○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計13単位が必要である。

#### ○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

#### ○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		画像診断学	保健21	2後		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○		
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○		
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○		
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○		
		臨床検査論	看7	2前	1			○		
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○		
		看護学原論	看9	1前	1				○	
		看護倫理	看10	2後	1			○		
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○	
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○	

必修16単位  
＋  
選択4単位【専門科目】  
必修76単位  
＋  
選択3単位

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看13	2前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修76単位 ＋ 選択3単位
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看14	2後	1			○		
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看15	2後	1			○		
		日常生活調整方法論	看16	2前		1		○		
		看護学入門実習	看17	1前	2				○	
		基礎看護学実習	看18	2前	2				○	
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	2後	1			○		
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	看20	3前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	看21	3前	2			○		
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	看22	3後・4前	1			○		
		ターミナルケア論	看23	3前		1		○		
		急性期看護学実習	看25	3後・4前	2				○	
		慢性期看護学実習	看27	3後・4前	3				○	
	療養生活支援	精神看護学概論	看28	1後	1			○		
		高齢者・在宅看護学概論	看29	1後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看30	2後	1			○		
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看31	3前	1			○		
		在宅看護学方法論Ⅱ	看32	3前	1			○		
		精神看護学方法論Ⅰ	看33	2後	1			○		
		精神看護学方法論Ⅱ	看34	3前	1			○		
		退院支援論	看35	3前		1		○		
		高齢者看護学実習	看36	3後・4前	3				○	
		在宅看護学実習	看37	3後・4前	1				○	
	精神看護学実習	看38	3後・4前	2				○		
	健康生活支援	地域看護学概論	看39	2前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看40	2後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2			○		
地域看護学方法論Ⅲ		看42	3前	1			○			
地域看護学実習		看43	3後・4前	3				○		
看護政策論		看62	4後		1		○			
育成支援	育成期看護概論	看44	2前	1			○			
	小児看護学方法論Ⅰ	看45	2後	1			○			
	小児看護学方法論Ⅱ	看46	3前	1			○			
	小児地域ケア論	看47	3前		1		○			
	母性看護学方法論Ⅰ	看48	2後	1			○			
	母性看護学方法論Ⅱ	看49	3前	1			○			
	母性看護学実習	看50	3後・4前	2				○		
	小児看護学実習	看51	3後・4前	2				○		
	助産学概論	看52	3前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅰ	看53	3前		1		○			
	助産診断・技術学Ⅱ	—	4前		2		○			
	助産診断・技術学Ⅲ	—	4通		2		○			
	助産診断・技術学Ⅳ	—	4後		2		○			
	助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看57	3後		1			○		
助産学実習Ⅱ（継続支援）	看58	4通		2			○			
助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4通		3			○			

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○		
	災害看護学	看63	3前	1			○		
	看護キャリア発達論	看64	2後	1			○		
	看護管理実習	—	4前	1					
	総合実習	—	4通	3					○
	看護研究	看67	4通	2				○	
	看護学統合	看68	4後	1				○	
	リーダーシップ論	看69	2前	1			○		
	国際看護論	看72	2前		1		○		
	家族看護論	看73	2後		1		○		

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																			
		講義科目							演習科目							実習科目																					
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ・Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習		
1前	看護学入門実習	○																																			
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○											○														
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○								○										○	○	○													
	慢性期看護学実習			○								○											○	○													
	地域看護学実習				○	○							○	○									○	○													
	精神看護学実習		○												○									○	○												
	在宅看護学実習						○									○		○						○	○												
	高齢者看護学実習						○									○	○							○	○												
	母性看護学実習				○																○			○	○												
小児看護学実習				○									○								○		○	○													
4前	看護管理実習									○																											
4通	助産学実習Ⅱ																						○													○	
	助産学実習Ⅲ																						○													○	
4後	総合実習																																				
	看護学統合																																			○	

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。



(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4前			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後	1			○		
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1前	1			
人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—			1前	1			○		
人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			1後	1			○		
病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4			2前	2			○		
病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5			2前	2			○		
病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6			2前	1			○		
臨床検査実習	—			2前	1				○	
基礎看護科目	看護学入門		看8	1前	1				○	
	看護倫理		看10	2後	1				○	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)		看11	1前	2				○	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)		—	1後	1				○	

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実習・実験・		
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	2 前	2				○		
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	2 後	2				○		
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	2 後	1				○		
		看護ふれあい体験学習	—	1 前	2					○	
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2					○	
	医療・生活支援	成人看護学概論	—	2 後	1				○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	3 前	2				○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2				○		
		がん看護学	—	2 後	1				○		
		ターミナルケア論	看 23	3 前		1			○		
		成人看護学実習 (急性期)	看 24	3 後・4 前	3					○	
		成人看護学実習 (慢性期)	看 26	3 後・4 前	3					○	
	療養支援	こころの健康と看護	—	1 後	1				○		
		療養支援看護概論	—	2 前	1				○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 30	2 後	1				○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2				○		
		精神看護学方法論	—	3 前	2				○		
		高齢者看護学実習	看 36	3 後・4 前	3					○	
		在宅看護学実習	看 37	3 後・4 前	1					○	
	精神看護学実習	看 38	3 後・4 前	2					○		
	実践看護科目	健康支援	地域看護学概論	看 39	2 前	2				○	
			地域看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1				○	
			地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	2				○	
			地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3 前	2				○	
			地域看護学実習	看 43	3 後・4 前	3					○
	育成支援	育成支援看護概論	—	2 前	1				○		
		小児看護学方法論Ⅰ	看 45	2 後	1				○		
小児看護学方法論Ⅱ		看 46	3 前	1				○			
母性看護学方法論Ⅰ		看 48	2 後	1				○			
母性看護学方法論Ⅱ		看 49	3 前	1				○			
母性看護学実習		看 50	3 後・4 前	2					○		
小児看護学実習		看 51	3 後・4 前	2					○		
助産学概論		看 52	3 前		1			○			
助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)		—	3 前		1			○			
助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)		看 54	4 前		2			○			
助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)		看 55	4 通		2			○			
助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩)		看 56	4 後		2			○			
助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)		看 57	3 後		1				○		
助産学実習Ⅱ (継続支援)		看 58	4 通		3				○		
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)		看 59	4 通		3				○		

【専門科目】  
(再掲)  
必修 7.5 単位  
+  
選択 4 単位

(看護学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 60	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	—	2 後		1		○		
		看護政策論	看 62	4 後		1		○		
		災害看護学	看 63	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	2 前		1		○		
		看護管理学実習	看 65	4 前	1				○	
		総合実習	看 66	4 通	2				○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○	
		看護学統合	看 68	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 70	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 71	4 後		1		○		
		国際看護論	看 72	2 前		1		○		
		家族看護学概論	—	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	3 前		1		○		

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目					演習科目							実習科目													
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																									
2前	基礎看護学実習	○	○					○								○											
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○		○					○	○										
	精神看護学実習						○				○					○	○										
	在宅看護学実習												○			○	○										
	高齢者看護学実習						○						○			○	○										
	母性看護学実習				○									○		○	○										
小児看護学実習				○					○						○	○	○										
4前	看護管理学実習						○											○	○								
4後	総合実習																	○:選択する領域の実習									
	看護学統合																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	75単位	4単位	79単位
合計	98単位	28単位	126単位

#### ○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

#### ○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

#### ○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3・4後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	3後		2		○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	3前		1		○			
		生化学総論	—	—	1			○			
		栄養学Ⅰ（基礎）	—	—	1			○			
		栄養学Ⅱ（応用）		3後		1		○			
		薬理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		薬理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		病理学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅰ（総論）	—	—	1			○			
		微生物学Ⅱ（各論）	—	—	1			○			
		発達心理学	保健12	4前		1		○			
		臨床心理学	保健13	3後		1			○		
		健康と保健医療システム	健康論	保健14	3前		1		○		
	公衆衛生学Ⅰ（基礎）			—	1			○			
	公衆衛生学Ⅱ（応用）			—	1			○			
	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		保健17	3前	1			○			
	疫学・保健統計Ⅱ（応用）		保健18	3前	1			○			
	リハビリテーション概論		保健19	3後		1		○			
	救命・救急の理論と実際		保健20	3前	1			○			
	画像診断学		保健21	3後		1		○			
	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）		保健22	3後	1			○			
	保健医療福祉論Ⅱ（応用）		保健23	3後	1			○			
	食育論Ⅰ（基礎）		保健24	3前		1		○			
	食育論Ⅱ（応用）		保健25	3前		1		○			
	健康と運動		保健26	3後		1		○			
	家族社会学		保健27	3前		1		○			
	医療経営管理論		保健28	3前		1		○			
	リスクマネジメント論		保健29	3後		1		○			
	専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	—	—	1			○		
人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）			—	—	1			○			
人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）			—	—	1			○			
病態学Ⅰ（内科系疾病論）			—	—	2			○			
病態学Ⅱ（外科系疾病論）			—	—	2			○			
病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）			—	—	1			○			
臨床検査論			—	—	1			○			
基礎看護科目		看護学入門	—	—	1			○			
		看護学原論	—	—	1				○		
		看護倫理	看10	3後	1			○			
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	—	—	2				○		
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	—	—	1				○		
		【専門科目】 必修76単位 ＋ 選択3単位									
		必修16単位 ＋ 選択4単位									



別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	—	2				○	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	—	1				○	
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	—	1				○	
		日常生活調整方法論	看16	3・4前		1			○	
		看護学入門実習	—	—	2					○
		基礎看護学実習	—	—	2					○
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	3後	1				○	
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	—	2				○	
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	—	2				○	
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	—	1				○	
		ターミナルケア論	看23	3・4前		1			○	
		急性期看護学実習	—	—	2					○
	療養生活支援	慢性期看護学実習	—	—	3					○
		精神看護学概論	看28	3後	1				○	
		高齢者・在宅看護学概論	看29	3後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		高齢者看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		精神看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		精神看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		退院支援論	看35	3・4前		1			○	
		高齢者看護学実習	—	—	3					○
	健康生活支援	在宅看護学実習	—	—	1					○
		精神看護学実習	—	—	2					○
		地域看護学概論	看39	3前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅰ	看40	3後	1				○	
		地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2				○	
地域看護学方法論Ⅲ		看42	3前	1				○		
育成支援	地域看護学実習	看43	3後	3					○	
	看護政策論	看62	3・4後		1			○		
	育成期看護概論	看44	3前	1				○		
	小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
	小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
	小児地域ケア論	看47	3・4前		1			○		
	母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
	母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
	母性看護学実習	—	—	2					○	
	小児看護学実習	—	—	2					○	
	助産学概論	看52	3前		1			○		
助産診断・技術学Ⅰ	看53	3前		1			○			

【専門科目】  
（再掲）  
必修76単位  
＋  
選択3単位

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修76単位 + 選択3単位
		災害看護学	看63	3前	1			○		
		看護キャリア発達論	看64	3後	1			○		
		看護管理実習	—	4前	1				○	
		総合実習	—	4通	3				○	
		看護研究	看67	4通	2				○	
		看護学統合	看68	4後	1				○	
		リーダーシップ論	看69	3・4前	1				○	
		国際看護論	看72	3前		1			○	
		家族看護論	看73	3後		1			○	

(看護学科 2023年度以降 編入学生用)

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の関係活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。
- 3 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない 授業科目の名称																																				
		講義科目										演習科目								実習科目																		
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習			
1前	看護学入門実習	○																																				
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○														
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○				○								○		○	○														
	慢性期看護学実習			○					○				○										○	○														
	地域看護学実習				○	○							○	○									○	○														
	精神看護学実習		○											○	○									○	○													
	在宅看護学実習							○						○			○							○	○													
	高齢者看護学実習							○						○			○	○						○	○													
4前	看護管理実習								○																	○	○											
	助産学実習Ⅱ																						○														○	
4通	助産学実習Ⅲ																						○														○	
	総合実習																																					
4後	看護学統合																																					
																																						○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1			○	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	—	3・4前		1			○		
	英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	3・4後		1			○		
	英語Ⅳ(英会話)	—	3・4後		1			○		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	3後	2				○		
	英語Ⅵ(応用英語)	一般37	3・4後		1			○		

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位			
		生化学総論	—	—	1			○					
		栄養学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	3 後		1		○					
		薬理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		薬理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○					
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○					
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○					
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	—	—	1			○					
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前	1			○					
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前	1			○					
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○					
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○					
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 22	3 後	1			○					
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 23	3 後	1			○					
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 24	3 前		1		○					
		食育論Ⅱ (応用)	保健 25	3 前		1		○					
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○					
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○					
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○					
		リスクマネジメント論	保健 29	3・4 後		1		○					
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ (骨・筋・神経系)	—	—	1				○		【専門科目】 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
				人体の構造と機能Ⅱ (呼吸器・循環器・消化器系)	—	—	1				○		
人体の構造と機能Ⅲ (泌尿器・生殖器・感覚器系)				—	—	1			○				
病態学Ⅰ (内科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅱ (外科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅲ (高齢者・精神疾病論)	—			—	1			○					
臨床検査実習	—			—	1				○				
基礎看護科目	看護学入門		—	—	1				○				
	看護倫理		看 10	3 後	1				○				
	看護技術論Ⅰ (生活援助技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅱ (看護共通技術)		—	—	1				○				
	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅳ (検査治療技術)		—	—	2				○				

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

		看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）	—	—	1			○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2				○	
		基礎看護学実習	—	—	2				○	
専門科目	医療・生活支援	成人看護学概論	—	3後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2			○		
		がん看護学	—	3後	1			○		
		ターミナルケア論	看 23	3・4前		1			○	
		成人看護学実習（急性期）	—	—	3					○
		成人看護学実習（慢性期）	—	—	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	3後	1			○		
		療養支援看護概論	—	3後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○	
		精神看護学方法論	—	—	2				○	
		高齢者看護学実習	—	—	3					○
		在宅看護学実習	—	—	1					○
	健康支援	精神看護学実習	—	—	2					○
		地域看護学概論	看 39	3前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 40	3後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3前	2			○		
			地域看護学実習	看 43	3後	3				○
	育成支援	育成支援看護概論	—	3・4前	1			○		
		小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
母性看護学方法論Ⅰ		—	—	1				○		
母性看護学方法論Ⅱ		—	—	1				○		
母性看護学実習		—	—	2					○	
小児看護学実習		—	—	2					○	
助産学概論		看 52	3前		1			○		
助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）	看 53	3前		1			○			
【専門科目】 （再掲） 必修76単位 ＋ 選択3単位										

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 60	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	—	4 後		1		○		
		看護政策論	看 62	4 後		1		○		
		災害看護学	看 63	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	3 後	1			○		
		看護管理学実習	看 65	4 前	1				○	
		総合実習	看 66	4 通	2				○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○	
		看護学統合	看 68	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 70	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 71	4 後		1		○		
		国際看護論	看 72	3 前		1		○		
		家族看護学概論	—	3 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	4 前		1		○		



先修条件

【特色科目】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																										
		講義科目						演習科目						実習科目														
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																										
2前	基礎看護学実習	○	○					○									○											
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○			○					○	○										
	精神看護学実習						○		○			○					○	○										
	在宅看護学実習						○		○			○					○	○										
	高齢者看護学実習						○		○			○					○	○										
	母性看護学実習								○			○			○		○	○										
小児看護学実習								○			○				○	○	○											
4前	看護管理学実習					○												○	○									
4後	総合実習																			○:選択する領域の実習								
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

#### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

#### ○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

#### ○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2			○		30	必修2単位 + 選択4単位  このうち bから1科目以上選択
		哲学	1・2・3・4前		2			○		30	
		文学	1・2・3・4前		2			○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2			○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後	2				○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2			○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2			○		30	
		人間関係論 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		コミュニケーション理論と実際 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1				○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2			○		30	選択6単位  このうち ※から1科目以上選択 #から1科目以上選択
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4前		2			○		30	
		社会学※	1・2・3・4後		2			○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2			○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2			○		30	
		国際関係論※	1・2・3・4後		2			○		30	
		社会福祉学※	1・2・3・4前		1			○		15	
		国際的な健康課題※	1・2・3・4後		1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2			○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2			○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2			○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2			○		30	
		生物学#	1・2・3・4前後		2			○		30	
	物理学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	化学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1					○	30	必修2単位
		情報リテラシー I	1・2・3・4前	1					○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1			○		15	
		実践統計学	2・3・4前		1			○		15	
	外国語群	英語 I（講読）	1・2・3・4前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位
		英語 II（英会話）	1・2・3・4前		1				○	30	
英語 III（講読・記述）		1・2・3・4後		1				○	30		
英語 IV（英語コミュニケーション）		1・2・3・4後		1				○	30		
英語 V（保健医療英語）		2前	2				○		30		
英語 VI（応用英語）		1・2・3・4後		1				○	30		
英語 VII（上級英語） A		2・3・4後		1				○	15		
英語 VII（上級英語） B		2・3・4後		1				○	15		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2・4前		1		○			15	必修10単位 + 選択4単位
		生化学総論	1前			1	○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	2後			1	○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	2後			1	○			15	
		心の健康	2・4後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1・4前		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1・4前		1		○			15	
		発達心理学	1・4前		1		○			15	
		臨床心理学	1・2・4後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・2・4前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1			○			15	
		リハビリテーション概論	2・3後		1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2・4前		1		○			15	
		画像診断学	2・3・4後		1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後	1			○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3前		1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3前		1		○			15	
		健康と運動	1・2・4後		1		○			15	
家族社会学	1・4前		1		○			15			
医療経営管理論	4前		1		○			15			
リスクマネジメント論	2・4後		1		○			15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1前	1			○			15	【専門科目】 必修78単位 + 選択7単位
		解剖生理学Ⅰ	1前	2			○			30	
		解剖学実験	1後	1					○	45	
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○			30	
		生理学実験	2前	1					○	45	
		生化学	1前	2			○			30	
		栄養生化学	1後	2			○			30	
		生化学実験	2前	1					○	45	
		疾病論	2前	2			○			30	
		高齢者医療論	3・4後		1		○			15	
		食品学各論	1前	2			○			30	
		食品学実験	1後	1					○	45	
		食品学総論	1前	2			○			30	
		食品化学実験	1後	1					○	45	
		理化学概論	1前		1				○	15	

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	1 後	2			○			30	【専門科目】 (再掲) 必修78単位 + 選択7単位
		食品衛生学実験	2 後	1					○	45	
		食品加工学	2 前	1			○			15	
		食品加工学実習	2 後	1					○	45	
		食品微生物学	3・4 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	1 前	1					○	45	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 前	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論	3 前	2			○			30	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
公衆栄養学Ⅱ		3 前	2			○			30		
公衆栄養学実習		3 前	1					○	45		
国際栄養学		3・4 後		1		○			15		
管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演習 総合	総合演習	4 前	1				○		30		
	栄養統計学	3 後	1			○			15		
	管理栄養士特別演習	4 通		2			○		60		
研究	卒業研究	4 通	2				○		60		
臨床実習	臨床栄養臨床実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨床実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨床実習	3 通		1				○	45		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	4通		1				○	45	【専門科目】 (再掲) 必修7.8単位 + 選択7単位
		事前指導	3通	1				○	30		
		事後指導	3通	1				○	30		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」、「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3年前期に担当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	6単位	1.8単位	2.4単位
保健医療基礎科目	1.0単位	4単位	1.4単位
専門科目	7.8単位	7単位	8.5単位
合計	9.7単位	2.9単位	12.6単位

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等		
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30		
		生涯身体運動科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30		
	環境生活と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・2・3 前	2	30		
		理解情報	情報リテラシーⅠ (再掲)	1・2・3 前	1		30
	情報リテラシーⅡ (再掲)		1・2・3 後	1	30		
	外国語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	1・2・3 前	1	30		3科目のうち2単位を選択必修とする
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	1・2・3 後	1	30		
英語Ⅵ（応用英語） (再掲)		1・2・3 後	1	30			
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3 前	2	30		
		学校栄養教育論	3 後	2	30		
	教育の基礎的理解に関する科目	教職論	1 後	2	30		
		教育学概論	2 後	1	15		
		教育心理	2 前	2	30		
		教育制度論	2 後	1	15		
		カリキュラム論	2 前	1	15		
		特別支援教育論	3 前	1	15		
	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法と技術	3 前	2	30		
		道徳・総合的な学習・特別活動論	2 前	1	15		
		生徒指導論	3 前	1	15		
		教育相談	3 後	2	30		
	教育実践に関する科目	教職実践演習（栄養教諭）	4 後	2	30		
		栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45		
		栄養教諭教育実習	4 通	2	90		



別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

食品衛生監視員及び食品衛生管理者

2019年度入学生から、栄養学科の課程を修了することで食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格を取得することができる。

なお、法令に定める科目に対応する、本学の授業科目は下表のとおり。

食品衛生法施行規則別表第14及び第15に定める学科、科目名

区分	規定科目	規定科目に対応する 本学授業科目名	配当 年次	選択別		単位数
				必修	選択	
A群 化学関係	有機化学 無機化学	化学	1・2・3・4 前		2	2
	分析化学	食品化学実験	1後	1		1
		理化学概論	1前		1	1
	小計			1	3	4
B群 生物化学関係	生物化学	生化学	1前	2		2
		栄養生化学	1後	2		2
		生化学実験	2前	1		1
	食品化学	食品学総論	1前	2		2
		食品学各論	1前	2		2
		食品学実験	1後	1		1
生理学	解剖生理学Ⅱ	1後	2		2	
	生理学実験	2前	1		1	
	小計			13	0	13
C群 微生物学関係	食品微生物学	食品微生物学	3・4後		1	1
	食品保存学	食品加工学	2前	1		1
	食品製造学	食品加工学実習	2後	1		1
	小計			2	1	3
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1		1
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1		1
	食品衛生学	食品衛生学	1後	2		2
		食品衛生学実験	2後	1		1
	疫学	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1		1
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1		1
	小計			7	0	7
A群からD群の合計で22単位以上を履修		合計（A+B+C+D）		23	4	27

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

E群その他の関連科目	病理学	病理学Ⅰ（総論）	1前	1		1	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1		1	
	医学概論	疾病論	2前	2		2	
	解剖学	解剖生理学Ⅰ	1前	2		2	
		解剖学実験	1後	1		1	
	栄養化学	基礎栄養学	1後	2		2	
		基礎栄養学実習	2前	1		1	
	栄養学	応用栄養学Ⅰ	2前	2		2	
		応用栄養学Ⅱ	2後	2		2	
		応用栄養学Ⅲ	3前	2		2	
	その他これらに類する食品衛生に関する科目	食事設計と調理	食事設計と調理	1前	2		2
			食事設計と調理実習	2前	1		1
			調理実習	1後	1		1
			調理科学実験	1前	1		1
小計				21	0	21	
A群からE群を含め40単位以上を履修		総計（A+B+C+D+E）		44	4	48	

（注）

○ 上表のうち、必修科目のみで法定の必要単位数を上回るため、栄養学科の課程を修了した全ての者は、当該資格を取得することができる。（2019年度以降の入学生に限る。）

○ 「任用資格」とは、特定の職務に従事するために必要な資格である。申請により免許を取得する栄養士及び管理栄養士と異なり、養成施設の課程を修了し、当該職務に任用されることで効力が発生する。

○ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者養成施設である他大学から本学栄養学科に転入学した者は、転入元と本学での修得単位を合算し、必要な単位を修得することで資格を取得することができる。

なお、未登録施設から転入学した場合は、食品衛生法及び同法施行規則の規定により、既修得単位を認定することはできないので、上表の資格取得に必要な授業科目は、本学で履修する必要がある。

## 別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は演習	実験又は実習			講義・演習	実験・実習
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8		解剖生理学Ⅰ	1	2	
			解剖生理学Ⅱ	1	2	
			生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	1		1
			食品学総論	1	2	
		食品化学実験	1		1	
		食品衛生学	1	2		
		食品加工学	2	1		
栄養と健康	8	基礎栄養学	1	2		
		基礎栄養学実習	2		1	
		応用栄養学Ⅰ	2	2		
		応用栄養学Ⅱ	2	2		
		応用栄養学実習	3		1	
		臨床栄養学Ⅰ	2	2		
		臨床栄養学実習	2		1	
栄養の指導	6	栄養教育論Ⅰ	2	2		
		栄養教育論実習	3		1	
		栄養教育手法論	3	2		
		公衆栄養学Ⅰ	2	2		
		公衆栄養学実習	3		1	
給食の運営	4	食事設計と調理	1	2		
		調理実習	1		1	
		給食経営管理論Ⅰ	2	2		
		給食経営管理実習	3		2	
		給食経営管理臨地実習	3		2	
小計	36	14			37	15
合計	50				52	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容	指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数		
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	1 1 1
	食べ物と健康	8	10	食品学各論 食品学実験 食品学総論 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1
計		28	10	計	29	10
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学 基礎栄養学実習	2 1	1
	応用栄養学	6	8	応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 1	
	栄養教育論	6	8	栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4	8	公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2 2 1	1
	給食経営管理論	4	8	給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2	8	事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
	計		32	12	計	32
合計		60	22	合計	61	22

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

w科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○		30	必修9単位 + 人間理解群、 生活と環境群、 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4前	2			○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後	2			○		30	
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後	1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○		30	
	物理学	1・2・3・4前		2		○		30		
	化学	1・2・3・4前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報リテラシーI	1・2・3・4前	1				○	30	
		情報リテラシーII	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後	1			○		15	
	外国語群	英語I(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○	30	
		英語II(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○	30	
		英語III(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○	30	
		英語IV(英会話)	1・2・3・4後		1			○	30	
		英語V(保健医療英語)	1・2・3・4前	2			○		30	
		英語VI(応用英語)	1・2・3・4後		1			○	30	

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	4前	1		○			15	必修11単位 + 選択8単位
		生化学総論	1前		1	○			15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	2後		1	○			15	
		栄養学Ⅱ(応用)	2後		1	○			15	
		心の健康	2・4後	1		○			15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後	1		○			15	
		病理学Ⅰ(総論)	2前	1		○			15	
		病理学Ⅱ(各論)	2前	1		○			15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1・4前		1	○			15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1・4前		1	○			15	
		発達心理学	1・4前		1	○			15	
		臨床心理学	1・2・4後		1			○	30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・4前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前	1			○		15	
		リハビリテーション概論	2・3後		1		○		15	
		救命・救急の理論と実際	2・4前		1		○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○		15	
		食育論Ⅰ(基礎)	3前	1			○		15	
		食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○		15	
		健康と運動	1・4後		1		○		15	
		家族社会学	1・4前		1		○		15	
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2・4後		1		○		15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1前	1		○			15	【専門科目】 必修76単位 + 選択4単位
		解剖学総論	1前	2		○			30	
		解剖学実験	1後	1				○	45	
		生理学総論	1後	2		○			30	
		生理学実験	2前	1				○	45	
		生化学	1前	2		○			30	
		栄養生化学	1後	2		○			30	
		生化学実験	2前	1				○	45	
		疾病論	2前	2			○		30	
		高齢者医療論	3後		1		○		15	
		食品学各論	1前	2		○			30	
		食品学実験	2前	1				○	45	
		食品学総論演習	1通	2				○	60	
		食品化学実験	2前	1				○	45	
		理化学演習	1後		1			○	30	
		食品衛生学	2後	2			○		30	

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	2 後	1					○	45	【専門科目】 (再掲) 必修76単位 + 選択4単位
		食品加工学	2 前	2			○			30	
		食品加工学実習	4 前	1					○	45	
		食品微生物学	3 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
	調理科学実験	2 後	1					○	45		
	学 養 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
		国際栄養学	4 後		1		○			15	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 通	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15			
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30		
	公衆栄養学Ⅱ	2 後	1			○			15		
	公衆栄養学実習	3 前	1					○	45		
	栄養疫学	4 前	1			○			15		
管 給 理 食 論 経 営	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演 総 習 合	総合演習	4 前	1					○	30		
	卒業研究	4 通		4				○	120		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		
	栄養管理臨地実習	4 通		1				○	45		
	事前指導	3 通	1					○	30		
	事後指導	3 通	1					○	30		

### 先修条件

#### 【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

#### 【専門科目】

1. 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
2. 「栄養ケアマネジメント論演習」及び「栄養ケアマネジメント論実習」を履修するには、「臨床栄養学実習」の単位を修得済みであること。
3. 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅰ」及び「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得済みであること。
4. 「給食経営管理実習」を履修するには、「給食経営管理論Ⅰ」及び「給食経営管理論Ⅱ」の単位を修得済みであること。
5. 「臨床栄養臨地実習」、「給食経営管理臨地実習」、「公衆栄養臨地実習」、「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、2年生後期までに配当された必修の専門科目の単位を修得済みであり、3年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
6. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

### 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	11単位	8単位	19単位
専門科目	76単位	4単位	80単位
合計	99単位	27単位	126単位



(栄養学科 2018年度以前入学者用)

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等
一般教養科目	理解人間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2 前後	1	30	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1 前後・3 前	1	30	
	環境生活と	法学 (日本国憲法) (再掲)	1・3 前	2	30	
		理解情報	情報リテラシー I (再掲)	1 前	1	
	情報リテラシー II (再掲)		1・2 後	1	30	
	外国語群	英語 II (基礎英会話) (再掲)	1・2 前	1	30	
		英語 IV (英会話) (再掲)	1 後	1	30	
英語 VI (応用英語) (再掲)		1 後	1	30		
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目	食生活教育論	3 前	2	30	3科目のうち2単位を選択必修とする
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教職の意義	教職論	1 後	2	30	
		教育の基礎理論	教育学概論	2 後	1	
	教育心理		2 前	2	30	
	教育制度論		2 後	1	15	
	教育課程	カリキュラム論	2 前	1	15	
		教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳教育・特別活動論	2 前	1	15	
	生徒指導	生徒指導論	3 前	2	30	
		教育相談	3 後	2	30	
	総合演習	教職実践演習 (栄養教諭)	4 後	2	60	
	栄養教育実習	栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45	
栄養教諭教育実習		4 通	2	90		

## 別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は演習	実験又は実習			講義・演習	実験・実習
社会生活と健康	4		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8	4	解剖学総論	1	2	
			生理学総論	1	2	
			栄養生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	2		1
			食品学総論演習	1	2	
			食品化学実験	2		1
			食品衛生学	2	2	
			食品加工学	2	2	
栄養と健康	8		基礎栄養学	1	2	
			基礎栄養学実習	2		1
			応用栄養学Ⅰ	2	2	
			応用栄養学Ⅱ	3	2	
			応用栄養学実習	3		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	2	
栄養の指導	6	10	臨床栄養学実習	2		1
			栄養教育論Ⅰ	2	2	
			栄養教育論実習	3		1
			栄養教育手法論	3	2	
			公衆栄養学Ⅰ	2	2	
給食の運営	4		公衆栄養学実習	3		1
			食事設計と調理	1	2	
			調理実習	1		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	2	
			給食経営管理実習	3		2
			給食経営管理臨地実習	3		2
小計	36	14			38	15
合計	50				53	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容	指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数		
	講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6		公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖学総論 生理学総論 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1
	食べ物と健康	8		食品学各論 食品学実験 食品学総論演習 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1
	計	28	10	計	30	10
専門分野	基礎栄養学	2		基礎栄養学 基礎栄養学実習	2 1	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論演習 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習 栄養疫学	2 1 1 1	1
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2		事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
	計	32	12	計	32	12
合計	60	22	合計	62	22	

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位		
	千葉県健康づくり	2 後	1					○	30			
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30			
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45			
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修9単位 【一般教養科目】選択科目から選択11単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30		
		生命倫理	1・2・3・4 後	2				○		30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○		30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○		30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1					○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2				○			30
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2					○			30
		社会学	1・2・3・4 後		2				○			30
		文化人類学	1・2・3・4 前		2				○			30
		経済学	1・2・3・4 前		2				○			30
		国際関係論	1・2・3・4 後		2				○			30
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1				○			15
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1				○			15
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2				○			30
		科学論	1・2・3・4 前		2				○			30
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2				○			30
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2				○			30
		生物学	1・2・3・4 前後	2					○			30
		物理学	1・2・3・4 前		2				○			30
	化学	1・2・3・4 前		2				○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○			30
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1					○			30
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1				○			30
		情報倫理	1・2・3・4 後		1				○			15
		実践統計学	2・3・4 前		1				○			15
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1				○			30
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前		1				○			30
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4 後		1				○			30
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4 後		1				○			30
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2 前	2					○			30
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4 後		1				○		30		
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4 後		1				○		15		
英語Ⅶ（上級英語）B		2・3・4 後		1				○		15		

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修13単位 + 選択3単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1			○			15	
		心の健康	1後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1			○			15	
		発達心理学	1前		1		○			15	
		臨床心理学	1後		1			○		30	
		健康と保健医療システム	健康論	1前		1		○			
	公衆衛生学Ⅰ（基礎）		2前	1			○			15	
	公衆衛生学Ⅱ（応用）		2後		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		3前		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅱ（応用）		3前		1		○			15	
	リハビリテーション概論		2後	1			○			15	
	救命・救急の理論と実際		2前	1			○			15	
	画像診断学		2・3・4後		1		○			15	
	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）		2後	1			○			15	
	保健医療福祉論Ⅱ（応用）		2後	1			○			15	
	食育論Ⅰ（基礎）		3前		1		○			15	
	食育論Ⅱ（応用）		3前		1		○			15	
	専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	1前	2			○			
生理学			1後	2			○			30	
内科学概論			1後	1			○			15	
高齢者医療論			2後	1			○			15	
口腔解剖学			1前	2			○			30	
口腔生理学			2前	1			○			15	
口腔病理学			1後	1			○			15	
口腔微生物学			1後	1			○			15	
歯科薬理学			2前	1			○			15	
歯科生化学・臨床検査法			1後	1			○			15	
口腔衛生学			1後	2			○			30	
歯科診断学			2後	1			○			15	
歯科矯正学			3前	1			○			15	
歯科材料学			2前	1			○			15	
歯科保存学	2前	2			○			15			

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	2前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位
		歯科補綴学	2前	2			○		30	
		顎口腔外科学	2前	2			○		30	
		顎口腔機能論	2前	1			○		15	
		歯科衛生基礎演習	2前	1				○	30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1前	2			○		30	
		歯科医療安全管理論	2前	1			○		15	
		チーム歯科医療論	2後	1			○		15	
		歯科疾患予防学	2前	1			○		15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2後	2			○		30	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2後	3			○		45	
		歯科衛生体験演習Ⅰ	1後	1				○	30	
		歯科衛生体験演習Ⅱ	2後	1				○	30	
		歯科診療補助演習	3前	2				○	60	
		歯科予防処置演習	3前	2				○	60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2後	1			○		15	
		顎口腔機能リハビリテーション演習	3前	1				○	30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3前	1			○		15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3前	1			○		15	
		保健行動科学論	1後	1			○		15	
		歯科保健指導・健康教育論	2前	1			○		15	
		歯科保健指導演習Ⅰ	2後	2				○	60	
		歯科保健指導演習Ⅱ	3前	1				○	30	
		歯科衛生統計演習	3前	1				○	30	
		地域歯科衛生学	2前	1			○		15	
		地域歯科衛生演習	3前	1				○	30	
		衛生行政	2後	1			○		15	
		国際歯科衛生学	3前		1		○		15	
	歯科医療管理論	4前		1		○		15		
	社会保障・社会保険論	3前	1			○		15		
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3前	2				○	90	
		歯科診療所実習	3後	4				○	180	
病院実習		4後	3				○	135		
継続・個別支援実習Ⅰ		3後	2				○	90		
継続・個別支援実習Ⅱ		4前	2				○	90		
発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)		4前	2				○	90		
発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)		4前	2				○	90		
地域歯科衛生実習		4前	1				○	45		
歯科診療室総合実習Ⅰ		3後	2				○	90		
歯科診療室総合実習Ⅱ		4前	2				○	90		
研究	卒業研究	3後～4通	2				○	60	必修2単位	

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	13単位	3単位	16単位
専門科目	81単位	2単位	83単位
合計	108単位	18単位	126単位

(歯科衛生学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位			
	体験ゼミナール	1前	1					○	45				
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○			30	必修 9単位	【一般教養科目】 選択科目から選択13単位	
		哲学	1・2・3・4前		2		○			30			
		文学	1・2・3・4前		2		○			30			
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○			30			
		生命倫理	1・2・3・4後	2			○			30			
		宗教学	1・2・3・4後		2		○			30			
		教育学	1・2・3・4前		2		○			30			
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○			30			
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○			30			
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後	1				○		30			
		生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○		30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○			30			
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前	2			○			30			
		社会学	1・2・3・4後		2		○			30			
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○			30			
		経済学	1・2・3・4前		2		○			30			
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○			30			
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○			15			
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○			15			
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○			30			
		科学論	1・2・3・4前		2		○			30			
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○			30			
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○			30			
		生物学	1・2・3・4前後	2			○			30			
		物理学	1・2・3・4前		2		○			30			
	化学	1・2・3・4前		2		○			30				
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1				○		30			
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	1				○		30			
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○		30			
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○			15			
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30			必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30			
		英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○		30			
		英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4後		1			○		30			
		英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2			○			30			
		英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1			○		30			



(歯科衛生学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修16単位 + 選択3単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	1後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ(応用)	1後	1			○			15	
		心の健康	1後	1			○			15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後	1			○			15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後	1			○			15	
		病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ(各論)	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1前	1			○			15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1前	1			○			15	
		発達心理学	1前		1		○			15	
		臨床心理学	1後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後	1			○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	2後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○			15	
		食育論Ⅰ(基礎)	3前	1			○			15	
		食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○			15	
		健康と運動	1後		1		○			15	
		家族社会学	1前		1		○			15	
医療経営管理論	4後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1前	2			○			30	必修28単位
		生理学総論	1後	2			○			30	
		内科学概論	1後	1			○			15	
		高齢者医療論	2後	1			○			15	
		口腔解剖学	1前	2			○			30	
		口腔生理学	2前	1			○			15	
		口腔病理学	1後	1			○			15	
		口腔微生物学	1後	1			○			15	
		歯科薬理学	2前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1後	1			○			15	
		口腔衛生学	1後	2			○			30	
		歯科感染予防学	2後	1			○			15	
		歯科診断学	2後	1			○			15	
		歯科矯正学	3前	1			○			15	
		歯科材料学	2前	1			○			15	
		歯科治療学Ⅰ(保存修復・歯内療法学)	2前	2			○			30	

(歯科衛生学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	2前	1			○			15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	2前	2			○			30	
		顎口腔外科学	2前	2			○			30	
		顎口腔機能論	2前	1			○			15	
		歯科衛生基礎演習	2前	1				○		30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1前	2			○			30	
		チーム歯科医療論	2前	1			○			15	
		歯科疾患予防学	2前	1			○			15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2後	2			○			45	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2後	3			○			45	
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	3前	2				○		60	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	3前	2				○		60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2後	1			○			15	
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	3前	1				○		30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3前	1			○			15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4前		1		○			15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3前	1			○			15	
		保健行動科学論	2前	1			○			15	
		歯科保健指導・健康教育論	2前	1			○			15	
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	2後～3前	3				○		90	
		歯科衛生統計学	3前	1			○			15	
		地域歯科衛生学	2後	1			○			15	
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	3前	1				○		30	
		国際歯科衛生学	3前		1		○			15	
		歯科医療管理論	4前		1		○			15	
		社会保障・社会保険論	3前	1			○			15	
		総合演習	3後	1				○		30	
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3前	2					○	90	
		歯科診療所実習	3後	4					○	180	
		病院実習	4後	3					○	135	
		継続・個別支援実習	3後～4前	4					○	180	
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	4前	2					○	90	
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	4前	2					○	90	
地域歯科衛生実習		4前	1					○	45		
歯科診療室総合実習		3後～4前	4					○	180		
研究	卒業研究	3後～4通		3			○	90			

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。  
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。  
イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修4単位
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30	
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30	
		生命倫理	1・2・3・4 後		2			○		30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30	
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30	
		人間関係論	1・2・3・4 前	2				○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前	2				○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1				○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○		30	必修2単位 一般教養科目から選択12単位
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2			○		30	
		社会学	1・2・3・4 後		2			○		30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2			○		30	
		経済学	1・2・3・4 前		2			○		30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2			○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1			○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2			○		30	
		科学論	1・2・3・4 前		2			○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2			○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2			○		30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2			○		30	
	物理学	1・2・3・4 前	2				○		30		
	化学	1・2・3・4 前		2			○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後		1				○	30	必修2単位
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4 前	1					○	30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4 後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4 後	1					○	15	
		実践統計学	1・2・3・4 後		1				○	15	
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4 前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4 前		1				○	30	
英語Ⅲ（講読・記述）		1・2・3・4 後		1				○	30		
英語Ⅳ（英語コミュニケーション）		1・2・3・4 後		1				○	30		
英語Ⅴ（保健医療英語）		1・2・3・4 前	2				○		30		
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4 後		1				○	30		
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4 後		1				○	15		
英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4 後		1				○	15			

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1		○			15	必修10単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前	1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1		○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1		○			15	
		心の健康	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1		○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1		○			15	
		発達心理学	1前	1		○			15	
		臨床心理学	1後	1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前		1		○		15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○		15	
		画像診断学	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後		1		○		15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3前		1		○		15	
		食育論Ⅱ（応用）	3前		1		○		15	
		健康と運動	1後		1		○		15	
家族社会学	1前		1		○		15			
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2後	1			○		15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1			○		30	必修25単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1後	1			○		30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2前	1			○		30	
		運動学実習	2後	1				○	45	
		臨床運動学	2後	1			○		30	
		機能解剖学	1後	1			○		30	
		人間工学	2後		1		○		30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
		神経内科学総論	2前	1			○		30	
		神経内科学各論	2後	1			○		30	
		整形外科総論	2前	1			○		30	

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後		1			○		30	
	臨床薬理学	2後	1			○			15	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
	理学療法概論	1前	1				○		30	必修20単位
	理学療法管理学	4後	2				○		30	
	運動療法学	2前	2				○		30	
	理学療法評価学Ⅰ	2前	2				○		30	
	理学療法評価学演習	2前	1				○		30	
	理学療法評価学Ⅱ(神経系)	2後	1				○		15	
	理学療法評価学Ⅲ(統合・解釈)	2後	1				○		30	
	理学療法評価学Ⅳ(画像評価)	3後	1				○		15	
	日常生活活動学	2前	2				○		30	
	日常生活活動学演習	2後	1				○		30	
	物理療法学	2後	1				○		15	
	物理療法学演習	2後	1				○		30	
	義肢装具学	3前	2				○		30	
	義肢装具学演習	3前	1				○		30	
	理学療法研究方法論	3前	1				○		30	
	運動器障害理学療法学	3前	2				○		30	必修22単位 + 選択1単位
	運動器障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	神経系障害理学療法学	3前	2				○		30	
	神経系障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	内部障害理学療法学	3前	2				○		30	
	内部障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	老年期障害理学療法学	3前	2				○		30	
	老年期障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	発達障害理学療法学	3前	2				○		30	
	発達障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
発達障害理学療法学特論	3後		1			○		15		
地域理学療法学	3前	2				○		30		
地域理学療法学演習	3後	1				○		30		
理学療法技術論	4後	1				○		30		
生体機能計測学	3前		1			○		30		
理学療法応用評価学	3後	1				○		30		
理学療法学特論Ⅰ(運動器・老年期)	3後		1			○		30		
理学療法学特論Ⅱ(神経系・内部・地域)	3後		1			○		30		
発展領域論(がん・予防・臨床研究解析法)	4後	2				○		30		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

臨床実習	臨床体験実習	1後	1					○	45	必修20単位
	評価実習	3後	4					○	180	
	総合実習Ⅰ	4前	7					○	315	
	総合実習Ⅱ	4前	7					○	315	
	地域理学療法学実習	4後	1					○	45	
研究	卒業研究	4通	2				○	60	必修2単位	

## 先修条件

## 【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

## 【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

## 【専門科目】

- 1 2年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」、「総合実習Ⅱ」、「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

## 進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

## 卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	10単位	14単位	24単位
保健医療基礎科目	10単位	2単位	12単位
専門科目	89単位	2単位	91単位
合計	112単位	18単位	130単位

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前	2			○		30	必修2単位
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○		30	必修2単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択 「文化人類学」「国際関係論」「国際的健康課題」から1科目を選択
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○		30	
		物理学	1・2・3・4前		2		○		30	
	化学	1・2・3・4前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後		1			○	30	必修2単位
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前		1			○	30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○		15	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○	30	必修2単位 + 選択2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○	30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○	30		
	英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4後		1			○	30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	1・2・3・4前		2		○		30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1			○	30		



## (リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○		15	必修7単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前		1		○		15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	1後		1		○		15	
		栄養学Ⅱ(応用)	1後		1		○		15	
		心の健康	1後		1		○		15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後		1		○		15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後		1		○		15	
		病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ(各論)	1前		1		○		15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1前		1		○		15	
		発達心理学	1前		1		○		15	
		臨床心理学	1後	1				○	30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前		1		○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前		1		○		15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15	
		救命・救急の理論と実際	2前		1		○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○		15	
		食育論Ⅰ(基礎)	3前		1		○		15	
		食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○		15	
		健康と運動	1後		1		○		15	
		家族社会学	1前		1		○		15	
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2後		1		○		15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	1前	1			○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		運動学Ⅰ(運動の基礎科学)	1後	1			○		30	
		運動学Ⅱ(応用的運動科学)	2前	1			○		30	
		運動学実習	2後	1				○	45	
		臨床運動学	2後	1			○		30	
		機能解剖学	1後	1			○		30	
		人間工学	2後		1		○		30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
		神経内科学総論	2前	1			○		30	
		神経内科学各論	2後	1			○		30	
整形外科学総論	2前	1			○		30			

## (リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
	整形外科学各論	2後	1				○		30		
	精神神経科学総論	2前	1				○		30		
	精神神経科学各論	2後		1			○		30		
	老年科学	3前	1				○		30		
	小児科学	3前	1				○		30		
	臨床医学概論	3前	1				○		30		
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1前	2				○		30	必修18単位	
	理学療法管理学	4後	1				○		15		
	運動療法学	2前	2				○		30		
	理学療法測定学	2前	2				○		30		
	理学療法測定学演習	2前	1				○		30		
	理学療法臨床測定学	2後	1				○		30		
	日常生活活動学	2前	2				○		30		
	日常生活活動学演習	2後	1				○		30		
	物理療法学	2後	1				○		15		
	物理療法学演習	2後	1				○		30		
	義肢装具学	3前	2				○		30		
	義肢装具学演習	3前	1				○		30		
	理学療法研究方法論	3前	1				○		30		
専門科目	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	3前	2				○		30	必修23単位 + 選択2単位
		運動器障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		運動器障害理学療法学特論	3後		1				○	30	
		神経系障害評価学	3前	1				○		15	
		神経系障害理学療法学	3前	2				○		30	
		神経系障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		神経系障害理学療法学特論	3後		1				○	30	
	理学療法専門科目	内部障害理学療法学	3前	2				○		30	
		内部障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		内部障害理学療法学特論	3後		1				○	30	
		老年期障害理学療法学	3前	2				○		30	
		老年期障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		発達障害理学療法学	3前	2				○		30	
		発達障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
		発達障害理学療法学特論	3後		1				○	15	
		地域理学療法学	3前	2				○		30	
		地域理学療法学演習	3後	1				○		30	
地域理学療法学特論	3後	1				○		15			
臨床実習	臨床実習Ⅰ(体験実習)	1後	1					○	45	必修20単位	
	臨床実習Ⅱ(評価実習)	3後	5					○	180		
	臨床実習Ⅲ(運動器系総合実習)	4前	7					○	315		
	臨床実習Ⅳ(神経系総合実習)	4前	7					○	315		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

研究	卒業研究	4通	2				○		60	必修2単位
----	------	----	---	--	--	--	---	--	----	-------

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 「運動療法学」、「臨床運動学」、「理学療法測定学」、「理学療法測定学演習」、「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の構造実習」、「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得しておくこと。
2. 「物理療法学」、「日常生活活動学」、「運動器障害理学療法学」、「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」の単位を修得しておくこと。
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得していること。
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには、3年後期までに開講するすべての必修科目（「臨床実習Ⅱ」を含む）の単位を修得しておくこと。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	7単位	2単位	9単位
専門科目	87単位	3単位	90単位
合計	105単位	21単位	126単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位
	千葉県の健康づくり	2後	1					○	30	
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30	
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45	
人間理解群	心理学	1・2・3・4前	2					○	30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
	哲学	1・2・3・4前		2				○	30	
	文学	1・2・3・4前		2				○	30	
	歴史と文化	1・2・3・4前		2				○	30	
	生命倫理	1・2・3・4後		2				○	30	
	宗教学	1・2・3・4後		2				○	30	
	教育学	1・2・3・4前		2				○	30	
	人間関係論	1・2・3・4前		2				○	30	
	コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2				○	30	
	健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1				○	30	
生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30		
生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2				○	30	必修 2単位
	法学（日本国憲法）	1・2・3・4前		2				○	30	
	社会学	1・2・3・4後		2				○	30	
	文化人類学	1・2・3・4前		2				○	30	
	経済学	1・2・3・4前		2				○	30	
	国際関係論	1・2・3・4後		2				○	30	
	社会福祉学	1・2・3・4前		1				○	15	
	国際的な健康課題	1・2・3・4後		1				○	15	
	人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2				○	30	
	科学論	1・2・3・4前		2				○	30	
	環境変化と生態	1・2・3・4後		2				○	30	
	観察生物学入門	1・2・3・4前後		2				○	30	
	生物学	1・2・3・4前後		2				○	30	
	物理学	1・2・3・4前	2					○	30	
化学	1・2・3・4前		2				○	30		
情報理解群	統計学	1後	1					○	30	必修 2単位
	情報リテラシーⅠ	1前	1					○	30	
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1				○	30	
	情報倫理	1・2・3・4後		1				○	15	
	実践統計学	2・3・4後		1				○	15	
外国語群	英語Ⅰ(講読)	1・2・3・4前		1				○	30	必修 2単位 + 選択 2単位
	英語Ⅱ(英会話)	1・2・3・4前		1				○	30	
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1				○	30	
	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)	1・2・3・4後		1				○	30	
	英語Ⅴ(保健医療英語)	2前	2					○	30	
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1				○	30	
	英語Ⅶ(上級英語)A	2・3・4後		1				○	15	
	英語Ⅶ(上級英語)B	2・3・4後		1				○	15	

【一般教養科目】選択科目から選択12単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1			○		15	必修9単位 + 選択1単位
		生化学総論	1前	1			○		15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1			○		15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1			○		15	
		心の健康	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		発達心理学	1前	1			○		15	
		臨床心理学	1後	1				○	30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1			○		15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○		15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○		15	
		画像診断学	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後	1			○		15	
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1			○		30	
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		体表解剖学	1後	1			○		15	
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1後	1			○		30	
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2前	1			○		30	
		作業運動学演習	2前	1			○		30	
		作業運動学実習	2後	1				○	45	
		作業分析学	2前	1		1	○		15	
		人間工学	2後	1		1		○	30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
		神経内科学総論	2前	1			○		30	
		神経内科学各論	2後	1			○		30	

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学総論	2前	1				○		30	
	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後	1				○		30	
	臨床薬理学	2後	1			○			15	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1				○		30	必修6単位 + 選択2単位
	作業療法管理学	3後	2				○		30	
	作業療法基礎理論	2前		1			○		30	
	作業療法研究法	3前	1			○			15	
	基礎作業学・演習	1前	1				○		30	
	基礎作業学実習	1後	1					○	45	
	作業療法ゼミナールA	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールB	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールC	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールD	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールE	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールF	2後		1		○			15	
専門科目	実践作業療法学	作業療法評価学総論	1後	1			○		15	必修29単位
		身体作業療法評価学	2前	1			○		15	
		身体作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		身体作業療法学Ⅰ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学Ⅱ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学演習	3前	1				○	30	
		精神作業療法評価学	2前	1			○		15	
		精神作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		精神作業療法学	2後	2			○		30	
		精神作業療法学演習	3前	1				○	30	
		発達期作業療法学	2後	1			○		15	
	発達期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	老年期作業療法学	2後	1			○		15		
	老年期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	高次神経機能作業療法学	2後	2			○		30		
	日常生活活動学	2後	1			○		15		
	日常生活活動学演習	3前	1				○	30		
	義肢装具学	3前	2			○		30		
	福祉機器論	3後	2			○		30		
	地域社会参加支援学	3前	1			○		15		
	地域社会参加支援学演習	3後	1				○	30		
	地域作業療法学	3前	2			○		30		
	作業療法総合演習	4通		1			○	30		
作業療法学特論A	4通		1		○		15			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	作業療法学特論 B	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 C	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 D	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 E	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 F	4 通		1		○		15	
臨床実習	臨床体験実習	1 通	1				○	45	必修 28 単位
	評価実習 I	3 通	4				○	180	
	評価実習 II	3 通	4				○	180	
	総合実習 I	3 後	8				○	360	
	総合実習 II	4 前	8				○	360	
	地域作業療法学実習	4 後	3				○	135	
研究	卒業研究	4 通	1			○		30	必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか1つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	9単位	1単位	10単位
専門科目	90単位	3単位	93単位
合計	110単位	20単位	130単位



(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4 後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)
		哲学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4 後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2		○		30	必修 2単位
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4 前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4 後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4 前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4 後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4 前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4 前後		2		○		30	
		物理学	1・2・3・4 前	2			○		30	
	化学	1・2・3・4 前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1				○	30	必修 2単位
		情報リテラシー I	1 前	1				○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4 後		1		○		15	
外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1			○	30	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1			○	30		
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 IV (英会話)	1・2・3・4 後		1			○	30		
	英語 V (保健医療英語)	2 前	2			○		30		
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1			○	30		

【一般教養科目】選択科目から選択 12 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体									
	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修6単位 + 選択1単位
	生化学総論	1前		1		○			15	
	栄養学Ⅰ(基礎)	1後		1		○			15	
	栄養学Ⅱ(応用)	1後		1		○			15	
	心の健康	1後		1		○			15	
	薬理学Ⅰ(総論)	1後		1		○			15	
	薬理学Ⅱ(各論)	1後		1		○			15	
	病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○			15	
	病理学Ⅱ(各論)	1前		1		○			15	
	微生物学Ⅰ(総論)	1前		1		○			15	
	微生物学Ⅱ(各論)	1前		1		○			15	
	発達心理学	1前		1		○			15	
	臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム									
	健康論	1前	1			○			15	
	公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前		1		○			15	
	公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前		1		○			15	
	リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
	救命・救急の理論と実際	2前		1		○			15	
	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○			15	
	保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○			15	
	食育論Ⅰ(基礎)	3前		1		○			15	
食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○			15		
健康と運動	1後		1		○			15		
家族社会学	1前		1		○			15		
医療経営管理論	4後		1		○			15		
リスクマネジメント論	2後		1		○			15		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目									
	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	1前	1				○		30	必修24単位 + 選択1単位
	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	1後	1				○		30	
	人体の構造実習	1後	1					○	45	
	機能解剖学	1後		1			○		30	
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	1				○		30	
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	1				○		30	
	人体の機能実習	2前	1					○	45	
	作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	1後	1				○		30	
	作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	2前	1				○		30	
	作業運動学実習	2後	1					○	45	
	作業運動分析学	2前	1			○			15	
	臨床運動学	2前		1			○		30	
	人間工学	2後		1			○		30	
	人間発達学	2前	1				○		30	
	医学総論	1後	1			○			15	
	内科学総論	2前	1				○		30	
	内科学各論	2後	1				○		30	
	神経内科学総論	2前	1				○		30	
	神経内科学各論	2後	1				○		30	

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
専門基礎科目	整形外科学総論	2前	1				○		30	必修7単位 + 選択1単位			
	整形外科学各論	2後	1				○		30				
	精神神経科学総論	2前	1				○		30				
	精神神経科学各論	2後	1				○		30				
	老年科学	3前	1				○		30				
	小児科学	3前	1				○		30				
	臨床医学概論	3前	1				○		30				
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30				
	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2				○			30		
		作業療法管理学	3後		1			○			15		
		作業療法基礎理論	2前		1			○			30		
		作業療法研究法	3後	1				○			15		
		基礎作業学・演習	1前	1				○			30		
		基礎作業学実習	1後	1					○		45		
		作業療法評価学概論	1後	1				○			15		
		地域作業療法学概論	3前	1				○			15		
	専門科目	実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2前	2				○			30	必修32単位
			作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2後	2				○			30	
			作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	3前	1						○	30	
			作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2前	2						○	30	
			作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2後	2						○	30	
			作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	3前	1						○	30	
			作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	2前	2						○	30	
			作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	2後	2						○	30	
			作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	3前	1						○	30	
		基礎作業療法学	作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	2前	2						○	30	
			作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	2後	2						○	30	
			作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)	3前	1						○	30	
日常生活活動技術学			3前	2					○	30			
日常生活活動技術学演習			3後	1					○	30			
日常生活活動援助学			3前	2					○	30			
日常生活活動援助学演習			3後	1					○	30			
社会的適応支援評価学			2後	2					○	30			
社会的適応支援学			3前	2					○	30			
社会的適応支援学演習	3後	1					○	30					
作業療法セミナー	3前~4前	1					○	30					
臨床実習	臨床体験実習	1通	1					○	45	必修27単位			
	評価実習Ⅰ	3通	3					○	135				
	評価実習Ⅱ	3通	3					○	135				
	総合実習Ⅰ	4通	8					○	360				
	総合実習Ⅱ	4通	8					○	360				
	地域作業療法学実習	4通	3					○	135				
研究	卒業研究	4通	1				○	30					

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

## 資料 2



## 令和4年度非常勤講師一覧

氏名	科目
高橋 良博	心理学
大澤 真生	哲学
柴 佳世乃	文学
黒崎 輝人	歴史と文化
小館 貴幸	生命倫理①
小館 貴幸	生命倫理②
藤井 修平	宗教学
常山 吾朗	人間関係論
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
上野 義雪	生活とデザイン
古屋 等	法学(日本国憲法)
島村 賢一	社会学
島村 賢一	人権・ジェンダー
安部 宰	文化人類学
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
佐藤 真生子	社会福祉学
佐藤 真生子	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
牧 純	国際的な健康課題
大西 仁	科学論
大嶋 竜午	物理学①
大嶋 竜午	物理学②
満田 深雪	化学
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)①
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)②
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)③
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅱ(基礎英会話)④
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)③
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)④
レーン ブレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)⑤
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(講読)
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)①
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)②
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(講読・記述)③
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)①
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)②
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)理学
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)作業
橋本 弘史	薬理学Ⅰ(総論)
橋本 弘史	薬理学Ⅱ(各論)
安西 尚彦	薬理学Ⅰ(総論)
中村 浩之	薬理学Ⅰ(総論)
中村 浩之	薬理学Ⅱ(各論)
本田 拓也	薬理学Ⅰ(総論)
本田 拓也	薬理学Ⅱ(各論)
佐藤 洋美	薬理学Ⅰ(総論)
入鹿山 容子	薬理学Ⅰ(総論)
畠山 浩人	薬理学Ⅱ(各論)
高屋 明子	薬理学Ⅱ(各論)
北村 里衣	薬理学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
高梨 一彦	発達心理学
谷口 清	臨床心理学
渡辺 満利子	健康論
中込 敦士	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
田村 元樹	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
田村 元樹	公衆衛生学Ⅱ(応用)
塩谷 竜之介	公衆衛生学Ⅰ(基礎)

令和4年度非常勤講師一覧

氏名	科目
塩谷 竜之介	公衆衛生学Ⅱ(応用)
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
阿部 紀之	公衆衛生学Ⅱ(応用)
近藤 克則	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
近藤 克則	公衆衛生学Ⅱ(応用)
井手 一茂	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
井手 一茂	公衆衛生学Ⅱ(応用)
中込 灯	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
河口 謙二郎	公衆衛生学Ⅱ(応用)
武藤 剛	公衆衛生学Ⅱ(応用)
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅱ(応用)
雄賀多 聡	リハビリテーション概論
雄賀多 聡	人体の構造Ⅰ
雄賀多 聡	画像診断学
雄賀多 聡	医学総論
雄賀多 聡	整形外科学総論
雄賀多 聡	整形外科学各論
田口 円裕	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
高尾 公矢	家族社会学
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
高橋 静子	リスクマネジメント論
三島 敬	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
成田 都	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
小林 正芳	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
佐塚 智和	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
石川 博士	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
杉澤 淳子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾患論)
石川 紀子	小児看護学方法論Ⅱ
石川 紀子	小児地域ケア論
小黒 道子	国際看護論
遠藤 亜貴子	国際看護論
五十嵐 ゆかり	国際看護論
畠山 とも子	家族看護論
伊部 陽子	栄養教育論Ⅱ
伊部 陽子	栄養教育論実習
伊部 陽子	栄養教育手法論
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
藤谷 朝実	国際栄養学
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
斎藤 遼太郎	特別支援教育論
田崎 雅和	生理学
田崎 雅和	口腔生理学
阿部 伸一	口腔解剖学
廣内 英智	口腔解剖学
石原 和幸	口腔微生物学
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
奥田 克爾	口腔微生物学
鈴木 俊雄	歯科薬理学
平塚 浩一	歯科生化学・臨床検査法
榎本 豊	歯科矯正学
山口 秀紀	顎口腔外科学



令和4年度非常勤講師一覧

氏名	科目
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション演習
地主 知世	顎口腔機能リハビリテーション論
麻賀 多美代	顎口腔機能リハビリテーション演習
麻賀 多美代	発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)
麻賀 多美代	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
長澤 恵子	在宅歯科衛生管理論Ⅰ
望月 由加里	在宅歯科衛生管理論Ⅱ
星野 伸明	保健行動科学論
相川 敬子	歯科医療管理論
木暮 麻優	歯科医療管理論
上條 英之	社会保障・社会保険論
麻生 智子	継続・個別支援実習Ⅱ
麻生 智子	地域歯科衛生実習
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
遠藤 隆志	人体の機能実習
吉野 智佳子	人体の機能実習
吉野 智佳子	人間工学
下村 義弘	人間工学
高原 良	人間工学
竹内 弥彦	人間工学
三浦 伸義	精神神経科学総論
杉澤 淳子	精神神経科学各論
高柳 正樹	小児科学
菊地 尚久	リハビリテーション医学
浅野 由美	リハビリテーション医学
中山 一	リハビリテーション医学
村永 信吾	理学療法管理学
松田 徹	理学療法管理学
前田 雄	義肢装具学
前田 雄	義肢装具学演習
須田 裕紀	義肢装具学
須田 裕紀	義肢装具学演習
田口 直枝	義肢装具学演習
石川 修平	運動器障害理学療法学演習
山内 弘喜	運動器障害理学療法学演習
山本 喜美夫	運動器障害理学療法学演習
稲垣 武	理学療法学特論Ⅱ
森沢 知之	内部障害理学療法学
忽那 俊樹	内部障害理学療法学
櫻田 弘治	内部障害理学療法学
鵜澤 吉弘	内部障害理学療法学演習
松田 智行	老年期障害理学療法学演習
田舎中 真由美	発達障害理学療法学特論
中村 信義	地域理学療法学
加藤 太郎	地域理学療法学演習
對馬 栄輝	発展領域論
竹内 弥彦	作業運動学演習
宮本 礼子	作業療法基礎理論
高浜 功丞	身体作業療法学Ⅱ
保田 由美子	身体作業療法学Ⅱ
大瀬 律子	身体作業療法学Ⅱ
奥山 絵美	身体作業療法学Ⅱ
米持 喬	発達期作業療法学演習
坂田 祥子	日常生活活動学演習
保田 由美子	身体作業療法学演習
吉野 智佳子	身体作業療法学演習
吉野 智佳子	義肢装具学
酒井 ひとみ	地域社会参加支援学
関 美行	地域社会参加支援学
松本 直之	地域社会参加支援学
齋藤 梨菜	地域社会参加支援学演習
大熊 明	地域作業療法学

自己点検・評価委員会 教育研究年報作成部会

部会長 金澤 匠（栄養学科）

部会員 成 玉恵（看護学科）

中山 静和（看護学科）

荒川 真（歯科衛生学科）

江戸 優裕（リハビリテーション学科・理学療法学専攻）

松尾 真輔（リハビリテーション学科・作業療法学専攻）

事務局 土屋 智和





Annual Report of Education and Research  
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel : 043-296-2000 / Fax : 043-272-1716